

研究紀要 -第20集-

研究主題

児童生徒の生活と授業のさらなる結びつきを目指して



長崎大学教育学部附属特別支援学校

はしがき

この数年、共生社会の実現とインクルーシブ教育システムの構築のための基盤整備が着々と国の方で進められています。特殊教育から、特別支援教育に変換したことで、これまでの限定された障害児教育から、特別な支援が必要な子どもすべてに対しての教育へと、その領域が拡大されたことは、そのための序章であると言えます。これから、その具現化に向けて、様々な制度や施策が講じられることと思いますが、特に、学校現場においては、国や各自治体の支援を受けて、合理的配慮及びその基礎となる環境整備をいかに充実させていくことができるかが鍵を握ることになります。

翻って、障害のある子どもたちも、やがては、学校教育を終え、社会で生活していくことになり、その時間は、学校教育を享受する時間よりも、卒業後の方が圧倒的に長くなります。その中で、現実的な問題として、時間とともに家庭を含めた自身を取り巻く生活環境が少しずつ変化していくことがあります。ただし、これは障害の有無に関わらず人の世の理であり、それに対して誰もが、否が応でも向かい合い、結局受け入れていくしかありません。また、同時に初めてのこと、思いがけないことなど、今まで経験したことがない様々な事象が、人生の道すがらには存在します。

しかしながら、障害のある子どもたちにとって、このような環境の変化や未知の事象に対して順応していくことは決して容易なことではありません。特別支援学校の目的とは、まさにそこにあると言っても過言ではなく、個々の子どもの実態や特性を的確に把握した上で、将来の姿を進路選択と絡めてイメージし、いつか直接対峙することになるであろう実社会の大小の障壁に対して、自分なりに解決していく方法や手段を身に付けさせ、本人が安心して生き生きと生活できる場所を共に考えていくことであると考えます。そのため、できうる限り生活の中から、クリアすべき課題を精査して拾い出すことが、最も重要な作業になります。そして、体験的な学習を取り入れながら時間と手間をかけてそれらを一つひとつ、一人ひとりの力量に合わせて、丁寧に紐解いていくという特別支援教育の真骨頂が発揮されることになります。

今回の研究についても、現在の各学部の児童生徒の実態において、生活の中から見出した、クリアすべき共通課題をそれぞれのテーマとして設定し、それに従って授業実践を重ねながら、授業評価と授業改善を行い、子どもたちの抱える悩みや困り感を軽減しようとするものです。

このように子どもたちの生活と結びついた課題を見出し、学習を積み、課題に対する抵抗力を高め、再びその生活の中に返していくという地道な取り組みには、障害のある子どもたちの頑張りが認められ、たとえ微力でも蓄えた力を自らが存分に試すことができ、誰もが生きやすく誰にでも優しい社会、いわゆる、冒頭でのめざす共生社会の根幹を成す生活そのものを、涵養するための貴重な要素がたくさん内包されているのではないかと思っています。

まだまだ、研究として十分ではない面も多々あるかと存じますが、皆様の忌憚のない御指導、御助言、御批判をいただき、今後の研究をさらに深めていきたいと考えております。

長崎大学教育学部附属特別支援学校長
穴山 司

児童生徒の生活と授業のさらなる
結びつきを目指して

総目次

はしがき

I はじめに

| | | |
|--------------|-------|------|
| 1 全校研究テーマ | | 基-1 |
| 2 テーマ設定の理由 | | 基-1 |
| 3 研究の目的 | | 基-6 |
| 4 研究の方法 | | 基-6 |
| 5 研究の経過 | | 基-7 |
| 6 研究成果と今後の課題 | | 基-10 |

II 小学部の研究

| | | |
|----------------|-------|------|
| 1 小学部研究テーマについて | | 小-1 |
| 2 研究の目的 | | 小-3 |
| 3 研究の方法 | | 小-4 |
| 4 研究の経過 | | 小-5 |
| 5 研究成果と今後の課題 | | 小-28 |

III 中学部の研究

| | | |
|----------------|-------|------|
| 1 中学部研究テーマについて | | 中-1 |
| 2 研究の目的 | | 中-3 |
| 3 研究の方法 | | 中-3 |
| 4 研究の経過 | | 中-5 |
| 5 研究成果と今後の課題 | | 中-25 |

IV 高等部の研究

| | | |
|----------------|-------|------|
| 1 高等部研究テーマについて | | 高-1 |
| 2 研究の目的 | | 高-5 |
| 3 研究の方法 | | 高-6 |
| 4 研究の経過 | | 高-7 |
| 5 研究成果と今後の課題 | | 高-31 |

| | | |
|--------------------|-------|-----|
| (巻末) 研究紀要バックナンバー一覧 | | 末-1 |
|--------------------|-------|-----|

あとがき

I はじめに

目次（研究基調）

I はじめに

| | |
|------------------------|------|
| 1 全校研究テーマ | 基-1 |
| 2 テーマ設定の理由 | 基-1 |
| (1) なぜ「生活」との結びつきなのか | 基-1 |
| (2) 本校における「生活」のとらえ | 基-1 |
| (3) 近年の特別支援教育の動向から | 基-3 |
| (4) 本校研究の流れから | 基-4 |
| (5) 各部研究テーマについて | 基-5 |
| 3 研究の目的 | 基-6 |
| 4 研究の方法 | 基-6 |
| (1) 研究組織 | 基-6 |
| (2) 研究計画 | 基-6 |
| 5 研究の経過 | 基-7 |
| (1) 教育課程と児童生徒の「生活」 | 基-7 |
| (2) 本校の指導内容と児童生徒の「生活」 | 基-9 |
| 6 研究成果と今後の課題 | 基-10 |
| (1) 調査をもとにした、授業評価と授業改善 | 基-10 |
| (2) 各区分の構造と指導内容の関連 | 基-11 |
| (3) 教育目標の具体化 | 基-11 |
| 《引用・参考文献》 | 基-12 |
| 《参考資料》本校の教育 | 基-13 |

I はじめに

1 全校研究テーマ

児童生徒の生活と授業のさらなる結びつきを目指して

2 テーマ設定の理由

(1) なぜ「生活」との結びつきなのか

本校では平成8年度から約10年に渡る研究成果のもと、自己の形成¹を中心とした教育課程を再編成し、さらに独自の教育システム²のツールなどを開発しながら現在に至る。

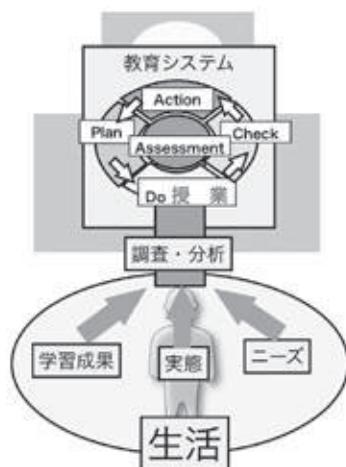
これまでの研究では、教育課程や自己の形成に対応した評価システム、進路指導の系統性など、本校の教育システムの構築・編成を中心に授業づくりを考えていく研究が行われてきた。その中で、本校の教育内容はより充実し、独自性のあるものになってきた。その一方、小・中・高、各部に在籍する児童生徒の実態や社会情勢も変わってきており、教育課程の編成時に考えた各指導形態の指導内容と少しずつずれてきている。

そこで、本研究では今一度、児童生徒個人個人に着目し、児童生徒の生活の実態、児童生徒を取り巻く環境や社会のニーズなどから、これまでの授業の評価を行い、授業づくりへとつなげていきたいと考えた。さらには、授業づくりの中で得られた考え方などから、今後の本校の教育システムの改善に向けた示唆が得られないかと考えた。

現在の教育システムの中では、個別の指導計画、個別の教育支援計画、こころチェックリストといったツールを用いて、児童生徒の実態やニーズなどの全体像を把握している。本研究においては、小・中・高等部の各部が着目した指導形態について、より具体的に「児童生徒がどのように行動しているのか」、「児童生徒にどのような課題があるのか」、「学びがどのように生かされているのか」、「保護者や進路先などのニーズは何なのか」など調査分析を実施することで、より現実的な「生活」と結びついた授業づくりに生かすことができるのではないかと考えた。さらには、今回の授業づくりを本校の教育システムの流れに乗せることで、より児童生徒の「生活」と結びついた授業を計画的、効果的に実践できるのではないかと考えた。

(2) 本校における「生活」のとらえ

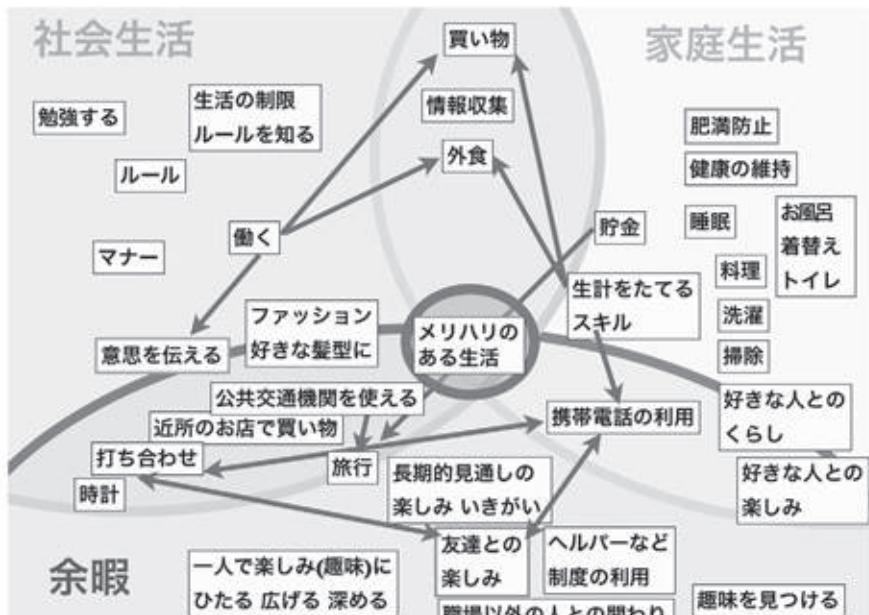
本研究では、「生活」という言葉をキーワードにした。しかし、「生活」という言葉の定義はあまりに広く、教師が個々に児童生徒の「生活」という言葉にどのようなイメージを抱いているのか把握する必要があった。そこで、教師がKJ法を用いて児童生徒の「生活」についてのイメージ図を作成しながら共通理解を図っていった。その中でいくつかの図ができた。次の図はその代表的な例である。



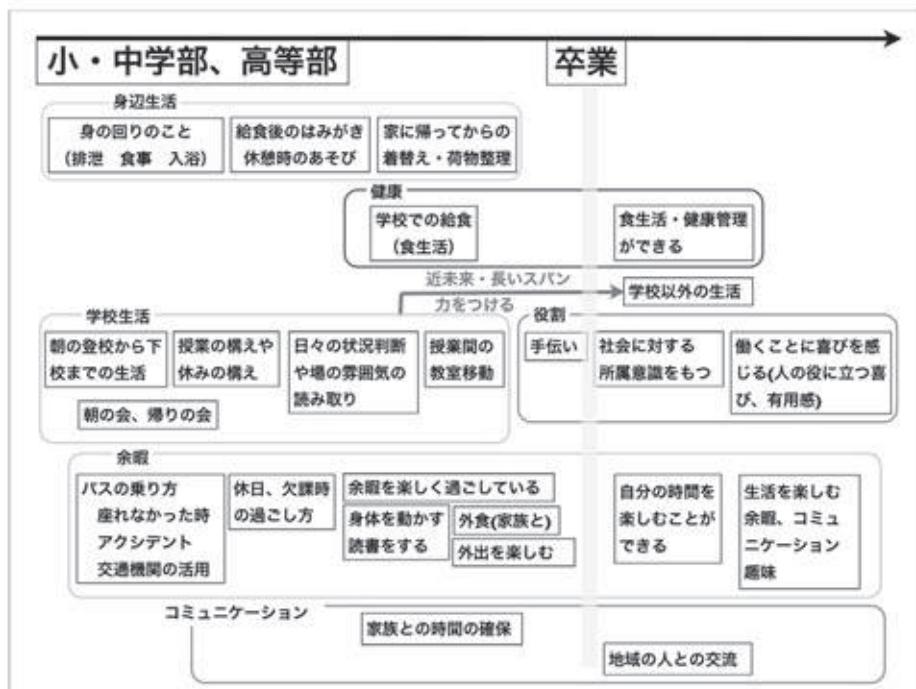
<図1：第20次研究の方略イメージ>

¹ 本校では児童生徒の自己の姿を「小学部：自己活動の発現期」「中学部：自己の拡大・肯定期」「高等部：客観的な自己の形成期」としてとらえ、これらの自己をより豊かに育むことを中心とした教育課程を編成した。

² 「教育システム」とは、「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」、さらには本校独自のツールである「こころチェックリスト」「モデルカリキュラム」「単元別指導計画」「年間指導計画」が連動した授業づくりのための形成的評価システムである。



<図2：児童生徒の場を中心とした生活図>



<図3：児童生徒の時間を中心とした生活図>

イメージ図の作成を通して共通理解できたこととして、それぞれの図で表現は異なるが、以下に示す点が挙げられる。

- ・ 生活の「場」を領域などによって表し、動作や内面の関連を示している。(図2)
- ・ 年齢を軸に時系列で表し、生活の「場」の移り変わりや動作や内面の関連を示している。(図3)

例に挙げた図以外のものも、どちらかの表現をとっており、本校教師の大まかなイメージとして、児童生徒の「生活」は、「場」として、もしくは「時間」として、構成されていると言える。さらに考

察を深めると、児童生徒の生活年齢に合わせ図3のような「時間」上のその時その時を切り取っていくと、図2のような「場」を表す図が表れてくるとも言える。

そこで、今回の研究の中で取り扱う「生活」というキーワードの共通理解として、

児童生徒の「生活」とは・・・

児童生徒を中心とした場（環境）であり、時間とともに変遷していくものとした。

また、主なキーワードを整理すると、表1に表すような構成になっていると言える。

＜表1：生活図の主なキーワード＞

| 分類 | キーワード | | | | | | | |
|-----------|---------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|
| 場 | 家庭生活 学校生活 社会生活 社会地域 働く生活 など | | | | | | | |
| 時間 | 現在 未来 小学部 中学部 高等部 卒業 将来の生活 など | | | | | | | |
| 日常生活動作 | 食事 睡眠 排泄 洗顔 歯磨き 入浴 着替え 移動 など | | | | | | | |
| 手段的日常生活動作 | 掃除 洗濯 料理 買い物 運動 余暇 仕事 学習 コミュニケーション など | | | | | | | |
| 内面 | 喜び 楽しみ 有用感 所属意識 葛藤 協調性 など | | | | | | | |

キーワードから見ると、「生活」は「場」「時間」「動作」「内面」に分類され、それぞれの「場」や「時間」の結びつきは「動作」や「内面」によってなされている。「時間」とともに「手段的日常生活動作」が増え「場」も広がっていく。また、「内面」は図2（児童生徒の場を中心とした生活図）で見ると、各「場」、「動作」への動機や継続するための力になるとも言える。授業づくりから見ると、「動作」に挙がるキーワードは、「時間」の側面で見ると学習目標であり、「場」で見ると指導内容であるとも言える。また、「内面」は興味・関心・態度（本校では「こころの目標」）となる。

この「生活」のとらえのもと、各部が着目した指導形態についての授業づくりを中心とした研究を進めることとした。

（3）近年の特別支援教育の動向から

① ICFとキャリア教育から

「特別支援教育におけるICFの活用によるキャリア発達支援の可能性」（菊池, 2013）では、『キャリア教育の視点によって時間軸を中心に学校または学部段階を越えて目標や内容を明確化し共有するといった「縦」をつなぎ、ICFの視点によって空間軸を中心に環境を整え、学校内だけではなく関係諸機関との間で支援方策等を連携するといった「横」をつなぐ』としている。前研究では進路学習に着目し、まさしく小・中・高一貫した「縦」をつなぐ研究を行ってきた。本研究の中でキーワードとしている「生活」は、児童生徒を中心とした「場（環境）」に着目しようとしている。ICFでは「人が生きること」全体を生活機能という考え方で表している。生活機能は心身機能・身体構造、活動、参加の三次元で示し、これらの背景となる個人因子、環境因子との相互作用から個人の生活機能をとらえることとしている。本校の「表1 生活図の主なキーワード」の分類に、個人の実態を表すような心身機能・身体構造の分類が加わると、ICFのとらえとほぼ同様の考えとなる。また、さらには、授業づくりにおける教師の支援や指導は環境因子に位置づけられ、児童生徒の内面の動きは個人因子となる。児童生徒の「生活」全体をイメージしながら、発達段階に応じた学習目標、指導内容を精選し、より良い授業づくりを行っていくことは、環境因子から児童生徒の「生活」をより充実したものに変え、家庭や進路先などとの連携を深め、さらに強く「横」につないでいくことができると言える。

② 学習指導要領の改訂から

平成21年、特別支援学校学習指導要領が改訂され、「第1節 教育目標 3」には「児童及び生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し」と、これまでの「障害に基づく種々の困難」がより明確化された。また、特別支援学校学習指導要領解説「改訂の基本方針 2」には、「社会の変化や幼児児童生徒の障害の重度化・重複化、多様化などに対応し、障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育や必要な支援を充実する」との表記があり、「障害の重度・重複化、多様化への対応」、「一人ひとりに応じた指導の充実」、「自立と社会参加に向けた職業教育の充実」、「交流及び共同学習の推進」を改善の観点として挙げられた。

本校においても同様に、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育や必要な支援を充実することが求められている。特に「自立と社会参加に向けた職業教育の充実」については、前研究において小学部段階からの進路学習に着目し、児童生徒の自己の形成を念頭に置きながら、小・中・高一貫した指導形態「進路」の指導内容を創出した。その中でいかにして職業観や勤労観を育んでいくかを考えてきた。さらに、児童生徒が、将来、社会の一員として生きていくためには、職業観や勤労観の育成のみならず、学校教育全般において基礎・基本となる力を身につけることが必要不可欠である。そのためにも、「児童生徒が本校で学んだことを生活で生かしているのか」や「現在の指導内容は生活の中で必要とされているのか」、さらには「現在の指導内容以外に必要とされている内容はないのか」など調査・分析を通して現指導内容について評価を行い、本校の指導内容や授業づくりの改善することで、「一人ひとりに応じた指導の充実」につながり、本校の教育目標である「児童生徒一人ひとりの自己教育力を高め、自立的な生活を送り、積極的に社会生活に参加できる人間の育成」へつながるのではないかととらえた。

(4) 本校研究の流れから

本校では、平成8年度（第13次研究）から平成18年度（第17次研）の約10年間の研究成果により、自己の形成を柱とした特色のある教育課程を編成し、その後、平成19年度からは、この新しい教育課程を運用していきながら、日々の実践を通して授業づくりについて検証してきたと言える。

近年の本校の研究としては（表2）に示すように、第17次研究においてこれまでの指導内容を教科等を合わせた指導として「くらし」「いきがい」「まなび」「からだ」の4つの区分にまとめ、児童生徒の内面についての内容を「こころ」として表し、新しい教育課程として再編成した。第18次研究においては「こころ」区分の内容を創出し、その内容として「こころチェックリスト」を用いて児童生徒の内面や自己の形成を判断して、すべての教育活動に反映できるような本校の教育システムを構築し検証した。前研究（第19次研究）では区分「いきがい」の指導形態「進路」に着目し、小学部から高等部まで一貫した組織的、系統的な進路学習を考えた。自己の形成を柱とするという本校独自の教育課程と、キャリア教育など近年の特別支援教育の動向の整合性を検証することができた。その中で挙がっている現行教育課程における研究課題は、以下の点である。

- ・ 指導形態・項目の検証
- ・ 区分同士の関連と、各部における区分の重みづけの検証
- ・ 指導形態設定の見直し
- ・ 「自己の形成」に関する様々な視点による指導内容の見直し
- ・ 各授業において「こころの目標」の全体的な検証

これらは現行の教育課程が編成されてから継続しての研究課題であるが、「指導形態」や「指導内容」といったキーワードが挙がっているように、これらの研究課題に向けた検証や見直しは、実際の授業による分析が不可欠であり、授業研究を通して、長期的な視野で検証し教育課程をさらに改善していく必要がある。また、第18次研究、第19次研究では学校全体レベルでの教育システムの運用や指

導形態の系統性といった内容が中心であった。研究課題にある指導形態の検証や区分の重みづけ、指導内容の見直しといった内容は部毎に着目したい区分や指導形態が異なってくると思われる。そのため、本研究においては各部研究を中心とし、直接的に児童生徒の生活に即した教育的課題に着目し、実態把握や分析を進めながら授業づくりを行い、これまでの指導内容などを改善していくことで帰納的にこれまでの研究課題にアプローチしていくこととした。

＜表2：研究のあゆみ＞

| 紀要 No | 年度 | 研究主題 | 研究内容と成果 |
|----------|-------------------------|--|---|
| 13 | H8～9年度 (1996～1997) | 子どもの内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善 ～一人ひとりが主体的に取り組める授業をめざして～ | 診断的評価表と目標構造図 (単元の目標分析) |
| 14 | H10～11年度 (1998～1999) | 子どもの内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善 ～一人ひとりが主体的に取り組める授業をめざして～ (その2：形成的評価から授業改善の方法を考える) | 形成的評価システム（個別目標チェック表、授業分析表） |
| 15 | H12～13年度 (2000～2001) | 教育課程の再編成その1 ～アセスメント機能をもった内容表試案を作成し、指導形態等の改善の手がかりを探る～ | 児童生徒のアセスメント機能をもつ内容表試案 ver.1 の作成 |
| 16 | H14～16年度 (2002～2004) | 教育課程の再編成その2 ～実践的課題研究と卒業生の実態調査をとおして、自立と社会参加をめざした新教育課程再編成の手がかりを探る～ | 「からだの学習」指導内容、「アイデンティティの形成」、「進路を切り拓く生徒を育てるために」 |
| 17 | H16～18年度 (2004～2006) | 教育課程の再編成その3 ～自己の形成へつながる教育課程の創造～ | 教育課程4区分の編成（くらし、いきがい、まなび、からだ）と内容表 ver.2 |
| 18 | H19～21年度 (2007～2009) | 自己を育む授業実践 ～「こころチェックリスト」を取り入れた授業設計～ | 「こころ」区分の設定、「こころチェックリスト」作成 |
| 19 | H21～23年度 (2009～2011) | 自己の育ちを支える小中高一貫した進路学習の在り方を考える ～「進路学習のステップ」の作成と指導形態「進路」の実践～ | 「進路学習のステップ」作成、指導形態「進路」指導内容 |

（5）各部研究テーマについて

全教師へのアンケート、小・中・高各学部による研究会や、これまでの研究内容や授業実践、近年の児童生徒の実態から、着目したい指導形態を精選しテーマを設定した。

| | |
|-----|--|
| 小学部 | 実生活につながる「からだの学習」の授業づくり ～内容、方法の見直しを通して～ |
| 中学部 | 実生活に結びつく、豊かな言語活動を目指した授業づくり ～国語の学習「話す」に着目して～ |
| 高等部 | くらしふくらむ授業づくり ～生活のニーズを考えた言語・数量の学習を視点として～ |

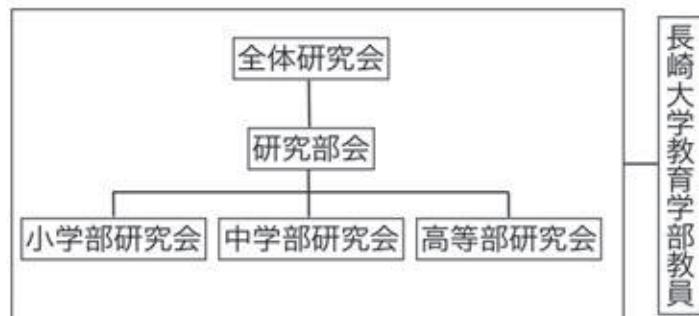
各部、取り上げた指導形態は異なるが、それぞれの指導形態に関連した児童生徒の「生活」について調査・分析し授業改善につなげていくとともに、モデルカリキュラムなど教育システムに反映させていくことで、各部の研究成果を学校全体に還元していくこととした。

3 研究の目的

児童生徒の生活と本校の教育の結びつきを明らかにするとともに、各部が着目した指導形態について、児童生徒の生活上の課題や指導内容に対するニーズを調査・分析し、授業、さらにはモデルカリキュラムなど教育システムの改善につなげる。

4 研究の方法

(1) 研究組織



(2) 研究計画

| 年 度 | 研究 内 容 |
|--------------------|---|
| 2012年度 (平成24年度) | <ul style="list-style-type: none">○ 全体研究：児童生徒の生活についてのイメージの共有○ 各部研究：各部、着目した指導形態についてのアンケート調査の実施・分析（小学部：指導形態「健康と成長」、中学部：指導形態「言語・数量」、高等部：指導形態「言語・数量」）○ 全体研究：授業研究会（小学部：指導形態「健康と成長」、中学部：指導形態「言語」、高等部：指導形態「言語」） |
| 2013年度 (平成25年度) | <ul style="list-style-type: none">○ 全体研究：区分、指導形態と生活のつながりの共通理解各部研究：各部、着目した指導形態についての授業づくり（小学部：指導形態「健康と成長」、中学部：指導形態「言語」、高等部：指導形態「数量」）○ 全体研究：授業研究会（小学部：指導形態「健康と成長」、中学部：指導形態「言語」、高等部：指導形態「数量」）○ 全体・各部研究：研究紀要の検討 |

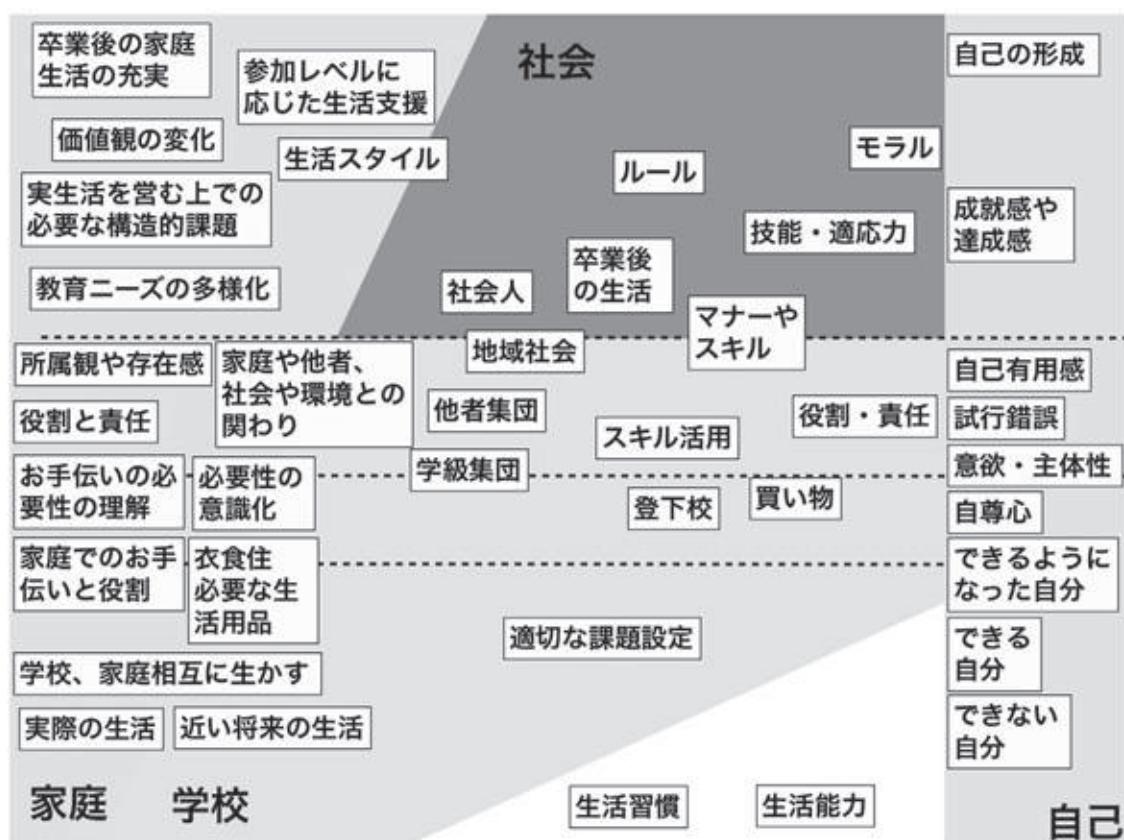
5 研究の経過

(1) 教育課程と児童生徒の生活

教育課程を構成する区分「いきがい」区分「くらし」区分「まなび」区分「からだ」の4区分それぞれの定義を確認し、主なキーワードをもとに図式化しながら、教育課程と「児童生徒の生活」との結びつきを確認していった。教育課程の4区分の定義については、第17次研究（平成16年から平成18年）「教育課程の再編成 その3」を資料とした。その結果、「児童生徒の生活」という視点で区分をとらえると、構造的に異なる特徴が見られることが分かった。

① 区分「くらし」の場合

区分「くらし」の指導内容は、指導形態「身辺生活」「家庭生活」「社会生活」から構成されている。定義の中では「生活の範囲こそ身辺から家庭そして社会といった広がりがあるが、指導形態「身辺生活」ができていないと指導形態『家庭生活』が成立立たないといった性質のものではなく、重きの差はあるものの小・中・高の各部なりの指導形態『身辺生活』『家庭生活』『社会生活』が同時に存在しているものであると考える。」としている。児童生徒の生活は生活年齢とともに、それぞれの大きな場として「身辺」、「家庭」、「社会」へと場が広がり、それぞれの場に必要な「スキル」や「ルール」や「モラル」を指導内容としていることが分かる。このように、児童生徒の生活を視点にとらえると、区分「くらし」の指導内容は、児童生徒の生活を空間軸（場や環境）としてとらえた学習であると言える。

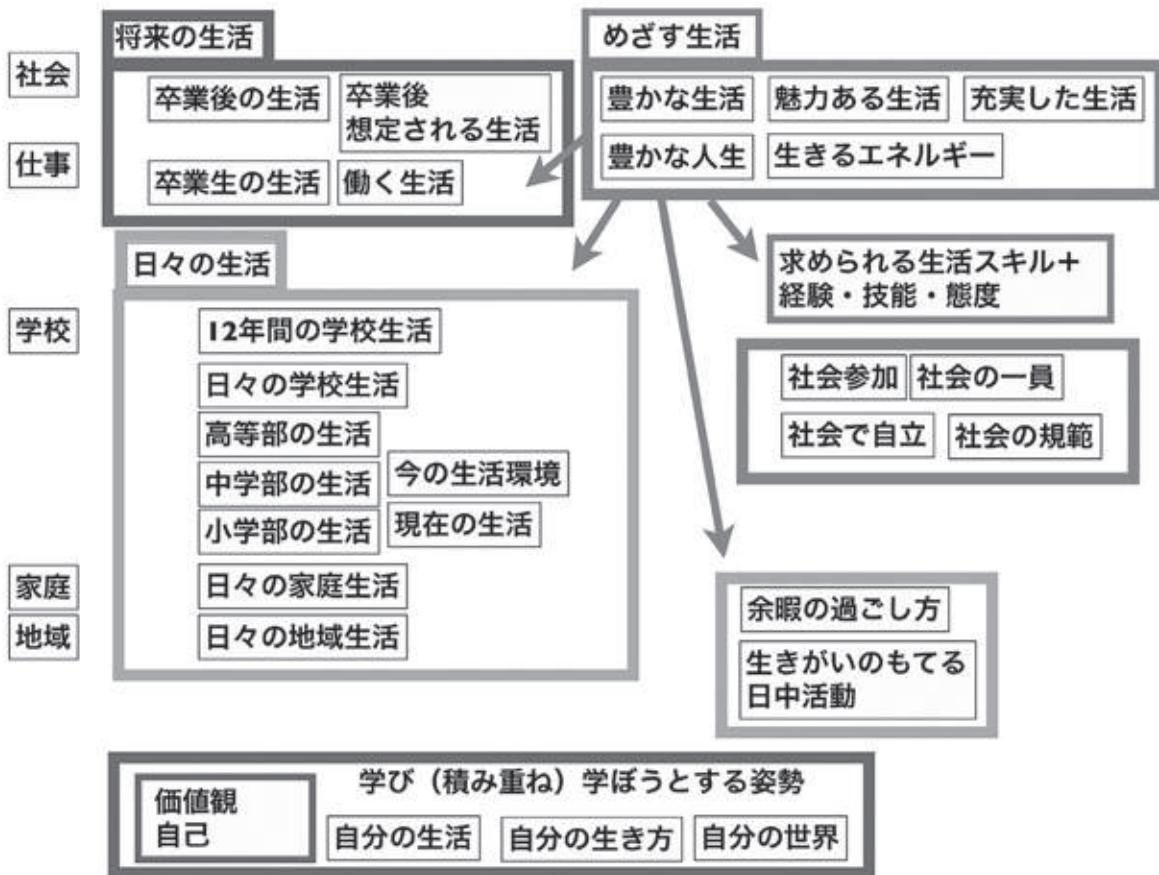


<図4：区分「くらし」と生活の関連図>

② 区分「いきがい」の場合

区分「いきがい」の指導内容は、指導形態「あそび」「余暇」「役割・しごと」「芸術」「進路」から構成されている。定義の中では「家庭や地域、職場などのなかで生き生きと魅力ある生活（人生）を送れるようになることは、学校教育が果たすべき役割の一つである」としている。余暇の過ごし方や

仕事をするときの役割意識、将来の生活の情報や知識を得ることなど、将来的な人生を見通して、家庭や学校、職場の中で生きがいとなる楽しみを見いだし、そのことに主体的に取り組むことを指導内容としていることがわかる。生活の視点でとらえると、区分「いきがい」における学習は、児童生徒の生活を時間軸としてとらえた学習であると言える。



<図5：区分「いきがい」と生活の関連図>

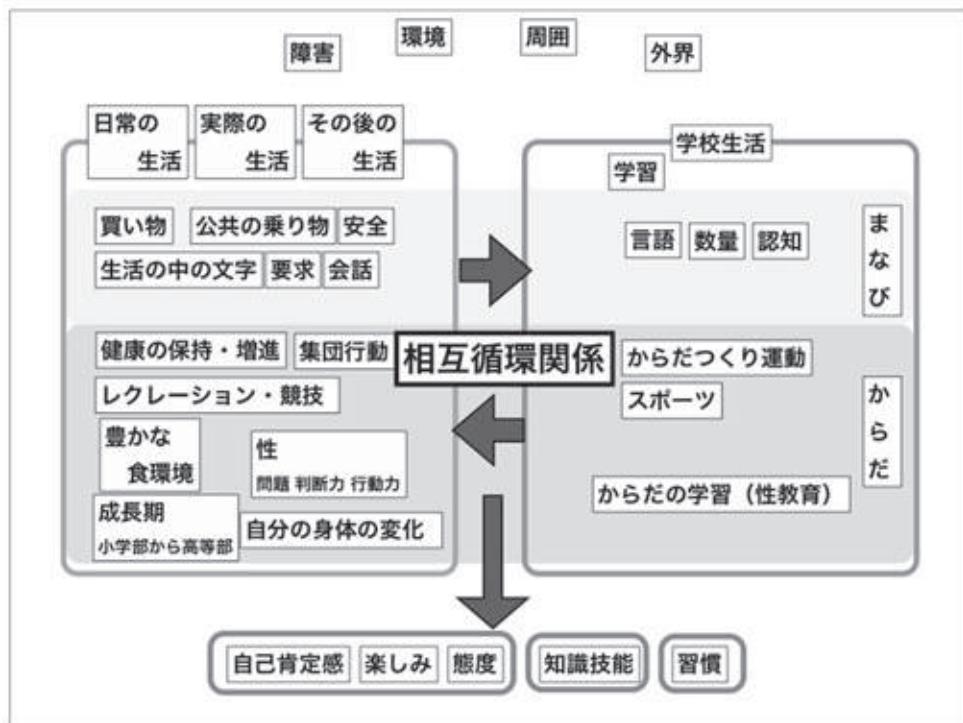
③ 区分「まなび」の場合

区分「まなび」の学習は、指導形態「認知」「言語」「数量」から構成されている。定義の中では「児童生徒が環境とかかわりをもつためには身体や社会性の発達とともに、環境からの情報をとらえる力、環境に働きかける力も重要な要素である」としている。「認知力」を学びの基盤とし、環境から情報を得るために、そして環境に働きかけるために「言語の理解と表出に関する力」や「数量に関する力」を得て、より豊かな生活を送るための指導内容を設定している。

④ 区分「からだ」の場合

区分「からだ」の学習は、指導形態「体つくり運動」「スポーツ」「健康と成長」から構成されている。定義の中では「身体を動かすことは、その人の生活そのものであり、楽しみであり、自己表現の基本であろう」としている。自分に合った運動の仕方や楽しみを知ることや、成長や発育など自分の身体の変化に見通しや期待をもつことなどを指導内容として設定している。

第17次研究の区分「まなび」、区分「からだ」の定義の中では相互循環関係と表現しているが、生活の視点でとらえたとき、区分「まなび」と区分「からだ」に共通して言えることは、どちらも学んだ力や考えを基盤として、より豊かに生活を送ろうとしているところにある。



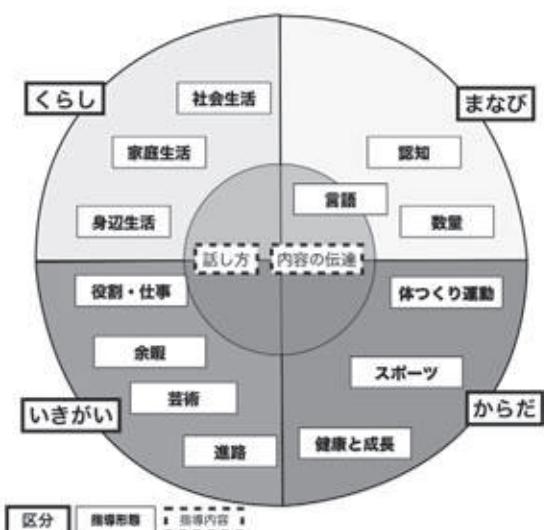
＜図6：区分「まなび」「からだ」と生活の関連図＞

このように、本校の教育課程の各区分を児童生徒の生活という視点で整理すると、それぞれに区分ごとに構造が異なり、以下のように整理することができた。

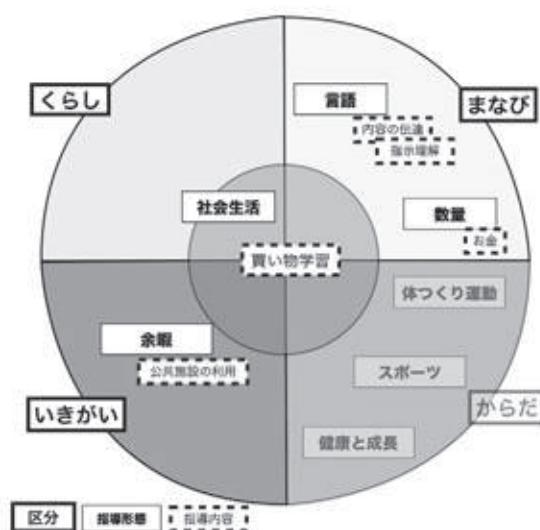
| | |
|----------|-------------------------|
| 区分「くらし」 | : 生活を空間軸（場や環境）としてとらえた学習 |
| 区分「いきがい」 | : 生活を時間軸としてとらえた学習 |
| 区分「まなび」 | : 生活の認知的な基盤となる学習 |
| 区分「からだ」 | : 生活の身体的な基盤となる学習 |

このように、児童生徒の生活を視点として各区分をとらえ直すことで、区分同士の関連が整理され、授業レベルでは指導内容同士の結びつきを考えやすくなったと言える。

(2) 本校の指導内容と児童生徒の生活



＜図7：「話し方・内容の伝達」を中心に見た指導内容の関連図＞



＜図8：「買い物学習」を中心に見た指導内容の関連図＞

生活の中では様々な思考や行動を組み合わせて、生活動作へとつなげている。例えば、買い物という生活動作では、目的の商品を得るために店舗選びから店内のフロア配置、陳列棚の各商品、値札などの情報を得ること、商品を選ぶ、レジに並ぶ、お金を支払うなどの動作をとること、さらに豊かな買い物とするためには、店員とのコミュニケーションをとることなど、これらが関連しあって買い物という活動を支えている。本校における学習も、各区分の各指導形態における指導内容が独立して存在しているのではなく、基礎・基本となる学習や応用・発展させた学習など、それぞれの指導内容の位置づけを明確にし、関連や配列を見直すことで、学習が効果的に行われ、学習されたことがより生活に生かせる力へと結びつくはずである。

今回、各部が着目した指導形態や指導内容を中心に関連する学習などを図式的に表してみた（例 図7：「話し方・内容の伝達」を中心に見た指導内容の関連図）。しかし、どの指導内容も区分「まなび」「からだ」といった生活の基盤となる指導内容であるため、関連性の浅い深いはあるが本校で行われるあらゆる指導内容と関連付けできるものであり、各指導形態の具体的な指導内容まで深めて関連性を探りづらい。高等部では、部研究の中で指導形態「数量」から、生徒がICカードを用いて電車代の決算をしていることに着目して学習を組み立て、指導形態「社会生活」との関連を図っていった。そこで、区分「くらし」指導形態「社会生活」からそれぞれの学習の関連を図式化（例 図8：「買い物学習」を中心に見た指導内容の関連図）してみると、それぞれの指導形態の中で関連のある指導内容をより明確に示すことができた。中学部の指導形態「言語」においても、指導形態「社会生活」の「市内めぐり」という道を尋ねる学習から関連を図ることで、指導形態「言語」において関連性のある指導内容が明確になる。小学部の指導形態「健康と成長」においても、指導形態「身辺生活」の「排泄」のように学校や公共施設におけるトイレの学習や指導形態「社会生活」における「公共施設の利用」のように身近な人と移動や施設利用を行う学習から関連を図ることで、指導形態「健康と成長」において関連性のある学習が明確になる。このように、区分「くらし」「いきがい」の指導内容を中心に、区分「まなび」「からだ」の指導内容へと関連を図っていくことで、指導内容同士の関連がより明確になり、より生活に生かせる学びへとつなげていけるのではないかと考えられる。

6 研究成果と今後の課題

本研究では、児童生徒の生活と本校の教育の結びつきを明らかにすることを目的として、小学部・中学部・高等部ではそれぞれの授業づくりを中心に実践を通して検証し、全体研究では児童生徒の生活を視点として、教育課程の各区分の構造や指導内容のつながりについて考察してきた。そこで、成果と課題として挙げられることについて、以下にまとめる。

（1）調査をもとにした、授業評価と授業改善

通常、本校では授業レベルの評価、改善は単元別指導計画表をもとにされている。本研究においては、各学部が着目した指導形態について、指導内容に対するより具体的な評価やニーズを把握するために保護者や進路先などに調査を実施・分析し、授業改善へとつなげた。このことにより、授業を保護者や進路先のニーズ、さらには児童生徒の学校生活から離れた実態という視点で評価分析することになり、これまで以上に児童生徒の生活と授業のさらなる結びつきへとつなげることができた。

保護者や進路先からどのような情報を引き出したいのか整理し、調査項目を考える作業は、これまで実施されてきた指導形態について、児童生徒の実態、学習の構成や指導内容などの評価を教師間で行う上でとても有効であった。また、調査結果からはこれまでの指導内容に対する具体的な評価やニーズが得られた。どの部の調査結果からもこれまでの指導内容は必要であるとしながらも、小学部では保護者が「第二次性徴からくる身体の変化をどのように伝えるか」や「異性との接し方や距離感」など子どもの成長からくる不安を抱えていることや、「トイレのマナー」や「お風呂での身体洗い」など「健康と成長」についてさらなる定着を考えていることが分かった。中学部では「学校であったことを家庭で話すこと」や「聞き取れないときに尋ねなおす」ことなど「話す」「聞く」についての重要

性を感じている保護者が多いことが分かった。高等部では進路先、保護者の指導形態「言語」のニーズとして「聞く」ことについての重要度が高いことや、指導形態「数量」では、「お金」の重要度が高いことや、ほとんどの生徒が通学の中でICカードを利用していることが分かった。このような具体的なニーズや児童生徒の実態を得ることができたのは、授業改善を進める上でとても重要であった。

（2）各区分の構造と指導内容の関連

「児童生徒の生活」という視点で、本校の教育課程を分析したことは、第19次研究までの課題に挙がっていた「区分同士の関連と、各部における区分の重みづけの検証」「形態設定の見直し」「様々な視点による指導内容の見直し」という課題について、新たな考え方や示唆を与えることにつなげることができた。特に「区分同士の関連」では、「児童生徒の生活」という視点から各区分の定義をとらえることにより、それぞれの構造の違いや位置づけを明確にすることはできたと言える。今後、各区分の構造や位置づけの違いを授業づくりに生かすためには、各指導内容がモデルカリキュラムの中で基盤となる学習なのか発展となる学習なのか明らかにし、それぞれの関連を表す工夫や、単元、題材、指導内容などのレベルで関連を図ることがより効果的な授業づくりにつながるのかなど検証が必要である。

（3）教育目標の具体化

本校では「①生きる喜びをつくる ②生きる力を身につける」という大きな2本の柱で教育目標を掲げ、それをもとに各部の教育目標が設定されている。しかし、児童生徒が将来どのような姿を見せたときに、本校の教育目標を達成できたと言えるのかという具体的な将来像はあまり見えてこない。

本研究では、「児童生徒の生活」を時間軸と空間軸という大きな2軸でとらえることから検証を始めた。本研究の中心となった、各部の着目した指導形態における授業づくりは、空間軸としてとらえると学校生活から離れた家庭生活、社会生活など様々な場での実態、ニーズ、課題を検証することができる貴重な機会であったことが分かる。また、時間軸でとらえると数年レベルのスパンで見た児童生徒の目標を設定し、それぞれに効果を上げることができた。このように、児童生徒が日々の授業から効果的に学習を積み、成長をしていくことはとても重要である。しかし、入学から卒業までという長いスパンでどのように育ってほしいか、どのように育てたいか、児童生徒、保護者、教師がそれぞれに共通理解するためにはより具体的な教育目標が必要であると言える。

本校の児童生徒の実態、学校の地域性や教育目標の特色などから、今一度、本校の「めざす児童生徒像」を考える時期が来ていると考える。

《引用・参考文献》

- 梶田叡一 (2008) 新しい学習指導要領の理念と課題 確かな学力を基盤とした生きる力を、図書文化
- 菊池一文 (2013) 特別支援教育における ICF の活用によるキャリア発達支援の可能性、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 研究紀要第 40 卷
- 村川雅弘編 (2012) 「ワークショップ型校内研修」充実化・活性化のための戦略&プラン 43、教育開発研究所
- 日本発達障害福祉連盟編 (2012) 発達障害白書 2013 年度版、明石書店
- 鹿児島大学教育学部附属特別支援学校 (2013) 研究紀要第 19 集 授業研究を基軸とした豊かな「学び」をはぐくむ授業づくり
- 横浜国立大学教育人間科学部附属特別支援学校 (2013) 研究紀要第 23 号 自立と社会参加をめざした教科中心教育
- 中央教育審議会 (2012) 特別支援教育の在り方に関する特別委員会 合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループ (報告)
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 (2007) プロジェクト研究 H18 年度 特別支援教育における教育課程の編成・実施の推進に向けた実際的研究—特別支援教育の充実に向けた教育課程編成—
- 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 (2010) 特別支援教育における ICF-CY の活用に関する実際的研究 平成 20~21 年度研究成果報告書
- 文部科学省 (2009) 特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部指導要領
- 文部科学省 (2009) 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚部・小学部・中学部)
- 長崎大学教育学部附属養護学校 (1997) 研究紀要第 13 集 子どもの内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善 その 1
- 長崎大学教育学部附属養護学校 (1999) 研究紀要第 14 集 子どもの内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善 その 2
- 長崎大学教育学部附属養護学校 (2002) 研究紀要第 15 集 教育課程の再編成その 1 —アセスメント機能をもった内容表試案を作成し、指導形態等の改善の手がかりを探る—
- 長崎大学教育学部附属養護学校 (2004) 研究紀要第 16 集 教育課程の再編成その 2 —実践的課題研究と卒業生の実態調査をとおして、自立と社会参加をめざした教育課程再編成の手がかりを探る—
- 長崎大学教育学部附属養護学校 (2007) 研究紀要第 17 集 教育課程の再編成その 3 —自己の形成へつながる教育課程の創造—
- 長崎大学教育学部附属特別支援学校 (2009) 研究紀要第 18 集 自己を育む授業実践—「こころチェックリスト」を取り入れた授業設計—
- 長崎大学教育学部附属特別支援学校 (2012) 研究紀要第 19 集 自己の育ちを支える小・中・高一貫した進路学習の授業の在り方を考える—「進路学習のステップ」の作成と指導形態「進路」の実践—

《参考資料 本校の教育》

(1) 教育目標について

個々の児童生徒の教育的ニーズに応じた教育を行い、一人ひとりの自己教育力を高めながら可能性を最大限に伸ばし、自立的な生活を送り、積極的に社会生活に参加できる人間の育成を目指す。

① 生きる喜びをつくる

自立と社会参加を目指すには、いろいろな生活体験を通して生きる喜びを抱くことが大切である。児童生徒は知的好奇心や興味・関心を抱き、課題に対して自ら考えて主体的に行動する経験を通して成就感や喜びを味わうことができる。そして、それを原動力にして意欲的な生活を送り、自己実現に向けて精一杯取り組んでほしい。

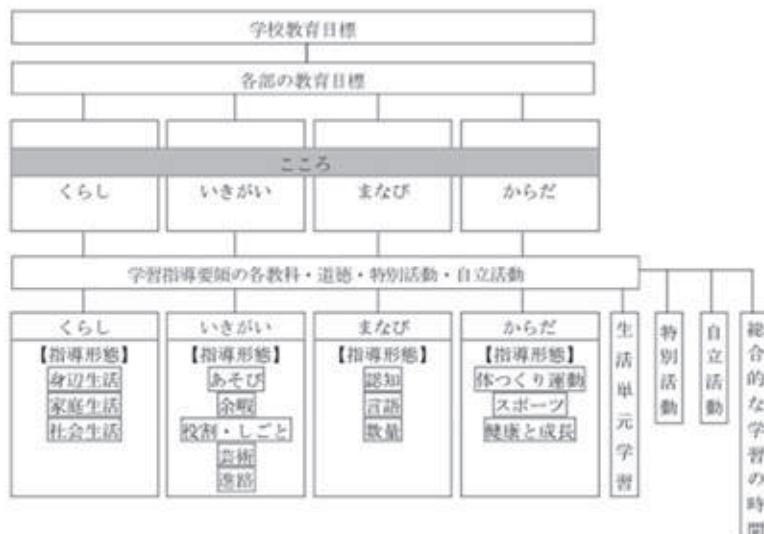
② 生きる力を身につける

自立と社会参加を目指すには、個々の特性と発達に即した生きる力が必要である。自己を育み、自分のよさやできることを發揮するために必要な態度及び知識・技能を身につけてほしい。さらに、社会の一員として自分にあった進路を自己選択・自己決定し、生き生きと働いたり余暇を楽しんだりして、生活を充実し、豊かなものにしてほしい。

(2) 教育課程について

本校では、自己の形成を柱とした教育課程を編成し、特色のある教育活動を展開している。

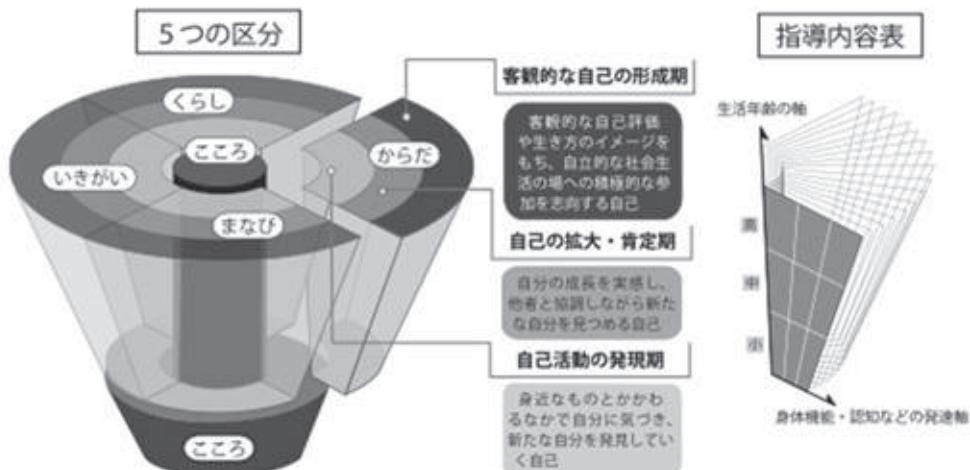
本校の教育課程の構造（図9）は、各指導形態を4区分「くらし」「いきがい」「まなび」「からだ」に分類することで縦糸を構成し、自己の形成に関する内容を「こころ」区分として横糸を構成することで、すべての教育活動において自己の形成が反映されるようなシステムとなっている。



※ 小学部では「総合的な学習の学習」、中学部・高等部では「あそび」を除く。

<図9：指導形態面からの構造図>

また、各区分と指導内容の構造（図10）としては、「こころ」区分を中心として、4区分「くらし」「いきがい」「まなび」「からだ」が構成され、「こころ」区分については「こころチェックリスト」、4区分については指導内容表をもとに発達に応じた教育活動が展開されている。



<図10：区分と指導内容表からの構造図>

これらの考えは、個別の指導計画、個別の教育支援計画の他に、表3「教育システム上の本校独自のツール」に示すようなツールを用いて、実際の授業づくりへと反映されている。

<表3：本校の教育システム上の本校独自のツール>

| | |
|------------|--|
| こころチェックリスト | 「こころチェックリスト」は「自立心」「夢」「知的好奇心」「情緒の安定」「表現」「協調性」「社会規範」「葛藤」「自己理解」「自己選択」の10の項目を視点にした「こころの育ち」を大まかに診断することを目的とした実態把握のツールである。 |
| モデルカリキュラム | 「モデルカリキュラム」は各区分の定義や目標、さらには各指導形態における授業の年間の目標、単元構成、指導内容を一覧としてまとめた授業設計の基となるツールである。 |
| 単元別指導計画 | 「単元別指導計画表」は「モデルカリキュラム」の年間計画を「フェースシート」とし、単元名、題材構成、指導内容を一覧としたものを「実践シート」、単元実施後の題材や授業構成、指導内容、指導方法、教材教具、個の配慮などを「考察シート」としてまとめた、授業を評価するためのツールである。 |

Ⅱ 小学部の研究

「実生活につながる「からだの学習」の授業づくり」

～内容・方法の見直しを通して～

目次（小学部の研究）

| | |
|------------------------------|------|
| 1 小学部研究テーマについて | 小-1 |
| (1) 「からだの学習」に関する現状 | 小-1 |
| ① これまでの取り組み | |
| ② 児童の様子 | |
| ③ 教師の思い | |
| ④ 保護者の思い | |
| (2) テーマ設定について | 小-2 |
| ① 小学部における「実生活」とは？ | |
| ② 実生活につながる授業づくりとは？ | |
| 2 研究の目的 | 小-3 |
| 3 研究の方法 | 小-4 |
| 4 研究の経過 | 小-5 |
| (1) 「からだの学習」の見直し | 小-5 |
| ① 教師間での見直し・検討について | |
| ② 「からだの学習」に関する保護者へのアンケートについて | |
| ③ アンケートを受けて | |
| ④ 目標・題材・指導内容・指導方法などの検討 | |
| ⑤ 「からだの学習」新モデルカリキュラムについて | |
| ⑥ 略案集について | |
| (2) 新しい指導内容・学習形態について | 小-8 |
| ① 新しい指導内容について | 小-8 |
| ア) 研究授業1 「男女の違いを知ろう」 | 小-9 |
| イ) 研究授業2 「トイレのマナーを知ろう」 | 小-14 |
| ② 新しい学習形態について | 小-19 |
| (3) 家庭との連携～「からだの学習通信」について～ | 小-23 |
| 5 研究成果と今後の課題 | 小-28 |
| (1) 成果 | 小-28 |
| ① 指導内容の整理・精選を通して | |
| ② 授業実践を通して | |
| (2) 今後の課題 | 小-29 |
| ① 指導内容・方法について | |
| ② 保護者とのさらなる連携について | |
| ③ 地域のセンター的役割について | |
| 《引用・参考文献》 | |
| 《参考資料①》新しいモデルカリキュラム | 小-31 |
| 《参考資料②》「健康と成長」指導計画 | 小-34 |
| 《参考資料③》略案集 | 小-36 |
| 《参考資料④》「からだの学習」で使用する教材・教具例 | 小-57 |

(小学部研究テーマ)

実生活につながる「からだの学習」の授業づくり
～内容・方法の見直しを通して～

1 小学部研究テーマについて

(1) 「からだの学習」に関する現状

① これまでの取り組み

小学部の「からだの学習」は、もともと「日常生活の指導」の中で取り扱っていた内容を、児童の発達段階に応じた系統的な学習をする必要があると考え、教育課程の再編成（2007・第17次研究）において、指導形態「こころとからだ」（現在の「健康と成長」）の中で取り扱うようになった。本校の教育課程における「からだの学習」は、区分「からだ」に属する指導形態「健康と成長」の授業名としてとらえてもらいたい。（表1）

指導内容に関しては、児童の成長による身体的変化を考慮し、中学部の指導内容を参考にしながら、内容を検討し実践を行ってきた。中学部の「からだの学習」では、「リラクゼーションやボディイメージの体感」、「身体の構造及び機能」、「男女の違い」、「第二次性徴」、「性器の仕組み」、「健康と栄養」、「マナーや身だしなみ」、「模擬誘拐」、「保健室利用」、「身体の清潔」、「身体洗い」、「排泄・トイレのマナー」などの内容を縦割りのグループ編制で取り組んでいる。小学部ではこれらの内容を参考にし、小学部段階の児童への指導内容として、「検診の受け方」、「手洗い・うがい」、「歯磨き」、「身だしなみ」、「身体拭き」、「リラクゼーション」、「身体の部位」、「プライベートゾーン」、「男女の違い」、「月経指導」などの内容を取り上げ、心身の発達を考慮し、低学年、中学年、高学年のクラス単位ごとに年間の計画を立てて取り組んできた。ただし、女子の月経指導については児童の実態に応じて個別の指導や部を超えて授業を行ってきた。

小学部では、このような取り組みを約6年間続けてきているが、これまで内容について授業者レベルでの細かな変更は行っているものの、小学部内での指導の系統性や内容等について、大きな見直しをすることなく実践を続けている状態であった。

＜表1：区分「からだ」の構成＞

| 区分 | 指導形態 | 項目 | 授業名 |
|-----|--------|-------|-------------|
| からだ | 体つくり運動 | 体力づくり | うんどう（グループA） |
| | | | うんどう（グループB） |
| | | | うんどう（全員） |
| | 健康と成長 | 健康／成長 | リズム |
| | | | からだの学習（1組） |
| | | | からだの学習（2組） |
| | | | からだの学習（3組） |

② 児童の様子

小学部の児童は、1組（1・2年生）4名（男子3名、女子1名）、2組（3・4年生）5名（男子3名、女子2名）、3組（5・6年生）5名（男子4名、女子1名）の14名であり、全体の男女比は5：2と男子の方が倍以上在籍している状態である。MAは1歳代～4歳代の児童が在籍しており、自閉症、ダウン症、その他の障害がある児童が在籍している。さらに、児童については以下のような様子や姿が見られる。

- ・言葉でのコミュニケーションが難しい児童も多く、教師と一緒に活動を行ったり、言葉かけの支援

やカードなどの教材を使ったりしながら、授業を進めていくことが多い。

- ・排泄や着替えなどの身辺処理の面では、技能面でまだまだ不十分な児童も多く、毎日の学校生活の中で個に応じた支援を受けながら取り組んでいる。
- ・手洗いや歯磨きは、「からだの学習」で習ったことを思い出しながら、手洗い場に掲示されたやり方の順番表を見ながら、自分なりに順番に沿って行おうとする児童が増えてきている。
- ・周囲の友達や教師との関わりでは、言葉でのやりとりだけでなくボディタッチやスキンシップによって関わりを楽しんだり、愛情表現をストレートに身体的接触として表現したりする児童も多い。情緒が不安定になる児童についても、おんぶや抱っこを求めてくることが多く、身体全体の圧迫などで落ち着いてくる様子が見られる。

③ 教師の思い

このような児童の様子を見てみると、身辺処理や関わりなどの場面に見られるような、児童の健康面・成長面において、生活年齢に即した理解や技能の習得がまだ必要であることがうかがえる。「からだの学習」を通して少しずつ理解を深めていくとともに、毎日の繰り返しの中で個に応じて段階的に指導していくことが今後も必要であると思われる。

我々教師は、上記に挙げた児童の実態を踏まえ、児童が今必要としている内容、児童ができるだけ肯定的に自分をとらえ、安心して生活していく力を育む内容、今よりもより一貫性のある指導などについて、この機会をとらえて考えてみたい。

④ 保護者の思い

小学部の保護者にとって、排泄や着替え、歯磨きなどの日常生活における身辺処理に関しては、毎日の家庭生活において親子でも取り組んでおり、学校と情報を共有しながら連携をとって取り組んでいくこうとする意識が高いように思われる。しかしながら爪かみや鼻ほじりなど、マナー面などの要素も含んだ清潔に関する知識については、どのように教えていけばいいのか悩まれていることが多いと予想される。また、高学年になるに従い第二次性徴の傾向が見られ始めると、精通や月経の対応への不安から、個別に学校へ相談に来るケースが見られることも多い。特に男子の性については、母親が適切な指導や関わりをもてず見過ごされたり対応に困っていたりする場合が多いと考えられる。

そのような保護者の心情を考えると、学校での生活に生かされる学習だけでなく家庭での生活により生かされる学習が「からだの学習」には求められていると考えなければならない。さらに「からだの学習」における指導と保護者のニーズは、より密接な関係であるべきだと言える。

我々教師は、保護者のニーズをより的確にとらえ、「からだの学習」に反映させていくべきであると考える。

(2) テーマ設定について

① 小学部における「実生活」とは？

小学部の児童を取り巻く環境は、児童の行動範囲を考慮すると、家庭での生活と学校での生活、そして地域の人との交流など、身近な地域生活が大部分を占めていると言えるだろう。そして、小学部段階で将来的にどこまでの児童像をとらえた学習を行うべきかを考えると、普段の学校生活で「中学部、高等部のお兄さん、お姉さんのように、かっこよく、そして優しくなりたい」という意識が出始めている児童の実態からも、高等部卒業後の自分の姿を思い浮かべることは非常に難しく、我々教師としても中学部・高等部までの姿をイメージしながら学習を行うことが必要だと考えた。

これらのことと踏まえ、小学部の児童における「実生活」のとらえを、以下のように教師間で共通理解を図った。

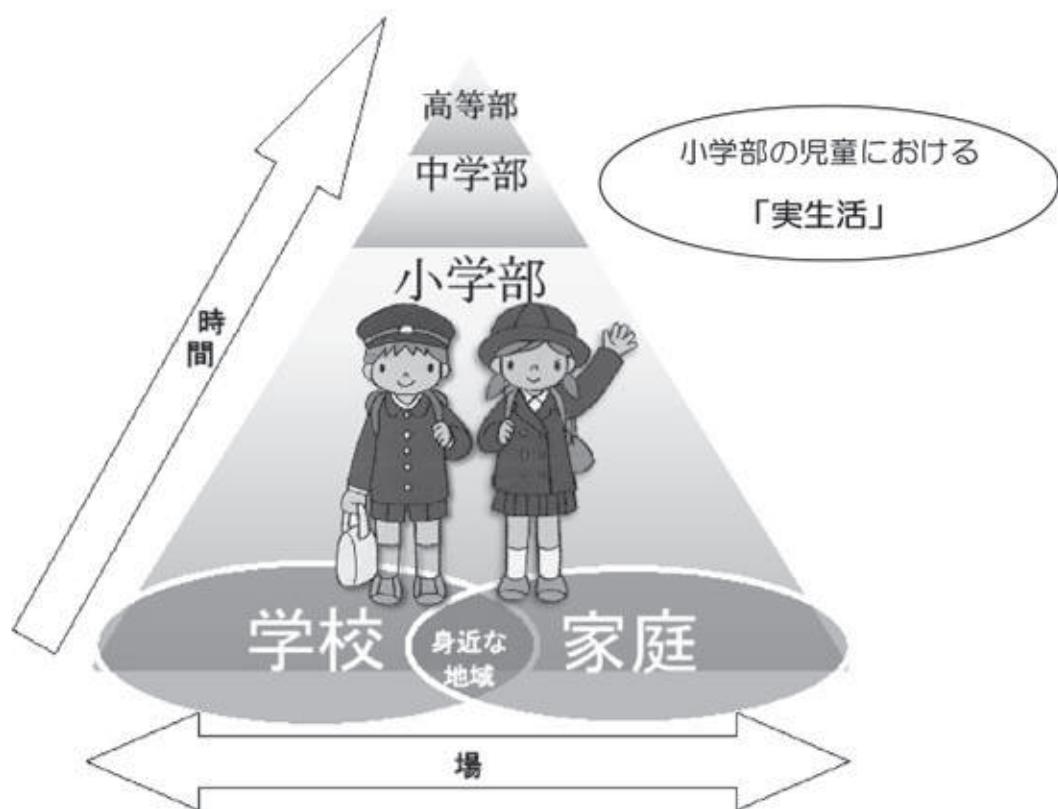
小学部の児童における「実生活」とは、場としては家庭や学校、身近な地域での生活を指し、時間としては小学部から中学部そして高等部までととらえている。

② 実生活につながる授業づくりとは？

上記のとらえに基づき、小学部の「からだの学習」をとらえ直すと、中学部で行う「からだの学習」が、性に関する実践的な内容が比較的に多いことに比べ、「手洗い」や「歯磨き」、「排泄」など、身辺処理を含む身の回りに関すること、いわゆる基礎・基本の内容をさらにしっかりと押さえながら、自分の「からだ」に対する理解について、発達段階に応じて系統的に指導していくことが、小学部の「からだの学習」では重要だと考える。

「児童一人ひとりが自分の身体に目を向け、成長を感じ、自分の身体を大切にしようとする姿」、「自分の身体の成長に対して理解しながら、安心して、将来に向かって自信をもって生きようとする姿」を目指し、指導内容や方法について考えていく必要がある。

児童自身が「からだの学習」で学んだことを、学校生活だけでなく家庭生活や地域生活など、児童のごく身近な「実生活」に生かせる内容、そして中学部や高等部での生活にもつながる授業を目指したい。そのために、これまで「からだの学習」で行ってきた内容、方法について見直し、精選していくとともに、学級間における指導の系統性を考えた計画を立て、実践を行っていきたい。また、効果的な学習グループや、身近な地域での生活を含めた家庭生活との、より効果的な連携についても探っていきたい。この研究を通して児童の実生活へさらにつながりやすい授業を探っていきたいと考え、この研究テーマを設定した。



2 研究の目的

「からだの学習」の系統的な指導を目指し、実生活からニーズを拾いながら指導内容・方法の見直しを行い、実生活につながる授業づくりをすることで成果や課題を明らかにする。

3 研究の方法



4 研究の経過

(1) 「からだの学習」の見直し

① 教師間での見直し・検討について

これまでに行っていた小学部の「からだの学習」は、中学部で実施していた「からだの学習」の指導計画をもとに小学部段階に必要と思われる内容を取り上げて行っていた。「からだの学習」の指導内容については、年度ごとに細かな修正は行ってきたが、設定の理由や目標、指導計画など、「からだの学習」全体について小学部の発達段階や必要性という視点での検討や見直しをする機会は少なかった。

そこで、教師間で「からだの学習」の設定の理由や目標、指導計画など、中学部や高等部なども含め、全体について見渡しながら見直しを行うことにした。

教師間での話し合いでは、取り上げた方が良いと思われる内容について考えた。具体的には、現在取り扱っている内容も含め、話題に上がっていた「身だしなみ」「トイレのマナー」「月経の指導」「身体の清潔（鼻ほじり、爪噛み、性器いじり、くしゃみ、よだれ）」「友達や異性との接し方」などの中から、どの内容を取り上げたいかを検討したが、どの内容も小学部段階で取り扱いたい内容であると考えた。また、検討や見直しを行ううちに、指導内容の整理が必要なものがあるという意見や小学部段階に必要な内容が他にもあるのではないかという意見、将来的に必要な内容を取り入れた方がよいという意見が出された。

これまででは、小学部の「からだの学習」は、学級ごとの学習であったが、内容によっては、合同で学習を行うことや習熟度別のグループに分かれて学習を行った方がよいのではないかとの意見も出され、学習形態についても検討することとした。

また、「からだの学習」という学習の性質上、身の回りのことに関することが多く実生活との関わりも強いことから、家庭との連携が欠かせないこと、保護者が困っていることを学習に取り入れた方が良いことから、保護者の考えを聞きたいという意見も出された。小学部段階の「からだの学習」では、身の回りのことに関する学習を多く取り扱っているが、高学年になると、第二次性徴を迎えるにあたり『性』に関する内容も含まれるようになる。そこで、保護者が「からだの学習（性教育）」について、どのように考えているのかも知りたいと考えた。

② 「からだの学習」に関する保護者へのアンケートについて

今後の「からだの学習」を、より実生活につながる学習にするために、保護者との共通理解を図り、保護者への「からだの学習（性教育）」についての啓発を図る意味も含め、家庭での取り組みやその様子、困っていることなどについての保護者へのアンケートを行うことにした。そして、このアンケートをもとに話し合いを進め、小学部教師間で「取り上げた方が良いと思われる内容」「効果的な授業構成」についての共通理解を図ることとした。

保護者へのアンケートの内容としては、以下のとおりである。

- [I-ア] 今現在、子どもの「からだ」に関することで、家庭で意識して取り組んでいることがあるか。
〔例：検診の受け方、手洗い、歯磨き、入浴の仕方・マナー、友達や異性との接し方、健康なからだ（運動・肥満対策など）〕
- [I-イ] 上記[I-ア]の質問で書いた内容で意識して取り組んでいる事柄について、具体的な取り組みがあるか。〔例：歯磨き：子どもの磨く目の前で一緒に磨き、磨く部位を教えるようにしているなど〕
- [II] 今現在、子どもの「からだ」に関して困っていること、なかなか身に付かないと思っていることがあるか。
- [III] 「からだの学習」の学習内容表を見て、表に記載されている学習内容以外にもしてほしいと思う内容があるか。
- [IV] これから子どもが成長していくことを想定し、「からだ」に関することで分からないことや不安

に思うことがあるか。

- 〔V〕 子どもの高等部卒業時までの将来の生活を考えて、「からだ」に関することで、できるようになっておいてほしい生活上のことがあるか。

③ アンケートを受けて

保護者からのアンケート結果を、『家庭で取り組んでいること』『困っていること、取り扱ってほしい学習内容』の二つに分け、集計した。

アンケート結果の内容は、『家庭で取り組んでいること』としては、「手洗い」「うがい」「歯磨き」「入浴」「排泄の仕方・マナー」が挙げられた。『困っていること、取り扱ってほしい学習内容』としては、「身だしなみ」「爪噛み」「鼻ほじり」「性器いじり」「人（異性）との関わり方」「恥ずかしいという気持ち」「人との距離感」などが挙げられた。低学年の段階では身の回りのことに関する内容が多く、生活の中で習慣として身に付けさせたいと思われる内容が挙げられていたが、高学年になると身の回りのことについてはできることが増えるため、学校で取り扱ってほしい内容としては減っていたが、第二次性徴を迎えるにあたって『性』を意識した内容が多く挙げられていた。

教師間の話し合いで上げられていた内容とアンケート結果をもとに新しい年間指導計画を作成するにあたって、既存の学習内容表にない内容、学校と家庭とで連携の取りやすい内容、小学部段階で身に付けさせたい内容、将来的に必要と思われる内容について検討を行った。

その中で、児童の普段の学校生活での様子や教師が小学部段階で児童に学習の機会を設けたいと考える内容から、『トイレのマナーを知ろう』『顔や手を清潔にしよう』『男の子のからだについて知ろう』『男女の違いを知ろう～関わり方～』を、新たな指導内容として取り扱うこととした。

④ 目標・題材・指導内容・指導方法などの検討

「健康と成長」の指導計画には[1 設定の理由][2 目標][3 学習グループ][4 指導計画]がある。

[1 設定の理由][2 目標][3 学習グループ]については、中学部の指導計画をもとに小学部段階を踏まえて作成されたものであった。年度ごとに少しずつ見直し、細かな修正を行ってきたため、今回の見直しでは大幅な文章の訂正はなかったが、[4 指導計画]とも照らし合わせながら、今後の指導形態や指導内容に合うように、文章や文言の訂正を行った。[4 指導計画]については、先に述べたように教師間での話し合いや保護者からのアンケートをもとに見直しを行い、新しいものを作成することにした。（参考資料②-1、②-2：平成25年度小学部「健康と成長」の指導計画）

『家庭で取り組んでいること』として多く挙げられていた「手洗い」「うがい」「歯磨き」「入浴」については、既存の指導計画の中にあったため、これまで同様に指導内容として取り上げ、指導を行うこととした。

「排泄の仕方・マナー」については指導計画の中になかったことや学校生活での児童の様子から、公共施設などを利用することを考えても取り扱いたい指導内容であると考え、『トイレのマナーを知ろう』で新たな指導内容として取り扱うこととした。

『困っていること、取り扱ってほしい学習内容』として挙がっていた「身だしなみ」については、高学年の内容として既存の指導計画に上がっていた。低学年や中学年については、指導内容として挙げられていなかったが、身の回りのことを自分でできるように指導していく段階であるととらえ、まずは「区分：くらし」での指導を中心に、学校生活の中で繰り返し教えていくことで身に付けさせたいと考えた。こうして低学年や中学年の日常生活の中で積み上げた学習経験をもとに、高学年では「区分：からだ」の「からだの学習」で『身だしなみを整えよう』として学習を行うことで、身体をきれいにすることの一つとして「自分で身だしなみを整える」という意識をもたせることが必要であると考え、高学年で指導を行うこととして、教師間での確認を行った。

「爪噛み」「鼻ほじり」については、学校生活全般を通してその都度指導を行っている。児童の中には、爪噛みや鼻ほじりの他にも、よだれや目やにが付いていても気にしない様子が見られ、顔や手

を清潔にすることを意識していないことからも、「からだの学習」の中で取り上げて指導を行いたいと考えた。そこで、『顔や手を清潔にしよう』という題材の中で、このような「爪噛み」「鼻ほじり」「よだれ」「目やに」などの中から実態に合わせた内容を取り上げて学習を行うこととした。

「性器いじり」については、保護者アンケートでは、主に高学年男子の保護者からの要望が多かった。実際には、マスターべーションにつながるような性器いじりというよりは、人前で触る様子が見られ、保護者にとってはそれが気になる行動であるという内容であった。そこで、高学年で『男の子のからだについて知ろう』という学習を行い、ここでは自分のプライベートゾーンを人前で触らないということを中心に学習することとした。ただし、第二次性徴を迎えるとする高学年の児童の実態を考えると、マスターべーションにつながるような性器いじりについても指導をする必要が出てくると考えた。本校の中学部では、マスターべーションについての指導を行っており、その学習にもつながると考え、小学部の高学年の男子においても、必要に応じて指導を行うこととした。

「人（異性）との関わり方」については、学校生活の中で、主に高学年の児童において、友達同士でペタペタしたり好ましくない関わり方をしたりしている様子が見られることがあり、指導する機会も多かったため、新たに指導内容として取り上げたいと考えた。そこで、第二次性徴を迎えるとする高学年においては、お兄さんお姉さんになる自分たちについて、男女の違いについて目を向けながら、その関わり方についても学習する必要があると考え、『男女の違いを知ろう～関わり方～』として、高学年の指導内容として取り扱うこととした。

「人との距離感」については、既存の指導計画の中に上がっていた。児童の様子を見ていると、高学年になっても友達や教師に必要以上に近づく様子が見られたり、身近な大人と知らない大人との距離感が変わらない様子が見られたりしたため、やはり学習が必要であると考えた。自分の身体を自分で守るということを学習する良い機会でもあると考え、単独で登下校をする機会が増える高学年で、『周りの人との関わり方を知ろう』として取り扱うことを確認した。

「恥ずかしいという気持ち」については、多くの保護者から教えることの難しさや必要性について意見が上げられていた。学校生活においても、女子が足を広げて座ったり、人前に下着姿で出てきたりするなどの様子が見られ、その都度「恥ずかしいよ」などと言葉をかけ、指導を行ってきたが、児童の中に「恥ずかしい」という気持ちをもたせることはとても難しいことであると考える。授業としても、「恥ずかしい」という気持ちをもたせるための学習は幅広く、焦点を絞った学習をすることが難しいと考え、「からだの学習」では独立した題材としては取り上げないが、指導内容によっては「恥ずかしさ」についても焦点を当てながら、主に学校生活全般を通して、指導していくこととした。

学習形態については、ほとんどの学習を学級ごとに行うが、2組、3組の『身体のいろいろな部位を知ろう』については、これまでの学習の様子から、実態別のグループ学習にした方が効果的であるとの意見が出され、『身体のいろいろな部位を知ろう（Aグループ：身体の部位を知る、Bグループ：マッサージ）』として、学習を行うこととした。

このようにして、教師間で必要と思われる内容や保護者からのアンケートをもとに考えた指導内容を取り入れながら、新しい年間指導計画を作成した。

⑤ 「からだの学習」新モデルカリキュラムについて

モデルカリキュラムについては、年間指導計画と同様に中学部のモデルカリキュラムをもとにしたものであった。小学部の年間指導計画と照らし合わせると、書き記されていない指導内容があつたり、小学部段階では難しいと思われる指導内容があつたりしたため、見直し、加除修正を行った。

また、どの学級にも、I段階からIV段階までが表記しており、実際には行わない指導内容が含まれていた。そこで、小学部の各学級の指導内容と照らし合わせ、1組では、I段階～II段階を、2組では、II段階～III段階を、3組では、III段階～IV段階を表記することとした。また、それぞれの内容や文言の見直しを行い、モデルカリキュラムを修正して活用することとした。

その後、新しい年間計画や略案集を作成したり、実際に授業を実践していく中で、新たに作成した

モデルカリキュラムの指導内容では児童の実態に合っていないものがあったり、新年間指導計画の指導内容にあるものが含まれていなかつたりしたため、再度見直しを行った。その際、どの学年にどの段階を表記するかについても再度話し合いを行った。「からだの学習」は、学級ごとに学習活動を行うが、学級ごとの児童の実態は幅広く、段階を限定して学習活動を行うことは難しいと考えた。

そこで、まずは、小学部段階としては3つの段階で「からだの学習」を行うこととし、これまでの4つの段階のものを3つの段階に編成し直した。その3つの段階の中に、小学部で指導したい指導内容、新年間指導計画（参考資料②-1、②-2）に挙げられた指導内容を網羅することができるようになり、文言などの見直しも再度行った。その上で、1組ではⅠ段階を、2組ではⅡ段階を、3組ではⅢ段階を主に指導内容として取り扱うこととするが、児童の実態によっては、他の段階の指導内容を行うことができることとし、主に取り扱う段階の指導内容を太枠で囲み、全学年に3つの段階全てを表記することとした。（参考資料①：新しいモデルカリキュラム）

⑥ 略案集について

これまでの「からだの学習」はそれぞれの学級で行われており、指導の方法は授業を行う担当者が、指導計画の内容に合うものを考えて行っていた。年度ごとの検討で、手洗いについては手順を統一して指導をしたいと考え、小学部全体で共通理解を行ったが、その他の指導内容や方法については、共通理解をするまでには至っていないかった。そのため、授業担当者によって取り扱う内容に違いが生じることもあった。また、新しく担当になった教師は、何をどのように行うか頭を悩ませることもあり、何か授業を行う手がかりになるものがほしいと考えていた。そこで、授業についての大まかな流れが分かる、略案集を作成することになった。（参考資料③：略案集、参考資料④教材・教具例）

略案集の作成過程では、これまで行ってきた授業をもとに、それぞれの教師が、どのように授業を行っていたか、どのような内容を取り扱っていたか、どのような教材を使用していたかなどについての意見を出し合い、一つひとつの題材について検討を行った。その中で、指導方法について意見を出し合ったり、学年に応じた内容を考えたり、取り扱う内容を精選したりすることで、教師間での共通理解を図ることができ、それぞれが「からだの学習」のについての理解を深めることもできたと考える。

また、略案集の作成に伴い、各授業担当者が使用していた教材についても共有できるように整理したことで、指導内容や指導方法の一貫性も期待できることとなった。

今回作成した略案集は、授業の細かい流れについては書かれていないが、どのような流れでどのような内容を取り扱うか、教材はどのような物を使用するかについて示すことにした。複数学年に渡る内容の学習もあるため、その部分については、学年を絞って作成し、他学年で授業を行う場合は、発達段階や実態を考慮し、内容や指導方法を調整して行うようにした。また、今回作成したものは、決してこのとおりに授業を行わなければならないというものではなく、今後の児童の実態や教師・保護者のニーズなどによっては、内容や方法を変更していくこともあると考えている。

（2）新しい指導内容・学習形態について

① 新しい指導内容について

保護者へのアンケート調査（P小-5～6（1）②保護者へのアンケート参照）を受けた結果、新たに「トイレのマナーを知ろう」「顔や手を清潔にしよう」「男の子のからだについて知ろう」「男女の違いを知ろう～関わり方～」を新たな指導内容として扱うこととした。ここでは、ア)「男女の違いを知ろう～関わり方～」トイ)「トイレのマナーを知ろう」の2つの新しい授業について例示する。

ア)「男女の違いを知ろう～関わり方～」については、特に高学年において友達同士でわざと顔を近づけてベタベタと関わる様子（写真1）が見られたため、新たに



＜写真1

「ベタベタしていいかな？」>

「からだの学習」の中で取り上げることにした。低学年の時と比べ高学年になると、お互いに異性を意識したり、精通や月経が始まる第二次性徴の最初の段階であったりする。そこで、男女の違いを理解するよう男女のプライベートゾーンについて知らせることで、自分や周囲の人がどちらの性別であるのか分かるようにした。次に異性とどのように関わればよいか、また友達同士ではどのように関わればよいかを考えさせるとともに、正しい関わり方について理解できるようにした。授業の中では実際にロールプレイをすることでどのように関わればよいか体験するようにした。

イ) 「トイレのマナー」については利用状況として、男女ともにスリッパを揃えずに置いたり、便器や周辺を排泄物で汚したりする様子が見られた。そこで、今回授業を行う上で小学部のトイレについても小学部の教師全員で改めて見直しを行い、排泄の仕方とスリッパの並べ方（写真2）も含め指導することにした。以前のトイレの床は大まかに色分けされていたが、シューズやスリッパを置く位置が明確に記されておらず、分かりにくいのではないかという意見が出されたため、シューズを脱ぐ場所を色線で区切ったり、スリッパの形を床に記したりすることで分かりやすくした。男子の小便器では排尿する目標を視覚的に示すため、☆マークを便器に貼り付けることで小便器周辺を汚さないようにした。また、男子トイレが洗面所から見えやすい状態であったため、マナーフェースを考慮して簡易カーテンを設置した。授業ではスリッパの揃え方を学習する部分（男女共通）と、途中から男女に分かれて「トイレのマナー」について学習を行った。男子では性器を持たずに排泄をする児童が多いため、①「性器を持つ」②「☆ほし」（☆マークを小便器に貼り、そこを目標に排泄する）③「ちゅんちゅん」（尿の切り方）の順番に排泄するよう指導する。また、実際に排泄をどのようにすればよいか、男性性器の模型を使い疑似体験できるよう、水を出して排泄のやり方をロールプレイできるようにした。女子については便座を汚したり、トイレットペーパーが落ちていたりすることがあるため、落ちいたら捨てたり、便座が汚れていたら拭いたりすることを指導した。（写真3）また、性器や肛門を拭く時のトイレットペーパーの取り方や拭き方についてもどのようにすればよいか知らせるようにした。

ア) 研究授業1 「男女の違いを知ろう」

○題材の目標

[内容に関する目標]

- ・男女の身体の違いについて知る。
- ・男女で使用する場所の違いや関わり方について知る。

[こころに関する目標]

- ・異性を意識した行動をしようとする気持ちをもつ。

○題材の計画（全2時間）

- ・プライベートゾーンを知ろう・・・・・・・・・・・ 1時間
- ・関わり方を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間（本時）

○本時の目標

[内容に関する目標]

- ・自分の性別が分かる。
- ・DVDを見たりロールプレイをしたりすることで、男女の適切な関わり方や行動の仕方を知る。

[こころに関する目標]

- ・「恥ずかしい」、「嫌だ」といった自分や相手の気持ちに気付く。



<写真2 「スリッパ
きれいだね！」>



<写真3 「ばい菌は
指で触ると汚いよ！」>

○学習の過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 備考 |
|---|--|--|
| 1 本時の学習内容を知る ○トイレで自分が使う場所に写真を貼る | <ul style="list-style-type: none"> ○男女の身体のイラストや身近な場所にある男女のシンボルマークを見ることで、児童が本時の学習への見通しをもつことができるようとする。また、前時に学習した男女の違いについても確認する。 ○男女に分かれて使用する場所を確認することで、男女の違いに気付き、前時の内容を思い出すことができるようとする。 ○実際にトイレの前に移動し、自分が使っている場所のシンボルマークを確認する。その後教室に戻って写真を貼るようにする。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> ぼくは、こっちのトイレに行ってるぞ！ </div> | <ul style="list-style-type: none"> ○男女の身体のイラスト ○男女のシンボルマーク ○顔写真 ○トイレの写真（男女別） |
| ○教師の話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ○「トイレの中を見る」、「異性にベタベタする」といった男女の関わりや行動についてのイラストを見せながら、自分の行動を考えるとともに、本時の活動に見通しをもたせるようにしたい。 | ○マナー・関わり方のイラスト |
| 2 男女の関わり方や行動の仕方を知る ○男女の関わり方や行動の仕方についてのDVDを見る | <ul style="list-style-type: none"> ○男女に分かれて使用する場所には「見ない」などの約束があることや、異性の友達にベタベタすると嫌がれることなどを、DVDを見ることで気づかせるようしたい。 ○C.Tは、「相手はどんな気持ちかな？」と、見たり触られたりしたときの相手の反応に注目させるようする。 ○C児やE児については、日頃このような友達とベタベタする様子が見られるので、取り上げたような行動をしていないか質問をして、DVDで見たことを実際にやっていないか確認をする。 ○DVDで見た関わり方や行動の仕方を振り返り、どうすればいいのか場面を設定して一人ずつ前に出てやってみることで、適切な関わり方や行動の仕方を経験できるようにする。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> そうだ！ こういう時は、こうすればいいんだ！ </div> | ○DVD（トイレ覗き編、着がえ覗き編、異性にベタベタ編） |
| ○適切な男女の関わり方や行動の仕方を経験する | <ul style="list-style-type: none"> ○C.Tは、児童が行った関わり方や行動について、他の | |

| | | |
|----------------------------|--|----------------|
| | <p>児童に「今のはどうだった？」と問い合わせながら友達の行動に注目させ、どうすればよかったですのかを児童一人ひとりが考えができるよう促す。</p> <p>○B児やD児についても、日頃ベタベタしたりお腹を見せたりする様子が見られるが、言葉だけのやりとりでは難しいので、ロールプレイを通して理解を促したい。</p> <p>○「見ない」「見せない」「さわらない」というように、行動を制限することだけでなく、「名前を呼ぶ」、「握手やハイタッチをする」などの適切な行動をとらせるようにしたい。</p> <p>○適切な行動ができた児童には「それがいいね」、「できたね」といった称賛の言葉をかけ、自信をもたせたい。</p> <p>○どうすればいいか分からぬ児童には、手本になる児童の行動を見せた後にもう一度行わせることで、適切な関わり方や行動の仕方ができるようにしたい。</p> <p>○2枚のイラストを見せて適切な方を選ばせることで、異性との関わり方や行動の仕方について確認する。</p> <p>○まとめとして、正しい関わり方を示したり言ったりした児童を紹介し、他の児童にも意識して行動しようとする気持ちをもたせたい。</p> | |
| 3　まとめをする ○適切な行動のイラストを選ぶ | | ○マナー・関わり方のイラスト |

a 授業の実際

今回の授業では、児童自身が「恥ずかしい」「嫌だ」といった自分や相手の気持ちに気付くことで、今後の日常生活の場面で自分から意識して行動しようとする姿が出てくることを期待して指導を行った。教師の働きかけとしては、適切な行動の仕方について「一してはいけない」など行動を禁止するだけでなく、「一したら恥ずかしいね」などの言葉かけをするなどの支援を行うようにした。また、してはいけない行動を映像で知らせたり、ロールプレイによって児童自身が自分の行動を振り返ったり、考えたりする場を設定し、自分で適切な行動に気づいたり、友達の様子を見たりして学び合う雰囲気を大切にしながら進めるようにした。

授業の詳細な様子については、以下のとおりである。

＜トイレで自分が使う場所に写真を貼る＞

男女のシンボルマークを見たり、実際にトイレの前に行ってみたりすることで（写真4）、男女で使用する場所が違うことを確認した。その後教室に戻り、いつも使う場所（男女別）を選んで自分の顔写真を貼る活動を行った。自信たっぷりに写真を貼っていく児童から、周りの友達の様子を見ながら貼っていく児童と、実態の幅は見られたものの、どの児童も自分が使う男女別の場所を選ぶことができた。

（写真5）同時に男女に分かれて使う場所があることに気付くことができた。実際にトイレに行って確認するなど、より具体的な活動が有効であったと考えられる。



＜写真4「トイレの前で確認しよう」＞



＜写真5：自分の使う場所を選ぶ様子＞

＜男女の関わり方や行動の仕方についてのDVDを見る＞

「トイレを覗く」「着替えを覗く」「異性にベタベタ触る」という3つの場面を教師が演じた映像を全員で見る学習を行った。児童はそれぞれにDVDを食い入るように見て、トイレを覗く場面の「きやー、見ないで！」という叫び声を聞いて思わずびっくりする様子が見られ、覗く行動に対して「だめ」「バツ」といった自発的な発言やジェスチャーが見られたりした。また男女の関わり方のDVDには、覗かれた方、触られた方が「やめて」と叫んだり、嫌がる表情で触ってくる手を払ったりする場面を取り入れている。学校生活の中では馴れ合いになってしまい、そこまで拒絶される場面は少ないと、学校外や社会に出てからることを考えると大いにあり得る相手の反応として設定することにした。

映像を見た児童の反応は、相手が嫌がっている様子を見たり、「ああいうことをされたらどう思う？」と教師が言葉をかけたりすることで、改めて「いやだ」「だめ」といった発言がみられた。

このように、客観的に行動を見るという場面を設定したことは、大変有効であったと考える。



＜写真6：DVDを見ている様子＞

＜ロールプレイで関わり方を学習する＞

DVDで見た場面の中から「着替えを覗く」「異性にベタベタ触る」の場面を模擬的に設定し、ロールプレイを行った。日頃そのような行動が見られる児童を友達とペアにして、みんなの前で模擬体験を行った。「着替えを覗く」場面では、初めは思わずカーテンをめくって中を見ようとしてしまう児童もいたが、見ていた友達から「あー、だめ」という声を聞くと同時に、自分自身もDVDで見た内容を思い出したようで、「しまった！」という表情を見せていた。その後、「カーテンの中が気になった時にはどうしたらいいかな？」という教師の質問に、中にいる友達の名前を呼ぶという行動を取ることができた。(写真7) また、「異性にベタベタ触る」場面では、友達が好きで、思わず手を握ろうとする児童が、肩をトントンと叩いたり、ヒントのイラストを見て握手をしたりする様子が見られた。今回の内容は男女の関わりについての学習であったが、異性ではなく同性であっても特定の友達に対して顔を寄せたりキスをしようとしたりする児童もいたため、同じようにロールプレイを行った。

さらに、DVDを見る場面と同様に、覗かれたり触られたりする児童に対しても、「覗かれてどんな気持ち？」「ベタベタされて嬉しい気持ち？嫌な気持ち？」と気持ちの問い合わせを行い、(写真8)「恥ずかしい」「いやだ」といった気持ちを引き出すようにした。ベタベタされる場面では、嫌な表情をすることができ、気持ちを聞かれて「いやだ」と答えることができた。しかし、着替えの場面では「恥ずかしい」という表現が難しい児童もいて、こういう時には「恥ずかしい」ということをロールプレイで経験していくようにした。先に映像を見ていたことで、「ビデオで見たのと同じだ」「そうか、こういう時はこうすればいいんだ」と、自分の日頃の行動を冷静に振り返り、どうすればいいかを児童たちは考えやすくなつたのではないかと考える。このようにDVDやロールプレイを使用することで、

児童自身が自分の行動を振り返ったり、考えたりする場を設定し、自分で適切な行動に気づいたり、友達の様子を見たりして学び合うことができたと考える。



<写真7 「覗かずに名前を呼ぼう！」>



<写真8 「ベタベタしていいかな？」>

b その後の様子と考察

授業後の様子を見ると、授業の理解度や発達段階、情緒面によつても効果は様々であるが、イラストカード（写真9、10）やヒントとなる言葉かけがあると、相手の気持ちを意識して行動しようとすることができる児童が増えてきた。また、衝動的に特定の友達にベタベタしてしまう児童に関しても、カードを見せると友達から距離を取ろうとするなど、少しずつ教師の視線を意識して行動したり、行動そのものを頻繁にすることが減ってきたりしてきている。さらに、ベタベタされた方の児童に対しても、「止めて」と言う行動を取らせるようにしていくことで、自分の身体を守る意識が育つくるとともに、言われた方の児童が行動を止めるケースも出てくるなど、行動を止める有効な手段になってくることが分かった。今回の授業を経験し、日常生活の中でさらに指導を重ねていくことで、少しずつ児童の中に変化が表れてきたことは大きな成果であると言える。今後も日常生活場面での継続した指導が理解の定着に不可欠なものになると考える。

教師と児童の関わりについても、「ベタベタしない」関わり方が望まれる。しかしながら児童によっては発達の未熟さや情緒的な揺れがあり、抱きついできたりおんぶを要求してきたりする児童もまだいる。

今回の授業を経て、そのような関わり方を好んだり要求したりしてくる児童についても、少しずつ生活年齢に見合った関わり方をする必要があることを、我々教師は共通理解することができた。中学部・高等部では、男女の関わりの面できちんと線引きされた関わり方を指導しているので、小学部においても少しずつ関わり方をシフトチェンジさせていくことが必要になる。具体的には児童の情緒が不安定になったり圧迫の刺激を要求してきたりするときには、不安定さを受け止めた上で、手のひらへの刺激や圧、水や紙破りなど他の活動などを取り入れた感覚入力や情報を遮断するなどの環境調整、1対1でじっくり話をしたり好きなフレーズ遊びをしたりと、社会的にも許容できるような関わり方の工夫を行いながら、心の安定につながるようにしていきたい。



<写真9：適切な行動の
イラストカード>



<写真10：不適切な行動
のイラストカード>

イ) 研究授業2 「トイレのマナーを知ろう」

○題材の目標（本時の目標）

[内容に関する目標]

- ・スリッパを揃える、お尻を見せずに排尿する等のトイレのマナーを知る。

[こころに関する目標]

- ・トイレをきれいに使おうとする気持ちをもつ。

○題材の計画（全1時間）

- ・トイレのマナーを知ろう・・・1時間（本時）

○学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 備考 |
|---|--|---------------------------------|
| 1 本時の学習内容を知る ○汚れているトイレの様子を写真で見る ○トイレのマナーについて学習することを知る | <p>○便器に汚れが付いていたり、スリッパが揃っていないかったりする写真を見せ、児童に気づいたことを発表するように促す。発表から、「汚れている」「並んでいない」といった良くない点を指摘した意見を取り上げ、その状況が良いかどうかを問いかけ、汚れている状況が良くないことを確認する。</p> <p>○問い合わせる際、問い合わせの意味が分からぬ児童に対しては「きれい」「汚い」と具体的な選択肢を与えることで考える視点を絞ることができるようとする。</p> <p>○汚いトイレは嫌な気持ちになり使いたくなくなるので、トイレをきれいに使うためにいくつかの約束事があることを話し、「トイレのマナーを知ろう」という学習テーマを出し、本時の学習内容を話す。</p> <p>○日頃から自分自身がトイレをきれいに利用することが大切であることを話し、きれいに使いたいという気持ちを高めたい。</p> | ○汚れているトイレの写真2枚 ○きれいなトイレの写真2枚 |
| 2 トイレのマナーについて知る ○男女に共通したマナーを知る ・スリッパを揃える | <p>○男女に共通したマナーとして、トイレを出る時にスリッパを揃えることを取り上げる。トイレの写真を提示し、スリッパを揃えるように貼っているカードを探すようにすることで、大切なマナーの一つとして意識させたい。</p> <p>○次に使う人のために揃えることが大切であることを気づかせるために、スリッパが揃っている様子を見るとどのような気持ちになるかを問いかけたり、揃っていないと次の人が使いにくいことを話したりする。</p> <p>○足型が描かれている教材①を使い、その場で数名を指名し、きれいに揃える練習を行い、方法を確認する。</p> | ○写真2枚 ○スリッパ ○教材① |



| | | | |
|---------------------------------------|--|--|--|
| | <p>○児童Dは、歩行の実態よりシューズでトイレを利用しているため練習は行わないが、揃えているスリッパを乱した時には揃えるように伝える。</p> <p>定型に合わせて スリッパを 並べましょう。</p> |  | |
| ○男女に分かれて マナーを知る | <p>○男子と女子に分かれて学習するマナーがあることを伝える。その際、一緒に学習すると恥ずかしいことがあると話すことによって、性別を意識し、異性には話しにくいことがあることを感じてほしい。</p> <p>○男女に分かれて学習する前に、自分の性別を知っているか、もしくは性別とマークが一致しているかを確認するために、トイレのマークを見せ、自分がどちらの性別かを考える場面を設ける。</p> <p>みんなはどっちの マークのトイレに 行きますか？</p> |  | ○トイレのマーク |
| (男子) ・お尻を見せずに排尿する ・尿をこぼさないようにする | <p>○男子は教室、女子は中学部トイレで指導を行う。男子については、教室で学習後、小学部トイレに移動して実際にすることによって、排尿の際の注意事項を意識するようとする。</p> <p>○男子4名、女子1名であるため、男子にはST1、ST2が、女子にはCTが付き、学習を行うようとする。</p> <p>○お尻を隠して排尿している様子とお尻を見せて排尿している様子、2枚のイラストを見せ、どちらがかっこいいかを問いかける。お尻を見せると恥ずかしいという気持ちに気付かせたい。</p> |  | ○イラスト2枚 |
| | <p>○尿を出し切ることの練習は教材②を用いて一人ずつ行う。教材②は、男性性器の模型であり、性器から水が出るようにすることで、尿を出し切る練習ができるようになっている。</p> <p>○水滴がなくなるまで性器を振る練習をする。「ちょんちょん」という擬音を用いることで、縦に性器を振るイメージをつかませ、周りに飛び散らせないようにする。</p> | | ○教材② ○手順表① ○タライ ○足ふきマット ○水 |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| | <p>○児童Dは、体のバランスや巧緻性の実態より性器を持ち続けることが難しいため、教師が手を添えて一緒に振る練習を行う。</p> <p>○実際にトイレに移動して排尿する際、「①お尻をみせない、②ほし、③ちょんちょん」の手順表①を用い、お尻を見せないことや小便器の星マークの辺りを狙ってすることで、周りを汚さないようにすることを意識づけたい。</p> <p>○児童Dは、巧緻性の実態より日頃からズボンや下着を膝下辺りまで下して排尿するため、個室に入るように行くことで、お尻を見せないで排尿する指導を行いたい。</p> <p>○便座の汚れを拭くことについて、あらかじめ学習する個室の便座に汚れがついたり、トイレットペーパーが落ちていたりする状況を設け、それを見てどのような気持ちになるかを問いかけ、問題意識をもたせたい。</p> <p>○大便、尿や血液がついた後にどのようにするかを問いかけると、汚れているものをハンカチで拭くと答えることが予想される。ばい菌マークの教材を準備し、汚れの上にマークを乗せることで、それをハンカチで拭くとばい菌がハンカチにつくことに気付かせたい。併せて、ばい菌がついたハンカチを使いたいかどうかを問うことで、きれいなハンカチが良いことを確認し、トイレットペーパーで拭くように話す。</p> | <p>○バケツ</p> <p>○汚れ(水溶性クレヨン)</p> <p>○ばい菌マーク</p> |
| 3 まとめをする ○学習したマナーを振り返る | <p>○トイレットペーパーの量はトイレットペーパーの取り方の手順表②を使いながら適量取る練習を行う。手順表には適量のトイレットペーパーを取っている写真が3枚貼ってある。それを見ながら、「カラカラカラ」と擬音を用いることで、トイレットペーパーを取る量のイメージをつかませる。</p> <p>○性器や肛門を拭くことについて、児童Aはトイレットペーパーを少ししか取らないで拭くことが多いため、手順表②を用いて取る量を確認する。</p> <p>○2つの課題が十分にできた場合は、性器や肛門の拭き方を指導する。</p> <p>○性別を意識させたり、異性に話にくいことがあることを感じさせたりするために、男女別れた状態でそれぞれまとめを行う。</p> <p>○マナーを守ってトイレをするようにできるか尋ねることによって、自分にできそうなことを発言させると共に、守る意識を高めたい。</p> | <p>○手順表②</p> |



a 授業の実際

<トイレをきれいに使うことの大切さを確認する>

個室の様子、スリッパ等、きれいなトイレと汚いトイレの写真を児童に提示（写真11）し、どちらのトイレがきれいか、また、使いたいかを一人ひとりに尋ねた。汚いトイレの写真を見ると、すぐに「汚い」という声が上がり、きれいな方がよいことを発言した。きれい・汚いを比較する際に写真を用いたことで判断がしやすくなったと考えられる。（写真12）



<写真11 「きれい？汚い？」>



<写真12 「きれいがいいね！」>

<スリッパをきれいに並べる>

全員でスリッパをきれいに並べることを練習した。最初に、（写真11）の写真カードを提示しながらスリッパを並べる学習をすることを伝えた。小学部のトイレにはスリッパを置きやすいようにするために今年度、足型を描いた。そのため、実際のトイレと同様、スリッパを置く時にヒントにしている足型が描かれた教材（写真13）と、スリッパを準備した。足型を描いた後、スリッパを揃えて並べることを意識する児童が増えていたが、練習の時にも同様にきれいに並べることができた。（写真14）



<写真13 「スリッパ、きれいかな？」>



<写真14 「上手に並べよう！」>

<男子のトイレの様子>

排尿時のマナーを確認するために、手順表を用いながらトイレの仕方を学習した。児童に提示した手順は、「①お尻をみせない、②ほし、③ちょんちょん」である。（写真15）「①お尻をみせない」は男性器を出す際、ズボンをすべて下ろすことが見られるため、児童が意識しやすいように取り入れた。お尻を出して排尿しているイラストとお尻を隠して排尿しているイラストを提示し、どちらがよいかを判断させた。全員がお尻を隠している方を指し、望ましい方がどちらかは理解できていた。「②ほし」は、尿が便器の外に飛び散らないでよいようにするために、排尿の際に狙うポイントを星マークとして視覚的に示した。星マークは中学部と同じものを使用し、中学部になんでも同様にできるように配慮した。実際、児童には星マークを狙って排尿するようにイラストを見せながら確認した。「③ちょんちょん」は、尿をしっかり切ることを意味している。児童は尿をうまく切らないまま性器をしまおうとすることがある。そのため、性器の模型から水を出して、実際の排尿に近い形で練習を行った。この模型は児童の興味関心を引き、自発的に練習しようとする様子が見られた。特に尿を切る「ち

「よんちょん」は、性器模型を振ってしようとしていた。(写真16)

最後に、実際に普段使用しているトイレに行って、3つの手順を意識しながら排尿を行った。手順を教師が言いながら確認していくことで、星マークを狙って排尿したり、最後に尿を切ったりする様子がみられた。

| | | |
|---|----------|--|
| ① | おしりをみせない | |
| ② | ほし | |
| ③ | ちょん ちょん | |

<写真15：手順表>



<写真16：ちょんちょん練習>

<女子のトイレの様子>

便座が汚れたら拭く、トイレットペーパーが落ちていたら拾って捨てる、性器や肛門を拭く時のトイレットペーパーの量について学習した。最初に汚れた便座を見ると「汚い」と言い、トイレットペーパーで拭き始めた。普段は汚れている箇所をハンカチで拭くことが多い児童であるが、今回はトイレットペーパーをすぐに取ることができたので望ましい姿が分かってきてているようだ。便座の周りにトイレットペーパーが落ちていたが、本人はそれに対する意識は低かったので、落ちていたら捨てるように促すと、すぐ行動することができた。次に、性器や肛門を拭く時のトイレットペーパーの量を確認した。この時、トイレットペーパーを長めに取っている写真を3枚とトイレットペーパーを切っている写真を組み合わせて「1、2、3、ビリ」と言葉を添え、どの程度の量を取るとよいかを視覚的に提示した。(写真17) 手順表や言葉かけを行うことによって、取る量を感覚的につかむことができた。(写真18)

一方で、実際にトイレを使ったことによって「指導されている」という感じを強くもつってしまったようで、授業中、児童が不機嫌になることがあった。日常的に言葉かけを受けているところであるため、その時間が長くなることによって、学習内容に集中できない場合もあると考える。そのため、本児の場合は、教室等、違う場所で練習を行う方が良いのではないかと思った。



<写真17：手順表>



<写真18：「長～く取ってみよう」>

b その後の様子と考察

スリッパを並べることについては足型を意識でき、それに合わせて並べることが増えた。次の人がいて混雑していると並べることが難しいこともあるが、他の児童がない環境では言葉かけを少なく

しても並べる様子が見られた。

男子については、星の印を狙って排尿をしたり、「ちょんちょん」の言葉かけによって、尿のしづくを切ったりすることが増えた。女子については、教師がトイレで確認をしている間は、トイレットペーパーを「1、2、3、ビリ」の言葉かけだけで長くすることができるようになった。また、指を覆うようにトイレットペーパーを持つことによって指を汚さないように（肛門や性器を指で触らないように）することが増えた。

学校では、学習したことを日常生活の中でできるようにするために、星マークを便器につけたり、手順表を貼ったりする手立てを日常的に取り入れることによって、トイレのマナーの定着を図った。日々繰り返し取り組むことで、児童の変容が見られてきているため、学習だけにとどまらず、日々の繰り返しが児童の日常生活の力を高めていくと考えられる。しかし、その場に教師がいないときでできているかどうか断言しにくいところがあった。実際、家庭ではできていないこともまだ多く、「からだの学習通信」を通じて聞く家庭の様子は学校と異なる場合も見られた。そのため、念を押しての確認と繰り返しの学習が必要であろう。また、指導内容によっては、定着させることによって日常生活の中で弊害になることも予想される。例えば、女子のトイレのマナーで扱った落ちたトイレットペーパーを捨てるについては、強化しすぎると場所を問わず行う場合が予想され、衛生観念がしっかりと育っていない児童には逆に手が汚れてしまうことも考えられる。そのため、程度や内容も慎重に選択しなくてはならない。

本授業終了後、トイレのマナーの指導内容について、再度検討を行った。児童の実態によって取り扱う内容は異なるものの、各学級で取り扱う内容の住み分けを行うことによって、系統性をもたせて、高学年になるに従ってよりステップアップした内容を設定できると考えた。内容については以下のとおりである。

- ・低学年・・・スリッパ並べ、トイレの後は手を洗う、トイレの後は水を流す
- ・中学年・・・大便の時に服を脱いでしまわないでする
 - (男子) お尻を見せずに、星マークを狙って排尿する
 - (女子) トイレットペーパーの取り方
- ・高学年・・・トイレのマナー（汚さないように、きれいに使用する）
 - (男子) 尿を切る（「ちょんちょん」）
 - (女子) 拭き方

※拭き方については、実態によっては、人形やポータブルトイレを使うことで学習の雰囲気になり、実際にトイレで指導するより、「指導されている」という感じがぬぐえて良いのではないかと考える。

② 新しい学習形態について

これまで小学部では、学級ごとに「からだの学習」を行っていた。（「女の子のからだを知ろう～月経指導～」については、従前から、2組の児童の実態により、学習が必要な児童は3組の授業に入れて対応することがあった。）

しかし、グループごとの学習もあった方がよいのではないかという意見が上がってきた。理由としては、次のような点が挙げられた。

○3組には、「マッサージ」の題材はないが、実態によっては、座学中心に耳で聞いたり板人形や文字カードを見たりするより、マッサージによる感覚入力を伴って「身体部位の名称」を学んだ方が理解がスムーズな段階の子どももいるだろう。

○複式学級のため、生活年齢による差も生じるのでないか。

そのことから、今年度は、次のア)イ)のように、2学級4学年を、実態により2グループに分けて学習を行うことを試みた。

ア) 授業の実際 1 「身体のいろいろな部位を知ろう」

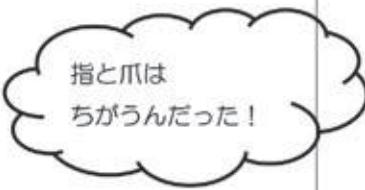
Aグループ：身体の部位を知る

授業 NO：2組⑧、3組⑦

学習形態：2・3組合同

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|--|---|--|
| <p>1 本時の学習内容を知る</p> <p>○歌を歌いながら自分の身体部位を動かす</p> <p>あたま、おしりまわって！</p> | <p>○「アブラハムの子」の歌を歌いながら楽しく身体を動かすことで、身体部位に対して興味をもちやすくする。</p>  | <p>○CD「アブラハムの子」</p> <p>○板人形</p> <p>○身体部位の名称カード</p>  |
| <p>2 身体部位の名称を知る</p> <p>○板人形に身体部位の名前カードを貼る</p> <p>おへそはどこかなあ??</p> | <p>○歌に出てきた部位から名称カードを提示し、徐々にそれ以外の部位についても提示していくようとする。カードを貼る児童をその都度1名ずつ教師が指名していくが、間違えたり分からなかったりしたときには、他の児童に教えるように促す。</p>  | <p>○身体部位の名称カード（全員分）</p> <p>【学習で取り扱った部位】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひじ ・ひざ ・かお ・くび ・かた ・むね ・おへそ ・せなか ・て ・ゆび <p>○自分の身体に身体部位の名前カードを貼る</p> <p>○全員一齊に提示されたカードを自分の身体に貼っていくようする。友達同士見合ったり、鏡を見たりして、正しい場所に貼れたかを確認できるようにする。</p> |

| | | |
|--|---|--|
|  <p>3まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指示された部位を触る |  <ul style="list-style-type: none"> ○教師が指示した身体部位を、それぞれ自分の身体を触っていき、確認できるようにする。 | |
|--|---|--|

イ) 授業の実際 2 「身体のいろいろな部位を知ろう」

Bグループ：マッサージ

授業NO：2組⑧、3組⑦

学習形態：2・3組合同

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|---|---|---|
| 1 本時の学習内容を知る <ul style="list-style-type: none"> ○歌を歌いながら自分の身体部位を触る | <ul style="list-style-type: none"> ○「アブラハムの子」の歌を歌って楽しく活動しながら、身体のいろいろな部位を動かしたり触ったりする。   | <ul style="list-style-type: none"> ○CD |
| 2 マッサージを通していろいろな部位を知る <ul style="list-style-type: none"> ○教師からのマッサージを受ける | <ul style="list-style-type: none"> ○一人ずつ前に出て、「かた」や「うで」、「せなか」などの部位カードを選び、教師からのマッサージを受けるようにする。この時、児童が嫌がる様子を見せた場合、無理には行わないようとする。 ○教師は、児童が気持ちよさを感じられるように力を調節しながら行うようにする。    | <ul style="list-style-type: none"> ○マッサージ器 ○部位カード |

| | | |
|---------------------------|---|--|
| ○マッサージ器を身体にあてる | ○自由にマッサージ器を触るように促し、興味をもてるようにする。 ○どの部位をマッサージするか、カードを選んだり発言したりして教師に伝えるように促す。 ○自分で好きな部位に様々なマッサージ器を当てて気持ちいいところを探すようにする。 | |
| 3まとめをする ○気持ちよかった部位を伝える | ○マッサージを受けて、どの部位が気持ちよかったかをカードや発言で答えることができるようとする。 | |

ウ) 新しい学習形態についての考察

「身体のいろいろな部位を知ろう」については、児童の実態に応じて2・3組合同のグループ別学習を行った。

Aグループでは身体の部位を知ることに重点を置き、身体の部位の名称を知ることや確認することを中心に行った。板人形（写真19）を使って身体の部位の名前カードを貼ったり、自分の身体に身体の部位の名称カードを貼ったりする。そして、最後に指示された部位を触ることで、身体の部位と名称を確認できるようにした。児童は身体の部位の名前に興味をもち、意欲的に手を挙げて発表したり、名称カードを笑顔で貼ったりする様子が見られた。

Bグループでは主な身体の部位の名称を選び、マッサージ器を使ってその部位を感じることができる学習を行った。児童は笑顔を見せてマッサージの振動を感じながら部位の名称を答えることができた。

今回、児童の実態に応じてグループ別学習を行ったことは、個人の学習効果を考えると有効であ



<写真19 「胸はどこかな?」>

った。

Aグループでは、肘、膝の違いなど身体の部位の名称を答えたり、板人形に自分で考えながら身体の部位の名称カードを貼ったりする学習を行った。教師から身体の部位の名称を知識として伝えるだけではなく、児童自身が部位の名称を「ーはどこかな」と考えながら繰り返し取り組むことで、児童はより知識として理解しやすい授業になったのではないかと考える。

Bグループでは、座学中心の活動だけではなく、マッサージ器を使いながら身体部位を確認する学習を行っていくようにした。Aグループのように座学中心の学習では集中して授業を受けるのが難しい児童も、様々なマッサージ器を使うことで楽しみながら学習に参加することができた。身体の部位を知識として理解するだけではなく、マッサージ器を使いながら実際に身体部位を確認することで、部位の名称への理解がさらに深まったのではないかと考える。

グループに分かれ、児童それぞれの実態に応じて授業を展開していくことで、知的好奇心を高めつつ楽しみながら授業に参加することができたと考える。

後日、復習の意味を含めて、3組だけでAグループと同じ内容の授業を行った。

しかし、座学中心の授業を合同で行うことは難しく、Bグループだった児童はマッサージ器などを使った方が、身体のどの部位かが分かりやすく、児童の実態によっては情報が入りやすい指導方法になるのではないかと感じた。

全員一緒に学習も互いの学習の様子を見合うなど良い面もあるが、学習の内容によっては今回のようにグループ別で学習を行うことが、それぞれの児童にとってより良い学習効果を高めるのではないかと考える。

今後も、1組は基礎的な内容を学習していくため学級での学習を行うが、2・3組では新たな学習グループを編制することも視野に入れて、より伝わりやすい指導方法を実践していきたい。そのことで意欲的に学習へ参加したり、指導内容をさらに理解できたりするよう支援していくことが必要であると考える。

(3) 家庭との連携～「からだの学習通信」について～

「からだの学習」の指導内容における児童の実態は様々で、同じ学年であっても、身体の発達やそれまでの生活経験など個人差がある。それに伴い、児童一人ひとりの「からだの学習」における課題や家庭での悩みも違ってくる。特に「成長」に関する指導内容については、心身が著しく成長していくこの時期だからこそ、保護者も、具体的な見通しがもちにくく、どのように教えていけばよいのか不安を感じることが多いと考える。

そこで、保護者のニーズを受け止め、家庭と連携しながら「からだの学習」の授業を進めるためにどのような方法があるのか、部内で検討した結果、「からだの学習通信」を作成することにした。

「からだの学習」で実施した指導内容や方法、使用した教材や児童の学習の様子を写真で掲載するなどして、その都度、家庭へ伝えることにした。また、指導内容に関する「家庭での様子」「家庭での取り組み」という欄を設け、保護者に記入してもらった後、再度学校へ戻してもらうようにすることで、学校と家庭が指導内容や方法を共通理解しながら進めていくようにした。

「家庭での様子や取り組み」を書いてもらうことで、家庭での様子を知ることができるだけでなく、保護者がどのようなことに困っているのか、不安を感じているのかなどを知ることができ、保護者のニーズを意識して学校生活での指導に当たるなど児童一人ひとりに応じた、より細かな支援方法を探るきっかけにもつながると考える。また、方法や教材を家庭に伝えることで、「学校と同じ方法でやってみよう」「同じ教材を使ってみてはどうか」など保護者の意識が変わるきっかけになったり、学校と家庭とが方法を統一することで、児童も混乱せずに学んだりすることができるのではないかと考える。



＜写真20

「肩、気持ちいい？」

このように、「からだの学習通信」を通して、学校と家庭が、指導内容・方法を共通理解しながら指導を行うことで、今後も「からだの学習」の内容をより定着させることができるような授業づくりを行い、実生活へ生かすことができるようにしていきたい。

また、「からだの学習通信」は、教室に保管し児童の学習の振り返りや次年度への引き継ぎ資料として使用していきたい。

「からだの学習通信」は、A4サイズ1枚に「使用した教材」や「児童の学習の様子」の写真と担任からのコメントを個別に記入し、保護者に渡すようにした。家庭から、学習した内容に関する「家庭での様子・家庭での取り組み」を記入して学校に戻してもらい、学級で個別に応じた支援の方法などを確認するようにした。

以下に、低学年、中学年、高学年それぞれ「からだの学習通信」を1事例ずつ挙げる。

*（家庭での様子・家庭での取り組み）の欄は、保護者から手書きで返ってきた内容をそのまま掲載している。

① 事例 1

ア) 低学年の「からだの学習通信」

からだの学習：「歯磨きをしよう」の様子 実施日：平成25年9月4日（水）

＜学習の様子＞



- ・保健室の先生から写真やイラストを使って歯磨きの大切さを話していただきました。
- ・話の後、染めだし液で磨き残しのチェックをしました。

- ・磨き残しがないように、上の歯（前歯・奥歯）、下の歯（前歯・奥歯）を磨きました。
- ・口をすすいだ後、上手に磨くことができたか、みんなで確認をしました。

＜担任より＞

- 保健室の先生からのお話は、みんな、写真や絵に注目しながらよく聞いていました。特に、虫歯になった時の写真是、興味をもってよく見ていました。
- 虫歯のバイ菌は、甘い物が好きなこと、ご飯の後だけではなく、おやつを食べた後も歯を磨くことが大切なことも教えていただきました。
- 歯磨きでは、奥歯の側面など磨きにくいところは、担任と一緒に磨く練習をしました。

＜家庭での様子・家庭での取り組み＞

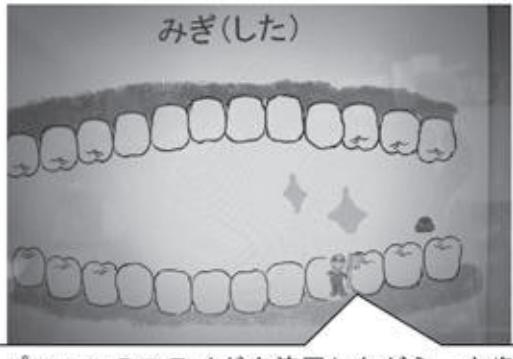
- 乳歯がぬけてから歯に興味がでていて保健室の先生のお話も、よく覚えている様です。
- 舌が大きいので、特に下の歯の側面（内側）がみがきにくいので、今はそこのみがき方と一緒にみがいて練習しています。フロスも少しづつできる様になってきたので、3日に1回程一緒に使っています。

イ) 保護者からの感想を受けて

- 学校では、前歯・奥歯・上の歯・下の歯と自分で磨くように指導をしているが、側面は難しいため教師の仕上げ磨きで行っている。家庭で一緒に磨いていることを知ることができたことで、学校でも一緒に手を添えて磨くなど意識して行うことを確認した。
- 給食後の歯磨きでは、歯ブラシを口に入れてはいるが噛んでいることが多く、「磨く」という意識はまだ十分ではないため、今後は、家庭でもブラシの動かし方などの練習が必要であることを伝えるなど、家庭と協力しながら、ブラシの動かし方などを指導していきたい。

② 事例2

ア) 中学年の「からだの学習通信」

| | |
|--|---|
| からだの学習：「歯磨きをしよう」の様子 実施日：平成25年9月4日（水） | |
| <学習の様子> | |
|  |  <p>パソコンのスライドを使用しながら、虫歯菌を歯ブラシでこすりながら退治していく映像を見せ、手順に沿って全ての部分をきれいに磨いていくように指導しました。</p> |
| <担任より> | |
| <p>○歯の模型に食べ物(汚れ)がついていると、その汚れを歯ブラシで何度もこすって取ろうとしていました。</p> <p>○スライドを見せながら歯磨きをしました。歯磨きをしていくと虫歯菌がなくなっていくので、その映像を食い入るように見ていました。映像に示した手順の部分を磨けていない時には、手をとり歯ブラシの当て方を具体的に伝えながら取り組みました。</p> | |
| <家庭での様子・家庭での取り組み> | |
| <p>○鏡を見たり、人がしているのを見たりしながらやっていますが、最初から最後までじっと見ながらすることはできず、チラッと見では一瞬磨くという感じです。また、強く歯に押し当てたり、噛んだりするのでブラシが開き、ヘッドが折れることがよくあります。</p> <p>○主に仕上げ磨きに時間をかけています。絵を見せながら「次はここ」と示しながらやるとわかりやすいのかもしれませんね。学校にいいのがありますよね。一度お借りして家でやってみてもいいでしょうか？</p> | |

イ) 保護者からの感想を受けて

- 学校での歯磨きの取り組みの実態と同様であることが分かる。本人と向かい合って教師が見本を示すと、磨き方をよく見て真似しようとするので、その方法を継続するとともに、併せて手順表を示しながら取り組むことを今後の指導方法として確認する。
- 学校で使用している歯磨きの手順表を家庭でも使用したいという要望があり、家庭用の手順表を作成し配付した。また、他の家庭にも同様に手順表を準備して配付した。

③ 事例3

ア) 高学年の「からだの学習通信」

からだの学習：「トイレのマナーを知ろう」の様子

実施日：平成25年9月3日（火）

＜学習の様子＞

最初に全体で、きれいなトイレと汚いトイレの様子を見て、きれいなトイレでしたいことを確認し、その後、自分がきれいにトイレを使うことができるようになるためのマナーの学習を進めてきました。

前半は全員でトイレのスリッパを並べる活動を、後半は男女に分かれて学習しました。



男子は、便器の中にある星マークに向かっておしっこをすることや、最後はおしっこをしっかりと切る練習を性器の模型を使いながら行いました。「①お尻をみせない、②ほし、③ちょんちょん」という言葉で注意することを確認しました。

女子は、便座が汚れているとトイレットペーパーを使って拭くこと、排泄後の始末の仕方を学習しました。トイレットペーパーを取る際はある程度の分量になるように、「1、2、3、ビリ」と言いながら練習を行いました。

＜担任より＞

○きれいなトイレ、汚いトイレの写真を見せることで全員が汚い所を指摘でき、きれいなトイレがよいことを意識していました。

○男女別の学習では、体験的な活動であったために、よく見聞きしてどのようにしたらよいか考え、実践して確認することができました。今後の学校生活でも引き続き指導を継続していきたいと考えています。

＜家庭での様子・家庭での取り組み＞

○家庭では、本人が汚した便座を拭くこともなく、下手すると手も洗わずに部屋に戻っていきます。

○トイレットペーパーの長さも短めですし、折りたたんで拭く面積が確保されるどころか、長～くとってその端の方で拭いたりします。

イ) 保護者の感想を受けて

○学校でも家庭でも、教師や保護者といった大人の言葉かけがないと取り組んでおらず、本当の意味で定着していないことが分かる。まだまだ大人が確認することを続け、場合によっては指導を行っていくかねばならないと考える。

○トイレットペーパーに関しては、教師から繰り返し指導を受けたり、教材を見て確認をしたりしているが、実際にはまだ定着できていない。手順表等、本人がうまくできた教材などを家庭にも提供することで、定着を図っていきたい。

○家庭での様子を知ることによって、本人がどの程度習得できているのかが客観的に分かる。日常生活の中で繰り返して指導することが大切であるため、引き続き家庭と連携していきたい。

5 研究成果と今後の課題

今回の研究において、小学部では、指導形態「健康と成長」に関連した児童生徒の「実生活」について、調査・分析し、授業名「からだの学習」の年間指導計画や指導内容・方法の見直しを行ってきた。その中で、以下のような成果と課題が表れた。

(1) 成果

① 指導内容の整理・精選を通して

本校では、学校生活全般における自立活動としてだけでなく、独立した授業として「からだの学習」を行っている。その結果、「からだの学習」を契機として、「実生活」の中でそれぞれの課題を意識した言葉かけや指導・支援につながっていると言える。

今回、学校生活での実態把握や保護者へのアンケートから、年間指導計画を見直して内容を整理、精選し、略案集を作成することができ、以前からあった「モデルカリキュラム」についても、新しい年間指導計画作成後、変更部分の修正をする際に、全体的に再検討することとした。

これらを通して、次のような点でメリットが得られると考える。

- 年間指導計画の題材名だけでは、担当者によって扱う内容に大きな幅が生じるが、略案（参考資料③：略案集）としてモデルケースが示されたことで、小学部の「からだの学習」で取り扱う題材では、おおよそどのような内容を取り扱うのか、どのような教材・教具があるのかなどを一覧できることになり、担当者によって扱う内容にぶれが生じることが避けられ、一定した内容を保障できるようになったと考える。
- 略案の検討に際し、使用教材の中で、これまでの授業で使ってきた教材を見直すこともでき、使いやすいようにクリアケースに整理・保管することとした。
- これまでモデルカリキュラムの指導内容は、中学部・高等部の実績に合わせて4つの段階であったが、新年間指導計画と略案集をもとに、低中高学年（2学年の複式学級）の各組1段階の計3段階に組み直すことで、小学部段階の一貫性・系統性も見直すことができた。また、実態によっては、前後の段階を参考に個別の配慮ができるよう、各組ページに3段階ずつを示し、小学部の全段階を見渡せるように様式を変更した（参考資料①：新しいモデルカリキュラム）。
- 保護者へのアンケート調査を通して、「家庭ではどんなことに取り組み、どんなことにはあまり取り組まれていないのか」「保護者は子どもの健康や成長に関してどんなことに不安を抱えているのか」「保護者はどのようなことに取り組んでほしいと思っているのか」などが分かり、それらを、教師が共通理解することができた。

② 授業実践を通して

「からだの学習」の各題材について、実際に授業を行うなかで、以下のような成果が得られた。

特に、今年度から実施する新しい題材についての授業づくりは、教師間で意見を出し合いながら行うことができた。

- まだ、定着には至っていない指導内容についても、子どもたちは言葉かけによって学習で使用した手順表を見てしようとしていたり、カードを見せると何のことを言われているのかに気付いたりするなど、「学校生活」での変容が見られた。また、子どもによっては、言われたとおりにできないときも「本当はこうした方がいい」というような善し悪しには気付いている様子がうかがえた。
- 小学部であれば必要不可欠な「トイレ」に関する指導であるが、「トイレのマナーを知ろう」という新題材を取り入れたことで、「小学部ではどこまで指導するのか」を検討することができた。また、その中で、低学年、中学年、高学年で内容の住み分けができ、小学部内での系統性を導き出すことができた。
- これまで、小学部では、「からだの学習」については、基本的に学級別に指導を行ってきた。今回、新しい試みとして、2・3組において、実態別の2グループ学習（「身体のいろいろな部位を知ろ

- う：A：身体の部位を知る、B：マッサージ）を行い、一定の成果を得ることができた。
- 学校での様子は、これまで連絡帳などで伝えてきたが、今回、授業の様子、使用した教材などを題材ごとにまとめて「からだの学習通信」として家庭に伝え、家庭からも家庭での取り組みや課題などを学校に返してもらうことができた。A4サイズ1枚ではあるが、これまでの連絡帳よりも、題材の意図や指導内容、使用教材を含めて、大切なエッセンスをお知らせすることができた。家庭でも学校と共に教材を使いたいという保護者も出るなど保護者の意識にも変化が見られて、さらに共通理解が進んだ。また、家庭の洋式トイレでも学校で学習したように性器を持って排尿後にちゃんとをするようになるなど、子ども自身が「家庭生活」においても取り組もうとする姿が見られるようになった。家庭での状況と学校での状況に違いが見られるようなケースもあったが、それも含めて「実生活」の把握ができたと考える。
- 最終的に家庭に返却する連絡帳とは違い、「からだの学習通信」を引き継ぎにも使用できるようになることで、より系統的で一貫性のある指導ができるようになると考える。
- 低学年では人とのふれあいを大切なものとしてとらえ、「スキンシップ」も好ましいものとして扱われる。しかし、中学部以降になると、男女の関わり方において、必要以上のスキンシップはその場にそぐわないものと見なされるようになる。特に、高学年の児童は、年齢相応の周りの人との関わり方への「シフトチェンジ」の時期にあり、また、子どもの実態によっては、身体は大きくなつても「心」は「シフトチェンジ」がスムーズに行かないケースがあることを確認できた。好きな感覚入力、情報のシャットアウトなどの環境調整、1対1でじっくり向き合うなど許容できるもので、「心」の安定につながるものなど、そのようなケースへの対応策を教師間で共通理解でき、日常の指導場面＝「実生活」に試行錯誤しながらも生かせるものとなった。

（2）今後の課題

① 指導内容・方法について

ア) 中学部・高等部との系統性

今回、調査や検討の過程では、小学部で「実生活」ととらえている中学部・高等部の指導内容も視野に入れ、いくつかの内容については話題には上がり、「高等部（中学部）のあの内容につながっていくのだ」と納得できたものもあった。しかし、改めて一つひとつの系統性について洗い出すことはできなかった。

今回は、小学部の中での系統性の検討に終わっているので、今後は、学校としての系統性をチェックしていく機会を設けることが望まれると考えている。

イ) 変化への対応

本校の大切なツールでもある「モデルカリキュラム」や「略案集」は、指導の一貫性や系統性をもたせ、どの児童にも一定水準の内容を保証していくためには有効である。その反面、実際には児童の実態に応じて活用するとはいえ、形としては指導内容の設定は児童の実態からスタートするという発想から逆行するものであり、変化への対応に融通が利かない欠点もある。時代の変化に伴うニーズや、小学部を構成する児童の実態も変化していくと思われる。そのことを常に意識し、変化していくものであることを前提に、活用していきたい。

ウ) 「身近な地域での生活」からの検証

小学部では、「実生活」の場を、「家庭や学校、そして身近な地域」ととらえ、保護者へのアンケートや、小学部段階で取り扱いたい指導内容についての教師間での話し合いにより指導内容・方法についての検討を進めてきた。その中で、「学校」や「家庭」での課題について主に取り上げ、指導内容・方法の検討に生かしてきた。

今後はさらに、校外学習や交流及び共同学習などの学校生活から見た「身近な地域での生活」や、放課後や休日に利用する施設や公共の場などの家庭生活から見た「身近な地域での生活」についても、検証を行い、指導内容・方法に反映させていく必要がある。

② 保護者とのさらなる連携について

「からだの学習通信」の試みも一定の成果は得ているが、これまでの「連絡帳で、その日のうちに子どもの活動の様子を知らせる」という方法に比べ、タイムリーさに欠ける点、担任に負担がかかる点で課題が残った。また、家庭と学校で意識の違いから取り組み方が違ったり、家庭と学校で生活環境が違うことからくるずれが生じたりした場合、それをどのようにすり合わせていくのか、学校ではどのように指導すればいいのかを検討する必要がある。

しかし、タイムリーに発行できるような作成の工夫をするなど、改良の必要性はあるものの、今後も、「からだの学習通信」を通して、また、その他の方法を模索して、学習の様子だけでなく情報や支援のポイントを伝えるとともに、家庭での取り組みや困っている点などを吸い上げて、さらに学校と家庭が協力し合って支援ができるようにしていくことが、「実生活」につながる大切な鍵であると考える。

③ 地域のセンター的役割について

地域の小・中学校からの教育相談や、本校で行っている「のびのび教室（教育相談）」や巡回相談でも、「からだ」に関する悩みについての相談事例は多い。そのような相談に対し、これまでには、本校の中でも古くから性教育の研究を行い、指導・支援に実績のある中学部経験者の教師に頼りがちであった。

小学部の取り組みは、まだ緒に就いたばかりであるが、今後は、小学部段階の性教育に関して、地域への効果的な支援ができるように、さらに指導内容・指導方法などを検討・整理していかなければならない。

《引用・参考文献》

- エンパワメント研究所（2010）：「視覚シンボルで楽々コミュニケーション－障害者の暮らしに役立つシンボル1000－ドロップレットプロジェクト編」
- 長崎・障害児への性教育を考える会（1996）：「楽しいクラスづくりフレッシュ文庫43イラストでわかる養護学校の性教育事典」明治図書出版
- 長崎大学教育学部附属養護学校（2007）：「教育課程の再編成 その3-自己の形成へつなぐ教育課程の創造-研究紀要第17集」
- 長崎大学教育学部附属特別支援学校（2009）：「モデルカリキュラム」
- 峯村良子（2000）：「子どものマナー図鑑①ふだんの生活のマナー」偕成社
- 文部科学省（1999）：「学校における性教育の考え方、進め方」

《参考資料①》 新しいモデルカリキュラム

小学部

| No. 32 | | 区分 | くらし | いきがい | まなび | からだ | | |
|-------------|-------|---|--|--|-------|-------|--|--|
| 高 中 小 | 健康と成長 | 指導形態 | 体つくり運動 | スポーツ | 健康と成長 | | | |
| | | 項目 | 健康 | 成長 | | | | |
| 授業名 | | からだの学習 | | | | | | |
| 目標 | 内容 | ○自分の身体をきれいにする体験をしたり、リラクゼーションを通して身体の心地よさを感じたりする。 | | | | | | |
| 目標 | ここる | ○自分の身体に気付き、清潔にしようという気持ちをもつ。 | | | | | | |
| 学習形態 | | 1組 | 2組 | 3組 | | | | |
| 実施時期 | 単元名 | 4月 ~ 11月 | 「からだをきれいにしよう」 | | | | | |
| | | 12月 ~ 2月 | 「自分のからだを知ろう」 | | | | | |
| | | 4月 ~ 3月 | 「健康なからだをつくろう」(年間を通して) | | | | | |
| 指導内容 | 健康 | I | II | III | | | | |
| | | <健康なからだ> ○保健室の場所を知り、検診や手当に慣れる <清潔> ○手洗いやうがい、歯磨きなどを教師と一緒にする ○汗をかいた時の汗の拭き方を経験する ○教師の支援を受けながら入浴をする ○教師の支援を受けながらトイレを使い、排泄する | <健康なからだ> ○検診の受け方に慣れる ○保健室の利用の仕方に慣れる <清潔> ○手洗いやうがい、歯磨きの仕方を知る ○汗拭き、身体拭きの仕方を知る ○入浴の方法を知る ○トイレの使い方、排泄の仕方を知る | <健康なからだ> ○保健室の利用がスムーズにできる <清潔> ○汗拭き、洗顔、入浴など身体を清潔にする方法を知る ○トイレの使い方やマナーを知る ○衣服を整えたり、身支度をしたりするなど身だしなみの方法を知る | | | | |
| | | <リラクゼーション> ○身体の各部位でいろいろな感触を経験する ○手湯、足湯などをする <身体部位の名称> ○手、足、頭などの身体部位を動かす | <リラクゼーション> ○身体の各部位でいろいろな感触を楽しむ <身体部位の名称> ○身体部位の名称が分かる <男女の違い> ○自分の性がわかる ○身近な人の性別が分かる ○プライベートゾーンの名称を知る | <身体部位の名称> ○肘と膝、手と腕など詳しい身体部位の名称がわかる <男女の違い> ○男女の違いや大人と子どもの違いが分かる ○プライベートゾーンの名称や約束を知る ○月経や性器いじりについて対処の仕方を知る <人との関わり方> ○身近な人との生活年齢にあった関わり方を知る ○知らない人について行つてはいけないことを知る | | | | |
| | | 自己活動 | 自立心 | 夢 | 知的好奇心 | 情緒の安定 | | |
| ここる | 自己調整 | 協調性 | 表現 | 社会規範 | 葛藤 | | | |
| | 自己決定 | 自己理解 | 自己選択 | | | | | |

小学部

| | | | | | | |
|--------|-------------------|---|--|--|--------------|--|
| No. 33 | 区分 高 中 小 | くらし 指導形態 項目 | いきがい 体つくり運動 健康 | まなび スポーツ 成長 | からだ 健康と成長 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 授業名 | からだの学習 | | | | | |
| 目標 | 内容 | ○自分の身体をきれいにする体験をしたり、男女の違いなど自分の身体について知つたりする。 | | | | |
| | こころ | ○自分の身体に目を向け、身体を清潔にしたいという気持ちをもったり、自分の成長を感じたりする。 | | | | |
| 学習形態 | 1組 | | 2組 | | 3組 | |
| 実施時期 | 単元名 | 4月 ~ 11月 | 「からだをきれいにしよう」 | | | |
| | | 12月 ~ 2月 | 「自分のからだを知ろう」 | | | |
| | | 4月 ~ 3月 | 「健康なからだをつくろう」(年間を通して) | | | |
| | | I | II | | III | |
| | 健康 | <健康なからだ> ○保健室の場所を知り、検診や手当に慣れる <清潔> ○手洗いやうがい、歯磨きなどを教師と一緒にする ○汗をかいた時の汗の拭き方を経験する ○教師の支援を受けながら入浴をする ○教師の支援を受けながらトイレを使い、排泄する | <健康なからだ> ○検診の受け方に慣れる ○保健室の利用の仕方に慣れる <清潔> ○手洗いやうがい、歯磨きの仕方を知る ○汗拭き、身体拭きの仕方を知る ○入浴の方法を知る ○トイレの使い方、排泄の仕方を知る | <健康なからだ> ○保健室の利用がスムーズにできる <清潔> ○汗拭き、洗顔、入浴など身体を清潔にする方法を知る ○トイレの使い方やマナーを知る ○衣服を整えたり、身支度をしたりするなど身だしなみの方法を知る | | |
| 指導内容 | 成長 | <リラクゼーション> ○身体の各部位でいろいろな感触を経験する ○手湯、足湯などをする <身体部位の名称> ○手、足、頭などの身体部位を動かす | <リラクゼーション> ○身体の各部位でいろいろな感触を楽しむ <身体部位の名称> ○身体部位の名称が分かる <男女の違い> ○自分の性が分かる ○身近な人の性別が分かる ○プライベートゾーンの名称を知る | <身体部位の名称> ○肘と膝、手と腕など詳しい身体部位の名称が分かる <男女の違い> ○男女の違いや大人と子どもの違いが分かる ○プライベートゾーンの名称や約束を知る ○月経や性器いじりについて対処の仕方を知る <人との関わり方> ○身近な人との生活年齢にあった関わり方を知る ○知らない人について行つてはいけないことを知る | | |
| こころ | 自己活動 | 自立心 | 夢 | 知的好奇心 | 情緒の安定 | |
| | 自己調整 | 協調性 | 表現 | 社会規範 | 葛藤 | |
| | 自己決定 | 自己理解 | 自己選択 | | | |

小学部

| | | | | | | |
|--------------------------------|------------------|--|---|--|-------|-------|
| No. 34 高 中 小 健康と成長 | 区分 指導形態 項目 | くらし | いきがい | まなび | からだ | |
| | | 体つくり運動 | スポーツ | 健康と成長 | | |
| | | 健康 | 成長 | | | |
| | | | | | | |
| 授業名 | | からだの学習 | | | | |
| 目標 | 内容 | ○自分の身体のことが分かり、身体をきれいにしたり身だしなみを整えたりする方法を知る。 ○自分や周りの人について関心をもち、自分の身体の成長や周りの人との関わり方などについて知る。 | | | | |
| | こころ | ○自分の身体に目を向け、自分から身体を清潔にしたいという気持ちをもったり、自分の成長を感じたりする。 | | | | |
| 学習形態 | | 1組 | 2組 | 3組 | | |
| 実施時期 | 単元名 | 4月 ~ 11月 | 「からだをきれいにしよう」 | | | |
| | | 12月 ~ 2月 | 「自分のからだを知ろう」 | | | |
| | | 4月 ~ 3月 | 「健康なからだをつくろう」(年間を通して) | | | |
| 指導内容 | I | II | III | | | |
| | 健康 | <p>＜健康なからだ＞ ○保健室の場所を知り、検診や手当に慣れる ＜清潔＞ ○手洗いやうがい、歯磨きなどを教師と一緒にする ○汗をかいた時の汗の拭き方を経験する ○教師の支援を受けながら入浴をする ○教師の支援を受けながらトイレを使い、排泄する</p> | <p>＜健康なからだ＞ ○検診の受け方に慣れる ○保健室の利用の仕方に慣れる ＜清潔＞ ○手洗いやうがい、歯磨きの仕方を知る ○汗拭き、身体拭きの仕方を知る ○入浴の方法を知る ○トイレの使い方、排泄の仕方を知る</p> | <p>＜健康なからだ＞ ○保健室の利用がスムーズにできる ＜清潔＞ ○汗拭き、洗顔、入浴など身体を清潔にする方法を知る ○トイレの使い方やマナーを知る ○衣服を整えたり、身支度をしたりするなど身だしなみの方法を知る</p> | | |
| | 成長 | <p>＜リラクゼーション＞ ○身体の各部位でいろいろな感触を経験する ○手湯、足湯などをする ＜身体部位の名称＞ ○手、足、頭などの身体部位を動かす</p> | <p>＜リラクゼーション＞ ○身体の各部位でいろいろな感触を楽しむ ＜身体部位の名称＞ ○身体部位の名称が分かる ＜男女の違い＞ ○自分の性が分かる ○身近な人の性別が分かる ○プライベートゾーンの名称を知る</p> | <p>＜身体部位の名称＞ ○肘と膝、手と腕など詳しい身体部位の名称が分かる ＜男女の違い＞ ○男女の違いや大人と子どもの違いが分かる ○プライベートゾーンの名称や約束を知る ○月経や性器いじりについて対処の仕方を知る ＜人との関わり方＞ ○身近な人の生活年齢にあった関わり方を知る ○知らない人について行つてはいけないことを知る</p> | | |
| | こころ | 自己活動 | 自立心 | 夢 | 知的好奇心 | 情緒の安定 |
| | | 自己調整 | 協調性 | 表現 | 社会規範 | 葛藤 |
| | | 自己決定 | 自己理解 | 自己選択 | | |

《参考資料②-1》

平成25年度 小学部「健康と成長」指導計画

1 設定の理由

小学部における児童の身体の発達をみると、身長が伸びたり体重が増えたりするなど著しく成長を遂げる時期であり、高学年の児童の一部は第二次性徴を迎える時期である。また、さまざまな学習のなかで、身体を動かしたり、身体を清潔にしたりする内容に取り組んでいるため、児童は無意識に自分の身体と向き合う経験を積んできている。しかし、身体を清潔にしようとしたり、自分の成長を感じ、肯定的にとらえたりする気持ちをもち続けることは難しい。「どうして清潔にするのか」「どのような手順で行うのか」「どれくらい成長したのか」といったことは、発達段階に応じ、具体的に学習を行う必要性があるといえる。

小学部の時期から、「健康と成長」について系統的に学習することは意義深い。順序だてて指導を行っていくことで、これまでに気がつかなかつた意義必要性を感じることができるであろう。自己の形成にも大きな影響を与える。清潔にしようとする気持ちや技能を育むことで、「自分もできる」と自分を肯定的にとらえたり、「一人でやってみよう」と意欲を高めたりすることができるであろう。また、身体が伸び盛りの時期だからこそ、自分の成長を認識しやすく、「大きくなつてうれしいな」「お兄さん・お姉さんになりたいな」といった肯定的な気持ちが芽生えたり高まつたりすることが、より期待できる。第二次性徴を迎えるまでに、清潔にしようとする技能を身につけたり成長を喜ぶ気持ちを高めたりすることで、思春期の戸惑いを軽減し、男女を意識した関わり方や行動の仕方も身に付けていくものと考える。

指導にあたっては、身体の発達を考慮し、低学年、中学年、高学年に分けてグループを編制するが、題材によっては男女別や中学年、高学年合同で縦割りのグループを編制して指導していくようとする。このように、児童の実態を踏まえた上で、実生活に即した具体的で経験的な学習を行っていくようにしたい。授業の展開においては、分かりやすく実際的な教材を提示することで技能面の習得を図りたい。また、「きれいになってよかったです」「気持ちがいい」といった気持ちをもたせるような手立てを工夫したい。月経指導などを行う場合は、指導する場や時期を配慮して授業を開く必要がある。第二次性徴を迎えた児童においては、肯定的に自分をとらえることができるよう配慮する。家庭との連携を十分に取りながら指導にあたるために、授業の様子についてはその都度家庭に伝えていくなど、共通理解をしていくことで、意識の向上や技能の定着を図りたい。

2 目標（小学部）

- 自分の身体に目を向け、成長を感じたり、清潔にしようとしたりする気持ちをもち、健康や成長に関する知識・技能を身に付ける

3 学習グループ

身体の発達を考慮し、低学年、中学年、高学年の学級ごとのグループを基本とし、題材によっては男女別や中学年、高学年合同で縦割りのグループを編制して指導していくようとする。また、月経指導など個に応じて必要な内容を取り扱う際は、個別の指導や学部を超えた授業を行う場合もある。

4 指導計画

- 指導内容については、各学級の児童の実態や状況により、順序を入れ替えて行うこともある。
- 中学年・高学年「身体のいろいろな部位を知ろう」は、実態ごとのグループ別で授業を行う。
- 高学年「男の子のからだについて知ろう」「女の子のからだについて知ろう～月経指導～」では、必要があれば中学年の児童を抽出して行う。
- 「ブラッシング指導」については、歯科衛生士学校の実習生が学期に1回ずつ指導を行う。
- 予備日については、各学級において必要な内容を抜粋して取り扱うものとする。

«参考資料②-2»

| No | 低学年(1、2年) | | 中学年(3、4年) | | 高学年(5、6年) | |
|------------------------------------|------------------|---------------------------|------------------|--|------------------|--|
| | 13時間 | | 13時間 | | 14時間 | |
| | 単元名 | 題材 | 単元名 | 題材 | 単元名 | 題材 |
| 1 学 期 | ① 健康:健康なからだをつくろう | 検診の受け方を知ろう | ① 健康:健康なからだをつくろう | 検診の受け方を知ろう | ① 健康:健康なからだをつくろう | 保健室の利用の仕方を知ろう |
| | ② | 手洗いをしよう | ② | 手洗いやうがいをしよう | ② | 身だしなみを整えよう |
| | ③ | 汗拭き、身体拭きをしよう | ③ | 汗拭き、身体拭きをしよう | ③ | 汗拭き、身体拭きをしよう |
| | ④ | 身体洗い、身体拭きをしよう | ④ | 身体洗い、身体拭きをしよう | ④ | 身体洗い、身体拭きをしよう |
| | ⑤ | 歯磨きをしよう | ⑤ 健康:からだをきれいにしよう | 歯磨きをしよう | 健康:からだをきれいにしよう | |
| | ⑥ | うがいをしよう | | | ⑤ | |
| | ⑦ | トイレのマナーを知ろう | ⑥ | トイレのマナーを知ろう | ⑥ | トイレのマナーを知ろう |
| 2 学 期 | | | ⑦ | 顔や手を清潔にしよう | ⑦ | 顔や手を清潔にしよう |
| | ⑧ 成長:自分のからだを知ろう | リラクゼーションをしよう～マッサージ、足湯、手湯～ | ⑧ 成長:自分のからだを知ろう | 身体のいろいろな部位を知ろう A:身体の部位を知る B:マッサージ ※2、3組合同 | ⑧ | 身体のいろいろな部位を知ろう A:身体の部位を知る B:マッサージ ※2、3組合同 |
| | ⑨ | 身体を動かそう | ⑨ | 男女の違いを知ろう～プライベートゾーン～ | ⑨ | 男女の違いを知ろう～プライベートゾーン～ |
| | | | | ※子どもの実態により、学習が必要な児童は3組の授業⑨に入れて対応する。 | ⑩ 成長:自分のからだを知ろう | 男の子のからだについて知ろう |
| 3 学 期 | ⑩ 健康:健康なからだをつくろう | 検診の受け方を知ろう | ⑩ 健康:健康なからだをつくろう | 保健室の利用の仕方を知ろう | ⑩ | 女の子のからだについて知ろう～月経指導～ |
| | ○ | 予備日 | ○ | 予備日 | ⑪ | 男女の違いを知ろう～関わり方～ |
| | | | | | ○ | 周りの人との関わり方を知ろう |
| | ○ 健康:健康なからだをつくろう | | | | | 予備日 |
| ブラッシング指導 ※年間3回、歯科衛生士学校実習生による指導。 | | | | | | |

* !!!!!!!は今年度新規の内容・指導形態。

平成25年度 小学部

指導形態「健康と成長」(授業名「からだの学習」)

略案集

〈略案集について〉

- この略案集は、今年度の年間計画に基づき、授業例を略案として示したものです。
- 複数学年に渡る内容は、網かけしている学年をイメージして作成しています。他学年で実施する場合は、発達段階や実態を考慮して内容や指導方法を調整する必要があります。
- 「身体のいろいろな部位を知ろう」については、2組3組合同で、実態により「Aグループ：身体の部位を知る」「Bグループ：マッサージ」の2グループに分かれて実施します。
- 3組⑨「男の子のからだについて知ろう」「女の子のからだについて知ろう～月経指導～」については、2組の児童の実態により、学習が必要な児童は、3組の授業に入れて対応することができます。
- 実態により、題材の内容を分けたり、同じ題材を繰り返したりして指導する必要がある場合は、予備日を活用します。

〈今年度から新規の学習〉

- ・1組・2組・3組「トイレのマナーを知ろう」
- ・2組・3組「顔や手を清潔にしよう」
- ・2組・3組「身体のいろいろな部位を知ろう（ABグループ学習）」
- ・3組「男の子のからだについて知ろう」
- ・3組「男女の違いを知ろう～関わり方～」

〈今年度カットした内容〉

- ・年間を通して取り扱っていた「誕生日」は、指導形態「しんろ」で取り扱う。

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | | |
|-------|----------|------|--|
| 授業No. | 1組-①(10) | 2組-① | |
|-------|----------|------|--|

| | |
|------|----|
| 学習形態 | 学級 |
|------|----|

| | |
|-----|------------|
| 題材名 | 検診の受け方を知ろう |
|-----|------------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|-----------------------------|--|---|
| 1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く | <p>○絵カードを見ることで、検診の受け方の練習をすることを知ることができるようにする。</p> <p>○絵カードを見せながら、1つずつ何をするのかを実際にやってみながら説明することで、どのようなことをするのかをわかりやすく伝えるようにする。</p> | <p>○検診の絵カード(眼科、耳鼻科、歯科、内科) P小-58 ※小学1年生は心電図検査についても絵カードを準備する ※必要に応じて、整形外科検診などについても準備しておくとよい</p> |
| 2 検診の受け方の練習をする ○教室で練習をする | <p>○教師が医者の役をし、絵カードを見せながら、教室で練習することで、大まかな検診のイメージをもつことができるようになる。</p> <p>○あえて道具を使わずに練習することで、安心感をもつことができるようになる。</p> <p>○児童が安心して練習をすることができるよう、「痛くない」「怖くない」ということを繰り返し伝えるようになる。</p> | |
| ○保健室で練習をする | <p>○保健室では、白衣を着てマスクをした教師が医者の役をするようにし、検診の雰囲気を感じながら練習することができるようになる。</p> <p>○保健室では、実際に検診で使う道具を用いながら練習を行う。その際、教室で練習した時のように、「痛くない」「怖くない」ことを体験することができるようになる。</p> <p>○実際の道具を用いて練習をし、成功経験を積むことで、検診に対する恐怖心を払拭し、「できた」という自信をもつことができるようになる。</p> <p>○うまくできそうな児童から練習を行うことで、見ている児童に安心感を与えることができるようになる。</p> <p>○恐がったり嫌がったりする児童がいる場合には、児童に道具を持たせたり、鏡で様子を見せたりしながら練習を行うことで、少しでも検診の受け方を経験することができるようになる。</p> | <p>○白衣 ○マスク ○聴診器 ○ペンライト ○絵カード(鼻、喉、耳)</p> |
| 3 まとめをする ○教師の話を聞く | <p>○保健室での検診の受け方の練習の様子について、絵カードを見せながら話することで、検診を受けた様子を思い出すことができるようになる。</p> <p>○「痛くなかった」「怖くなかった」「上手にできた」などのように肯定的な言葉を用いることで、検診についてのイメージを良いものにしたい。</p> <p>○実際に、検診があることを話し、練習のとおりにすれば良いことを伝え、自信をもち、安心して検診を受けることができるようになる。</p> | <p>○検診の絵カード(眼科、耳鼻科、歯科、内科)</p> |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | | |
|-------|------|------|--|
| 授業No. | 1組-② | 2組-② | |
|-------|------|------|--|

| | |
|------|----|
| 学習形態 | 学級 |
|------|----|

| | |
|-----|---------|
| 題材名 | 手洗いをしよう |
|-----|---------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|---|---|--|
| 1 本時の学習内容を知る ○汚れている手の写真を見る ○教師の話を聞く | ○絵の具等で汚した手の写真を見ることで、児童が手が汚れていることに気づくことができるようとする。 ○汚れた手にはばい菌がいることを話し、「手を洗う」ということに気づくことができるようとする。 | ○汚れた手の写真 |
| 2 手洗いをする ○手洗いの練習をする ○実際に手を洗う | ○手洗いの様子を写真で示したカードを用い、順序と洗い方を確認しながら手洗いの動きを練習するようとする。 ○まずは、その場で手を洗う仕草をしながら、順序や場所を確認する。 ○順序は、短い言葉で児童に分かりやすく伝えるようとする。 ○カードで分かりづらい場合には、教師が手本を示し、どのように洗うのかを分かりやすくする。 ○実際に、洗面所で1人ずつ手を洗うようとする。 ○手を洗う際には、どこを洗えばよいのかが分かるよう、洗い残しがちな部分を中心に視覚的な手がかりとしてクレヨンなどで色を付けておく。 ○色が落ちていない場合には色が残った部分を示すことで、自分で洗うことができるようとする。 ○手洗いの順序が分からぬ様子が見られた時には、カードに注目させることで、順序を思い出しながら洗うことができるようとする。 | ○手洗いカード(①流す②石鹼③お願い④滑り台⑤やまやま⑥こちよこちよ⑦親指⑧ぐるぐる⑨洗う⑩拭く) P小-58 ○ハンドソープ ○クレヨン、キットバス |
| 3 まとめをする ○洗った手を見合う ○教師の話を聞く | ○洗った手を見合うことで「きれいになった」「自分でできた」などの気持ちを実感できるようとする。 ○教師は「気持ちがいいね。」「いい匂いがするね。」などの言葉で、児童がきれいに手を洗うことができたことを称賛し、手を洗うことの気持ちよさを味わうができるようにしたい。 ○汚れた手にはばい菌がいることなどを再度話し、きれいな手にするためには、手を洗えばよいことを確認するようとする。 ○自分たちできれいに手を洗えたことを称賛し、今後は自分できれいに手を洗おうという気持ちを高めることができるようとする。 | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | | |
|-------|------|------|------|
| 授業No. | 1組-④ | 2組-④ | 3組-④ |
|-------|------|------|------|

| | |
|------|----|
| 学習形態 | 学級 |
|------|----|

| | |
|-----|---------------|
| 題材名 | 身体洗い、身体拭きをしよう |
|-----|---------------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|--|--|--|
| 1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ○洗面器やお風呂用の椅子、身体洗い用のタオルなどを見ることで、お風呂に入る練習をすることに気付くことができるようとする。 ○家庭では、誰とお風呂に入っているか、自分で頭や身体を洗っているかなどを尋ねるようにする。そこで、自分で頭や身体を洗っているという児童がいる場合には、「すごいね。」などと言って称賛し、他の児童が「自分で洗おう」という気持ちをもつことができるようにならせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○洗面器 ○風呂用の椅子 ○身体洗い用タオル |
| 2 身体の洗い方や拭き方を練習する ○絵カードを見ながら身体の洗い方を練習する ○身体の拭き方を練習する | <ul style="list-style-type: none"> ○身体の洗い方を絵で示したカードを用いて、練習を行うことで、児童にどこをどのように洗えばよいかを分かりやすく伝えるようにする。 ○練習の際には、絵カードを見せながら、教師もその場でやって見せて、具体的にどのように洗えばよいのかが分かるようにする。 ○手や足を洗う際には、「反対」と言いながら、左右をきちんと洗うことができるようになる。 ○一部しか洗っていないような場合や全身体を洗っていないような場合には、教師が一緒にしながら全体を洗うことができるようになる。 ○拭き方も洗い方と同様に、カードを見ながら練習するようになる。 ○実際にお風呂場を使ってする際には、濡れている場所を鏡で確認するなどして、自分で濡れている場所に気付くことができるようになる。 ○児童がうまくできている場合には、その都度称賛することで自信をもつて練習に取り組むことができるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身体洗いカード(男子)(女子) P小-59 |
| 3 まとめをする ○教師の話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ○再度、順を追いながら絵カードを見ることで、洗う部位や洗い方、拭き方を確認することができるようになる。 ○自分でできることを称賛し、今後は家庭でも「自分で頭や身体を洗おう」という気持ちを高めるようにしたい。 | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| 授業No. | 1組-⑤ | 2組-⑤ | 学習形態 | 学級 |
|---------------------------|------------|---|---|----------------------------|
| 題材名 | 歯磨きをしよう | | | |
| 学習過程 | | | | |
| 学習活動 | | 指導上の意図・留意点 | | 教材・教具 |
| 1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く | ○染め出しをする | <p>○歯の模型と歯ブラシの教材を見せ、本時は歯磨きの練習をすることを知らせる。</p> <p>○歯磨きの必要性を感じさせるため、歯磨きをしないとどうなるか児童に聞き、ばい菌のイラストを見せて、虫歯になることを伝える。</p> <p>○教師はばい菌のイラストが出てきたとき、大きな声で恐がるようにし、歯を磨かないと大変なことになることを伝えるようにする。</p> <p>○染め出しを行い、一人ずつ歯を鏡で見せることで、歯が汚れていることを知らせるようにする。</p> | <p>○歯の模型</p> <p>○歯ブラシ</p> <p>○ばい菌のイラスト</p> | <p>○染め出しセット</p> <p>○手鏡</p> |
| 2 歯磨きの練習をする ○歯磨きの順番を知る | ○実際に歯磨きをする | <p>○歯を磨く順番をイラストで示し、児童と一緒に数を大きな声で言いながら歯を磨く順番を確認するようとする。</p> <p>○各部分の磨き方は、分かりやすいように各部分で10までを教師と一緒に数えながら磨くようする。</p> <p>○実際に歯の模型と歯ブラシを示しながら歯を磨く動作をして練習するようとする。</p> <p>○洗面台に一人ずつ出てきて、歯を順番に磨き、きれいになった歯をみんなに見せる。</p> <p>○教師は歯磨きをしている時に、大きな声で順番を言ったり、友達を見るように促したりすることで、磨く順番を理解できるようとする。</p> <p>○鏡を使って歯がきれいになったことをみんなに見せ、「きれいになったね」と称賛することで、歯磨きを丁寧にすることへの達成感を味わわせたい。</p> | <p>○歯磨きカード P小-60 <歯磨きの順番></p> <p>①上の歯の前部分</p> <p>②上の歯の右側前部分</p> <p>③上の歯の左側前部分</p> <p>④下の歯の前部分</p> <p>⑤下の歯の右側前部分</p> <p>⑥下の歯の左側前部分</p> <p>それぞれ10回ずつ磨く。</p> | |
| 3 まとめをする ○教師の話を聞く | | <p>○まとめとしてもう一度歯磨きの仕方についてイラストを使って確認し、歯磨きの順番について再確認するようにしたい。</p> <p>○一人ずつ歯磨きで上手だったところを称賛することで、歯磨きに意欲的に取り組むことができるようにならせる。</p> | | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| 授業No. | 1組-⑥ | | 学習形態 | 学級 | | | | |
|---|---|--|--|----|--|--|--|--|
| 題材名 | うがいをしよう | | | | | | | |
| 学習過程 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | | 教材・教具 | | | | | |
| 1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ○口を大きく開けたイラストの喉の部分に、ばい菌を付けておくことで、喉にはばい菌がいることに気付くことができるようになる。 ○外で遊んだ後などに何をするかを聞いかけ、児童から「うがい」という言葉を引き出したい。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○イラスト(口の中、ばい菌) | | | | | |
| 2 うがいをする ○ブクブクうがいの練習をする ○ガラガラうがいの練習をする ○一人ずつうがいをする | <ul style="list-style-type: none"> ○イラストを用いながら、何をするのかをわかりやすく伝えるようにする。 ○口の中にもばい菌がいること、まずは口の中のばい菌を外に出すために、ブクブクうがいをすることを伝えたい。 ○ブクブクうがいでは口の中にしっかりと水を含み、含んだ水を口の中で動かす練習をするようにし「ブクブク」という言葉で分かりやすく表現するようにする。 ○教師が一緒にすることで、やり方を分かりやすく示すようにする。 ○喉の部分のばい菌を外に出すためにガラガラうがいをすることを話し、練習を行うようにする。 ○まず上を向き、口を開けて喉の部分に水を留めた状態を保つ練習をする。 ○喉の部分に水を留めることができたら、水を転がすように動かすことができるようになる。その際、「カー」という発音で声を出すことで、ガラガラうがいがうまくできるようにしたい。 ○うまくできない児童には、口の中に水を含む練習など、できる部分から、徐々にガラガラうがいにつながるようにする。 ○イラストを見たり、教師が一緒にしたりすることで、練習を思い出しながら、ブクブクうがい、ガラガラうがいを続けて行うことができるようになる。 ○ブクブクうがいは1回、ガラガラうがいは3回程度行うようとする。 ○口の中のイラストのばい菌を外すことで、うがいをし、ばい菌がいなくなったことを見て分かることができるようになる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○イラスト(ブクブクうがい) ○コップ ○掃出し用のバケツ *手洗い場で行う場合は準備しなくてもよい。 | | | | | |
| 3 まとめをする ○教師の話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ○教師が、児童の口の中や喉を一人ずつ見て、「ばい菌いないね。」「きれいになったね。」などと言うことで、「きれいになってよかったです。」という気持ちをもち、きちんとうがいができたことを実感することができるようしたい。 ○イラストを見ながら、うがいをすることで、ばい菌がいなくなったこと、ばい菌がいなくなったことで病気になりにくくなることを話し、今後もきちんとうがいをしようと気持ちをもつことができるようとした。 | | <ul style="list-style-type: none"> ○イラスト(口の中、ばい菌) | | | | | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| 授業No. | 1組-⑧ | | 学習形態 | 学級 | | | | |
|------------------------------|---|--|---|----|--|--|--|--|
| 題材名 | リラクゼーションをしよう～マッサージ、足湯、手湯～ | | | | | | | |
| 学習過程 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | | 教材・教具 | | | | | |
| 1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く | <p>○足湯・手湯用のお湯を張ったたらいを見せたり、マッサージにも用いるボディクリームを見せたり匂いをかがせたりすることで、活動に対して興味をもつことができるようしたい。</p> <p>○教師がボディクリームを手などにつけて見せたり、お湯を張ったたらいに手や足を入れて見せてことで、マッサージや足湯・手湯をするということを分かりやすく伝えるようにする。</p> | | <p>○たらい2個(足湯・手湯用にそれぞれお湯を張っておく) ○ボディクリーム(良い匂いのするもの) ○タオル(手や足を拭くため)</p> | | | | | |
| 2 足湯・手湯、マッサージをする ○入浴剤を入れる | <p>○児童に、たらいに張ったお湯の中に手を入れてみるように促すことで、お湯に触れることができるようにして、「温かい」「気持ちがいい」などの言葉を引き出したい。</p> <p>○たらいの中のお湯に、入浴剤を加えることで、お湯の色の変化を楽しんだり、入浴剤の匂いを嗅いだりすることで、足湯・手湯に対する期待を高めることができるようになる。</p> | | <p>○入浴剤</p> | | | | | |
| ○一人ずつ足湯・手湯をする | <p>○一人ずつ、手→足の順に手足をお湯につけるようする。一人ずつ行うことで、お湯の温かさや心地よさを感じたり味わったりすることができるようになる。</p> <p>○足湯・手湯をしている児童に、どのような感じかを尋ねたり、教師が「気持ちいいね。」「温かいね。」などと言ったりすることで、温かく気持ちがいいということを感じることができるようにしたい。</p> <p>○足湯には、振動や泡が出るフットバスなどを用いることで、マッサージのような心地よさも味わうことができるようしたい。</p> | | <p>○フットバス</p> | | | | | |
| ○全員で足湯・手湯をする | <p>○一人ずつ足湯・手湯をじっくりと味わった後には、全員と一緒に足湯・手湯を行うようになる。その際には、自分の好きな方を選ぶことができるようになる。</p> <p>○友達と一緒に足湯や手湯することで、お湯の温かさや心地よさを感じながら、友達と一緒に活動する心地よさも味わうことができるようにならう。</p> | | | | | | | |
| ○マッサージをする | <p>○ボディクリームをつけ、手や足、指先、背中、お腹などの身体の部位をゆっくりとマッサージをするようする。教師と一対一でじっくりと関わりながらマッサージすることで、ゆったりとした気持ちになることができるようにならう。</p> <p>○ふれあいリラックス体操などを用いて、ゆっくりと身体の部位に触れながらマッサージをすることも取り入れたい。</p> <p>○児童がくすぐったがったり嫌がったりする場合には、無理に行わせず、心地よいと感じられる身体の部位を探しながら、少しずつ触れられることに慣れるようにし、徐々に心地よさを感じられることができるようにならう。</p> <p>○オルゴールなどのゆっくりした曲をBGMとして用いることで、学習している雰囲気をゆったりとしたものにしたい。</p> | | <p>○ボディクリーム ○CD(オルゴール曲などのゆっくりした曲が入ったもの)</p> <p>○CD「ふれあいリラックス体操」</p> | | | | | |
| 3 まとめをする ○教師の話を聞く | <p>○たらいや、ボディクリームを見せることで、活動を思い出すことができるようになる。その際、再度入浴剤やボディクリームの匂いをかぐことで、「いい匂い」など、心地よく感じたことも思い出すことができるようにならう。</p> <p>○児童に、どのように感じたかを尋ねたり、「気持ちよかったです」「温かかったね」などと話したりすることで、心地よさを思い出すことができるようになる。</p> <p>○足湯・手湯やマッサージは家でもできることを話し、「またしたい」と思ったときには、いつでも教師や保護者に言ってよいことを伝え、「またしたい」という気持ちをもたせたい。</p> | | | | | | | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| 授業No. | 1組⑨ | | 学習形態 | 学級 |
|--|---|--|---|----|
| 題材名 | 身体を動かそう | | | |
| 学習過程 | | | | |
| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | | 教材・教具 | |
| 1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く | <p>○「手はどこかな?」「足はどこかな?」などのように、児童がよく知っていると思われる部位について尋ねたり、実際にその部位に触れたりすることで、自分の身体について学習するということに気付くことができるようになる。</p> <p>○自分の身体の色々な部位に触れながら、自分の身体には色々な部位があることを知ることができるようになる。</p> | | | |
| 2 身体を動かす ○教師に指示された、身体の色々な部位を動かす ○曲に合わせて体を動かす | <p>○『アブラハムの子』、『あたま・かた・ひざ・ぽん』『できるかな? ~あたまからつまさきまで~』等の曲に合わせることで、それぞれの身体の部位を意識しながら体を動かすことができるようになる。</p> <p>○教師が、『右手』『左手』等のように、曲の中に出てくる身体の部位を指示して、その部位を意識しながら動かすことができるようになる。</p> <p>○教師は、児童の前で指示した身体の部位を動かしてみせることで、どのように動かせばよいのかを分かりやすく示すようになる。</p> <p>○どこを動かすのかが分からない場合や、うまく動かすことができない場合には、教師が動かす身体の部位を教えたり、一緒にしたりすることで、一つひとつ身体の部位を動かすことができるようになる。</p> <p>○曲に合わせて体を動かすことで、楽しく体を動かすことができるようになる。</p> <p>○身体の部位を示したイラストを見せたり、絵本を用いる場合には、挿絵を見せたりすることで、どのように動かすのかのイメージをもつことができるようになる。</p> <p>○何度か繰り返して行うことで、自分から身体を動かそうとしたり、身体の部位について意識したりすることができるようになりたい。</p> <p>○楽しい雰囲気で身体を動かしながら、児童ができていることを称賛したり、真似したりすることで、身体を動かすことは、樂しことや気持ちがいいことであることを感じながら学習を進めることができるようにしたい。</p> | | <p>○CD(『アブラハムの子』、『あたま・かた・ひざ・ぽん』『できるかな? ~あたまからつまさきまで~』等)</p> <p>○絵本『できるかな? ~あたまからつまさきまで~』等</p> <p>○身体の部位を示したイラスト</p> | |
| 3 まとめをする ○ 教師の話を聞く | <p>○動かした身体の部位に触れながら、「手」「足」等のように確認をすることで、自分の身体について再度意識をすることができるようになる。</p> <p>○児童が上手にできていたことを発表したり称賛したりすることで、身体を動かすことは「楽しかった」「またしたい」という気持ちをもつができるようにならたい。</p> | | | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

授業No. 2組-⑩ 3組-①

学習形態 学級

題材名

保健室の利用の仕方を知ろう

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|---|---|---|
| <p>1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く</p> <p>○保健室に入るときや利用後の挨拶の仕方について知る</p> | <p>○怪我をしたり具合が悪くなったりする絵を見て、どのような場面かを聞き、このようになるときがあるかどうかを尋ねる。 ○最近怪我をしたり具合が悪くなったりした児童がいる場合は、そのときの様子を思い出させるようにする。 ○学校で怪我をしたり具合が悪くなったりしたときには、どこに行くか尋ねる。場所がうまく言えない児童には、写真などの選択肢を与え、場所の想起ができるようにする。 ○教室以外の部屋に入るときや先生へのお願ひの仕方にについてどのようにするのかを考える。場合によっては、ロールプレイによって挨拶の仕方、お願ひの言い方を実際にやってみる。</p> | <p>○怪我をしているところの絵 ○具合が悪い様子の絵 ○保健室や職員室など学校内の場所の写真や絵カード</p> |
| <p>2 保健室利用の練習をする ○保健室に行く</p> <p>○保健室でのきまりやマナーを知る</p> <p>○実際に利用時のシミュレーションをする</p> | <p>○保健室の場所を再度確認する。保健室に入る前に、保健室の中には誰がいるか、入るときには何と言うかを確認する。 ○「失礼します」と言って入室するように促す。保健室内ではいろいろな器具があるので、むやみに触らない、病気の人が他にもいるかもしれないで騒がないなどの注意をする。 ○保健室の先生に実際に話を聞いたり簡単な手当をしたりできるよう協力してもらうようにする。 ○クラスや個人の実態に応じて、児童一人ひとりに保健室に入る設定をし、挨拶やお願ひ、どこが痛いかの伝え方を実際にさせてみる。 ○児童の実態に応じた伝え方ができるように、ジェスチャーで伝えさせたり、絵カードや伝言カードを持たせて、体のどの部分の処置をしてほしいかを保健室にいる先生に渡したりできるようにする。 ○児童の訴えを聞いた保健室の先生は、児童とやりとりをしながら、簡単な処置をする。耳や鼻、喉を診たり、けがの手当をしたりして、児童に恐怖心を抱かせないように配慮しながら処置を行うようにする。 ○全員で実際にシミュレーションをしている児童の様子を見るようにし、教師は、上手に伝えているところ、我慢しながらも処置を受けているところを褒め、達成感が得られるようにする。</p> | <p>○絵カード ・体の部位、場所など ○伝言カード 「ねつをはかってください」「ひざをけがしました」など</p> |
| <p>3 まとめをする ○教師の話を聞く</p> | <p>○うまく保健室の先生に伝えることができた児童を称賛することで、保健室の利用ができたことの達成感を味わうことができるようになり、できるだけ自分で伝えたいという気持ちを抱かせる。 ○保健室に恐怖心を抱いている児童には、保健室の先生は普段話を聞いたり優しく処置してくれたりすることを例に挙げ、少しでも恐怖心を抱かずに利用できるように話をする。 ○まとめとして、もう一度保健室利用の注意と先生への伝え方、処置の受け方などを確認する。</p> | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

授業No. 3組-②

学習形態 学級

題材名 身だしなみを整えよう

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|-------------------------|---|-----------------|
| 1 本時の学習内容を知る | <ul style="list-style-type: none"> ○本題材では制服の着方について主に取り上げるために、授業が始まる前に着替えを済ませておき、実際に身だしなみを整える練習ができるようにする。 ○身だしなみが整った様子と整っていない様子の写真(もしくはイラスト)を提示し、どちらがよいかを問いかけることで、身だしなみを整えることの大切さを確認する。 ○比較することが難しい児童には、襟やシャツの裾など、比べる視点を具体的に与える。 ○身だしなみが整った様子を改めて提示し、「かっこよい」「素敵」などの言葉を使って説明することで、児童の意欲を高めたい。 | ○写真(イラスト)2枚 |
| 2 実際に身だしなみを整える活動を行う | | |
| ○身だしなみを整えるポイントを知る | <ul style="list-style-type: none"> ○児童が本題材のポイントを意識しやすくするために、制服を着ている写真を見せ、カッターシャツの裾、襟、ボタン、ハンカチの4つのポイントになるところに印をつける。 | ○写真(男女用) ○ペン |
| ○カッターシャツの裾をきれいに入れ込む | <ul style="list-style-type: none"> ○カッターシャツの裾がズボンやスカートにきれいに入っていることが身だしなみが整っている状態であることを確認する。 ○一人ひとり鏡で見せ、整っているかどうかを考えさせる。また、他の児童からできているかどうかの指摘を受けることによって、身だしなみを整えるポイントを意識させたい。 | ○鏡 |
| ○襟をきれいに曲げる | <ul style="list-style-type: none"> ○カッターシャツの襟が後ろまできれいに曲がっていることが身だしなみが整っている状態であることを確認する。 ○一人ひとり鏡で見せ、整っているかどうかを考えさせる。また、後ろの襟がきれいになっているか分かりにくいため、写真を撮ったり、他の児童に指摘を受けたりすることによって身だしなみが整えることができたかどうかを判断しやすいようにする。 | |
| ○ボタンをかける | <ul style="list-style-type: none"> ○教師が実際にカッターシャツのボタンがかけ違う様子を見せて、見た目の悪さを気付かせたい。 ○自分のカッターシャツがきれいになっているか鏡を見て確認させる。 | ○カッターシャツ |
| ○ハンカチをきれいに折ってポケットに入れる | <ul style="list-style-type: none"> ○ハンカチをきれいに畳んで入れることが身だしなみが整っている状態であることを確認する。 ○その場でポケットを見るように児童に伝えてハンカチの状態を確認させることによって、身だしなみが整っているかどうかを自分で判断できるようにする。 | |
| 3 まとめをする | | |
| ○学習した身だしなみを整えるポイントを振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ○4つのポイントを改めて挙げ、日頃から身だしなみを整えることができるか尋ねることによって、できることを発言させると共に、取り組もうとする意欲を高めたい。 | |

※学習内容はこの他にファスナーを上げる、靴下をきれいにはく、かかとを入れてシューズをはくなど、実態に応じて取り上げる。

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

授業No. 1組-③ 2組-③ 3組-③

学習形態 学級

題材名

汗拭き、身体拭きをしよう

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|--|---|--|
| 1 本時の学習内容を知る ○汗で身体が濡れたことを思い出す ○汗拭きをすることを知る | ○教師の話や写真を見ることで、ランニングや運動の後に汗が出て身体が濡れたことを思い出す。 ○汗が出たことをイメージしにくい場合は、スプレーで実際に濡らした顔や腕を見せたり、児童の腕などを濡らしたりする。 ○濡れた顔や腕を拭き、さっぱりした感覚をもつことで、汗拭き・身体拭きの必要性を知らせる。 | ○ランニングや運動の写真 ○スプレー(水) ○タオル |
| 2 汗拭きの仕方を知る ○教師の手本を見る ○手順の確認をする | ○身体の部位ごとに手順カードに従って、教師が汗拭きをして見せる。 ○力を入れてしっかり擦ることや、腕は肩から手首まで擦ることなど、要点を押させてから示範する。 ○部位の名称を言い、1ヶ所10回ずつ数を数えながら拭くようにする。 ○手順カードを1枚ずつ見せ、部位の名称を言ったり汗拭きの仕方を見せたりして発表させる。 ○擦り方が不十分でも、部位やある程度やり方が理解できていれば褒め、汗拭きをやってみようという気持ちをもたせる。 | ○汗拭きの手順カード ①うで P小-60 ②むね ③おなか ④あし ⑤くび ⑥せなか ⑦わき ⑧あたま ○タオル(児童用) |
| 3 汗拭きをする ○一人ずつ汗拭きをする | ○一人ずつ順番に、手順カードを見ながら汗拭きをする。 ○教師も一緒に数を数えたり「ゴシゴシ」などの言葉かけをしたりして、しっかり擦れるよう促す。 ○手順カードや教師の言葉かけで汗拭きをするのが難しい児童には、教師の示範を見せたり支援を行ったりする。 ○汗拭きが終わったら、それぞれよくできたところを褒め、達成感をもたせる。 | |
| 4 まとめをする ○汗拭きの仕方を確認をする ○教師の話を聞く | ○手順カード(1組は教師の示範)を見て、身体の部位を答えたり身体を擦る動作をしたりして、汗拭きの仕方を確認する。 ○ランニングの後などに汗をかいたら汗拭きをすることも再度話し、本時の学習と日常生活との結びつきももたせたい。 | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| 授業No. | 1組-⑦ | 2組-⑥ | 3組-⑤ | 学習形態 | 学級(男女別) |
|--|--|--|---|---|---------|
| 題材名 | トイレのマナーを知ろう | | | | |
| 学習過程 | | | | | |
| 学習活動 | | 指導上の意図・留意点 | | 教材・教具 | |
| 1 本時の学習内容を知る ○汚れているトイレの様子を写真で見る | ○トイレのマナーについて学習することを知る | ○便器に汚れがついていたり、スリッパが揃っていないなどする写真を見せ、児童に気づいたことを発表させ、その状況が良くないことを確認する。 ○日頃からトイレをきれいに利用することが大切であることを話し、きれいに使いたいという気持ちを高めたい。 | ○汚れているトイレの写真 ○きれいなトイレの写真 | ○汚れているトイレの写真 ○きれいなトイレの写真 | |
| 2 トイレのマナーについて知る ○男女に共通したマナーを知る ○男女に分かれてマナーを知る (男子) ・お尻を見せずに排尿する ・尿をこぼさないようにする | ○イラストによってお尻を隠して排尿している様子とお尻を出したまま排尿している様子を提示し、どちらが良いのか考える活動を行う。 ○水滴がなくなるまで性器を振る練習をする。教材を用い、「ちょんちょん」という擬音を用いることで、縦に性器を振るイメージをつかませ、周りに飛び散らないようにする。 ○排尿する際に「①お尻を見せない、②星、③ちょんちょん」の手順表を用い、お尻を見せないことや小便器の星マークの辺りを狙ってすることで、周りを汚さないように意識させたい。 | ○トイレを出る時にスリッパを揃えることを取り上げ、スリッパをきれいに揃えている写真を選ぶ活動を行う。 ○足型が描かれている所にスリッパをきちんと並べる活動を行う。 | ○スリッパの並べ方の写真(良い例、悪い例) ○足型教材 | ○お尻を隠しているイラスト ○お尻が見えているイラスト ○ちょんちょん教材 P小-61 ○タライ ○足ふきマット ○バケツ ○排尿の手順表 P小-61 | |
| (女子) ・便座が汚れたら拭く ・トイレットペーパーを適量取る | ○便座に汚れがついたり、トイレットペーパーが落ちていたりする状況を設け、それを見て、どのような気持ちになるか問う。 ○大便、尿をハンカチで拭く児童の場合は、ばい菌マークの教材を使用し、大便や尿を拭くとばい菌がつくことを視覚的に理解できるようにする。 ○トイレットペーパーの量は適量のトイレットペーパーを取っている写真が3枚貼ってある手順表を使用し、「カラカラカラ」と擬音をつけて、適量をとるイメージをつかませたい。 | ○性別を意識させたり異性に話しにくいことがあることを感じさせたりするために、男女別れた状態で話すようにする。 ○マナーを守ってトイレをするようにできるかを尋ねることによって、自分にできそうなことを発言させるとともに、守る意識を高めたい。 | ○汚れ(水溶性クレヨン) ○ばい菌マーク ○トイレットペーパーの取り方の手順表 P小-62 | | |
| 3 まとめをする ○学習したマナーを振り返る | | | | | |

<各段階で主にねらう内容>

低学年=共通:スリッパ並べ、トイレの後は手を洗う、トイレの後は水を流す

中学年=共通:大便の時に服を脱いでしまわないで

男:お尻を見せずに立つ、立ち小便器の★印をねらってする

女:トイレットペーパーの取り方

高学年=共通:トイレのマナー(汚さないようにする、きれいに使う)

男:ちょんちょん(縦に性器を振って下着や便器周りを汚さないようにする)

女:拭き方

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | |
|-------|-----|------|
| 授業No. | 2組⑦ | 3組-⑥ |
|-------|-----|------|

| | |
|------|----|
| 学習形態 | 学級 |
|------|----|

| | |
|-----|------------|
| 題材名 | 顔や手を清潔にしよう |
|-----|------------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|--------------------------------|--|--|
| 1 本時の学習内容を知る ○VTR(CM①)を見る | ○子どもたちの関心を引きやすいように洗顔料のCM①を見せて「泡で頬を洗ってすっきりしている様子」に着目させ、「顔を洗う」学習であることを知らせる。 ○CM①の「ヘアバンドをはめている様子」に着目させ、顔をきれいに洗うためにはヘアバンドで髪を上げるとよいことを知らせ、実際にヘアバンドをはめてみるように促す。 | ○VTR(CM①) ○ヘアバンド |
| 2 顔を清潔にする理由を知る ○VTR(CM②)を見る | ○毛穴から汚れを掻き出すイメージのアニメーションを含むCM②を見せて、「ばい菌」等の言葉を引き出し、ばい菌マークを当てながら顔にもばい菌がいること、顔を洗うのは「顔を清潔にするため」であることを確認する。 | ○VTR(CM②) ○ばい菌マーク |
| ○口元が汚れた写真を見る | ○口元が汚れている写真を見せ、「汚れが付いていたら格好悪い」という言葉を引き出す。 | ○口元が汚れている写真 |
| ○ニキビができている顔のイラストを見る | ○顔に赤いツツツができるイラストを見せ、「ニキビ」ということを知らせ、大きくなるとできやすいこと、皮膚に付いた油汚れは洗顔フォームを使うと取れやすいことなどを、文字カードを併用して説明する。 | ○ニキビができている顔のイラスト ○「ニキビ」「あぶらよごれ」「せんがんフォーム」の文字カード |
| 3 実際に顔洗いを体験する | ○洗顔フォームは、事前に保護者に使用的の可否について問い合わせておき、使用的の場合も弱酸性など刺激の弱い泡タイプの洗顔フォームを用い、目の周りにつけないように注意を促す。すぎぎは、衛生面からぬるま湯の流水で行う。 ○洗うところを確認する ○洗顔フォームを使って洗顔する | ○洗顔フォーム ○顔洗い手順カード ①そでまくり ②ヘアーバンド ③せんがんフォーム あご→ほっぺた→ はな→おでこ ④みずをすぐう→すすぐ ○食品系の身体に害のない目印となるもの(餅取り粉、ケチャップなど) ○鏡 |
| 4 まとめをする ○教師の話を聞く | ○ニキビのイラストやばい菌マーク、手順カードを用いて振り返りをする。 ○汗をかいた後など洗った方がいい場面を知らせるとともに、家庭でもお風呂の時などに洗うことを確認する。 | |

* 学習内容はこの他に、「目やに」「爪かみ」「鼻ほじり」「よだれ」など、実態に応じて取り上げる。

* 「手洗い」についても、爪や指の間など手にはばい菌が多いこと、なぜ手を洗わなければならないのかなど、清潔にする理由を押さえながら取り扱う。(P小-38「手洗いをしよう」参照)

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

授業No.

2組-⑧

3組-⑦

学習形態 2・3組合同

題材名

身体のいろいろな部位を知ろう A:身体の部位を知る

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|---|---|--|
| <p>1 本時の学習内容を知る ○歌を歌いながら自分の身体部位を動かす</p> <p>○身体部位の名称について学習することを知る</p> | <p>○「あたま・かた・ひざ・ポン」の歌を歌いながら楽しく身体を動かすこと、身体部位に対して興味をもちやすくする。 ○身体部位にはいろいろな名前が付いていることを伝え、自分の身体がそれぞれどんな呼び方をするのか興味をもたせるようにする。</p> | OCD |
| <p>2 身体部位の名称を知る ○板人形に身体部位の名前カードを貼る</p> <p>○自分の身体に身体部位の名称カードを貼る</p> | <p>○歌に出てきた部位から名前カードを板人形に貼っていくようにし、徐々にそれ以外の部位についても提示していくようとする。板人形は表と裏が見えるように2枚(男の子、女の子)準備しておく。 ○カードを貼る児童をその都度1名ずつ教師が指名していき、「いいですか?」とみんなに聞いて確認していくようとする。 ○貼る場所を間違えたり分からなかつたりしたときには、他の児童に教えるように促し、友達同士で答えを確認していくようとする。 ○全員一斉に身体部位の名称カードを渡し、自分の身体に貼っていくようとする。友達同士見合ったり、鏡を見たりして、正しい場所に貼れたかを確認できるようとする。 ○どうしていいか分からない児童には、友達がやっている様子を見るように促したり、一緒に文字を読んでどの部位のことかヒントを出したりする。 ○背中や腰など、自分で貼りにくそうにしている様子が見られた場合、鏡を見たり友達や教師に頼んで貼ってもらったりするように促す。</p> | <p>○板人形(2枚) P小-62 ○身体部位の名称カード P小-62 (かみのけ、あたま、かお、みみ、くび、うで、ひじ、て、ゆび、むね、おなか、ひざ、あし、せなか、こし、おしり)</p> <p>○身体部位の名称カード(全員分) ○鏡(姿見)</p> |
| <p>3 まとめをする ○指示された部位を触る</p> | <p>○教師が指示した身体部位を、それぞれ自分の身体を触っていき、みんなで確認できるようにする。</p> | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | |
|-------|------|------|
| 授業No. | 2組-⑧ | 3組-⑦ |
|-------|------|------|

| | |
|------|--------|
| 学習形態 | 2・3組合同 |
|------|--------|

| | |
|-----|------------------------|
| 題材名 | 身体のいろいろな部位を知ろう B:マッサージ |
|-----|------------------------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|--|---|----------------------------|
| 1 本時の学習内容を知る ○歌を歌いながら自分の身体部位を触る | ○「あたま・かた・ひざ・ポン」の歌を歌って楽しく活動しながら、身体のいろいろな部位に触るようにする。 | ○CD |
| 2 マッサージを通していろいろな部位を知る ○教師からのマッサージを受ける | ○一人ずつ前に出て、「かた」や「うで」、「せなか」などの部位カードを選び、教師からのマッサージを受けるようにする。この時、児童が嫌がる様子を見せた場合、無理には行わないようにし、友達がする様子を見て安心できるようにする。 ○教師は、児童が気持ちよさを感じられるように力を調節しながら行うようとする。 | ○部位カード(文字・イラスト) P小-63 |
| ○マッサージ器を身体にあてる | ○自由にマッサージ器を触るように促し、興味をもてるようにする。 ○使い方が分からぬ児童には、教師が目の前でやって見せたり、一緒にやってみたりする。 ○どの部位をマッサージするか、カードを選んだり発言したりして教師に伝えるように促す。 ○自分で好きな部位にマッサージ器をあててみたり足湯に入ったりして、気持ちいいところを探すようにする。 ○いろいろなマッサージ器を試すことができるように、時間を決めて交替していくように促す。 | ○マッサージ器(肩叩き、バイブレーション、足湯など) |
| 3 まとめをする ○気持ちよかった部位を伝える | ○マッサージを受けて、どのマッサージ器を使って、どの部位が気持ちよかったですかをカードや発言で答えることができるようにする。 ○カードや発言で答えることが難しい場合は、実際に気に入ったマッサージ器を選んで気持ちよかった部位にあててみるように促す。その後、カードを使って気持ちよかった部位の名称を確認するようにしていく。 | ○部位カード(文字・イラスト) P小-63 |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | |
|-------|------|------|
| 授業No. | 2組-⑨ | 3組-⑧ |
|-------|------|------|

| | |
|------|----|
| 学習形態 | 学級 |
|------|----|

| | |
|-----|----------------------|
| 題材名 | 男女の違いを知ろう～プライベートゾーン～ |
|-----|----------------------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|--|---|------------------------------------|
| 1 本時の学習内容を知る ○写真カードを男女に分ける | ○自分の写真、友達や教師の写真カードを男女に分けることで、男女の違いについて学習することを知らせる。 | ○写真カード(児童、教師) |
| 2 プライベートゾーンについて知る ○プライベートゾーンの名称を知る。 | ○自分たちと同じ体操服を着た板人形を見せ、活動に興味をもつことができるようとする。 ○プライベートゾーンのそれぞれの部位に名称カードを貼っていくことで、名称が分かるようとする。 ○板人形を見せながら、児童に身体部位の名称を尋ねるようにする。児童によっては「ちんちん」→「ペニス」、「おっぱい」→「胸」と呼ぶことを伝えることで、名称を一つずつ分かるようにしたい。 ○「見せてはいけない」「見てはいけない」「触ってはいけない」ということを約束として、行動を示すイラストとともに示す。 ○「見てもいい?」「触ってもいい?」などと尋ねることで、約束を確認するようとする。 | ○板人形 ○プライベートゾーンの名称カード P 小-63 |
| ○プライベートゾーンの約束を知る。 | ○「見せてはいけない」「見てはいけない」「触ってはいけない」ということを約束として、行動を示すイラストとともに示す。 ○「見てもいい?」「触ってもいい?」などと尋ねることで、約束を確認するようとする。 | ○約束カード ○イラスト |
| 3 プライベートゾーンの部位カードを貼る | ○手元で操作できる人形にプライベートゾーンの部位カード、下着や洋服のカードとその名称カードを貼っていくようとする。 ○カードを貼っていく中で、プライベートゾーンの名称を言葉に出して言ったり、約束を言ったりすることで再度意識できるようにしたい。 | ○男女の人形 ○部位カード ○名称カード |
| 4 まとめをする ○教師の話を聞く | ○プライベートゾーンの名称や約束を名称カードや約束カードを全員で見ながら確認する。 | |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | |
|-------|-----|------|
| 授業No. | 2組※ | 3組ー⑨ |
|-------|-----|------|

| | |
|------|-----|
| 学習形態 | 男女別 |
|------|-----|

| | |
|-----|----------------|
| 題材名 | 男の子のからだについて知ろう |
|-----|----------------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|-------------------------------------|---|----------------------|
| 1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く | ○イラストを見せ、前時で行った男女の違いについて質問し、確認を行う。 ○男の子にはペニスがあることに気づかせ、本時は男の子の「からだ」について学習することを伝える。 | ○男の子のからだ、女の子のからだの板人形 |
| 2 プライベートゾーンについて考える ○教師のロールプレイを見る | ○教師がプライベートゾーンを触ることについてのロールプレイを行うことで、人前で触ることはどう思うか考える。 ○イラストや写真などを使い、人前でプライベートゾーンを触ることはかっこいいのか、恥ずかしいのか考えさせ、分かりやすく示すようになる。 ○人前でプライベートゾーンを触ることは恥ずかしいことを『〇×』を使って強調して伝えるようにする。 | ○イラスト・写真 |
| ○ロールプレイをする | ○プライベートゾーンを触る様子を実際に児童がロールプレイすることで、プライベートゾーンは触らないことを強調する。 ○教師は『〇×』を強調して言うようにすることで、児童がよりはつきり理解できるようにする。 ○どうしても性器の位置を直したい時などは、トイレや人がいないところで直すように伝える。 | |
| ○プリントに〇×を書く | ○イラストなどをプリントに印刷しておき、『〇×』を教師と確認しながら書くことで、プライベートゾーンを触ることはかっこ悪いことを改めて確認する。 | ○プリント |
| 3 まとめをする ○教師の話を聞く | ○板人形を見せながら質問することで、男の子の「からだ」にはペニスがあることを確認する。 ○普段の生活でプライベートゾーンを触ることについて『〇×』で確認し、どのようにすればよいか改めて理解できるよう促す。 | |

※実態により必要な児童には性器いじりについても学習を行う。

※2組の中で、実態により学習が必要な児童は、3組の授業に入れて対応する。

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| 授業No. | 2組※ | 3組-⑨ | 学習形態 | 男女別 |
|---------------------|--|------|---|-----|
| 題材名 | 女の子のからだについて知ろう～月経指導～ | | | |
| 学習過程 | | | | |
| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | | 教材・教具 | |
| 1 月経の手当の仕方を知る | <ul style="list-style-type: none"> ○月経になった花子さん人形とともに月経を模擬的に体験することで月経について知らせる。 ○花子さん人形を見る ○板人形やカードを見る ○花子さん人形を使ってナプキンのつけ外しをする | | <ul style="list-style-type: none"> ○花子さん人形 P小-64 ○絵カード P小-64 ○文字カード P小-64 ○板人形 | |
| 2 実際に月経の手当の仕方を体験する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○月経用品を見る ○トイレでナプキンをつける | | <ul style="list-style-type: none"> ○ショーツやナプキンなどの名称を知らせ、繰り返し言うことで覚えることができるようにしていく。 ○ナプキンの形状などについては、児童の実態に応じたものを使用できるよう保護者と連携を図るようにする。 ○実際にナプキンを着けて、着け心地を体験できるようにする。 ○教師と一緒にトイレに入り、着け方や汚物の処理の仕方について実際に体験する。 ○手先がうまくいかない児童には教師が支援しながら行うようにする。 ○一人でできる児童に対しては、称賛しながら自分でしようという気持ちをもつことができるようにしていく。 | |
| 3 まとめをする | <ul style="list-style-type: none"> ○教師の話を聞く | | <ul style="list-style-type: none"> ○絵カードや文字カードを使って振り返りをする。 ○ポーチを人に見せないなどのマナー面についても話をする。 ○月経になったら、心配しないで、教師や家族に知らせることを再度確認する。 | |

※2組の中で、実態により学習が必要な児童は、3組の授業に入れて対応する。

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | |
|-------|--|------|
| 授業No. | | 3組-⑩ |
|-------|--|------|

| | |
|------|----|
| 学習形態 | 学級 |
|------|----|

| | |
|-----|-----------------|
| 題材名 | 男女の違いを知ろう～関わり方～ |
|-----|-----------------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|--|--|---|
| 1 本時の学習内容を知る ○教師の話を聞く | ○男女のイラストやシンボルマークを見ることで、本時の活動に見通しをもつとができるようとする。 ○男女に分かれて使用する場所を確認したり自分が使う場所に写真を貼ったりすることで、男女の違いについて気付くことができるようとする。 | ○男女の身体のイラスト ○男女のシンボルマーク ○児童の顔写真 ○トイレの写真 |
| 2 男女の関わり方や行動の仕方を知る ○男女の関わり方や行動の仕方にについてのDVDを見る ○適切な男女の関わり方や行動の仕方を経験する | ○男女の関わり方についてのイラストを見せたり、DVDを見たり模擬的に体験したりすることで、学習活動を分かりやすくする。 ○DVDを見ることで男女に分かれて使用する場所の約束や良くない関わり方について気付くことができるようになる。 ○DVDの中の登場人物の反応に注目するように促すことで、見たり触られたりした相手の気持ちに気付くことができるようになる。 ○DVDで見た、正しい異性との関わり方を実際に経験することで、どのように異性に関わればよいのかが分かるようになる。 ○友達の様子に注目させ、適切な行動かどうかを考えながら、児童の意見や反応を聞き出すようにしたい。 ○言葉でのやり取りが難しい児童については、ロールプレイングの中で反応を引き出したり理解を促したりしたい。 ○「見ない」などのように行動を制限するだけでなく、適切な行動について経験することができるようになる。 ○うまくできない場合には、手本を見せたり再度ロールプレイングを行ったりすることで、適切な行動を促したい。 | ○マナー・関わり方のイラスト ○テレビ ○DVD(男女間での関わり方やマナーについて) ○着替えスペース ○児童用机、椅子 |
| 3 まとめをする ○適切な行動のイラストを選ぶ | ○男女の関わり方について2種類のイラストを準備しておき、適切なイラストを選ぶことで、男女についての正しい関わり方を確認できるようになる。 ○教師の話を聞いて本時の学習を振り返ることで、異性の友達に正しく関わろうとする気持ちを高めることができるようになる。 | ○マナー・関わり方のイラスト P 小-65 |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | |
|-------|--|------|
| 授業No. | | 3組-⑪ |
|-------|--|------|

| | |
|------|----|
| 学習形態 | 学級 |
|------|----|

| | |
|-----|----------------|
| 題材名 | 周りの人との関わり方を知ろう |
|-----|----------------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|---|--|---|
| 1 本時の学習内容を知る ○信号の写真を見る | ○一般的に信号の青が「(進んで)いいよ」、黄色が「ちょっと待って(考えよう)」、赤が「だめ！」ということを確認する。 ○青が「家族」、黄色が「友達や先生」、赤が「知らない人」として分類するように促す。 ○上記の言葉が難しい場合は、具体的に「お父さん、お母さん」や「○○くん」、「○○先生」などの身近な人の写真を貼るなどして分かりやすく説明する。 | ○信号の写真 |
| ○信号の輪に文字カードや写真を貼る | ○「家族に対しては身体に触れてもいいこと」や、「友達や先生には話したり手をつないでいいが、ベタベタ触ったりしないこと」、「知らない人はついて行ったり物をもらったりしては危ないこと」を、イラストを使って説明する。 | ○信号の輪(一人ずつ) P小-65 ○家族や友達、先生などの写真 |
| 2 良い行動、悪い行動を考える ○絵カードを見て、やって良いこと、悪いことを選ぶ | ○一人ずつ前に出てロールプレイを行う。教師はお面をつけて「家族と身体を触れ合う」場面や「友達や先生と話したり手をつないだりする」場面、「知らない人から付いてくるように誘われる」場面など、それぞれの場面を設定して、児童の反応を見るようになる。 | ○イラスト ・身体に触れている絵 ・手をつないでいる絵 ・ベタベタ触っている絵 ・「いらない」と断っている絵 ・物につられて付していく絵 |
| ○適切な行動の仕方を経験する | ○適切な行動ができた時や自分なりに考えて行動していた時はその都度称賛して自信をつけさせるとともに、見ている児童にもどうすればよいのかを分かりやすくする。また、適切な行動が取れない児童には、再度イラストを使って説明したり、友達の様子をよく見るよう促したりする。 | ○写真や絵のお面 (保護者、知らない人) |
| 3 まとめをする ○教師の話を聞く | ○最後に写真やイラストを使って、良いか悪いかを一人ずつ○×で確認していくようにする。また、ロールプレイの場面で手本となる行動が取れた児童を取り上げ、自信をつけさせるとともに、日常の場面でも同じように行動することが大切であることを伝える。 | ○イラスト ・身体に触れている絵 ・手をつないでいる絵 ・ベタベタ触っている絵 ・「いらない」と断っている絵 ・物につられて付していく絵 |

小学部「からだの学習」授業内容表(略案)

| | | | |
|-------|----|----|----|
| 授業No. | 1組 | 2組 | 3組 |
|-------|----|----|----|

| | |
|------|----|
| 学習形態 | 全体 |
|------|----|

| | |
|-----|----------|
| 題材名 | ブラッシング指導 |
|-----|----------|

学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 教材・教具 |
|--|--|--|
| 1 学習内容を知る ○講話を聞く | ○遊戲室に集合し、歯科衛生士校の実習生による講話を聞く。 ○お菓子などの甘い食べ物ばかり食べていると虫歯になりやすいことを伝える。 ○ばい菌のイラストを見せてことで、歯磨きをしないと虫歯になることを伝えるようにする。 ○歯ブラシをみんなと一緒に動かす練習をすることで、正しい歯ブラシの動かし方を理解することができるようとする。 | ○歯の模型 ○歯ブラシ ○ばい菌のイラスト ○お菓子のイラスト |
| 2 歯磨きの練習をする ○染め出しをする ○歯磨きをする | ○遊戲室から学級に移動し、実習生と個別に歯磨きの仕方について学習を行う。 ○染め出しを行い、鏡でどこが汚れているか確認することで、どこを磨けばよいか知る。 ○染め出しなどを嫌がる児童がいた場合、教師が児童へ対応することで、安心して学習に参加できるようとする。 ○実習生と磨き方を確認しながら行っていくことで、歯ブラシの動かし方や歯磨きの仕方について理解できるようとする。 | ○歯ブラシ ○カップ ○タオル ○染め出しセット ○手鏡 ○バケツ |
| 3 まとめをする ○きれいになった歯を見る | ○「きれいになったね」と言葉かけをしたり、鏡を見て確認したりすることで、歯を磨くことの大切さを感じができるようとする。 ○担当していただいた実習生の皆さんに指導へのお礼やあいつさつをすることで、次回のブラッシングへの期待感をもたせたい。 | |

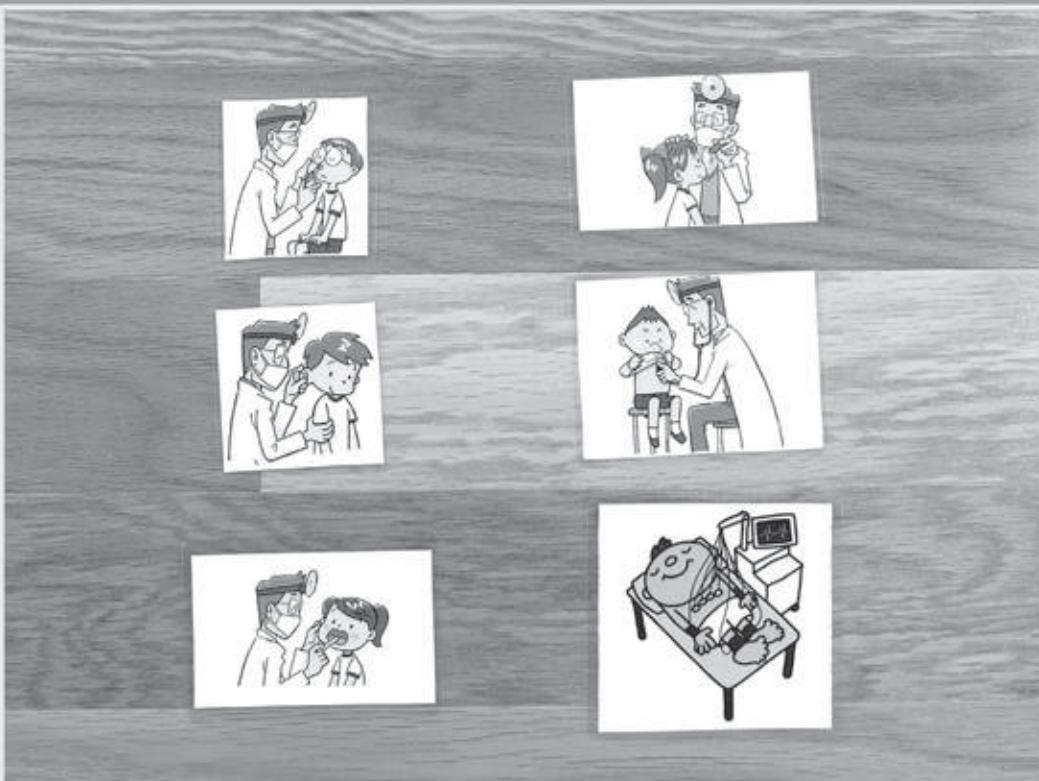
＜ブラッシング指導について＞

本校では長崎歯科衛生士専門学校の学生の皆さんによる実習(ブラッシング指導)を年3回行っている。実習生が講話・個別による歯磨き指導を行い、歯の磨き方について評価表に記入している。なお、評価表は家庭に持ち帰り、保護者にもコメントを記入してもらうようにしている。

資料集

「からだの学習」で使用する

教材・教具例



P小-37 <検診の受け方を知ろう> 検診の絵カード



てをあらおう



① ながす



② せっけん



③ おねがい



④ すべりだい



⑤ やまやま



⑥ こちょこちょ



⑦ おやゆび



⑧ ぐるぐる



⑨ あらう



⑩ ふく

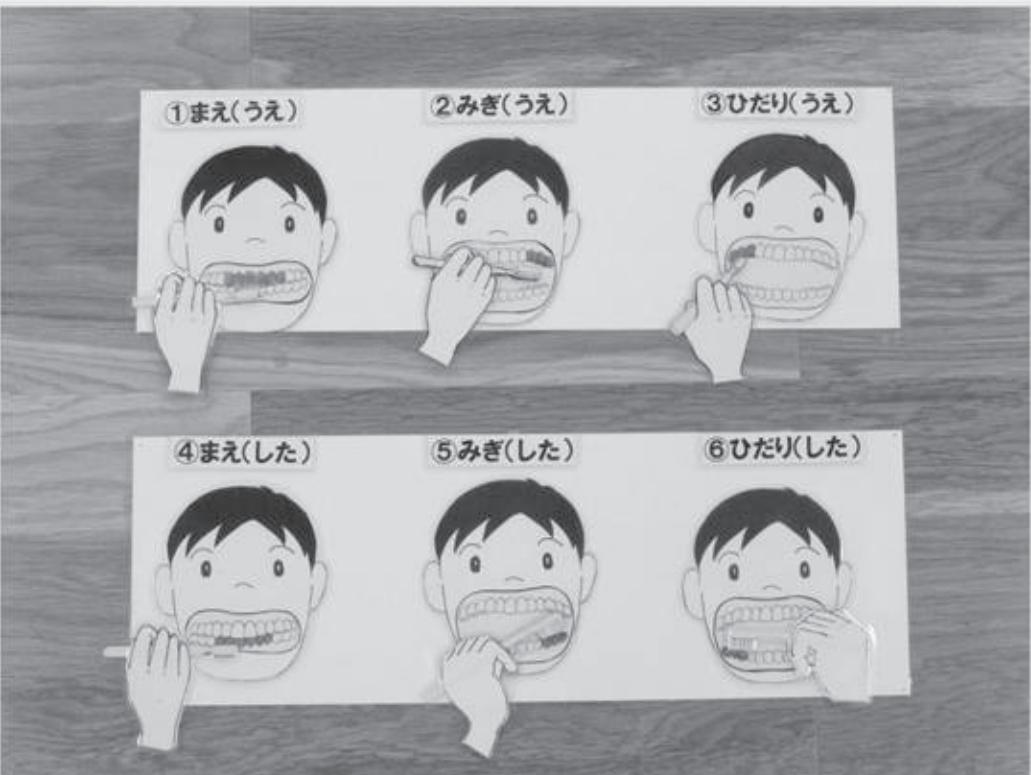
P小-38 <手洗いをしよう> 手洗いカード



□ 小-39 <身体洗い、身体拭きをしよう> 身体洗いカード（男子）



□ 小-39 <身体洗い、身体拭きをしよう> 身体洗いカード（女子）



□小-40 <歯磨きをしよう> 歯磨きカード



□小-46 <汗拭き、身体拭きをしよう> 汗拭きの手順カード



P 小-47 <トイレのマナーを知ろう> 「ちょんちょん」用教材

① お尻をみせない



② ほし



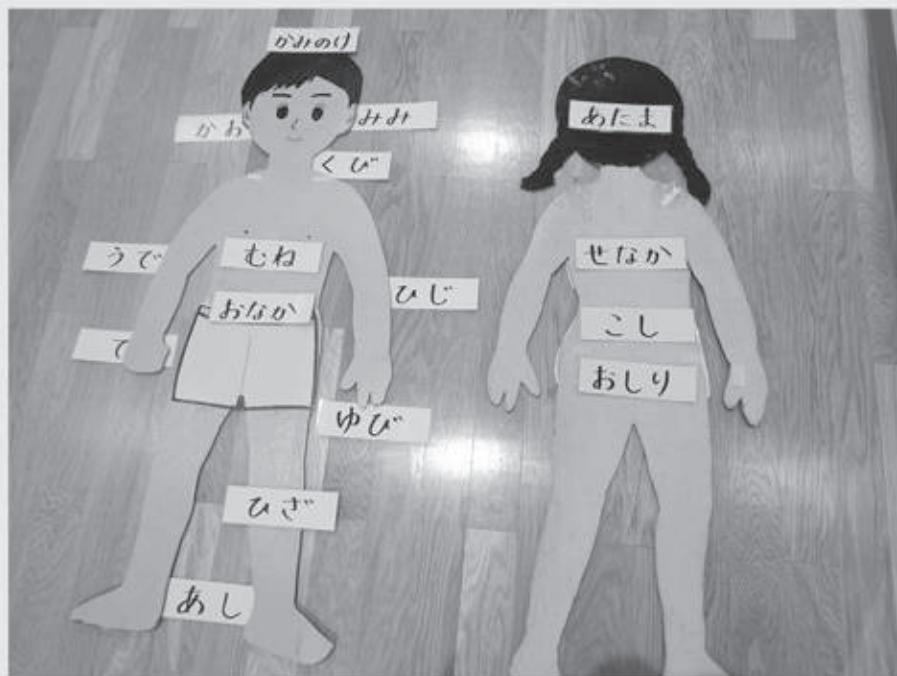
③ ちょん ちょん



P 小-47 <トイレのマナーを知ろう> 排尿の手順表



P小-47 <トイレのマナーを知ろう> トイレットペーパーの取り方の手順表



P小-49 <身体のいろいろな部位を知ろう A：身体の部位を知る> 板人形



ひじ



むね

<出典>
視覚シンボルで楽々コミュニケーション
～障害者の暮らしに役立つシンボル1000～
ドロップレット・プロジェクト編
エンパワメント研究所

P小-50 <身体のいろいろな部位を知ろう 日：マッサージ> 部位カード



P小-51 <男女の違いを知ろう～プライベートゾーン～> プライベートゾーンの名称カード



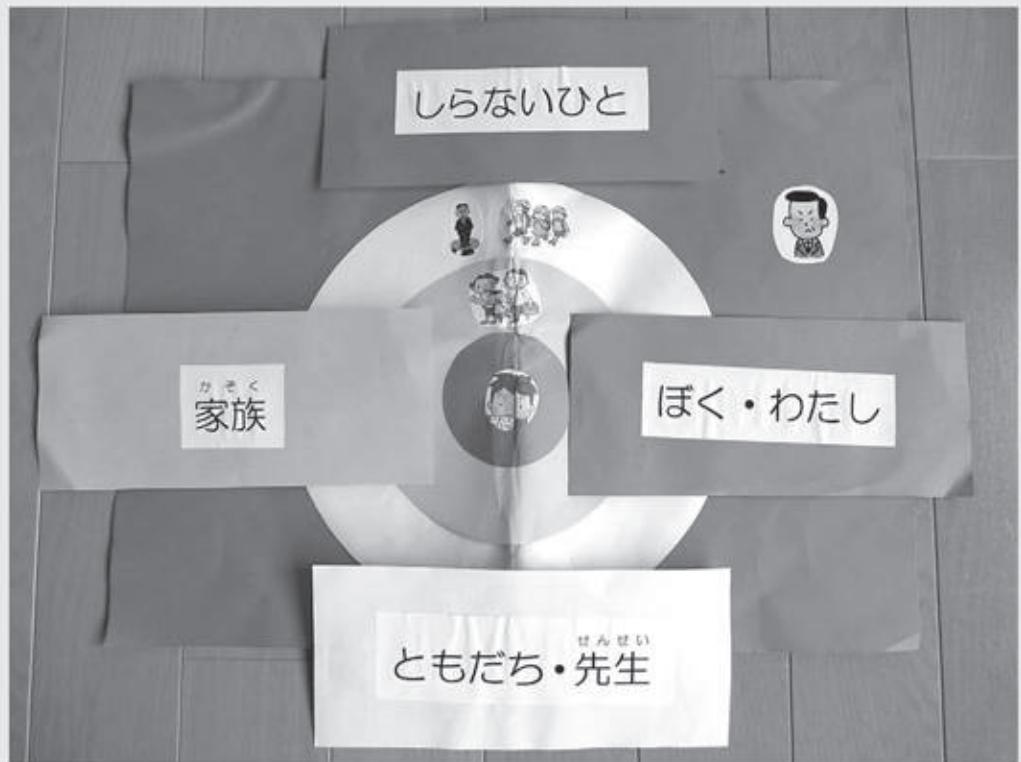
P 小-53 <女の子のからだについて知ろう～月経指導～> 人形など



P 小-53 <女の子のからだについて知ろう～月経指導～> 文字カードなど



P 小-54 <男女の関わり方を知ろう～関わり方～> マナー・関わり方のイラスト



P 小-55 <周りの人との関わり方を知ろう> 信号の輪

III 中学部の研究

「実生活に結びつく豊かな言語活動を目指した授業づくり」

～国語の学習「話す」に着目して～

目次（中学部の研究）

| | | |
|---|-------|------|
| 1 中学部テーマ設定について | | 中-1 |
| (1) 中学部の教育目標について | | 中-1 |
| (2) 中学部の生徒の実態について | | 中-1 |
| (3) 中学部の「国語」について | | 中-2 |
| (4) テーマ設定の理由について | | 中-2 |
| 2 研究の目的 | | 中-3 |
| 3 研究の方法 | | 中-3 |
| 4 研究の経過 | | 中-5 |
| (1) 事例1：説明的な発表する力を高めるための授業づくり ～「どうしてかというと～だから～」を使って～ (国語Aグループの取り組み) | | 中-5 |
| ① 目的 | | 中-6 |
| ② 方法 | | 中-6 |
| ③ 経過と考察 | | 中-9 |
| (2) 事例2：言葉のやりとりを楽しみ、伝わった喜びを感じる 授業づくり～教師の働きかけに着目して～ (国語Bグループの取り組み) | | 中-13 |
| ① 言葉のやりとりを楽しむために | | 中-13 |
| ② 話す喜びを感じるために | | 中-15 |
| ③ 授業の実際 | | 中-15 |
| ④ 考察 | | 中-18 |
| ⑤ 今後の課題 | | 中-21 |
| (3) 事例3：生徒の「話す」意欲を引き出す授業づくり ～生徒の興味を手がかりにした様々な手立ての工夫～ (国語Cグループの取り組み) | | 中-21 |
| ① 生徒の実態 | | 中-21 |
| ② 指導にあたって | | 中-22 |
| ③ 単元の目標について | | 中-22 |
| ④ 授業の内容と生徒の様子 | | 中-22 |
| ⑤ 評価と考察 | | 中-24 |
| 5 研究成果と今後の課題 | | 中-25 |
| (1) 研究成果 | | 中-25 |
| ① 中学部の学習と実生活における言語活動の結びつきについて | | 中-25 |
| ② グループでの国語の授業づくりでの取り組みと成果について | | 中-26 |
| ③ 国語の授業を踏まえた実生活の中での生徒の変容 | | 中-27 |
| (2) 今後の課題 | | 中-29 |
| 《引用・参考文献》 | | |
| 《参考資料①》アンケート用紙 | | 中-31 |
| 《参考資料②》アンケート調査の結果 | | 中-35 |
| 《参考資料③》K J法分析結果 | | 中-38 |
| 《参考資料④》K J法分析結果 | | 中-40 |
| 《参考資料⑤》話のノート様式および内容 | | 中-41 |
| 《参考資料⑥》日記の様式および内容 | | 中-42 |
| 《参考資料⑦》言語発達段階表 | | 中-43 |

(中学部研究テーマ)

「実生活に結びつく豊かな言語活動を目指した授業づくり」

～国語の学習「話す」に着目して～

1 中学部テーマ設定について

(1) 中学部の教育目標について

中学部は教育目標を「仲間とともに、いろいろなことにチャレンジし、自分の成長を実感しながら社会参加の基本的な力を高める」と掲げている。小学部段階では、主に自分の身の回りのことを重視していることと比べると、着実に社会参加への道筋を意識した目標となっていることが分かる。中学部の教育目標を簡単に解釈すると「仲間とともに」には生活の場や人間関係の広がりを見てとることができる。次に「いろいろなことにチャレンジし」には、新しいことや難しいことを繰り返し経験したり、精一杯取り組んだりする学習活動のことが記されている。そして「自分の成長を実感しながら」には基本的な知識や技能を身に付けるだけではなく、できる自分を実感させたいという思いを込めている。このような思いで教育活動に取り組み、社会参加の基本的な力を高めたいと考えている。これは、高等部の教育活動にもつながるものだととらえている。

(2) 中学部の生徒の実態について

中学部には17名（1年生5名、2年生6名、3年生6名）の生徒が在籍している。男子が11名（1年生3名、2年生4名、3年生4名）、女子が6名（1年生2名、2年生2名、3年生2名）であり、性別による偏りがある。中学部の生徒のMAの状況を表1に記した。数値は田中ビネーV知能検査の結果であるが、全員小学6年生の11月または12月時点での数値であるため、参考値として見てほしい。最も多いのは4:00～5:11であり、全体の約半数を占めている。次に多いのは6:00～7:11であるが、このうち4名は7歳台前半である。また、障害等の傾向について、現在在籍している生徒を見ると、自閉症スペクトラムの生徒が約半数、ダウン症とその他の生徒が約半数である。

学校生活場面での生徒の様子を見ると、日常生活における技能等はほとんどの生徒が習得できており、着替えやトイレなどほぼ自立している。公共交通機関を利用した単独での登下校もほとんどの生徒ができつつある（練習中を含む）。このように、中学部では小学部や小学校段階で身に付けた自分の身の回りのことが定着し、それを生活に生かせるようになる時である。第二次性徴という大きな変化でさえも、これまでに自分ができるようになったこと（主に身辺面）を生かしながら、対応できるようになっている。

身体面の成長も著しい時期もある。身体が大きくなり体力や運動面で大きな成長を感じることが多い。体力がつくことから重いものを運んだり、長時間の作業に参加したりすることができるようになり、「きついけど頑張る」「前はできなかつたけど今はできるようになった」など、身体面の成長に合わせて心の成長も見られるようになった。

生徒同士は学年を越えて非常に仲が良く、登下校や教室移動、休み時間など、常に複数で行動している様子が多く見られる。上級生は先輩として下級生に優しく接したり、身体の大きな生徒は身体の小さい生徒の机運びを手伝ったりして、良い雰囲気のまとまりがある学習集団である。しかし、自分というものが確立し自主性や社会性が育ち始めている時期でもあり、自分の主張と他者の主張にずれを感じる経験も増える。この「主張のずれ」は障害による特性等もあり、人と関わる場面でさまざまなトラブルに発展することがある。前述の「人とかかわる場面でのトラブル」に関しては、周りの人すべてが納得した解決までには至らないことが多い。解決に至らないのは事実がはっきりしないということが一番の原因である。教師が紐解くように、一つずつ「いつ」「どこ」「だれ」「どうした」等を尋ねることで事実が少しずつ明らかになるが、推測の部分も残る。自分が体験したことを十分に伝え

<表1 中学部生徒のMA>

| MA | 人数 |
|-----------|----|
| 2:00～3:11 | 2名 |
| 4:00～5:11 | 8名 |
| 6:00～7:11 | 5名 |
| 8:00～9:11 | 2名 |

られないという姿は全員に共通する課題であり、ほとんどの生徒がコミュニケーションに関して何らかの支援を必要としている。

(3) 中学部の「国語」について

本校の研究紀要第17集には区分「まなび」の定義が次のように書かれている。

「自己」とは、決してそれだけを育てようとしても育てられるものではなく、他者や物とのかかわり、つまり環境とのかかわりの中で自分に気づき、自分を位置づけ自分を見つめることで形成されていく（柏木 1999、宇佐川 1998）。そして、児童生徒が環境とかかわりをもつためには身体や社会性の発達とともに、環境からの情報をとらえる力、環境に働きかける力も重要な要素となると考える。具体的には、外界からの情報を取り入れ理解する「認知力」、また、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった「言語の理解と表出に関する力」、そして「数える」「計算」「時間」「金銭」などといった「数量に関する力」である。

これら三つの力を「認知」「言語」「数量」と呼び、これら三つを総称して区分「まなび」と呼んでいる。

区分「まなび」における指導形態は表2のとおりである。

＜表2 区分「まなび」における指導形態について＞

| 指導形態 | 定 義 | グループの形態等 |
|--------------------|---|-------------------------------|
| 区分 「ま な び | 認 知 環境からの情報を取り入れ、理解するための視知覚、聴知覚、手指の操作などを高めるための指導形態 | 各学級ごとに個に応じて実施 |
| | 言 語 環境を把握し、必要な情報を把握する力を高めたり、環境に対し自らの思いや考えを発信したりする力を高める。さらに、「聞く」「話す」「読む」「書く」などを場面や状況に応じて、生活のなかで活用する力を身に付けるための指導形態 | 全学年を習熟度別に4または5グループに分けて実施している。 |
| | 数 量 日常生活に必要な「数」「実務（金銭、時間・時刻）」などに関する事柄についての学習を深めることで、それらを日常場面において処理する力を高め、環境とかかわる力を育てる。それとともに、「自己」を客観的にとらえるために必要な概念の形成を図るための指導形態 | 全学年を習熟度別に4または5グループに分けて実施している。 |

※ 指導形態「言語」は、中学部では授業名「国語」として行っている。中学部の研究においては、以下、国語と記す。

中学部段階では、知的好奇心が急速に高まり、生活の場面自体に広がりがみられ、人とのかかわりにも広がりと深まりが見られる。このことを踏まえ、国語の指導にあたっては、生活に即した身近な題材を用いながらも、自らが発信する場面や受容する情報にも広がりをもたせ、より豊かな言葉による表現や内容の読み取りなどをねらっている。また、生徒の実態に応じて漢字の読み書きや漢字混じりの文章なども取り上げている。さらに、詩の朗読や物語の読み取りなどでは、生活に必要な学習という視点だけでなく、言葉のもつリズムの面白さや美しさ、ストーリーの楽しさなどを十分味わわせるようにしている。

(4) テーマ設定の理由について

国語では、自らの思いや情報を他者や環境に対して発信する学習を意識して行ってきた。しかし、現在の生徒の姿から、そこで身に付けた力を実際の生活では十分に発揮されていない部分が見られるということは事実として受け止めなければならない。区分「まなび」の指導にあたっては、生活に役立つという視点に立って指導するように心がけている。国語の目標にも「生活の中で活用する力を身

に付けるための指導形態」という表記がある。中学部の生徒にとって、今の学習内容が本当に生活の中で活用できるものになっているのか改めて考え、そしてこれまで以上に生活との結びつきを考えなければならないと考える。

特別支援学校学習指導要領では国語の目標として「日常生活に必要な国語についての理解を深め、伝え合う力を高めるとともに、それらを活用する能力と態度を育てる。」とある。さらに特別支援学校学習指導要領解説には「特に、中学部の段階では、生徒のコミュニケーション能力を伸ばすことにより、集団生活への適応力をさらに高めるとともに、社会生活の拡大を図ることが大切である。」とある。本研究は、生徒の実態から取り組んだものではあるが、学習指導要領をより具体的に実践したものだと言うことができる。

「生活」は学校だけではなく、登下校や家庭、地域、休日の生活も当然含まれる。そこで、本研究では中学部の「実生活」を、家庭や学校、身近な地域での生活という場の、現在（いま）を中心に高等部卒業までの時間ととらえている。前述したように、現在は人とのかかわりが広がる時期である。この時期に人と関わる際の基本的な術となる「話す（伝える）」力を伸ばすことは、生徒の生活に大きな影響をもたらす。それは、集団生活への適応力を高めたり、社会生活の拡大につなげたりすることで、さらに大きな影響をもたらすと考えられる。また、中学部の教育課程全体を眺めると、多くの教育活動の基盤となる部分に、指導形態「言語」の内容が含まれている。これは、国語の授業の充実を図ることが、他の指導形態の充実にもつながるということでもある。

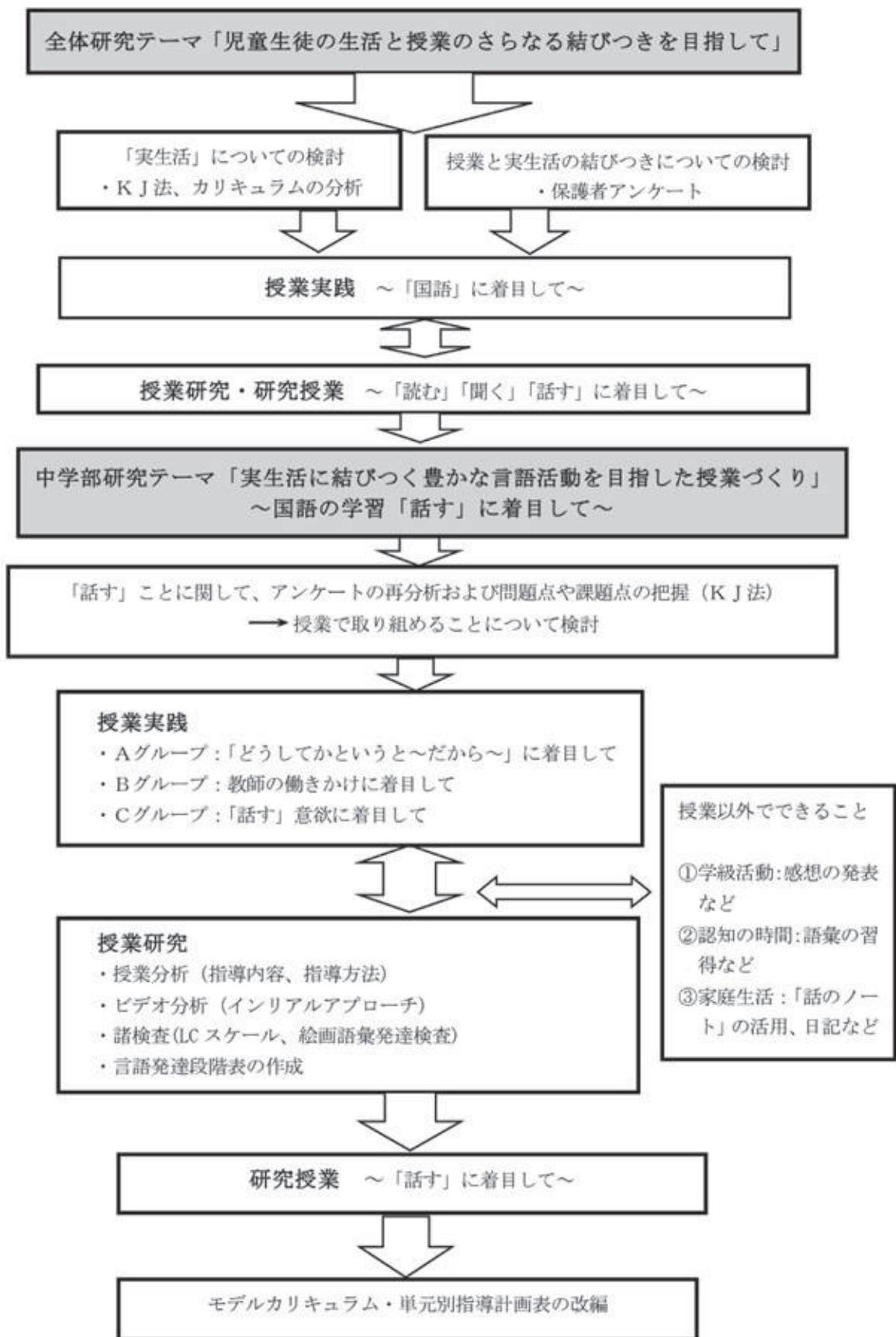
これらのことから、より効果的であると考えられる指導形態「言語」の授業に着目して本研究テーマを設定した。

2 研究の目的

区分「まなび」における課題や指導内容に対するニーズの調査、分析を通して、中学部の学習と生徒の言語活動の結びつきを明らかにし、より実生活に結びつく国語の授業づくりを行う。

3 研究の方法

全体研究テーマ「児童生徒の生活と授業のさらなる結びつきを目指して」のもと、保護者へのアンケートやカリキュラムを分析することで、課題を浮き彫りにし、中学部研究テーマ「実生活に結びつく豊かな言語活動を目指した授業づくり～国語の学習『話す』に着目して～」を導き出した。次に、KJ法を用いて具体的な問題点や課題を洗い出した。また、授業内容や指導法の検討、ビデオ分析、各種検査による客観的な実態把握を取り入れ、授業改善や授業づくりに取り組んだ。さらに、国語の授業以外でも取り組めることはないかを考え、学級活動や認知の時間における感想の発表や語彙の習得、家庭生活の中で「話のノート」を用いて家庭で話をする機会を設ける、日記を書くなどの取り組みを行ってきた。



4 研究の経過

区分「まなび」指導形態「言語」における課題や指導内容に対するニーズを調査、分析するためアンケート調査やKJ法を使った考察を行った。

中学部1年生～3年生の保護者を対象にアンケート調査を行った。モデルカリキュラムの内容を生活の中に盛り込んだアンケートを作成した。(参考資料①アンケート用紙) アンケート調査の目的は、現在のモデルカリキュラムに対しての満足度、現在の家庭での子どもの様子、高等部卒業後までに子どもに身に付けてほしいことの3つである。結果は、モデルカリキュラムへの満足度は高く示されていたが、家庭での子どもの様子では、「まったくしない」「あまりしない」といった回答が多い項目もあった。また、同じ項目で、そのことを高等部卒業までに子どもに身に付けてほしいかという問いには、「卒業までには必要だととても思う」「やや思う」という回答が多く見られた。

(参考資料②アンケート調査の結果) このことにより学校ではモデルカリキュラムに基づき授業を行っているが、家庭生活の場ではその成果が見られない部分もあることがわかった。また、子どもが中学部の現在は家庭生活で取り組めていないが、高等部卒業までには必要なことだと保護者も考えている。アンケート調査の「話す」の項目では「学校であったことを家庭で話をする」といった項目でも同じ傾向が見られた。そこで、この項目に注目してKJ法を用いてより深く分析することにした。(参考資料③KJ法分析結果「なぜ学校の話を家でしないのか」)

分析の結果、以下の7点に分類することができた。

- ① したくない、恥ずかしいといった思春期（反抗期）のため
- ② 話すことに自信がない、話しても通じないのであきらめるといった話が伝わらないため
- ③ 保護者に学校のことを聞かれないとため
- ④ 話す習慣がないなど話をする環境ではないため
- ⑤ 言葉が出ない、不明瞭な発音などの発達・機能的問題のため
- ⑥ 今の話しかできない、学校で何をしたか覚えていないなど特性・記憶力の問題のため
- ⑦ どう話してよいのかわからないといった、文法や語彙力の問題のため

その中でも文法、語彙力の問題で上がってきた「どう話してよいのかわからない」についてさらにKJ法で分析を進めていくと(参考資料③KJ法分析結果「どう話せばよいか分からるのはどうしてか」)「国語」で取り組める内容や「認知」で取り組める内容などに整理することができた。その結果、「国語」の課題として、次のようなことが挙げられた。

| | | |
|---------------------------|-----------------------|------------------------|
| 基本的な文法を知らない 助詞が上手く使えない | 5W1Hを上手く使えない 主語がない | 語彙が少ない 時系列になっていないなど |
|---------------------------|-----------------------|------------------------|

こういった課題を基に、それぞれの国語の学習グループの生徒の実態に合った「話す」に着目した授業づくりを行った。

(1) 事例1：説明的な発表する力を高めるための授業づくり～「どうしてかというと～だから～」を使って～(国語Aグループの取り組み)

学校生活の中で、生徒が会話しやすいように周りの大(教師)が雰囲気作りに努めてきたこともあると思われるが、どの生徒も休憩や授業時、よく話し、発言をする。しかし、生徒によっては単語や語句を並べただけというような言い方であったり、その時々の状況等を考えずに話したりすることから、周りの人によく伝わらないことがある。学級の帰りの会で、その日の活動の振り返りを行うが、ある生徒は「今日は農耕とスポーツをしました。楽しかったです。」のような内容で終わる。「農耕の何が楽しかったの。」と問いかけると、何も返事が戻ってこなかったり「草取りをしたでしょう。」と教えられて「草取りをして、楽しかったです。」だけで終わったりする。日常生活の会話の中で、説明したり、考えを伝えたりすることが数多くあるがうまく言えない。「どうしてそうしたの。」と問うと、

問い合わせに続く言葉が返ってこなかつたり、全く違うことを言つたりする。そこで、3段構成からなる文章と同じように、ある事柄を説明したり、ある事柄の理由を述べたりする話し方ができるようになると、推考的といえる深みのある「話す」世界に踏み出せると思われた。

以上のことから、生徒たちが、発表をしたり、会話をしたりする中に文章の3段構成いわゆる「はじめ」「なか」「まとめ（おわり）」のある説明的な表現や「どうしてなの。」と問い合わせに答えるような会話ができるようにならないかということが、本事例の動機である。以上のことから本事例の目的を下記のとおりにした。

① 目的

経験したことや調べたり聞いたりしたことを説明的に発表する力を高めるための授業づくりを行う。

② 方法

本事例研究の手続きとして、すでに設定されている単元「説明文や物語文を読もう」の中で、取り組むことにした。特に説明文を書くことと関連付けさせながら取り組むことにした。

ア) 対象の生徒

対象の生徒は1年2名、2年2名、3年3名、計7名の男子生徒からなる。先に記したように発表したり会話を交わしたりする時に課題のある生徒たちである。本単元のねらいである「読む」「書く」ということで、身近で簡単な文章を読み取ったり、書いたりすることが、まだ十分にできない生徒たちでもある。

対象の生徒たちの中には、授業本来の目的に沿った取り組み以前の授業の構えということでの課題を抱えている生徒もいる。

以下に、個々の生徒の実態を記す（本単元開始時、9月当初）。

| 名前（学年） | 実 態 |
|--------|---|
| A(1年) | 物静かな生徒である。どのような授業でも自ら発言したり、積極的に行動したりすることはないが、読み聞かせを行ったり、個別にゆつたりした雰囲気の中で発言させたりすると生き生きとした表情で耳を傾け、まとまりのある発言をする。周りが騒然とした雰囲気になつても一緒に騒ぐことはない。漢字等はよく知っているが、文章はひらがなだけで書く。左利きである。 |
| B(1年) | 少々落ち着きがなかつたり、また順番や声掛けへのこだわりがあつたりする。友達への関心が強い。私語等が増え、周りの生徒も巻き込んで、授業全体が騒然となることがあつた。難しい漢字を覚えることや新しい知識を得ることなどには、高い関心をもつてゐる。しっかりと授業に関心が向くと集中して取り組む。 |
| C(2年) | どの授業に対しても意欲的に取り組むが、本単元のような言葉を組み立て、他者に理解できるまとまりのある文章作りや発表は得意でない。しかし、周りの人の文章や発言などを見たり聞いたり、さらに自ら考えたりして、まとまりのある文章や発言をすることも見られつつある。積極的に挙手をする。 |
| D(2年) | 授業への取りかかわりが遅く、個別に促したり、話を聞いていなくて個別の説明を要したりする時がある。課題の理解力は高く、形にこだわることなく、正しく文章の内容を理解したり、他者に分かるような発言をしたりする。1年生の一学期の期間、授業そのものに参加しようとする構えをほとんど見せず、廊下でうろうろすることが目立つたが、そのようなことは全くくなり、どの授業も離席することなく取り組むようになった。 |
| E(3年) | 授業の開始時に鉛筆を削りはじめたり、トイレに行くと言つて教室を度々出ていったりすることがあったが、そのようなことが大分見られなくなった。さまざまなものに興味があ |

| | |
|-------|--|
| | り、授業内容に関係なく発言したり、行動に移したりすることがある。課題に対し、大分集中して取り組むようになった。 |
| F(3年) | とても物静かであり、落ち着いて取り組む。図形などの形を写すことは著しく不自然な形で描く。しかし、文字は大分整ったものを書くようになった。どの授業も意欲的であり、まとまりのある文章や発言をするようになった。 |
| H(3年) | 少々落ち着きがなく、また、物の位置などにこだわりが見られたが、大分集中して取り組むようになった。一つひとつの文字の位置が並んでおらず、雑に書いてしまうので、本人でさえ読み取るのが困難なときがある。文章でも脱字が目立つ。しかし、その文章は内容的にはまとまりのあるものを書くようになった。 |

イ) 手続き

上記のような目的、対象の生徒に対し、「授業づくりでの仮説」を以下のように設定した。

《授業づくりでの仮説》

本授業づくりの仮説を、「授業づくりの基本（表3）」、「『説明文を説明する』で、説明的な話す力を培うための基礎的な考え方（表4）」に沿って授業づくりを行うことで、「経験したことや調べたり聞いたりしたことを説明的に発表する力」を効果的に高めることができるとした。

＜表3 授業づくりの基本＞

- 授業ライン提示：授業の開始時に授業でどのような内容を行うか、板書やカードで示し、授業の見通しがもてるようとする。
- 授業前の準備：授業前に、ねらい、教材・教具、展開をしっかり準備・構築してから授業を行う。
- ねらいの焦点化：授業を行うにおいて、あれもこれも数多く取り上げるのではなく、一つの事柄にねらいを焦点化して授業を行う。
- 視覚化：伝統的に授業は、話すだけでなく、板書、実物や図案による提示、プリントなど、視覚的な情報を提供しながら進めてきた。そのことを一層意識化して取り組む。
- ショート化：授業展開では、（生徒の実態から）「話を聞く」ことは7分以内、一つの活動を10～15分程度にして取り組む。
- 多様な活動：授業の活動として、可能な限り、読む、話す、聞く、書く、移動、身体動作等を盛り込む。
- パターン化：生徒が見通しをもって、安心して取り組むように、年間を通して、あるいは一つの単元の期間、おおまかな授業の展開等をパターン化して行う。
- 約束カード：私語が目立ったり、授業態度が悪かったりした時に、注意を促すために、授業途中であっても、約束カードを、フラッシュ的に、即時に提示する。厳しく叱ることで、一時的な効果をねらった働きかけはしない。基本は、時間をかけて指導する。
- 称賛：それぞれの場や状況で称賛を積極的に行う。

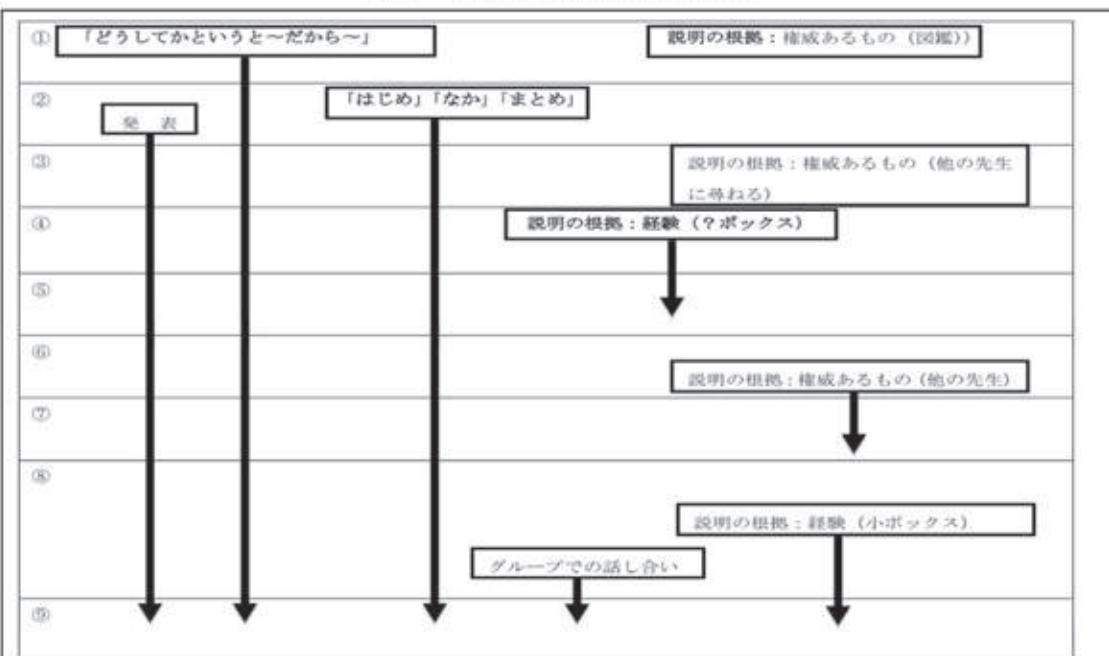
＜表4 「説明文＝説明する」で、説明的な話す力を培うための基礎的な考え方＞

- 三段構成（はじめ—なか—まとめ（おわり））の理解の徹底：文章の構成は様々考えられるが、その基本構成として3段構成（はじめ—なか—まとめ（おわり））の理解に努める。
- 「どうしてか」というと～だから～」の使用：上記の三段構成を理解させ、読んだり文章を書いたりする時、文章の段落に注目させたり、各段落に使われている「はじめに」「そして」「さらに」「最後に」など接続詞や副詞等に着目させ、指導を行うことが少なくないが、説明文を書き、さらにその文章をそのままに活用して発表する、即ち「説明文＝説明する」とするために、「どうしてか」というと～だから～」を使った説明文を書くこと、また説明的な話をするようにする、ということで働きかけることにする。具体的に文章を作ったり、話したりする時、「どうしてか」というと～」を「なか」の初めに、「だから」をまとめ（おわり）の初めに使うこととする。
- 「なか」の内容は、経験と情報から：説明文や説明する時での根拠ともいえる「なか」の内容は、①経験・実験など実際に見たり触れたりした内容、②文献を調べたり、専門家からの情報で得られた内容、③論理的分析等することでの内容が考えられるが、①と②のみを行う。本来、説明文の学習では論理的な思考力を高めることをねらって、一足飛びに③の内容を盛り込む方法も考えられるが、論理的な思考力においても、まずは経験や確かな情報が大切であると思われる。生徒の実態から考慮しても、①②のみを「なか」に盛り込む学習が適切であると思われる。

上記の仮説に立ち、本事例研究を以下のように進めるこにする。

- 本単元の中での個々の授業内容等を計画設定し、実施する。ただし、先の授業でみられた生徒の様子から柔軟に次の授業内容等の計画を変更し行う。実施した結果は表5の通りである。
- 上記の手順に沿って授業を実施し、振り返り（形成的評価）、さらに次の授業を行い、振り返る（形成的評価）こととする。
- 本事例の最終目標である「経験したことや調べたり聞いたりしたことを説明的に発表する力を高める」に沿った達成度評価基準を作成（表6）し、個々の授業実践に対し、達成度の評価を行い、考察を行う。

＜表5 単元の各授業内容の構成＞



※ ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨は個々の授業で、実施の年月日は①13.9.13, ②13.9.25, ③13.10.9, ④13.10.17, ⑤13.10.21, ⑥13.10.23, ⑦13.11.6, ⑧13.11.11, ⑨13.11.13である。

※ この表は、各授業での主な活動内容を簡略に記してある。この表の①、②、③等の授業は、図1 生徒の目標の達成度の1、2、3等の授業と同じものを指す。更に、表7、表8、表9の授業とも同じである。

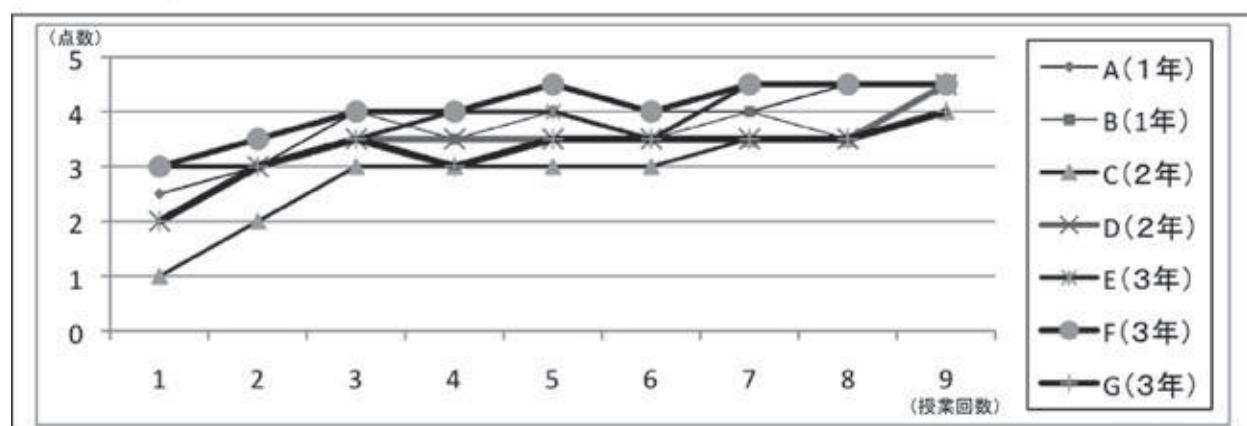
③経過と考察

本事例の目標に対しての達成度評価基準（表6）からの個々の授業での生徒の達成度は、図1の通りであった。

＜表6 達成度評価基準＞

| |
|--|
| 達成度の評価基準は下記のとおりとする。段階を9段階とし、下記のそれぞれの点数の中間にも0.5メモリの点数を置く。即ち、1、1.5、2、2.5、3、3.5、4、4.5、5とする。 |
| 1点……分かってない（どう書いてよいか分かってない） |
| 2点……ほとんど分かってない（「どうしてか」というとー」を使おうとするが、ほとんど個別の支援が必要であり分かってない） |
| 3点……少し分かる（「はじめ」「なか」「まとめ」の中の一つが欠けたり、「どうしてか」というとーのみだったりするが、簡単にそれらしく説明する） |
| 4点……だいたい分かる（おおよそ「はじめ」「なか」「まとめ」をしっかり意識し、「どうしてか」というとーだからー」を使うが、簡単過ぎて説得力に欠けた説明をする） |
| 5点……よく分かる（（はじめ）「なか」「まとめ」をしっかり意識し、「どうしてか」というとーだからー」を使い、多面的な角度から説得力のある説明をする） |

本単元の最終的な目標「経験したことや調べたり聞いたりしたことを説明的に発表することができる」に対し、上記の達成度評価基準により、個々の授業の一人一人の生徒に対し、評価を行った結果が図1である。



＜図1 生徒の目標の達成度＞

図1から、授業を重ねることで、成果が見られたことが理解できる。概して、目標に向かって、一つひとつの授業を無理なく進めることができた。

以下に、授業を進めるにおいて大切にした「授業づくりの基本」と『説明文を説明する』で、説明的な話す力を培うための基礎的な考え方」から、考察を行うこととする。

ア) 「授業づくりの基本」について

「授業前の準備」「称賛」はいかなる授業を行う場合でも必要なことであり当然のことであるが、「授業ライン提示」「視覚化」「ねらいの焦点化」「ショート化」は、対象生徒の重度化、広汎性発達障害の生徒たちの増加に伴って積極的に取り入れ行うようになった手法である。「パターン化」「約束カード」は、落ち着きがなく集中力に欠ける生徒たちが、授業の始めから参加しなかったり、授業中に私語や喧嘩をしたり、あるいは教室を飛び出したりすることから、先に記した手法等の他に、積極的に取り入れるようにした手法である。これらを取り入れることで、いわゆる行動的な課題が無理なく徐々に

く徐々に改善され、授業そのものに意欲的に取り組む生徒が増えてきた。そのような「授業づくりの基本」の項目は、本単元の授業においても有効に働き、それぞれの授業の基盤として有効に働いた。

イ) 「『説明文＝説明する』で、説明的な話す力を培うための基礎的な考え方」について

本事例の2回目の授業において、「三段構成（はじめ—なか—まとめ（おわり））の理解の徹底」を行った。そのことで、生徒自身が、「三段構成」を手がかりとして、文章構成が適切であるか否かを判断でき、説明文や説明的な発表の良し悪しを意識できるようになった。本事例対象の多くの生徒は、客観的な視点に立って考えることの難しい生徒である。授業を進めながら、文章を書く時だけでなく、人に説明する時でも、本人自身が客観的な良し悪しの判断の目安として役立つ三段構成「はじめ—なか—まとめ（おわり）」を意識させることは、適切で意義あることであった。

「どうしてか」というと～だから～」の使用であるが、生徒の実態を鑑みて、特定のキーワードを使った形から教えるのがよいと思われ、何か良いキーワードはないか模索した結果、見つけ出されたのが「どうしてか」というと～だから～」である。キーワードは、できたら説明文を書く時だけでなく、会話の中でも使えるものにしたいと考え探すこととした。そのような時、生徒の会話の中に「～どうしてですか」という言い回しを見つけた。この語句を、少し変えたら、国語Aグループの生徒たちが、スムーズに説明文を書いたり、説明的な会話、説明的な発表をしたりすることができると思われた。その結果、使うことにしたキーワードが「どうしてか」というと～だから～」である。即ち、「命題」としての「はじめ」を書いたり言ったりした後、「なか」で「どうしてか」というと～」というキーワードを使う。さらに「まとめ」で「だから～」を使う。このようにこれらのキーワードを使って説明をする。「まとめ（おわり）」では、「はじめ」の命題を特に変更することなく繰り返したり、「なか」から得られたことを加え、ちょっと違った角度から書いたり述べたりするようにする。

どの生徒も「どうしてか」というと～だから～」のキーワードを使うことで、図1から理解されるように説明文を書いたり、説明的な発表をしたりすることがスムーズにできるようになった。

「なか」の内容は、経験等と情報からであるが、一般に、説明文やものごとを説明する「なか」の多くの内容は、主に抽象的な論理や分析である。しかし、実際の生活で説明としての説明の根拠、即ち「なか」の内容は、経験など具体的に見たり触れたりしたこと、いろいろな人や本などから得られた情報が主である。そのことから、また、生徒が分かりやすいということからも「なか」の内容は、経験等と情報でよいと思われる。具体的にそれらの活動を取り入れることで、豊かな学習活動になつたと思われる。

以下に特徴的である3つの授業について、簡単にねらい、教材・教具、展開を記し、それらについて考察を行う。

ウ) 「周りの人聞いて説明をしよう」の授業から

＜表7 「周りの人聞いて説明をしよう」の授業（3回目の授業）＞

（授業3）

ねらい：保健室の養護教諭に「病気」のことなどを尋ねて、「はじめ」「なか」「まとめ」を意識しつつ「どうしてか」というと～だから～」を使った説明文作りをし、発表する。これらを通して、説明文を作る力を高めたり、周りの人人に説明したりする力を高める。

教材・教具：「はじめ」「なか」「まとめ」を表記したカード、「どうしてか」というと～」「だから～」を表記したカード。プリント用紙。

展開：①主な活動の流れについて聞く（2分）

②事例を通して「はじめ」「なか」「まとめ」を意識しつつ「どうしてか」というと～だから～」を使った説明文の書き方と発表の仕方を聞く。「はじめ」の部分を提示された中から選択し保健室に行き尋ねて来るなど、学習活動の手順を聞く（5分）

③「風邪をひくと咳がでます。どうですか。」など、保健室に行き、尋ねる。（15分）

④説明文を書く。（8分）

⑤発表する。（10分）

本事例3回目の「説明文を書き、発表する」授業である。保健室の養護教諭に協力をお願いし実施した。養護教諭と、事前に生徒が尋ねる内容や生徒への伝え方等を打ち合わせ、本授業を行った。

導入で「はじめ」「なか」「まとめ」からなる文章を作ること、「どうしてかというと～だから～」を使った文章作りとその文章とおりに発表することを、具体例を示しつつ指導する。前回において、一通り「はじめ」「なか」「まとめ」を意識させ、文章作りを行ったり、発表したりしたが、実際行わせてみると説明文や説明の発表で「はじめ」や「まとめ」の部分が抜け、結果的に何か意味不明の文章を書いたり、発表したりする生徒がいた。そのようなことから、再度「はじめ、なか、まとめ」の意識付けと「どうしてかというと～だから～」の指導の徹底を図った。結果的にまだ十分とは言い難いが「はじめ」「なか」「まとめ」を意識した説明文や説明の発表が見られるようになった。本時の授業の特徴として、保健室の養護教諭に「病気」などについて尋ねに行くという学習内容を取り入れたことである。そこで本来尋ね方の学習も必要であったが十分でなく、養護教諭に尋ね方も合わせて指導していただくように協力してもらった。結果的に20分近くかかり予定時間をオーバーしてしまった。尋ね方の事前学習を入れたり、尋ねる時の時間短縮のため相手を複数にしたりする必要があると思われた。生徒たち自身は、教室での活動の他に、教室を出て「尋ねる」という活動を取り入れたことから、どの生徒も意欲的であった。発表は6分程になり、どの生徒も短時間で発表することになった。しかし、内容的には「はじめ」「なか」「まとめ」があるものが多く見られるようになり、前回の授業に比べ、整った発表内容であった。

エ) 「触れたり、持ったりしたものを説明しよう」の授業から

<表8 「触れたり、持ったりしたものを説明しよう」の授業（5回目の授業）>

(授業5)

ねらい：手で触れたり、持ったりして、見えないボックスの中のものを推測し、「はじめ」「なか」「まとめ」を意識しつつ「どうしてかというと～だから～」を使った説明文作りをし、発表する。それらを通して、説明文を作ったり、周りの人に説明したりする力を高める。
教材・教具：「はじめ」「なか」「まとめ」を表記したカード、「どうしてかというと～」「だから～」を表記したカード。プリント用紙。

展開：①はてなボックスを使った事例をとおしながら「はじめ」「なか」「まとめ」を意識しつつ「どうしてかというと～だから～。」を使った文章の書き方、発表の仕方を聞く。(5分)
②一人ずつ、はてなボックスの中に手を入れて、触れたり、持ってみたりする。(10分)
③箱の中を推測し文章を書く。(10分)
④推測した箱の内容について発表する。(15分)

「はてなボックス」を使っての授業を行った。「どうしてかというと～だから～」を使っての文章を書いたり、話したりするようにということをねらって取り組んだ。「はてなボックス」はいろいろな学習場面で用いる教具であるが、どの生徒も興味をもって取り組んだ。見るのはなく触ったり持ったりするだけで、それが何なのかを推測する活動である。「箱の中には○○が入っています。どうしてかというと、○○○○○です。だから、箱の中には○○が入っています。」というような説明文、そして発表するということを期待して発表させた。文章は非常に自然に書け、発表もスムーズになってきた。しかし他の生徒が言ったり、書いたりしたのを見て、同じように書いたり、言ったりする生徒が多く見られた。授業は効果的であったが、教具をより工夫する必要があると思われた。時間配分は適切で、どの生徒も意欲的に活動した。

オ)「小箱の中のものを説明しよう」の授業から

<表9 「小箱の中のものを説明しよう」の授業（9回目の授業）>

(授業9)

ねらい：密閉された小さな箱の中のものを推測し、文章作りをし、発表する。それらを通して、説明文を作ったり、周りの人に説明したりする力を高める。

教材・教具：「はじめ」「なか」「まとめ」を表記したカード、「どうしてかといふとー」「だからー」を表記したカード。プリント用紙。

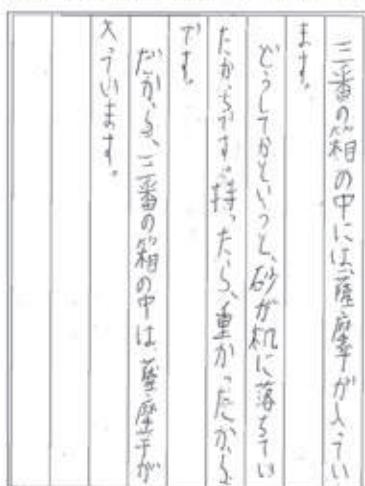
展開：①小さな箱の中の内容を推測し文章を書くことの事例を見たりしつつ、文章の書き方、発表の仕方を聞く。生徒に、よい文章、発表であるか否かを「どうしてかといふとーだからー」の使用、さらに「はじめ」「なか」「まとめ」の構成から検討させることで、文章の書き方、発表の仕方の力を高める。(10分)

②グループ別に箱を受け取り、箱の中がなんであるかについて話し合う。(10分)

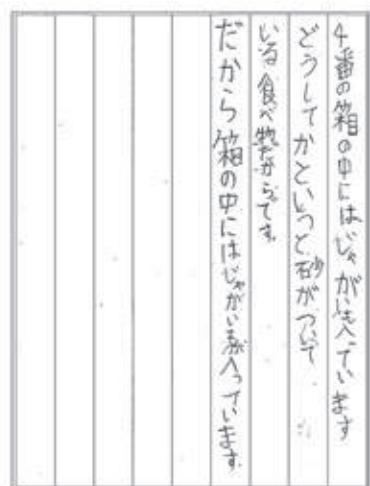
③一人ひとりが箱の中のものを推測し、文章を書く。(10分)

④箱の内容について発表する。(10分)

図2、図3は、本時で生徒が書いた説明文の一部である。



<図2 生徒Cが書いた説明文>



<図3 生徒Fが書いた説明文>

図2、図3に示すように、まだ十分な説明文ではないが、大分スムーズにこれらの文章を書くようになった。発表は、基本的に自らが作成した文章を見ての発表であるが、そのようなものを見なくとも発表する様子が少しずつ見られるようになった。また、この授業後の日常の会話の中でも、ある生徒であるが、「どうしてかといふとーだからー」を使って説明しようとする様子も見られた。本授業では、生徒が3名ずつ（当日7名中1名欠席）に分かれ、話し合った上で、密閉された複数の箱の中を推測するようにした。箱も一つではなく複数の箱を準備し、自らが説明する箱を決めて書き、発表することにした。終始どの生徒も意欲的であった。それぞれのグループ内で3年生が司会者用のカードを使い、また発言する生徒も発言カードを使って説明的に話す機会をもち、さらに、それを説明文として書き、最後に、みんなの前で説明的に発表するという3つの段階を踏んだことが多くの生徒に効果的であった。

カ)まとめ

本事例においては、「話す」ことでの生徒の課題を明らかにすることから出発し、現状のカリキュラムの中の单元「説明文や物語文を読もう」の中で取り組むことにした。成果は上記の通りである。いわゆる「話す」中で主に「説明的に発表するができる」ことをねらって取り組んだが、授業を行い、事例研究として取り上げる中から、個々の生徒によって異なる障害に関係なく、どの生徒にとっても取り組むべき授業の有り様が明らかになったと思われた。授業者として、授業開始前の準備は当然のことである。そこにおいては目標の焦点化、少なくとも具体的な目標であること、教材・教具は対象

とした子どもたちに合ったもの、いかなる場合においても称賛を大切にすること等は、日々授業を行う者にとって当然のことである。さらに、授業開始時に授業ラインの提示、活動内容のショート化、多様な活動、パターン化は、少し見通しがもちにくい生徒や、集中力の弱い多動傾向の生徒の指導では欠かせない手立てである。そのような手立てを行うことで、そこまで支援を必要としない生徒にとっても授業が分かりやすくなった。「約束カード」は、授業中に教室から飛び出したり、私語が多かつたりする生徒に対し積極的に使うようにしたが、日常的には多くをロールプレイと組み合わせて活用する。今回の研究のように授業で単独に用いても効果的であった。授業を成立させ、生徒を授業に参加させ、授業の面白さに気付かせるための出発点に立たせるための重要なツールであると改めて判断できた。本事例の授業においても、叱らず、繰り返し働きかけ、できたら褒めることを根気強く続けることが大切であることが再確認させられた。

文章の読み取りや書く指導で三段構成「はじめ、なか、まとめ（おわり）」に着目し、それに「どうしてか」というと～だから～」を組み合わせて、説明文を書くこと、また説明的な発表ができるようする指導の手立ては、とても効果的であった。しかも、「なか」の内容である説明の根拠として、経験したこと、人に尋ねたり文献を調べたりしたことに絞ったことで、生徒が取り組みやすく、容易に説明を説明らしく表現できた。ただ、それは、本来、説明文の指導で重要であると語られる論理的な思考とは程遠いものかもしれない。それらについては、今後の検討が必要であると思われる。

（2）事例2：言葉のやり取りを楽しみ、伝わった喜びを感じる授業づくり～教師の働きかけに着目して～（国語Bグループの取り組み）

国語Bグループでは、これまで「自己紹介をしたり、経験したことを話したりしよう」という單元で「二語文、三語文で話す」「見聞き、経験したことを話す」という内容で指導を行ってきた。毎時間テーマを決め、そのテーマに沿って話したい内容を決め、自由に話していくという形で授業を行ってきた。国語Bグループの生徒は、授業の中での発言も活発であり、自分の経験を話したい、伝えたいという意欲は高く、テーマを決めるとき積極的に自分の経験を話すことができた。その結果、自分の名前や好きな食べ物、趣味などを相手に伝わるように話すことができるようになったり、「〇〇に行きました。」「〇〇をしました。」「楽しかったです。」といった自分の経験を簡単に話したりすることができるようになった。しかし、より詳しい内容を話そうとすると、相手に伝わるように話すことができなかつたり、簡単な質問にも答えられずに急に自信がなくなってしまったり、話しているうちに話の内容が分からなくなったりすることがあった。

そこで、国語Bグループでは生徒の話したい、伝えたいという意欲を大切にしながら、より詳しい内容を話すことができるようになり、生徒同士がやり取りを楽しみ、伝わった喜びを感じることができる授業づくりをしたいと考えた。

ここでは、題材名「夏休みの思い出を話そう」の取り組みを例に国語Bグループの授業づくりの実践について述べる。国語Bグループの生徒たちは、話す意欲は高い。この意欲を保ちながら、さらに言葉のやり取りを楽しみ、話す喜びを感じる授業にするためには、教師が生徒の話を引き出し、伝わったという満足感をもたせ、言葉でのやり取りを楽しませることができるような働きかけが大切だと考えた。そこでBグループでは「教師の働きかけ」に着目し授業づくりを行うことにした。教師の働きかけとして①相手に分かるように話し、言葉でのやり取りを楽しむための働きかけ、②伝わった喜びを感じさせるための働きかけ、この2つの視点で教師の働きかけを工夫することにした。

①言葉のやり取りを楽しむために

ア) 相手に伝わるように話す

国語Bグループの生徒の実態は以下のとおりである。

| 名前（学年） | 実 態 |
|-----------|---|
| A (3年) | <p>○特に印象に残ったことだけを積極的に話そうとする。印象に残ったことを最初に話し、順番や誰がどうしたなど詳しい内容が相手に伝わりにくいことが多い。書いた文章に順番をつけるなどすると順番や時系列に気を付けて話そうとできる。</p> <p>○興味のある話や自分が気に入ったフレーズはよく聞いているが、自分の世界に入り、話を聞いていないことが多い。</p> <p>●順番や時系列に気を付けて話すこと。昨日、前、時間などを意識して話してほしい。</p> |
| B (2年) | <p>○自分の経験したことを積極的に話そうとする。伝えたいことを「行ったよ」「買ったよ」など単語で伝えることが多い。「どこ」「だれ」「どうした」などを詳しく尋ねると、自分の経験を分かりやすく話すことができる。早口で話すため、聞きとりにくいことがある。</p> <p>○友達の話はよく聞き、内容もよく理解できるが、最後まで話を聞かずに、話の途中で話し出すことがある。</p> <p>●ゆっくりと話す。助詞を使い、文章の形で順序よく話してほしい。</p> |
| C (2年) | <p>○自分の経験したことを積極的に話そうとする。助詞を使わずに話すことが多い。自分の経験と願望などを区別して話さないため、内容が正しく伝わらないことがある。「だれ」がしたことなのかを整理するなどの支援が必要である。</p> <p>○友達の話をよく聞き、自分の感想を言うことができる。</p> <p>●自分の経験など事実を話してほしい。助詞を使って話してほしい。</p> |
| D (2年) | <p>○自分の経験したことを積極的に話そうとする。自分の経験を上手に話すことができる。やや複雑な内容になると上手く表現できないことがあり、状況を詳しく聞き出し整理してやるなどの支援が必要である。</p> <p>○友達の話をよく聞いているが、聞いた内容を正しく理解していないこともある。</p> <p>●様子や状況を詳しく話すことができるようになってほしい。</p> |

※●がそれぞれの生徒のねらいであり、話すときに気を付けてほしいポイント

言葉のやり取りを楽しむためには、まず話している内容が正しく相手に伝わることが大切である。しかし、より詳しい内容を伝えようとするとなかなか伝わらないことが多かった。詳しい内容が伝わらない、話しているうちに話の内容が分からなくなる原因の1つに生徒の話し方が挙げられるのではないかと考えた。

- ・だれ、どこ、いつなどの話の基本的な情報の説明が不足している
 - ・時系列がはつきりしないため、話のつじつまが合わない
 - ・主語が抜けたり、助詞の使い方が間違っていたりするため正しい内容が伝わらない
 - ・思いついたことを単語で話すため、詳しい内容が分かりにくい
 - ・状況に応じた適切な言葉が思い浮かばない
- などが挙げられた。これらの実態から、相手に分かるように話すために、授業では自分の経験を話すときに次のことを生徒に意識させることにした。

＜話すときのポイント＞

- ①5W1H（いつ、どこ、だれ、何、なぜ、どんな）を可能な限り話の中に入れること。
- ②出来事の順番に気を付けて話すこと。
- ③助詞を使い、主語を必ず入れて文章で話すこと。
- ④様子や気持ちを話すこと。

以前から5W1Hを入れて話すこと、気持ちを話すことを生徒に伝えていたが、本研究の授業づくりでは、生徒が話すときのポイントを覚え、自然に意識して話すことができるようになってほしいと

いう順いから授業の度に毎回ポイント①～④を確認した。また、生徒の実態に合わせて特に意識してほしいポイントを決め、そのポイントを意識して話すことを確認することにした。

イ) やり取りを楽しむ

Bグループの生徒たちは、友達の話には興味はあるが、うまく感想を伝えたり、疑問に思ったことを相手に伝えて、答えを聞いたりすることには慣れていた。友達の話を聞いて、声をあげて笑ったり、「えーいいなあ」といった反応はあっても、やり取りとしては成立しないことが多かった。また、質問をさせると、すでに話したことを尋ねたり、まったく関係のない答えを言ったりすることが度々あった。

人と人とのコミュニケーションを考えたときに、一方的に話すだけではコミュニケーションは成り立たない。話を聞いてくれる人がいて、お互いに話したり、聞いたりといったやり取りが成立してはじめてコミュニケーションが成立する。相手に自分の話が伝わった喜びや聞いてもらったという嬉しさがコミュニケーションの喜びであり、また話をしたいという意欲につながるのではないかと考えた。友達の質問からさらに自分の経験を思い出し、話が広がっていくこともあり、やり取りの楽しさを感じることができる。そのようなやり取りの楽しさを生徒に是非感じてほしいと考えた。

そこで、授業では話を聞いて、疑問に思ったことや感想などを話す時間を設けることにした。質問や感想がスムーズには出ないことも想定し、質問のヒントになるように実際の授業では質問カードを準備したり、教師が生徒の表情やつぶやきなども丁寧にひろい、言葉を補いながら質問をさせたり、答えを引き出したり、やり取りを深めることができるように配慮した。

②話す喜びを感じるために

人が話をするときに大切なことは、相手に話したい、話を聞いてもらいたいという「話す意欲」ではないかと考えている。話す意欲がなければ、どんなに上手に話すことができても、相手に話すことはできないし、相手に伝わることはない。逆にどんなに拙い話し方でも話したい、伝えたいという意欲があれば、相手に伝わるものである。一方で障害のある生徒の場合、発音がはつきりしない、言いたいことがうまくまとまらず何と言っていいのか分からぬなどの理由から話す意欲に乏しかったり、話すことに自信がなかったりすることがある。Bグループの生徒達も積極的に話そうとし、話したいことはたくさんあるが、話しているうちにうまく内容を伝えられずに「分からない」と急に意欲が乏しくなってしまうことがある。

これまで国語の授業では話す意欲を大切にし、その意欲を引き出すことができるよう支援をしてきた。本研究の授業づくりでは、生徒の話す意欲を引き出す支援の方法を整理し直し、生徒が話す意欲を失わず、楽しくコミュニケーションができる環境を整えることにした。

話す意欲を育てるという視点から次のことに重点をおいた働きかけを心がけたとした。

＜教師の働きかけのポイント＞

- ①生徒の発言を十分に待ち、相槌を打ったり、称賛したりすることを心がける。
- ②話したいことを上手く伝えることができない生徒には、話が伝わるように言葉を補ったり、話し方のモデルを示したりする。
- ③楽しい雰囲気作りを心がける。
- ④身振りや行動での表現も認め、適当な言葉で言語化する。

③授業の実際

○目標

- ・夏休みの思い出を友達に分かるように話す。
- ・友達の話を興味をもって聞き、分からなかったことなどを質問する。
- ・夏休みの思い出を積極的に話そうとしたり、友達の話を最後まで聞いたりする。

○学習過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 準備 |
|---|---|-------------------------------|
| <p>1 前時の学習を思い出し、本時の学習を知る</p> <p>○前時に夏休みの思い出を話したことなどを思い出す</p> <p>○話すときのポイントを知る</p> <p>○聞く時のポイントを思い出す</p> <p>話すときのポイントに気を付けて話すと、みんなによく分かります。話すときに意識してくださいね。</p> | <p>○前時の学習を思い出すために、前時で何を学習したのかを問いかける。前時のワークシートを見ることで、「夏休みの思い出」を話したことを思い出させる。</p> <p>○前時の学習を思い出し、「相手に伝わるように話すため」には、話し手のポイント①「いつ」「どこ」「だれ」「なに」「どんなこと」などを話すこと、②時系列、③助詞を使い文章で話すこと、④様子や気持ちを詳しく話すことに気付かせたい。ポイントカードを黒板に貼り、本時でもポイントを意識して話すことを再度確認する。</p> <p>○4つのポイントの中から日頃の生徒の話し方を参考に、本時で特に「頑張りたいポイント」を生徒一人ひとり決める。</p> <p>○前時に夏休みの思い出を話した2人は、今日は話を聞くこと、前時に話を聞いた生徒2人が話をすることを伝える。</p> <p>○話を聞く2人は、話の最後に質問をしたり、感想を言ったりすることを伝え、聞き手のポイント①相手の顔を見て話を聞く ②最後まで話を聞く、のポイントを確認する。</p> | <p>ポイントカード</p> |
| <p>2 夏休みの思い出を話す</p> <p>○自分が話したいことを決める</p> <p>○ポイントに気を付けながら話す</p> | <p>○本時で話をする生徒2人は話したいテーマを決める。すぐに決められないときには、思い出す手がかりとなるよう夏休みに関する話題を提供したり、特別な出来事ではなくてもよいことを伝えたりする。</p> <p>○お互いの顔が見やすいように座席の配置を変える（備考参照）。</p> <p>○順番を決め、話す。何を話したのか分かるように、話した内容を簡単に板書する。ポイントの確認がしやすいように、なるべく生徒が話したとおり板書する。また、本時の最後に生徒が話したことをワークシートにまとめるときに視写できるように聞きなれないことばや表記の難しいカタカナなども板書しておく。</p> | <p>ポイントカード</p> <p>ホワイトボード</p> |

ああ・・・。こんな形のね。棺っていうんだよ。亡くなった人を入れる箱のことね。



こんな・・・です。



- 友達の話を聞き、質問したり、感想を言ったりする

- 話が終わったら、聞き手の生徒に質問や感想を尋ねる。質問がでないときは、質問カードから質問するようにする。また、感想がでないときには感想の例を提示したり、聞いているときの表情や発言などから生徒なりの感想を引き出したい。
- 質問をしたり、感想を言ったりするときには、丁寧な言い方や答えを最後まで聞くことにも注意させたい。
- 生徒同士の会話が楽しい雰囲気で進むように話の合間に相槌をうつたり、称賛したりする。
- 質問に答えたり、感想を言ったりする中で夏休みの思い出について詳しい内容やその時の気持ちを引き出し、話の内容を整理する。

質問カード

いとこの〇〇君は
何年生ですか？



12歳です。小学校6年生です。



- 答えにつまるなど適当な言葉がみつからないときは、答えのモデルを示したり、適当な言葉で置き換えたりする。
- 板書した内容を見ながら、話すときのポイントを確認する。「頑張りたいポイント」を押さえていないときには、全員でポイントを確認しながら付け加えや訂正をする。

| | | |
|----------|---|-------------|
| | <p>付け加えや訂正後もう一度話をする。ポイントを意識して話すことで「相手に伝わったこと、分かってもらえたこと」を感じことができるように大いに称賛する。</p> <p>○二人目の生徒も同じ手順で話をする。</p> | |
| 3　まとめをする | <p>○話をした生徒は、「自分が話した内容」、話を聞いた生徒は、「聞いたこと」を作文にまとめる。話すときのポイントを意識しながら書くように再度ポイントを確認する。漢字が分からなかったり、カタカナの表記が難しかったりする場合は、板書を視写させる。</p> <p>○「聞いたこと」を書くワークシートは、書く内容を限定し、聞いたことを簡単にまとめることができる形式にする。</p> <p>○「頑張りたいポイント」を再度確認し、ポイントを意識して話したことで夏休みの思い出が友達に伝わったことを確認し、大いに称賛する。日頃の生活の中でもポイントを意識して話すと相手に伝わり、友達や家族との会話も楽しくなることを伝える。</p> | ワークシート（2種類） |

④考察

ア) 言葉のやり取りを楽しむために

「夏休みの思い出を話そう」の授業では、4人の生徒がそれぞれに話したいことをすぐに決め、早く話したいという意欲十分で授業に臨むことができた。これまでの授業の積み重ねから相手に伝わるポイントも十分に意識して話すことができるようになった。

「いつ」「どこ」「だれ」などの5W1Hを意識させることで自分の経験を場所や時間、どんな人がいたのかなどを詳しく思い出し話すことができるようになった。日にちや時間が思い出せないときには「いつかは忘れたけれど・・・」と前置きをして話したりするようになった。「熊本のおばあちゃんの家に・・・」「島原の松本仏壇店に・・・」など具体的な地名など出てきたり、「いとこの〇〇君、〇〇さんと・・・」と自分との関係を入れて話したりするようになった。また、以前は「誰と行きましたか?」「どこに行きましたか?」といった決まった形で質問することが多かったが、5W1Hを入れて話すように意識したことで、「一緒に行った人の年齢」や「どんな手段で行ったのか?」「どんな形だったのか?」など詳しい内容を尋ねることもできるようになってきた。5W1Hを意識することで、自分の経験を改めて思い出し、考えるきっかけになったようである。

思いついたことから話していた生徒が順番などの時系列を意識することで、自分の行動を「せみ取りに行った。せみ取りに行くと・・・」「そして夜バーベキューをした。」と朝から順を追って話すことができるようになった。「8月〇日に動物園に行き、らくだを見た。」「8月〇日に温泉に行った。」と自分の行動を日にちごとに分けて話すこともできた。また、自分の行動を詳しく話すということを意識させたことで「(お化け屋敷で)お父さんがおいでって言ったけど、怖くて手が震えて行かなかつた。」「せみ取りに行ったけど、木が切られていた。」など詳しく状況が分かるように説明する場面も増えてきた。

このように相手に分かるように話すためのポイントを整理し、伝えることで、生徒は話し方を意識し、相手に分かるようにという気持ちで話すことができるようになってきた。

これまでどちらかというと、一方的に自分のことを発表するだけで終わることも多く、やり取りを楽しむといった場面が見られることが少なかったが、話の内容が分かるようになったことと質問の時間を意図的に設けたことで生徒同士のやり取りが成り立つようになってきた。うまく自分の言いたいことを伝えることができない場合は、教師が間に入って言葉を補ったり、分かりやすく言い換えたり

する必要もあるが、質問をして、それに答え、それに他の生徒が発言をするという場面も見られるようになってきた。

イ) 話す喜びを感じるために

授業の様子をビデオに撮り、教師の支援のポイントがどのように生徒たちの話す意欲にかかわっているのか、授業を分析した。分析の結果は、以下のとおりである。

a 生徒Bの事例より

<表10 ビデオ分析表① 「生徒Bの事例」>

| 生徒B | 教師 |
|--|---|
| <p>次々に言いたいことを言っているが、教師の板書の速さも気にしている。</p> <p>「木が切られたなかった」口語体で表現する。教師の板書が追い付くのを待っている。</p> <p>板書を待っている間に、正しい文章を考えて伝える。(考える余裕ができた。)</p> | <p>「何の話ですか？」</p> <p>「熊本の話」(板書)</p> <p>生徒Bの言葉を必死で追いかけながら板書する。ところどころ、復唱している。</p> <p>「○○君ね」</p> <p>「せみ取りに行こうとしたら(板書)」</p> <p>「切られました」(板書しながら復唱する)</p> <p>「あら、大変だったね」</p> <p>生徒の気持ちに共感している。</p> |
| <p>「熊本」</p> <p>「いつから言ったか覚えとった。」「8月12日から熊本に行った。」「天草と、と、と、行きました。」「いった…」「いとこの○○君と」</p> <p>(強い口調で)「○○君！」</p> <p>「おばちゃん(板書を待って)と一緒に行きました。」「あとね・・・。」(考えている)</p> <p>「いとこと、せみ取り行こうとしたら、木が切られてなかった。」</p> <p>「木が切られました。」(教師の板書に合わせて繰り返し言う。)</p> <p>(板書を待って) 「それから夜、バーベキューをしました。」</p> | |
| | |

普段は早口の生徒Bが、ゆっくりと教師の反応を確かめながら、話すことができていた。また、「行ったよ。○○君と。」などと主語が入らず、丁寧に聞き出さないと話している内容が伝わらないことが多い生徒Bが主語を入れて話したり、「それから」などの接続詞を使って話したりしている。また、昼間の出来事、夜の出来事と順を追って話そうとしている。

このときの教師のかかわり方として

- ・生徒の発言を止めることなく待っている
- ・生徒の発言を復唱し、必要に応じて話し方のモデルを示している
- ・「大変だったね」などと生徒の発言に共感した言葉かけをしている

これらの生徒へのかかわりが自分の経験を思い出し、落ち着いて考えることができる要因になり、自分で文章を考え、話すことへつながったのではないかと考えられる。

b 生徒Cの事例より

<表11 ビデオ分析表②「生徒Cの事例」>

| 生徒C | 教師 |
|--|---|
| <p>「はい。」</p> <p>板書（島原に行った）を見ながら 「〇〇ばあちゃんです。」</p> <p>「亡くなりました。」</p> <p>「〇〇ばあちゃんのお葬式がありました。」（板書を見ている）</p> <p>書き終わって「〇〇ばあちゃんの箱に入っています。」手で動作をする</p> <p>大きい箱のジェスチャーをし直す。 「違います、棺です」の気持ち。</p> <p>ジェスチャーを交えて話をする。「正しく伝えたい」気持ちが強い様子。</p> <p>胸に手を当てる動作 「伝わったぞ！」 少し落ち着いた感じ。</p> <p>「言いたいことは、伝わったぞ。」の気持ち。</p> | <p>「そこで何か式があったのね。」</p> <p>板書「〇〇ばあちゃんの・・・。」「亡くなったので・・・。」</p> <p>「箱に入ってたの？」 小さい箱のジェスチャー</p> <p>同じようにジェスチャーをする</p> <p>「亡くなったから、お骨かな？」</p> <p>「棺かしら？」</p> <p>「箱に入ってたそうです。」「そして・・・。」</p> <p>生徒と箱の大きさについてのやり取りをする。ジェスチャーを交えながら、生徒の言いたいことを読み取りながら進める。</p> <p>相づちを打ちながら聞いている 「〇〇ばあちゃんがなくなったけど、がんばって・・・」 (目と目が合っている)</p> <p>「いいですか？」</p> |
| <p>「はい。」</p> <p>ジェスチャーをして「こーですよ。」</p> <p>「はい。」</p> <p>「はこです！」</p> <p>「ぼくは、〇〇ばあちゃんがなくなつても、頑張って行きたいと思います」</p> <p>「頑張って学校に行きたいと思います」</p> <p>丸（グー）を出す。</p> | |
| | |

生徒Cは話したいことはたくさんあるが、語彙力不足や自分の経験と願望を区別して話すことが難しいため、なかなか正確に話したいことが伝わらないことが多かった。今回も「夏休みの思い出」である「初盆」の話をするはずが、いつの間にか6月の祖母のお葬式の話をしている。このとき教師は、「夏休みの話ではない」と話を切り、改めて夏休みの思い出を話すようにすることもできた。しかし、生徒の話したいという気持ちを尊重し生徒の話を聞くことにした。

- このときの教師のかかわり方として
- ・生徒の話を止めることなく、聞くことに徹する
- ・身振りで表現したことを言葉に置き換える
- ・話したいことを丁寧に聞き出し、伝えたいことをまとめる

これらの生徒への関わりが最終的には「おばあちゃんがいなくなつても、頑張って学校に行きたい」という気持ちを引き出すことができた。そして最終的には、「伝わった」という気持ちを感じることができたようである。

⑤今後の課題

生徒たちが詳しく話をしようしたり、話をまとめようしたりするときには、教師の支援がまだまだ必要だが、「話す」ということに着目し、相手に分かるように話すことを意識させたり、生徒の話を認め、称賛したり、モデルを示したりするなど様々な働きかけをすることで、生徒達は「話す」ことの喜びを感じることができたようである。以前、生徒Cの保護者から生徒Bと生徒Cが会話をしているのだが、お互いが相手の顔を全く見ず、お互いに言いたいことを言い、話が全くかみ合っておらず異様に感じたということを聞いたことがある。だが、今では教師が間に入ることもあるが、好きなテレビやタレント、休日の話題で楽しく話す場面が見られるようになってきている。

まだまだ、文法上の間違いや語彙力不足など話し方は拙い。今後も様々なテーマで自分たちの経験を話しながら、相手に分かりやすい話し方を身に付け、やり取りを楽しむことができるようにしていきたい。

(3) 事例3：生徒の「話す」意欲を引き出す授業づくり～生徒の興味を手がかりにした様々な手立ての工夫～（国語Cグループの取り組み）

国語 C グループでは、「身近なことを話そう」という単元で簡単な自己紹介を考え発表したり、昨日あったこと（したこと）を思い出し発表したり、具体的な場面における会話の練習をしたりする学習に取り組んだ。

① 生徒の実態

国語 C グループは、3年生1名、2年生1名、1年生3名で構成されており、授業中の生徒からの積極的な会話や発表の少ない、どちらかというと教師主導で静かな雰囲気である。

一学期当初は、3年生と2年生にとって、国語 C グループの担当教師が変わり、「どんな先生だろう」、「どんな勉強をするんだろう」とある意味教師の実態把握をしていた時期かもしれない。普段の学校生活で見せる姿と国語 C グループの授業で見せる姿に少し違いがあるような印象があった。また、1年生3名にとって、担当教師が副担任ということもあり、リラックスしているように見えるが、中学部へ進学し、初めて縦割りで授業を行う生徒もあり、学習に対しては少し緊張した様子もあった。個人の実態は以下のとおりである。

| 名前（学年） | 実 態 |
|--------|--|
| A（3年） | 言いたいことを短い言葉で伝えてくることが多い。例えば、友達に対して、「はやい」「ひも」「くつ」と割と強い口調で伝えたり、教師に対しては、「しゅくだい」「くるまできた」など友達と話す時とあまり変わらない、こちらが「だれが?」「だれと?」「どうして?」「どういう気持ち?」など質問をするとやはり短い言葉で、時には動作をつけて伝えようとすることができる。 |
| B（2年） | ゆっくりとしたペースではあるが、自分から友達や教師に対して会話をしてくることが多い。話したいことはたくさんあるが、何をどのように、あるいはどのような順序で話せばいいのか難しく、言葉につまる。質問形式で聞き出すと、じっくり考えて二語文程度で答えることができる。 |

| | |
|-------|---|
| C（1年） | 発音がかなり不明瞭であり、内言語はたくさんもっているが、有声音が出にくく、話すことに自信がもてない。友達と話したいかわりたい気持ちはあるが、なかなか伝えることが難しい。教師に対して自分からかかわってくることが多くなり、具体物を見せたり、指さしをしたり、3つぐらいの選択肢から選んで答えたりすることと、意思を伝えることができる。 |
| D（1年） | 特定の人とのやり取りがパターン化しており、会話の広がりが見られない。簡単な質問に対してもオウム返しが多く、話をしている人に注意を向けることが難しく、全体での指示理解が難しい。 |
| E（1年） | 話をすることが大好きで、家族のことや好きなキャラクターの話をよくする。話したいことを話したいだけ伝えてくることがあるので、意味不明なこともあるが、質問をするとしっかりと答えることができる。しかし、初めての場面や人に話すことが恥ずかしく、顔を下に向け、声が極端に小さくなったり、話せなくなったりする。普段との差がある。 |

以上のように個人の実態を見てみると、どの生徒も話をするあるいは会話をすることそのものに困難を感じていたり、または話をしたいが上手く伝えられずに苦手さを感じていたりすることが分かる。

②指導にあたって

以上のような実態の生徒たちであるが、たくさん話をしたり、友達や先生とたくさんかかわりたいという気持ちをもっていたりすることは、休み時間や他の授業の様子からうかがい知ることができる。生徒に分かりやすい身近で具体的な内容を取り上げることで、「自分にも言えそうだ」「次は自分が発表してみよう」という意欲を引き出したい。また、どの生徒も絵カードや写真カード、具体物の理解力が高く、それらをふんだんに活用することで、指示を理解したり、発言をしたりすることの手がかりとしたい。ゲームやクイズ形式を取り入れることで、受け身ではなく、積極的に楽しんで授業に参加する姿勢をもたせたい。

③単元の目標について

授業では、ある程度の期間、何をやるのか、どういう流れで授業が進んでいくのか、どういう発表の仕方をするのか、十分に生徒が理解でき、馴染むまで同じ内容に繰り返し取り組むことにした。

その上で授業の目標を、次のように設定した。

- ・恥ずかしがらずにみんなの前に出て、発表をする。
- ・どんどん話をしたり、手を挙げて発表をしたりして、積極的に授業に参加する。

④授業の内容と生徒の様子

ア)「自己紹介をしよう」

毎回、様々なパターン（好きなものについて、家族について、休みの日にしたことについてなど）での自己紹介を考え、プリントに記入し、プリントを読みながら発表をする。生徒A、B、Eは、文章での簡単な質問を理解し、考えたことを単語で表記し、プリントに沿って発表をすることができた。発表をする際の工夫として、「マイク」を使用した。生徒にとっては、一気にモチベーションが上がり、発表することに意欲を示した。生徒C、Dは、質問が分からなかったり、あるいは理解できても考えていることを表記できずにいたりしたので、こちらで考えられる答えを3つ～5つ程度の選択肢を挙げ、その中から選んでプリントに記入するという支援を行った。生徒Cについては、当初みんなの前に立つことさえ、かなり抵抗していたが、発表する順番を本人に決めさせたり、前には出ず、自分の席で教師と一緒に発表したりするところから無理なく進めた。

イ)「ヒントを聞いて、答えよう」

身近な生活用品や食べ物、乗り物、動物などの写真(絵)カードの中から、口頭でのヒントを聞いて、それが何かを選んで答えを発表する。一人ずつ順番に行い、事前に発表の仕方を「答えは〇〇です。いいですか。」と板書し、さらにモデルを示して、発表の仕方を毎回確認した。写真(絵)カードは、確実に生徒が知っているものとし、ヒントも容易に理解できるレベルで出し、生徒が確実に正解できるようにすることで、より発表することの方に重点を置くことができるようとした。また、この授業内容に取り組む頃から、これまで前列二人、後列三人に配置していた机の並びを横一列の馬蹄形にすることで、

教師からもより一人ひとりに目が届き、また、生徒からも教師に注意を向けやすく、友達の様子も見やすい配置にする工夫を行った。授業の回数を重ねるごとに「自分にもできそうだ」と自信をもちはじめ、生徒A、B、C、Eは、「次は自分がやりたい」と手を挙げ、積極的に授業に参加する様子が見られるようになった。発表についても、生徒A、C、Eは少々恥ずかしがる様子があるものの、前に出て教師の「答えは…」の促しに続き、発表することができるようになった。生徒Bについては、支援することなく、すらすらと発表することができた。さらに、生徒Cについては、タブレット型パソコンでコミュニケーションソフトを使用し始めた。ひらがなを入力し、音声を読み上げるというので、タブレット型パソコンの操作を得意としている生徒Cは、答えの入力にとても集中したり、読み上げ音声を真似て発音したりして、これまでより、さらに意欲的な取り組みの様子が見られた。なお、生徒Dについては、教師が全体に話をしている際に、かなり頻繁に注意を向けるよう言葉かけをしなければ、ほとんどぼんやりとしていた。また、言葉かけすることで一時的に教師に注意を向けるものの、授業で何が行われているか、発表はどのようにするか、よく理解できておらず、細かくそして逐一指示をしなければ、行動できない様子で、生徒Dに対する指導や支援の在り方について課題が多くあった。

ウ)「言ってみよう」

生徒の日常に起こりうる具体的な場面を設定し、相手に対し、どのように伝えるか、教師のモデルを見て同じようにやってみる。

- ・カルピスのおかわりを求める

「〇〇先生、カルピスをください。」というモデルを真似て、繰り返しおかわりの要求をしてきた。生徒Dについては、始め、「〇〇先生」という、注意喚起をすることが難しく、「カルピスを下さい。」と言っていたので、黒板に文字で書き示すことで、モデルどおりに要求することができるようになったが、あくまでも、その場面でのパターンとして覚えて言えたにすぎない。生徒A、B、C、Eについては、注意喚起をして要求、お礼を言うところまで、とても自信をもってにこやかに伝えることができるようになった。

- ・友達に鉛筆を借りる

これも日常よくある場面で、忘れ物をしたがどうしていいのか分からない、あるいは「貸して」と



<写真1 マイクを使って発表をする>



<写真2 タブレット型パソコンでひらがなの入力をする>

言えずに、教師から言われて初めて友達に借りることが多い。やはり、「〇〇さん、鉛筆を貸して下さい。」とモデルを真似て、相手を替えながら練習を繰り返した。また、貸す人も「いいよ。」と言って、気持ちよく貸すことや、借りたら「ありがとう」とお礼を言うなど友達とのやり取りを経験することができた。

このことについても、生徒A、B、C、Eは、モデルどおりに練習を重ね、やり取りを成立させることができるようにになった。場面や物、相手が変わっても、少し促しがあれば、できるだろうと予測ができる。生徒Dについては、カルピスの要求を学習した時と同じで、伝え方を文字で示し、そのとおりに言う（読む）ことはできるが、やはり障害特性に起因すると思われる注意喚起の仕方、声の大きさの調節などコミュニケーション面での課題が残り、障害特性や知的レベルをさらに考慮した指導・支援の在り方を考えさせられた。

⑤評価と考察

ア) 評価について

以下の項目について、観察法によって評価を行った。

- ・自分が考えたことや答えをみんなの前で顔を上げ、みんなに聞こえる声の大きさで発表することができたか。
- ・発表するために、自分から手を挙げることができたか。
- ・授業に関するなどを自由に発言したり、友達の発表の様子に注意を向けたりして授業に積極的に参加することができたか。

イ) 考察

・「恥ずかしがらずにみんなの前に出て、発表をする」について

生徒Bはもともと何を発表するか十分に理解できていれば、みんなの前に出て発表することに何らためらいもなかった。しかし、教師がモデルを示したり、同じことを繰り返し言ったり、生徒Bが自ら友達の様子を観察したりすることで、さらに意欲的に発表することができた。また、生徒A、C、Eは1学期当初は、下を向いたり、声が小さかったり、前に出ることに抵抗したりする様子があった。ところが、授業の回数を重ねる毎に自信をもって前に出て発表することができ、成長を見せた。生徒Dは発表する内容が分かっていれば、発表すべきことを大きな声で堂々と発表できるが、理解できていない時には、教師の方ばかりを見て、前には出たものの何を発表すればよいか、分からないというような様子だった。

・「どんどん話をしたり、手を挙げて発表をしたりして、積極的に授業に参加する」について

生徒A、B、C、Eについては、教師の話に注目をしたり、時には短い言葉ではあるが、教師の話の合間に発言をしてきたり、自分から手を挙げたりすることができるようになった。生徒Dについては、先にも書いたように、教師の話に注目し続けることが難しく、ぼんやりとしていることも多かった。授業の内容を十分に理解し、自ら手を挙げることもなかった。

国語Cグループの生徒たちは、「話すこと」「会話をすること」に関して、何らかの困難さ、できないことに対する苦手意識をもっている。しかし、今回の研究における授業づくりを通して、ある一定の生徒の変容や成長を見ることができた。一つ目の要因は、授業づくりに対する教師の姿勢や生徒に対するかかわり方にあったと考える。それは、当然のことであるが、生徒の言葉にしっかりと耳を傾け、絶対に否定せず、生徒の言葉や行動を待つ、時には一緒にという姿勢をもち、どんな些細なことでも必ず称賛するという授業づくりの基本とも言える教師側の姿勢であり、かかわり方である。二つ目は、何を授業内容として選定し、どんな教材・教具を活用するかにあると考える。この授業では、身近で具体的な内容を取り上げ、生徒が自分にも「できそうだ」「やってみよう」と思えるような内容を選定することで、うつむき加減だった生徒の表情が、顔を上げ、大きく目を開き、授業に対する積極的・意欲的な構えに変容していったと考える。また、授業構成としては、40分の授業時間を「はじめ」「なか」「おわり」と組み立て、メインの活動をはさんで、始めと終わりには、準備と整理

としてリラックスした雰囲気で、クイズやカルタなどに楽しく取り組んだ。そうすることで、長い時間集中して取り組むことの難しい、本グループの生徒が、集中力を上手く持続させることができた。授業の流れは、始めに必ず板書をし、内容を「○○クイズ」「○○ゲーム」などと表すことも生徒の興味を引きつけることにつながったと考える。また、絵カードや写真カードなどの教材やマイクやタブレット型パソコンなど、生徒の興味をそぞろような教具をふんだんに取り入れたことも「話す」意欲に直接的、あるいは間接的に通じたと考える。そして三つ目に、モデルを示したり、発表の仕方をパターンで示したりするなどの具体的な指導の仕方である。

今回の研究を通して、生徒の「話す」活動について、国語の授業時間はもちろん、日常生活場面においても、実態が見えてきたり、課題が見えてきたりした。今後もさらに、「話す」意欲を引き出す指導はどうあるべきか、模索していくたい。



＜写真3 漢字カルタをする＞

5 研究成果と今後の課題

(1) 研究成果

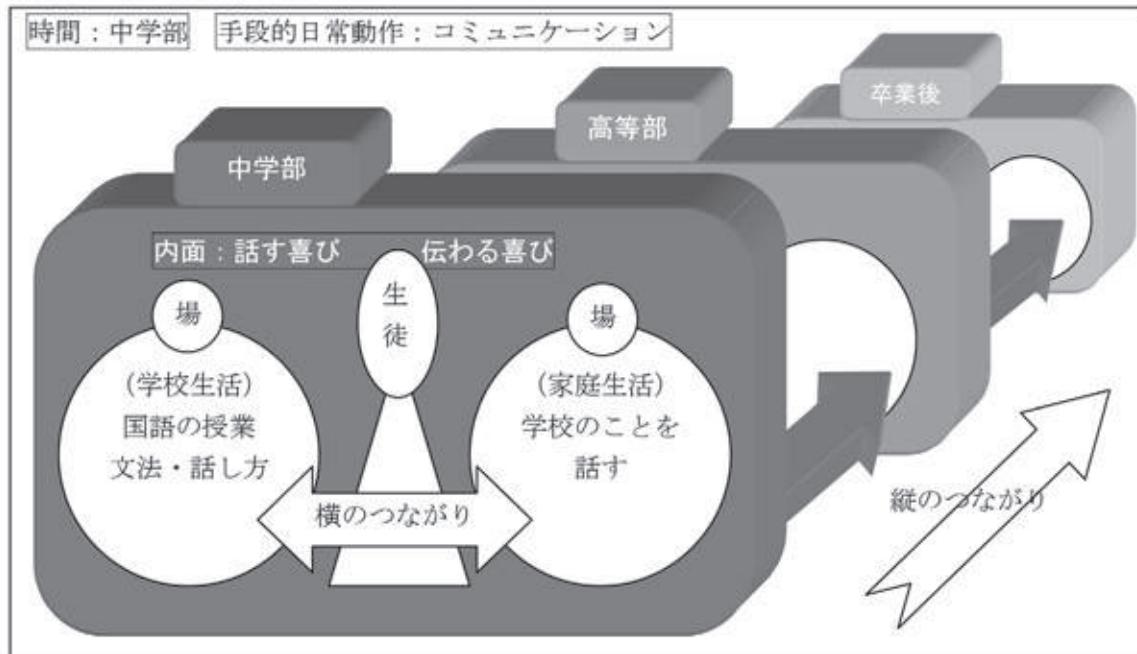
① 中学部の学習と生徒の実生活における言語活動の結びつきについて

中学部のモデルカリキュラムは、区分「くらし」(家庭生活・社会生活)、区分「いきがい」(余暇・役割仕事・芸術・進路)、区分「まなび」(言語・数量)、区分「からだ」(体づくり運動・スポーツ・健康と成長)の4つの区分で構成される。本研究は、区分「まなび」の言語における授業名「国語」に着目して授業づくりを行った。国語の授業の中で取り組んだ文法や話し方は、単独で存在するのではなく、他の区分の学習につながりをもちながら存在している。なぜならば、区分「まなび」の学習内容が生活の基盤となるものである。では、今回の国語の授業で学習した文法や話し方などを、本校ではどのように他の授業とつながりをもち、さらに実生活に結びつけようとしているのか。例えば、中学部では区分「くらし」指導形態「社会生活」の中には、「市内めぐり」という授業を設定している。長崎市内の名所、旧跡、施設などを公共の交通機関を利用したり、道を尋ねたりして訪れる事により移動方法や社会でのマナーを身に付けるという学習である。街を歩いている人に「すみません。○○はどこですか?」と尋ねる。この授業を通して、国語で学習した「話す」を実際の社会で実践できるようにしている。そうすることで、生徒たちは話すことに自信をもつことができる。そして、実践で上手くいかなかった部分については国語の授業にフィードバックしてさらに取り組むこともできる。そうやって国語の授業で学習した「話す」を実生活で活用できるようにならげている。

また授業という形だけではなく、学級活動や日常の会話などでも国語で学習した文法や話し方などを意識して取り組むことができた。例えば、帰りの会で、今日の感想を発表するときに、5W1H、時系列、主語、助詞などを意識できるように、教師の言葉かけや発表するための教材を工夫することで、国語で学習した内容を実践している。または、学校であったことを家庭で話すために、話す内容をあらかじめ学校で記入して持ち帰り、生徒が家で話したら保護者に話の内容などの感想を記入してもらう「話のノート」を活用することで、学校と家庭の横のつながりをもちながら、話す喜びや伝わる喜びといった内面を育てることもできた。また、日記の宿題の様式を、いつ、どこで、だれと、何を、という内容と気持ちを併せて記入できるものに変更して行った。話のノートと日記の内容が重なり、以前よりも話しやすさが加わったように、保護者の感想などから伝わってきた。

さらに中学部で学んだ内容は、高等部そして卒業後へと先を見据えながら発展的な縦のつながりを

もち、学習を進めていっている。この生活の場と時間軸の二つを意識した学習の方法（図4「話す」の視点から見た中学部から高等部、卒業後への発展的なつながり）が、積極的に社会参加できる人間の育成につながると考える。



＜図4 「話す」の視点から見た中学部から高等部、卒業後への発展的なつながり＞

② グループでの国語の授業づくりでの取り組みと成果について

今回の国語の授業づくりにおいて、国語Aグループの授業では、説明的な話し方について、三段構成「はじめ、なか、まとめ（おわり）」に着目し、さらに「どうしてかというと～だから～」という形式に当てはめて話せるように取り組んだ。また、「なか」の部分で説明の根拠となる内容は①経験したこと②人に尋ねたり、本を調べたりしたことの2つに絞って行った。単元の各授業内容の構成（表5）を基に授業を見ていくと、「どうしてかというと～だから～」という形式はすぐに理解することができたが、説明の根拠が変わると達成度が一旦、下がったり、横ばいになったりする。しかし、繰り返し同じ根拠で取り組むことで、また達成度は上がってきている。全体を通して見ると達成度を上下しながら確実に理解を深めている。発表のときに「『なか』がないよ。」と生徒同士で確認し合う様子が見られたり、ある生徒は、「どうしてかというと」を「なぜか」というと自分の言い方に変えてみたりと、説明して話すポイントを踏まえながら、自分なりに話しやすい言い方で伝えることができるようになってきた。日常の会話の中でも理由を相手に伝えようとか説明をしようという様子が見られるようになってきた。

国語Bグループの授業では、話すときのポイント（①5W1Hを話に入る②時系列に気を付ける③助詞を使い、主語を入れて文章で話す④様子や気持ちを話す）を毎時間確認した。さらに、生徒の実態に合わせて最も意識するポイントを絞り込み黒板に提示した。このことで、生徒は話をするときに、何に気を付けて話をすれば上手に伝えることができるのかが分かりやすくなり、話す意欲が高まったため自信をもって話すことができたと考える。また、教師側も具体的なポイントを提示し、個人のポイントも決めることで、生徒を評価する部分がはっきりし、そのことがより良い指導につながったと考える。さらに発表だけではなく話を聞き、疑問に思ったことや感想を話す時間を設定することで、双方向のコミュニケーションから話の内容が広がったり、やり取りする楽しさを知ったりすることができた。そして、ビデオ分析によって、改めて気付いたことは、教師の生徒に対する姿勢が生徒の話す意欲を育てるということが分かった。

- ・生徒の発言を十分に待ち、相槌を打ったり、称賛したりすることを心がける。
- ・話したいことを上手く伝えることができない生徒には、話が伝わるように言葉を補ったり、話し方のモデルを示したりする。
- ・楽しい雰囲気作りを心がける。
- ・身振りや行動での表現も認め、適当な言葉で言語化する。

国語Cグループの授業では、生徒の「話す」意欲を引き出す授業づくりの工夫に取り組んだ。まずは授業内容を生徒の生活場面のより具体的な内容を取り入れることで、「できそうだ。」「やってみよう。」と積極的、意欲的な構えに変わってきた。また、授業構成を「はじめ」「なか」「おわり」で意識して組み立てた。「はじめ」と「おわり」でリラックスし、楽しめる活動を入れることで、「なか」の活動に長時間集中して取り組めるようになった。さらに発表するときのモデルを教師が示したり、発表の仕方をパターンで示したりすることで、自信をもって発表できるようになってきた。また、教師が授業の中で、生徒の言葉にしっかりと耳を傾け、絶対に否定せずに、生徒の言葉や行動を待つという姿勢が、生徒の話す意欲に大きくかかわっていることも分かった。それから、絵カードや写真カードなどの教材や、マイク、タブレット型パソコンなど、生徒が興味をもちやすいような教具を取り入れることも大切である。

③ 国語の授業を踏まえた実生活の中での生徒の変容

ア) 家庭で学校のことを話す

| 時 間 わり | |
|----------|----------|
| 1月22日(火) | |
| 1 | スムーズ |
| 2 | 話す力がまだで |
| 3 | あるで |
| 4 | まだで |
| 5 | 会話 |
| 6 | |
| 下段 | 1月23日(水) |
| □ | □ |
| □ | □ |
| □ | □ |
| □ | □ |
| □ | □ |
| □ | □ |
| おはなしのじかん | |
| おはなしのひで | |
| おはなしのじかん | |

〈図5 話のノート〉

話のノート（参考資料⑤話のノート様式および内容）を用いて保護者の協力のもと家庭での会話について取り組んだ。保護者のコメントの記入内容や聞き取りから分かってきたことをまとめた。

- ・学校の時間割り順に話すことができるようになった。
- ・「〇〇について」と話すテーマを決めているので、本人も保護者も心構えができ、スムーズに話し始めるができるようになった。
- ・だれと一緒に遊んだとか主語がつくようになってきた。
- ・「今日は何があったの。」と保護者が聞きやすくなった。
- ・楽しかった、悔しかったなどの気持ちを含めた感想がつくようになった。
- ・子どもと話す機会が増えた。

国語の授業で取り組んだ文法や話し方などを使って、「話したい。伝えたい。」という意欲や話し終わった後の「伝わった。褒められた。」という達成感によって「また話そう、今日は何を話そう」と毎日少しずつだが、確実に話して伝えることが増えてきている。学校と家庭が連携することで、生徒の話す力を伸ばすことができるとわかった。今後は、国語で取り組んでいる「話す」のポイントも併せて保護者に伝えることで、保護者が「話す」のポイントにそった質問や子どもの話を聞いて不十分なところの支援がしやすくなると考える。

イ) 教師や生徒同士の日常会話

まずは教師と生徒との関わりの中で「話す」の変容についてまとめてみた。

- ・困ったことやトラブルが起きた時に、自分の行動を振り返り、「いつ、どこで、だれが、なにを」を説明できるようになってきた。
- ・教師がその場にいなかつたときに、何が起こったのかを、時系列を意識しながら話すことができるようになってきた。
- ・教師から質問されたときに、主語や述語などを入れながら答えることができるようになってきた。
- ・長い文章を話すようになってきた。
- ・話にまとめがでてきた。
- ・話す前や話しながら、考えて話すようになってきた。

国語の授業で取り組んだ文法や話し方を使う生徒が増えてきた。教師側もその部分を意識して会話するので、「それはいつなの。」「だれとしたの。」などの質問をしながら話を深めることができ日常の会話の中でも増えてきた。すると生徒は教師からの質問を受けて、もう一度言い直したり、最初から話し直したりといった、細かいフィードバックを繰り返しながらポイントを入れ込みながら会話を進めることができるようになってきた。生徒と教師が話すポイントを共通理解して会話することで、伝わりやすく、スムーズな日常会話に変わってきた。

次に生徒同士のかかわりの中で「話す」についてまとめてみた。

- ・話す機会が増えてきた
- ・お互いがテーマにそって話すことができるようになってきた。
- ・質問し、答えるといったやり取りが見られるようになってきた。
- ・「どんな気持だった。」といった内面を聞く質問が見られるようになった。
- ・主語や述語を入れて伝わるように意識して話すようになってきた。
- ・身振り手振りを多用しながらもっと伝えようとするようになった。

生徒同士の会話になると、主語が抜けたり、時系列がばらばらであったりという面が多く見られていたが、「だれとしたの。」といった意図的に主語を聞く質問や、「ちがうよ。『いつ』を入れてないよ。」など話すときのポイントを意識し、生徒同士で高め合いながら会話をする様子が見られるようになってきた。すると友達が話している内容も理解しやすく明確なものになるため、生徒同士で会話を楽しむ機会も増えてきた。ただ、話したいことを一方的に話してしまう生徒がいるので、お互いが話せるように、相槌や「次は私が話すよ。」などの相手を意識した話す力も大切だと感じた。

ウ) 学級活動などでの発表

国語の授業で取り組んだ文法や話し方の中でも、特に「いつ、どこで、だれと、なにを」といった内容を盛り込んで発表ができるように、教材教具や言葉かけなどを注意して取り組んだ。発表するときには「いつ、どこで・・・」と記入してあるボードを持ち、自分で確認しながら発表した。時系列がばらばらだった生徒が、時間割を確認しながら一つの出来事だったかを意識して発表したり、自分のことを中心に発表していた生徒が、一緒に活動した友達を思い出そうと考えたりといった変化があった。発表が伝わりやすいものになり、発表に対して苦手意識をもった生徒でも「これならできる。」と意欲も高まっている。

エ) 校外の学習の中での「話す」

市内めぐりの授業では、指定された見学地にたどり着くために、「すみません。○○はどこですか。」と通りすがりの人に聞き、教えていただいたら「ありがとうございました。」とお礼の言葉を言う活動を行った。事前学習では、尋ね方を教師と繰り返し練習し、自信をつけて本番に臨めるようにした。

当日は練習したとおりに尋ねることができたが、教えていただいているときに話を聞かなかったり、手順よく開けても忘れてしまったり、という「話す」とは違う課題が上がってきた。「話す」と同じぐらいに「聞く」は大事だということを教師間で共通理解することができた。

オ) その他

家庭学習で日記（参考資料⑥日記の様式および内容）に取り組んでいる。これまでの様式から「いつ、どこで、だれが、どんな気持ち」という穴埋めを記入した後に、日記の本文に取り組むように変えてみた。すると時系列にそって書けるようになったり、一緒に活動した友達が登場したり、話にまとまりがでたりといった様子が見られた。とても見やすく、伝わる日記になってきた。また日記の内容と「話のノート」の内容をつなぐことで、家庭での会話が伝わりやすくなってきた。

認知の時間では語彙数を増やすために、「あ」のつくものを5つ書きなさいというプリントや、しりとりや言葉遊びのプリントに取り組んだ。考えながら答えを導けるようにプリントを工夫することで、少しずつ語彙が増えてきた。

（2）今後の課題

国語BおよびCグループの授業づくりを標準化された検査からも考察した。田中ビネーV知能検査のMAから判断して、絵画語い発達検査（以下PVT-R）とLCスケールを実施した結果、対象とした生徒はそれぞれの特性を示した。2名ともPVT-Rの語い年齢は田中ビネーV知能検査のMAよりも高い結果となったものの、LCスケールでは田中ビネーV検査よりも同程度か低い結果となった。Bグループの生徒CはPVT-Rの語い年齢がLCスケールの言語理解に比べて3歳程度高い結果であった。言語表出も同程度であり、単語レベルでの理解は十分できるが、複数の単語や文になると極端に力を発揮できなくなってしまうと考えられる。Bグループで実施した授業のように生徒の発言をしっかりと受け止め、ポイントを押さえてやり取りをしながら一緒に文を作ることで、伝わったという気持ちと伝えるための方法が身につくと考える。Cグループの生徒BはPVT-Rの語い年齢がLCスケールの言語理解に比べて2歳程度高い結果であった。言語表出は語い年齢に近かったものの、指示の理解という点で何をすればよいのか理解するのに時間と支援が必要な生徒であると考えられる。Cグループで実施した授業のように、授業の流れの一部をパターン化することで、これから取り組むべきことを分かりやすくしたり、教材の工夫によってやってみようと思わせたりすることができると考えられる。標準化した検査を実施した生徒は一部であるが、PVT-RやLCスケールは言語の発達を客観的に見るために必要なものである。今回、実施した2名の生徒はこれまで考えていた実態の裏付けともなる結果であり、授業の振り返りにもなった。今後、他の生徒にも実施し発達段階による特性等も把握した授業づくりを行いたい。

国語グループの編成は4月の時点で中学部の教員で話し合いのもとに決定している。今回の研究の中で同じグループでも「話す」に関して個人的な苦手部分があり、それを明らかにすることで、より個々にあった指導や支援ができないかと考え、言語発達段階表（参考資料7言語発達段階表）の作成を行った。活用にまでは至らなかったが、これから授業づくりの中で活用しながら、さらに良いものにしていきたいと考えている。

現在のモデルカリキュラムは指導内容では、例えば「2語文、3語文で話す」となっており、指導内容に幅をもたせているが、具体性に乏しい部分があるので、授業のポイントがぼやけてしまうことがある。今回の授業づくりで用いた話すときのポイントのように具体的な内容を入れてより充実したものに改善する必要がある。また、小学部、中学部、高等部といった発展的な継のつながりからも、もう一度検討してみると必要があると考える。

今回の研究では、実生活に結びつくような授業づくりを「話す」に着目して行った。国語の授業は「話す」の基盤であり、他の指導形態とつながりをもつ時に、国語の授業で取り組んだ文法や話し方などを教師や生徒が意識して取り入れることで、国語の中の「話す」から各指導形態の「話す」へと広がりを見せる。その広がりが学校生活すべての「話す」へつながることで、生徒は話す喜びや伝わ

る喜びをもち、自信をもって話すことができるようになる。そしてさらに、家庭や身近な地域の中で話すことも、家庭と学校の連携や、校外での場の設定などによって取り組むことで、生徒の「話す」がより実生活での「話す」に結びついていく。また、高等部や卒業後のこれから先の時間も見据えながら、個人の実態を踏まえつつ「話す」に取り組むことで、ゆっくりではあるが確実に生徒が「話す」に関して成長することができると考える。またこのことは「話す」だけではなく、「聞く」「読む」「書く」といった国語の他の指導内容でも同様のことが言えるだろう。今後は他の指導内容と各区分との結びつきも意識し授業づくりを行うことで、さらに実生活に結びつく授業づくりを行うことができると考える。

《引用、参考文献》

- 石丸径一郎（2011）臨床心理学研究法 第5巻 調査研究の方法
- 上岡一世（2006）指導年齢がわかる 自立と社会参加を実現する個別の指導プログラム
- 大井学・大井佳子（2004）子どもと話す 心が出会う INREALの会話支援
- 大伴潔・大井学（2011）特別支援教育における 言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援
- 大伴潔・林安紀子・橋本創一・池田一成・菅野敦（2012）LCSA 学齢版 言語・コミュニケーション発達スケール 施行マニュアル
- 大伴潔・林安紀子・橋本創一・池田一成・菅野敦（2013）LCSA 学齢版 言語・コミュニケーション発達スケール（増補版）解説
- 大伴潔・林安紀子・橋本創一・管野敦（2008）言語・コミュニケーション発達の理解と支援プログラム
- 鎌原雅彦・宮下一博（1998）心理学マニュアル 質問紙法
- 厚生労働省（2008）保育所保育指針解説書
- 竹田契一・里見恵子（1994）子ども豊かなコミュニケーションを築く インリアル・アプローチ
- 長崎県児童家庭課（2001）ことばの相談Q&A集 監修長崎県言語聴覚士会
- 長崎大学教育学部附属養護学校（2007）教育課程の再編成 その3—自己の形成へつながる教育課程の創造—、研究紀要第17集
- 長崎大学教育学部附属特別支援学校（2009）自己を育む授業実践—こころチェックリストを取り入れた授業設計—、研究紀要第18集
- 長崎大学教育学部附属特別支援学校（2012）自己の育ちを支える小・中・高一貫した進路学習の授業の在り方を考える—「進路学習のステップ」の作成と指導形態「進路」の実践—、研究紀要第19集
- 文部科学省（2008）幼稚園教育要領解説
- 文部科学省（2009）特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）

《参考資料① アンケート用紙》 言語・数量に関するアンケート

アンケート回答用紙

I 基本的な事項についてお聞きします。

| | |
|-----------------------------|--|
| 本人について 性別 (男 · 女) | |
| 記入者について (父 · 母 · その他 []) | |

II 中学部の学習内容についてお聞きします。

やってほしい…◎ やってよかった…○ を記入してください。どちらでもない場合は空欄でかまいません。

| (話す) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
|--|------|--------|
| 1 快・不快の表情を示したり、声を出したり、一緒にいる人とかかわったりしようとする。 | | |
| 2 指さし、カード、サイン、簡単な言葉など気持ちや要求を伝える。 | | |
| 3 身近にある物の言葉を言う。 | | |
| 4 二語文、三語文で話す。 | | |
| 5 見聞き、経験したことを話す。 | | |
| 6 相手に分かり易いように三語文以上で話す。 | | |
| 7 見聞き、経験したことを自分の気持ちも交えて話す。 | | |

| (書く) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
|--|------|--------|
| 1 始点と終点を結ぶ線を書いたり、なぞり書きをしたりする。 | | |
| 2 ひらがなや簡単なカタカナや漢字使って、生活に必要な文字や単語を書いたり、視写したりする。 | | |
| 3 カタカナや漢字を使って簡単な文章や日記等を書く。 | | |

| (聞く) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
|----------------------------|------|--------|
| 1 言葉を聞いて絵を対応する。 | | |
| 2 指示されて身近な人物に渡す。 | | |
| 3 絵本等に出てくる登場人物や登場する物がわかる。 | | |
| 4 指示を聞いて離れたところにある物を取りに行く。 | | |
| 5 どこでだれが何をしたのかがわかる。 | | |
| 6 指示を聞いて見えないところにある物をもってくる。 | | |
| 7 指示を聞いて言われた通りに活動する。 | | |
| 8 長い話を聞いて大体の筋がわかる。 | | |
| 9 指示を正しく聞き取って操作したり行動したりする。 | | |

| (読む) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
|--------------------------------------|------|--------|
| 1 絵本に興味をもち、読んでもらって絵を指さす。 | | |
| 2 知っている文字を指さしたり読もうとしたりする。 | | |
| 3 身近なマークやシンボルを理解する。 | | |
| 4 教師が読む単語をまねして読もうとする。 | | |
| 5 絵本を読んでもらうことを楽しみ、その中に出てくる文字に関心をもつ。 | | |
| 6 短い文の内容を読み取る。 | | |
| 7 ひらがなやカタカナの特殊音(じゃ、じゅなど)を読む。 | | |
| 8 ロールプレイングなどを手がかりに簡単な物語の大まかな内容を読み取る。 | | |
| 9 日常生活に必要な掲示などを読む(ローマ字や英語も含む) | | |
| 10 説明文や雑誌などいろいろな文章を読む。 | | |
| 11 物語や詩を読んであらすじや登場人物の心情を読み取る。 | | |

| (数字の読み書き) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
|--------------------------------|------|--------|
| 1 20までの数唱をしたり、10までの順序数を書いたりする。 | | |
| 2 2桁の数字を読んだり、書いたりする。 | | |
| 3 3桁以上の数字を読んだり、100までの数字を書く。 | | |

| | | |
|-------|--------------------------|--------|
| (数える) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
| 1 | 指さしをして10までの数を数える。 | |
| 2 | 10のまとまりをつくって数える。 | |
| 3 | 10のまとまりをつくって100までの数を数える。 | |

| | | |
|--------|---------------------------|--------|
| (合成分解) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
| 1 | 具体物や数字などで10までの数の合成・分解をする。 | |
| 2 | 10までの数の合成・分解を数字でする。 | |

| | | |
|--------|------------------------------------|--------|
| (加法減法) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
| 1 | 縁り上がりのない足し算を具体物や半具体物を用いてする。 | |
| 2 | 10までの引き算を具体物や半具体物を用いてする。 | |
| 3 | 1桁から2桁までの縁り上がりや縁り下がりのある足し算や引き算をする。 | |
| 4 | 足し算・引き算の筆算方式を知り計算の仕方がわかる。 | |

| | | |
|--------|--------------------|--------|
| (比較測定) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
| 1 | 2者間の大小比較をする。 | |
| 2 | 多少、長短を比較する。 | |
| 3 | 長さや重さの単位がわかり、測定する。 | |

| | | |
|------|-----------------------------|--------|
| (時計) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
| 1 | 生活に必要な特定の時刻がわかる。 | |
| 2 | 毎正時、30分単位、5分単位、1分単位の時刻がわかる。 | |
| 3 | 大まかな24時刻、午前・午後がわかる。 | |
| 4 | 時計を読み、○分後、○時間かかるなどの計算をする。 | |

| | | |
|------|---------------------|--------|
| (お金) | 学習内容 | ◎・○・空欄 |
| 1 | 金種の弁別をする。 | |
| 2 | 金種の弁別ができ、貨幣価値を比較する。 | |
| 3 | 金額に見合ったお金を支払う。 | |

III 家庭での様子についてお聞きします。

お子様の現在の様子について、該当する項目の「」に○をつけてください。また、右の欄には高等部卒業まで身につけてほしいとどの程度思われるか「」に○をつけてください。

| <①朝の様子> | | 現在の様子 | | | | | 高等部卒業まで身につけてほしい | | | | | |
|---------|-------------------------------|-------|------|------|--------|------|-----------------|-----|-----|------|-------|------|
| | 内 容 | よくする | ときどき | しあなり | しまつないく | わからな | 思う | とても | 思うや | 思あまり | 思まつなく | わからな |
| 1 | 起きたときに「おはよう」のあいさつをする。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | カレンダーを見て「今日は○月○日」と読んだり答えたりする。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 洗顔料や歯磨き粉など適切な量を使う。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 時計を見て急ごうとする。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 時計を意識して家を出ている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(「わからない」と回答された理由やチェック項目以外で身につけてほしい内容があれば教えてください。)

| <②帰宅後の様子> | | 現在の様子 | | | | | 高等部卒業まで身につけてほしい | | | | | |
|-----------|-------------------------------------|-------|------|------|--------|------|-----------------|-----|-----|------|-------|------|
| | 内 容 | よくする | ときどき | しあなり | しまつないく | わからな | 思う | とても | 思うや | 思あまり | 思まつなく | わからな |
| 1 | 学校であったことを家庭で話をする。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 簡単な指示(○○とて~など)を聞いて、そのとおりにする。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 「皿を3枚とて」など言われたとき、数を数えて持ってくる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 | ジュースなどをコップにつぎ分けるときに、均等に入れることができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 「長い方(重い方など)を持ってきて。」と言われそのとおりに持ってくる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 | 洗濯物などを、父、母、自分などに分けることができる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 | 使った物を元あった場所に片づける。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 8 | お風呂でボディーソープやシャンプーなど適切な量を使う。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 9 | 電話に出て受け答えをする。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(「わからない」と回答された理由やチェック項目以外で身につけてほしい内容があれば教えてください。)

| <③家族と会話の様子> | | 現在の様子 | | | | | 高等部卒業まで身につけてほしい | | | | | |
|-------------|----------------------------|-------|------|------|--------|------|-----------------|-----|-----|------|-------|------|
| | 内 容 | よくする | ときどき | しあなり | しまつないく | わからな | 思う | とても | 思うや | 思あまり | 思まつなく | わからな |
| 1 | 自分の気持ち(嬉しい、好き、恐い、嫌など)を伝える。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 痛いとき、具合が悪いとき伝える。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 困ったことがあつたら尋ねる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 最後まで人の話を聞く。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 5 | 聞き取れないときに、尋ねなおす。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 | 話す人を見て聞く。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 | お笑い(冗談)を聞いて笑ったり、言ったりする。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(「わからない」と回答された理由やチェック項目以外で身につけてほしい内容があれば教えてください。)

| <④学習の様子> | | 現在の様子 | | | | | 高等部卒業まで身につけてほしい | | | | |
|----------|------------------------|-------|------|-------|--------|------|-----------------|-----|------|------|------|
| | 内 容 | よくする | ときどき | しあなまり | しまつないく | わからぬ | 思 う | 思 や | 思 わま | 思 まつ | わ から |
| 1 | 鉛筆やペンをもって書こうとする。 | | | | | | | | | | |
| 2 | 日記を書く。 | | | | | | | | | | |
| 3 | 自分の名前を書く。 | | | | | | | | | | |
| 4 | 自宅の住所を書く。 | | | | | | | | | | |
| 5 | 親の名前を書く。 | | | | | | | | | | |
| 6 | 手紙、年賀状などを書く。 | | | | | | | | | | |
| 7 | 助詞(は、を、に、など)をうまく使って書く。 | | | | | | | | | | |
| 8 | 自分の身長、体重を答える。 | | | | | | | | | | |

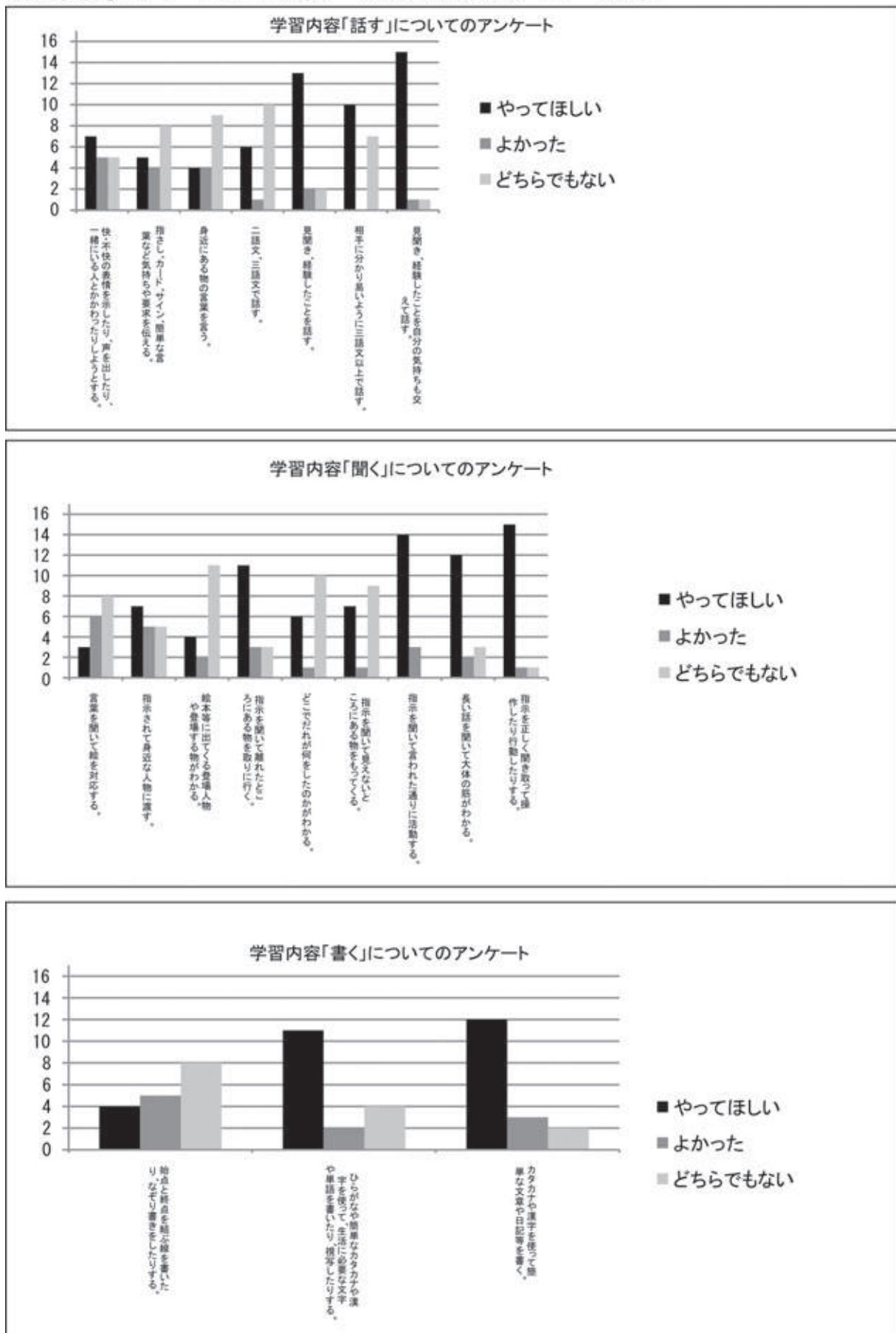
(「わからない」と回答された理由やチェック項目以外で身につけてほしい内容があれば教えてください。)

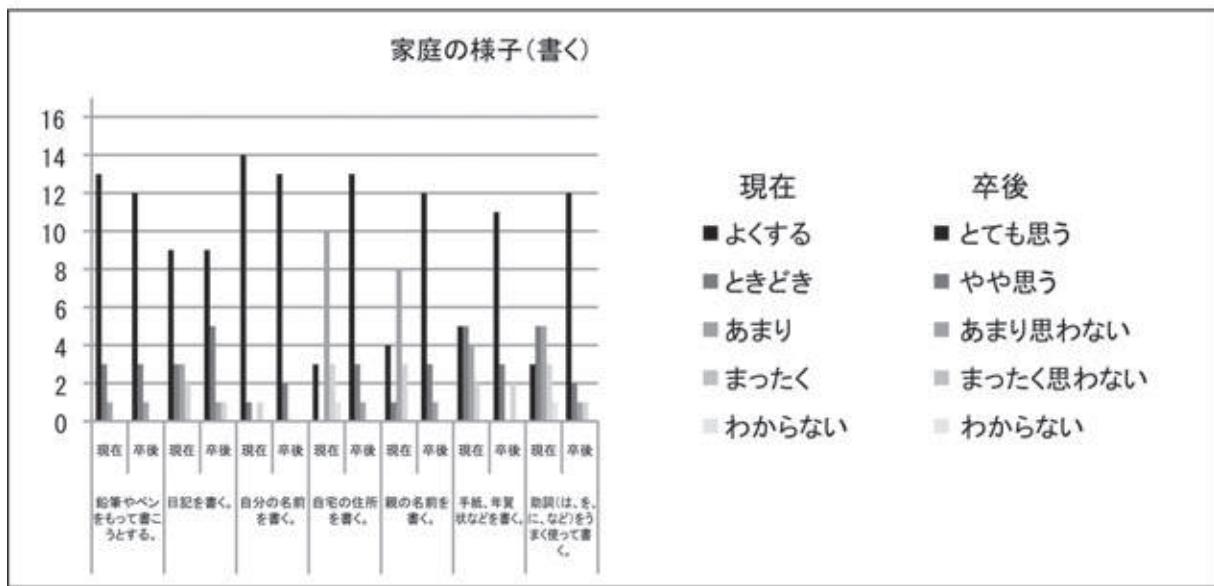
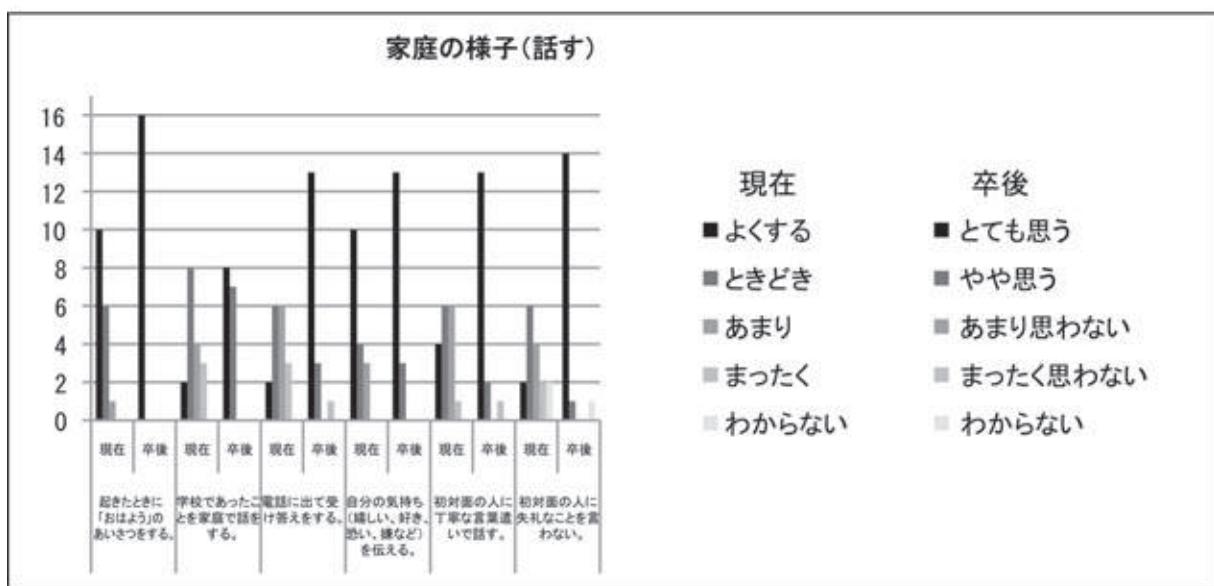
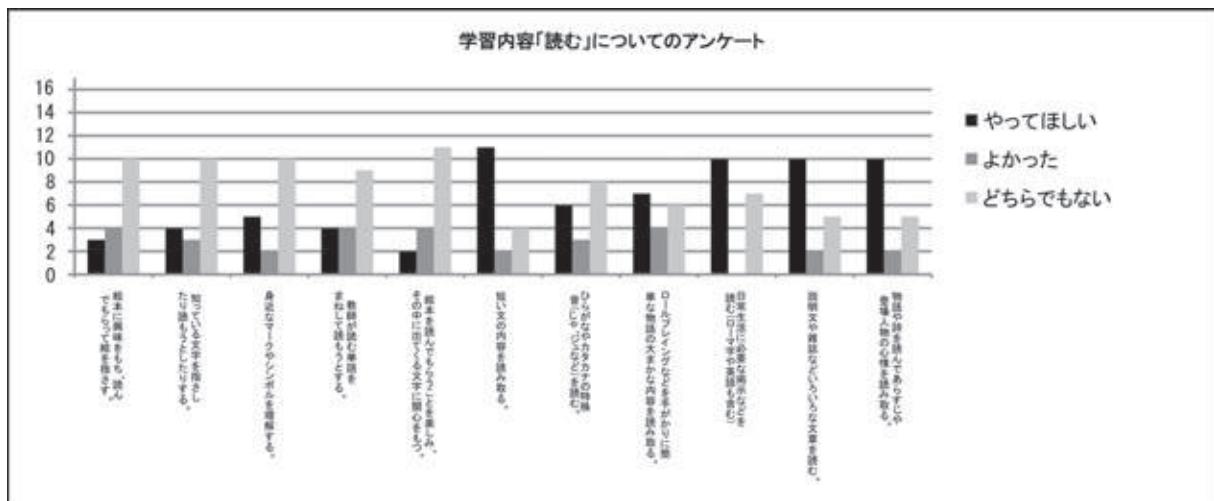
| <⑤余暇、外出時の様子> | | 現在の様子 | | | | | 高等部卒業まで身につけてほしい | | | | |
|--------------|---------------------------------|-------|------|-------|--------|------|-----------------|-----|------|------|------|
| | 内 容 | よくする | ときどき | しあなまり | しまつないく | わからぬ | 思 う | 思 や | 思 わま | 思 まつ | わ から |
| 1 | 本、漫画、雑誌などを読む(見る) | | | | | | | | | | |
| 2 | 新聞(テレビ欄を含む)を読む(見る) | | | | | | | | | | |
| 3 | 好きな曲を選択してCDを再生する。 | | | | | | | | | | |
| 4 | 「○時からドラえもんがある。」など時間を意識してテレビを見る。 | | | | | | | | | | |
| 5 | 「○時○分に出発するよ。」と言われて時間までに準備ができる。 | | | | | | | | | | |
| 6 | 初対面の人に丁寧な言葉遣いで話す。 | | | | | | | | | | |
| 7 | 初対面の人に失礼なことを言わない。 | | | | | | | | | | |
| 8 | 看板などの文字を読む。 | | | | | | | | | | |
| 9 | スーパーやコンビニなどに一人で買い物に行く。 | | | | | | | | | | |
| 10 | 金額に見合ったお金を支払う。 | | | | | | | | | | |

(「わからない」と回答された理由やチェック項目以外で身につけてほしい内容があれば教えてください。)

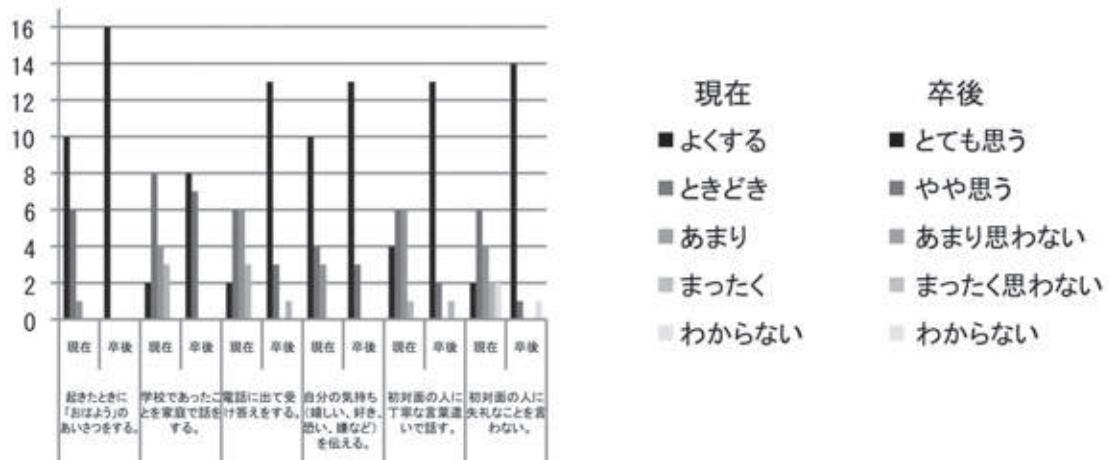
IV その他に、身につけてほしいことや、現在困っていることがありますたら教えてください。

《参考資料②アンケート調査の結果》 言語数量に関するアンケート結果

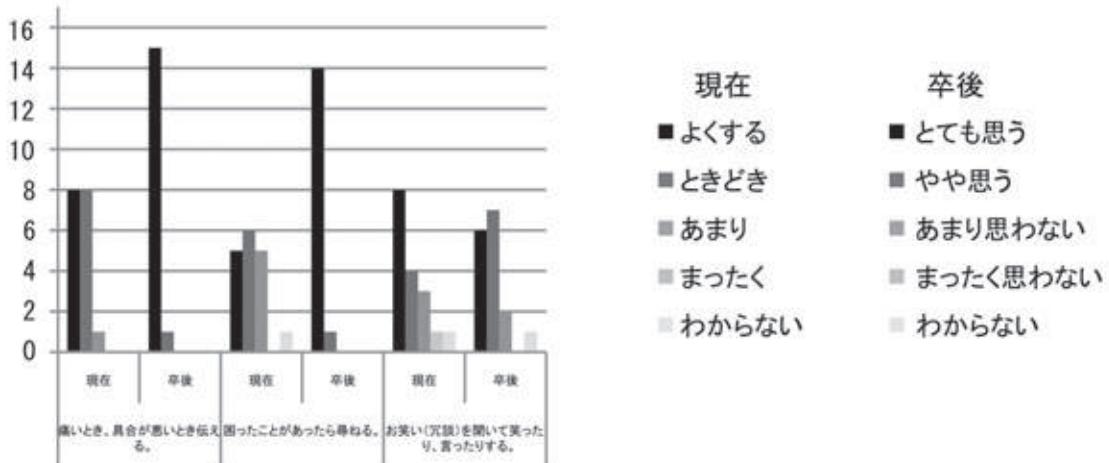




家庭の様子(話す)



家庭の様子(その他)



《参考資料③K J法分析結果》
なぜ「学校の話を家でしない」のか？(KJ法を行った結果)

| | |
|-------------------|--|
| ① 思春期 (反抗期) | 伝えようとする気持ちが不足している 話す必要性を感じていない 親や家族に話すことがわざらわしい年齢(思春期) 話したくない(反抗期) 面倒臭い 恥ずかしい 家に帰ると疲れて何もしたくなくなってしまう 他にしたいことがある 話すことより他にしたいことがある 話す必要性を感じない 話をしなくとも家では他にすることがある(TV、ゲームなど) 話すことよりもタブレット型パソコンやゲームなどにはまってしまう 学校の活動よりも関心が高いものがある |
| | 伝えて何が楽しいの 話をしても特に何もなかつたから これまで伝わらなかつた 話をしてもしかられるばかりで話したくない 話をしても理解してもらつたり、共感してもらつたつたりの実感がなく意欲につながらない 話しても通じないのであきらめる 聞き返されて嫌になっている 話すことに自信がない 話すことへの苦手意識 |
| | 保護者に学校のことを聞かれない 親と一緒に毎日日記を書くので、そこで話したことになる 保護者が子どもの学校生活にあまり興味がなく聞こうとしない 話を聞きたいが、保護者に時間的、心理的に余裕がない 保護者が子どもにどう問い合わせたら良いか分からぬ。 保護者が日々の学校生活の様子を尋ね聞く習慣がない 保護者が丁寧に学校での活動について聞こうとしない 保護者が連絡帳の情報で満足している 子どもが話したことについて内容がよく理解できず、深めようとしない。 話す時間がない 保護者が学校の具体的な活動を見たことがないので、子どもが話しても分からぬ 保護者に学校以外の話をふられない |

| | |
|----------------|-----------------------------|
| ④ 話をする環境でない | 聞かれてないので言わない |
| | 特に聞かれないから |
| | 話をしなくともそれなりにやってこれている。不自由しない |
| | 場面がない(強化されていない) |
| | 子どもに話す習慣がない |

| | |
|------------|--------------------------------|
| ⑤ 発達・機能 | 本人が話したいこと、親が聞きたいことが違うため話さない |
| | 会話がかみ合わないので面白くない |
| | 学校であったことを家族と共有すること自体に意味を見いだせない |
| | 機能的問題(言葉がでない、不明瞭な発音) |
| | 話す機能が不十分 |
| | 話す手段がない |
| | 話しても通じないので、お母さんの話に合わせてしまう |

| | |
|-------------------|-----------------------------|
| ⑥ 記憶力 発達・特性 | 学校の出来事を覚えていない |
| | 記憶が混乱している |
| | 学校で何をしたか覚えていない |
| | 今の話しかできない |
| | 聞かれたら思い出せるが、聞かれないと思いつかず話せない |

| | |
|-------------|----------------------------------|
| ⑦ 文法・語彙力 | 何を話していいのか分からぬ |
| | 他のことを話しているので学校のことは思いつかない |
| | 学校であった事に、自分から伝えたいようなエピソードがない |
| | 話してみるが文法や語彙力不足で通じず、話すのが面倒臭くなっている |
| | どう話してよいか分からずに、結果として話さない |
| | 話したくてもどう伝えたらよいのか分からぬ |
| | 何と言えば良いかわからない |
| | どう話せばいいか分からない |

《参考資料④K J法分析結果》

「どう話せばよいか分からるのはどうしてか？」を整理するためにK J法を行った。



- ・感情に流されたり、情緒が不安定になったりすることで、知っている内容でも話せない
- ・話す経験がこれまで少なすぎて話せない
- ・関係ないことを話していると禁止されてきたことから

- ・基本的な文法を知らない
- ・主語が分からない（がない。）
- ・文法に難あり「したよ。〇〇」など
- ・文法が間違っている
- ・助詞の使い方
- ・「て、に、を、は」が分からない
- ・単語と単語をうまくつなげない（単語のみ使用）
- ・動詞も難しい
- ・言葉を文として構成する力が足りない
- ・省略して話す（大切なところが抜けている）
- ・いつ、だれが、どこなど
- ・目的語、述語が抜けている
- ・5W1Hの使い方

- ・何を伝えればよいか分からない
- ・何から話せばよいのか情報を選べない
- ・思いついたことから話すので、内容や順番が前後する
- ・話す順序が分からない

- ・客観的に自分を見ることができない
- ・自分の言葉が本質とずれている
- ・状況にあった言葉が選べない
- ・表出することができない

- ・教師の言っている意味が分からない（分かるように話していない）
- ・問い合わせがわからない
- ・質問の一部だけ聞いている
- ・質問の意味が分からない
- ・質問の意図が分からない
- ・質問を聞いていない

- ・語彙が少ない
- ・単語を知らない
- ・伝えたいことを言葉にできない

- ・2つのことを同時に理解できない
- ・個に応じた視覚的情報が必要
- ・話したい気持ちにならない
- ・抽象的なものを表現できない

《参考資料⑤ 話のノート様式および内容》

| 時 間 わ り | | |
|-------------|-------------------------------------|--------------------------|
| 10月22日(火) | | |
| 授業 | | |
| 1 | 修学旅行 | |
| 2 | 修学旅行 | |
| 3 | 修学旅行 | |
| 4 | 修学旅行 | |
| | 集合食 | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 下校 | 14時10分 | |
| もつと あるもの | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 今日、家で話したいこと | 修学旅行について | |
| 家族からひと言 | 修学旅行のしおりを大切にしています。 集合場所を教えてください。 | |



(1) 話のノートの様式

話のノートは、時間割ノートの下の部分に入れている。帰りの会が始まるまでの時間で、①明日の時間割②持ってくる物③今日、家で話したいことを記入する。そして、帰りの会の発表で話のノートに記入したことを発表する。さらにノートを家に持ち帰り、時間割ノートを見ながら、明日の準備を進め、話のノートを使って家人と話をする。家人にひと言、感想をもらってまた学校に持ってくる。

生徒と保護者の負担にならない書く量を意識して様式を考えた。生徒は話すテーマを記入しておけば、思い出して話すことができやすくなる。また聞き手の保護者もテーマが書いてあると話が聞きやすいということで生徒の方はこのような様式とした。

保護者の方は連絡帳の記入だけでも大変なので書く人に幅をもたせて「家族」とした。また、「ひと言」とすることで短いコメントでも大丈夫であることを強調し、気軽に記入できるようにした。

(2) 話のノートの内容

たくさんの保護者が、子どもの話に耳を傾け、その話の内容や子どもの様子などを記入してくれている。その内容について一部紹介する。

| | |
|--------------------|---|
| 今日、家で話したいこと（生徒が記入） | 家族からひと言（保護者が記入） |
| 修学旅行について | 修学旅行のしおりを大切にしています。 集合場所を教えてくれました。 |
| 家庭について | 焼きドーナツがおいしくできてよかったです。 次の家庭も楽しみだね。 |
| 農耕について | 畑の石拾いがんばったから、きっとジャガイモがぐんぐん育ちますね。楽しみですね。 |
| 部集会について | フルーツバスケットでブドウだったそうですね。 楽しかった様子が伝わりました。 |
| 報告会について | 来年はいよいよ修学旅行。楽しみですね。 |
| サークルについて | 逃走中（鬼ごっこ）がんばったね！ |

テーマを見ただけでは伝わらない内容が保護者のコメントで記入されているということは、生徒が家庭で学校の話を伝わるように話すことができているからだと考える。

《参考資料⑥ 日記の様式および内容》

(1) 日記の様式

きもちをかこう
まいたしかつた
いやはだ
うれしかつた
かなしかつた
たのしかつた
くやしかつた
またしたい
など

できごとをふりかえろう
まいたしかつた
だれと
なにを
できごとをふりかえろう
月
日
ようび

先生より
みんながんばったから
みんながんばったから
今日は、農耕がありました。中学部のみんなと石とりと草とりをしました。たくさん草をとりました。畑がきれいになって、うれしかったです。またしたいです。

| | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|
| ま | う | 火 | 五 | ソ | ん | ま | ん |
| た | れ | か | ん | そ | た | た | き |
| し | チ | 草 | い | と | た | は | き |
| た | か | れ | そ | ま | 石 | 。 | ん |
| い | つ | い | く | く | よ | 中 | か |
| こ | に | り | た | よ | 空 | 農 | 耕 |
| す | こ | ま | 。 | と | 。 | 。 | 。 |
| 。す | こ | し | た | か | 早 | の | が |
| 。 | こ | た | く | 。 | み | め | り |

日記を書くときに、2項目を記入してから本文に取り組むようにする。

まず①出来事を振り返ろうでは、「いつ、だれと、なにを」を記入することで書きたい内容を整理する。それから②気持ちを書こうで内容に対する自分の気持ちを記入して、その時の自分の気持ちを確認する。

これらを踏まえて文章にしていく。そうすることで、話すときと同様にポイントを押さえた、読み手に伝わりやすい文章を書くことができる。

(2) 日記の内容

今回は国語A、Bグループに所属する生徒の日記を紹介したい。

(Aグループ 男子生徒)

- ・いつ (農耕)
- ・だれと (中学部のみんな)
- ・なにを (草とり)
- ・気持ち (またしたい)
- ・日記

今日は、農耕がありました。中学部のみんなと石とりと草とりをしました。たくさん草をとりました。畑がきれいになって、うれしかったです。またしたいです。

(Cグループ 女子生徒)

- ・いつ (朝の運動)
- ・だれと (I先生と)
- ・なにを (8分間走)
- ・気持ち (くやしかつた)
- ・日記

わたしは、今日、朝の運動の時間に、I先生とTくんと8分間走をしました。Tくんにまたのでくやしかつたです。

この形式の日記を使いだして2人ともよく伝わる日記に変わってきた。何を書けばいいのか、どんな気持だったのかを整理した後に書きだすので、話がまとまったよい文章になる。また、話をするときにも同じように話すポイントを気にしながら話す様子が見られた。話のノートの記入→帰りの会での発表→日記の記入→学校であったことを家族に話すという流れで行われることで、学校生活で行っている「話す」が家庭生活にも上手くつながってきている。

《参考資料⑦ 言語発達段階表》

言語発達段階表

| | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 二項関係 | <input type="checkbox"/> 「もの」だけ「人」だけに注意を向ける |
| | 三項関係 | <input type="checkbox"/> 人が見ている視線の向こうに自分の視線も向け、他者と注意や関心、興味を共有できる(共同注意) |
| 2 | 音節の反復 | <input type="checkbox"/> 子音、母音の組み合わせの反復が発声できる「バ、バ、バ。。。」「マ、マ、マ。。。」(基準喃語) |
| | 音節の組み合わせ | <input type="checkbox"/> 異なる音節の組み合わせの発声ができる「バ、ブ」 |
| | イントネーション | <input type="checkbox"/> あたかも話をしているような発声ができる |
| 3 | サイン言語 | <input type="checkbox"/> したいことや嫌なことなどのサイン等を出す |
| | 発声 | <input type="checkbox"/> 自分からしようという気持ちをもって何からかの発声をする |
| | 有意味語(初語) | <input type="checkbox"/> 有意味語が話せる「ママ」「マンマ」「ブーブー」「ワンワン」「アッタ」「ナイ」「ナイナイ」 |
| | 擬音語 | <input type="checkbox"/> 擬音語が理解できる「投げる→ボーンする」「転がす→コロコロする」 |
| | 語彙 | <input type="checkbox"/> 語彙数が60~90ある |
| 4 | 相手を意識 | <input type="checkbox"/> 話す相手を意識して言葉を言う |
| | 欲求 | <input type="checkbox"/> 自分のしたいことを言う |
| | 1語文+身振り | <input type="checkbox"/> 1語文+身振りで話す(お菓子を持ち上げながら「食べる」と言う)(指をさしながら「リンゴ」と言う) |
| | 2語文 | <input type="checkbox"/> 初期の2語文で話す「これ+〇〇」(これ ブーブー) 「行為主+行為」(トラック いった) 「対象+行為」(ボール やる) |
| | 動詞 | <input type="checkbox"/> 動詞を使って話す「食べる」「食べた」「食べて」「食べよう」「食べたなら」 |
| | 疑問詞 | <input type="checkbox"/> 疑問詞を使って話す「なに?」 |
| | 説明 | <input type="checkbox"/> 物の用途の説明ができる「お箸で何をするの?」 |
| | 終助詞 | <input type="checkbox"/> 終助詞を使って話す「あったね」 |
| 5 | 格助詞、係助詞 | <input type="checkbox"/> 格助詞「が」「を」「に」、係助詞「は」「も」を使って話す(名詞+格助詞or係助詞+動詞=魚は泳ぎます) |
| | 一つの出来事 | <input type="checkbox"/> 一つの出来事について話す |
| | 複数の出来事 | <input type="checkbox"/> 関連する複数の出来事について話す「～した。そこで～した。」 |
| | 直示表現 | <input type="checkbox"/> 直示表現(「これ」「あれ」「それ」)を使って話す |
| | 授受動詞 | <input type="checkbox"/> 「あげる」「もらう」などの授受動詞を使う |
| | 論理的 | <input type="checkbox"/> 説明や論理的表現ができる |
| | 推論 | <input type="checkbox"/> 架空の場面での対応を推論する「急に雨が降ってきたらどうする?」 |
| | 疑問詞 | <input type="checkbox"/> 疑問词を使って話す「どこ・どれ・どっち・だれ」 |
| | 位置 | <input type="checkbox"/> 位置を表す語彙を使う「上」「下」 |
| | 身近な出来事 | <input type="checkbox"/> 身近な出来事話を話す |
| 6 | 主語 | <input type="checkbox"/> 「ぼく、わたし」という言い方をする |
| | 位置 | <input type="checkbox"/> 位置を表す語彙を使う「横」 |
| | 接続助詞 | <input type="checkbox"/> 接続助詞を使って話す「食べて、遊んで」「食べたら、遊んでいると」「だから、そして」「でも」 |
| | 疑問詞 | <input type="checkbox"/> 疑問詞を使って話す「なんで・どうして・いつ・どう」 |
| | 丁寧表現 | <input type="checkbox"/> 丁寧な表現で話をする |
| | ルールの説明 | <input type="checkbox"/> ジャンケンのルールを言語化して相手に伝えることがきる |
| | 位置 | <input type="checkbox"/> 位置を表す語彙を使う「前一後ろ」「右一左」 |
| | 助詞 | <input type="checkbox"/> 語順に関わらず、助詞を手掛かりに、文を正確に理解できる(ネコをリスは追いかけました) |
| | メモで話す | <input type="checkbox"/> 簡単なメモを見て話す |
| 7 | 相手に伝える | <input type="checkbox"/> 相手を見てゆっくりはっきりと伝わるように話す |
| | 必要なこと | <input type="checkbox"/> 必要なことを自分で考えて話す |
| | 声の大きさ | <input type="checkbox"/> 場に応じた声の大きさで話す |
| | 経験したこと | <input type="checkbox"/> 見、聞き、経験したことの要点を落とさずに伝える |
| | 主語、述語 | <input type="checkbox"/> 主語と述語がある正しい話し方をする |
| | 関連ある話 | <input type="checkbox"/> お互いに関連のあることを話す |
| | 相手と順番に | <input type="checkbox"/> 同時に話すのではなく、順番に話す |
| | 話題、話し方の調整 | <input type="checkbox"/> 相手との関係に応じて話題や話し方を調整する |
| | 言葉遣い | <input type="checkbox"/> 場面によって話題や言葉遣いを切り替えることができる |
| | 特有の語彙 | <input type="checkbox"/> 友達との会話で、特有の語彙や、特有の表現をすることで、所属意識を確認しあう |
| | 物事への考え方 | <input type="checkbox"/> 物事に対する自分の考えや気持ちを分かりやすく話す |

長崎大学教育学部附属特別支援学校 中学部

IV 高等部の研究

「くらしふくらむ授業づくり」

～生活のニーズを考えた言語・数量の学習を視点として～

目次（高等部の研究）

| | |
|---------------------------------------|------|
| 1 高等部研究テーマについて | |
| (1) はじめに | |
| ① 生徒や授業の現状 | 高-1 |
| ② 保護者の願いや進路先の思い | 高-2 |
| (2) 高等部における「生活と授業のさらなる結びつき」について | |
| ① 「くらしふくらむ授業づくり」とは？ | 高-3 |
| ② 「生活のニーズを考えた言語・数量の学習を視点として」とは！ | 高-4 |
| 2 研究の目的 | 高-5 |
| 3 研究の方法 | 高-6 |
| 4 研究の経過 | |
| (1) これまでの言語・数量での指導内容とくらしとの関連の洗い出し | 高-7 |
| (2) 言語・数量に関する生活のニーズ把握のためのアンケート調査 | |
| ① 目的 | 高-10 |
| ② 内容 | 高-10 |
| ③ 対象 | 高-11 |
| ④ 概要 | 高-11 |
| ⑤ 結果 | 高-11 |
| (3) アンケート調査の分析に基づく指導内容の整理と単元・題材一覧表の作成 | |
| ① アンケート調査の分析 | 高-16 |
| ② 単元・題材一覧表の作成 | 高-20 |
| (4) 指導形態「言語」「数量」の授業実践 | |
| ① 言語の授業実践 | 高-21 |
| ② 数量の授業実践 | 高-26 |
| 5 研究成果と今後の課題 | |
| (1) 研究の成果 | |
| ① 指導内容と『くらし』との関連の整理 | 高-31 |
| ② アンケート調査に基づく指導内容及び授業の改善 | 高-31 |
| ③ 単元・題材一覧表の作成 | 高-32 |
| ④ 成果の考察 | 高-32 |
| (2) 今後の課題 | |
| ① 単元・題材一覧表に基づく系統的な授業実践と検証 | 高-33 |
| ② 生徒の学習習熟度に応じたグループ編成の検討 | 高-33 |
| ③ 他の指導形態や授業との関連についての整理 | 高-34 |
| ④ 従前の研究の継承 | 高-34 |
| 《引用・参考文献》 | |
| 《参考資料①》アンケート結果 | 高-35 |
| 《参考資料②》指導形態「言語」の単元・題材一覧表 | 高-43 |
| 《参考資料③》指導形態「数量」の単元・題材一覧表 | 高-45 |
| 《参考資料④》指導形態「社会生活」の単元・題材一覧表 | 高-47 |

(高等部研究テーマ)

「くらしふくらむ授業づくり」
～生活のニーズを考えた言語・数量の学習を視点として～

1 高等部研究テーマについて

(1) はじめに

私たちは、生徒たちの自立的な生活と社会参加を願って、日々教育活動に取り組んでいる。自立的な生活や社会参加とは、単に社会で生きていくために求められる生活スキルや社会規範を身に付けることだけではなく、心身ともに健康で夢や希望をもちながら前向きに生きていくこと、すなわち『くらし』の中で楽しみや喜びそして有用感を感じ、周りとのかかわりの中で安心感や心地良さを感じながら人生を主体的に生きていくことと考えている。これは、本校の教育課程において「自己の育ち」を柱とし、自己を自ら育むことを意識した授業実践を行ってきたことからも言える。

これまででも高等部においては、社会や生活のニーズに応じた指導内容を発達段階に合わせ、生徒の現在及び将来の『くらし』を見据えながら教育活動を行ってきた。そのため、指導形態「社会生活」「進路」あるいは作業学習等の卒業後の『くらし』と結びつきの深い授業はもとより、どの授業においても、社会や生活の場を考えながら経験を通して学ぶということを大切にしてきた。また、指導形態「言語」「数量」といった小学部段階から積み上げていく内容であっても、コミュニケーションに必要な内容、時計やお金に関する内容等が設定され、生活という視点が重要とされていることが分かる。しかしながら、高等部において週に1単位時間だけ実施される「言語」や「数量」¹の学習が生徒の『くらし』にどのようにかかわり、社会を前にした3年間という時期にどのような意義をもつのか、また、指導内容が時代や社会のニーズに合っているかなど、これまでも教育課程の見直しの際に課題にあがっていたが、検証されるまでには至っていなかった。

そこで、今回の研究では、これまで、実践をとおして培ってきた指導内容である「指導内容表 Ver.1」²の言語や数量³に関する内容が、『くらし』の中でどのように生かされているのかを洗い出し、保護者や進路先等へのアンケート結果を踏まえ生活のニーズを検討した上で、「言語」「数量」の学習を視点として『くらし』ふくらむ授業づくりの授業実践を行い、生活と授業のさらなる結びつきを目指したいと考えた。

① 生徒や授業の現状

高等部3学年は、各学年8名の生徒で構成され、現在24名の生徒が在籍している。MAは、2歳9ヶ月から10歳4ヶ月と幅があり、登下校においては、公共の交通機関等を利用して自立通学している生徒は24名中22名である。学校生活では、学級はもとより学年を越えて仲間関係が育ちつつあり、学習においても落ち着いた取り組みが見られている。

<コミュニケーション・身辺面について>

コミュニケーションに関しては、発音が不明瞭で意思の伝達の際に補助的に写真やカード等を用いることもあるが、ほとんどの生徒は言葉によるコミュニケーションが可能である。身辺面に関しても、着替え、食事、排泄において、見届け等の支援が必要な場合もあるが、自立している生徒が大半である。

¹ 「言語」「数量」：高等部における指導形態及び授業名を指す

² 「指導内容表 Ver. 1」：2008年に本校で作成し、改善を重ねてきたアセスメント機能を持った指導内容表のこと

³ 言語や数量：一般的な言語や数量の意味を指す

<進路について>

3年間を通して、進路の学習や校外、現場実習で学習を積み重ね、仕事に対する意識は学年を追って育っている。特に現場実習等においては技能的な面だけでなく、態度面やマナー等に関する新たな課題等が見つかることも多く、学校や家庭にフィードバックしながら、学習を進めている。進路決定においては、生徒本人、保護者、学校の三者での話し合いを重ね、最終的には生徒自身が選択決定できるようにしている。決定までには、自己を受け入れたり、仕事内容の他にも通勤方法や職場の人間関係、給料など決め手となることを考えたり、葛藤し、悩むことで成長していく様子がうかがえる。

<余暇、家庭・地域での生活について>

余暇、家庭・地域の生活に関する内容について、学校では次のような授業で、その内容を学習している。指導形態「社会生活」の授業では、郵便局や銀行の利用の仕方や買い物などを学習し、実際に銀行等に出向いて窓口やATMでお金の出し入れを経験したり、買い物や電車、バス等の公共交通機関の利用を経験したりしている。指導形態「余暇」では、映画鑑賞やカラオケなどにかけ実際に楽しみながら利用の仕方やマナー等についても学習を行っている。指導形態「家庭生活」の授業では、電話やパソコン等の情報機器の使い方、電子レンジやインスタント食品、冷凍食品を使った簡単な調理、ボタン付けや洗濯等の被服関係等の学習を行っている。また、学校での学習を基に家庭においては、一人で買い物に出かけたり、調理や洗濯を自分でしたり、友達と一緒に出かけ買い物や映画などを楽しんだりする様子も徐々に見られるようになってきている。しかし、その一方、学校の学習の中では、実際に銀行や交通機関を利用したり、買い物を行ったり、電話の使用や調理等を経験したりしているにもかかわらず、家庭や地域での生活において、それらの経験や学習がうまく生かされていない生徒がいるのも現状である。

<「言語」「数量」について>

指導形態「言語」「数量」の授業は、全学年において、習熟度別のグループを編成し学習を実施している。グループを構成する人数は、年度により生徒の実態に応じて違いはあるが、5~8名程度で実施することが多い。実態によっては、個別の対応での学習も行っている。今年度はA~Dの4グループで実施している。

これまで、「言語」「数量」それぞれ週1単位時間、月曜日の3・4校時に連続で実施していたが、今年度は本研究を進めるに当たって、それぞれ週2単位時間、月曜日から木曜日の2校時に位置づけて実施している。生徒たちは、時間になるとそれぞれ筆記用具やファイルなどを持ち、自分たちで授業が行われる教室に移動し落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見られる。また、授業の内容を学級や家庭でも話題にしたり、家庭学習や宿題等に取り組む様子も見られたりと学習に対する意欲もうかがえる。

② 保護者の願いや進路先の思い

保護者は、高等部の授業の内容が生活することや進路に関するものが多く、それは卒業後の社会での『くらし』を控えた生徒たちにとって、必要かつ不可欠であると理解している。しかしながら、「言語」や「数量」といった学ぶことの基盤と考えられる授業についても関心が高く、これまで授業時間の確保や家庭学習についての要望等が話題になることも少なくなかった。卒業生の保護者からは、「言語」や「数量」の授業で学習した内容が、卒業後も日記を書いたり、本を読んだり、時刻を読んだり、お金の計算をしたりと生活の中で生かされているという話を聞くことがある。また、卒業後も学び続けることができるように高等部におけるこれらの学習の大切さを語られる保護者もいる。これらの保護者の願いについては、2005年に実施した「卒業生の調査研究」の「学校で学んだことを卒業後の生活につなげる方法を、一層工夫・充実させる必要がある」という提言からもうかがうことができる。

生徒が卒業後にその『くらし』の大半を占めることになるのは、職場となる進路先である。生徒の

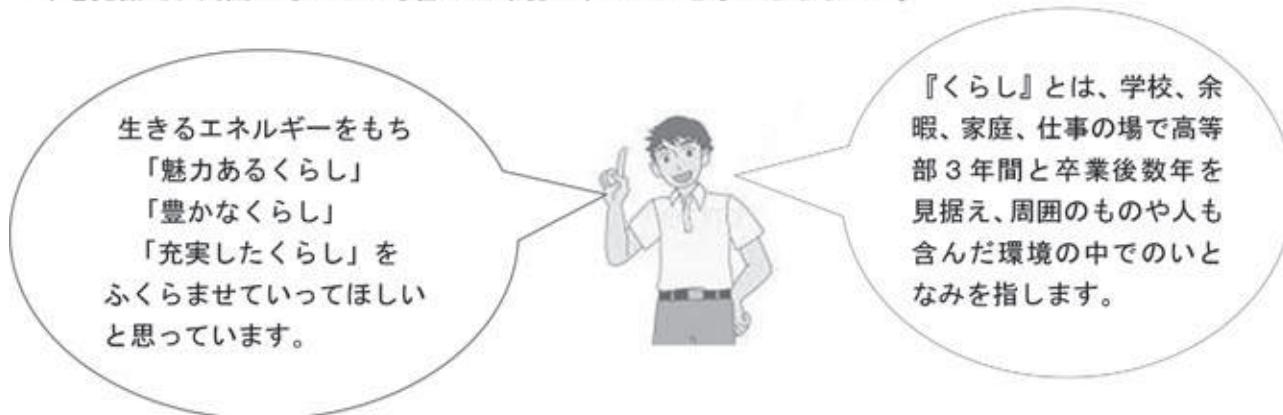
現場実習や進路先見学の際に進路先である事業所や企業等の方から働くために重要なことについて話を聞く機会がある。話の中で、仕事をしていく上で必要な知識や技能や態度のことの他に重要として多く語られることは、報告や自分の要求、気持ちを伝えたり、指示を聞いたりすること等、コミュニケーションに関することや時間やお金などの管理に関する事である。このように進路先においても言語や数量に関する内容については重要であることがうかがえる。

以上のようなことから、生徒たちの現在及び将来の生活の場となる家庭や進路先においても『くらし』の中で、言語や数量の内容の重要性や授業としての「言語」「数量」の学習の継続した取り組みの必要性が分かる。本研究においても保護者の願いや進路先の思いは、反映されるべきであり、また、生活のニーズという視点からも保護者や進路先の考えを客観的に捉え、分析する必要性があると考える。

（2）高等部における「生活と授業のさらなる結びつき」について

① 「くらしふくらむ授業づくり」とは？

先に述べたように、私たちは、生徒の自立的な生活と社会参加を願っている。そして、生徒たちの『くらし』が自立的な生活と社会参加につながる「魅力のあるくらし」「豊かなくらし」「充実したくらし」であってほしいと考える。私たちが考える「魅力のあるくらし」「豊かなくらし」「充実したくらし」の中での生徒の姿とは、笑顔で楽しみや喜びに満ちていたり、何かに夢中になり自分から学ぼうとしていたり、仲間と協力したり、自ら選び決めたことに一生懸命に取り組んだりしている姿である。実際の『くらし』の中では、自分から学習や仕事にこつこつと繰り返し取り組み自信や有用感を感じていたり、自分で好きな服を選んだり、給料で本やCDを買ったり、休日に友達と一緒に映画やイベントに出かけたりして楽しんでいる姿を思い浮かべることができる。また、日記や小遣い帳等を書いたり、雑誌やインターネットを使って自分の知りたい情報を調べたりして自ら学ぼうとしている姿なども思い描くことができる。しかし、現実の中では、自分の思い通りにいかず、悩んだり、葛藤したり、我慢したりと、周りと折り合いをつけたり一步引いたりしながら現実を受け止めなければならないことも少なくない。このような『くらし』において、私たちは生徒自身が前向きに現実と向き合い、自分の良さを認め伸ばし、周りとの関係の中で安心感をもちながら生きていく力をもってほしいと願う。また、「魅力のあるくらし」「豊かなくらし」「充実したくらし」が、現在から将来にわたって、少しずつふくらんでいってほしいとも思う。生徒たちの『くらし』が「魅力のある」「豊かな」「充実した」、『くらし』になったり、それが少しずつふくらんだりするためには、その原動力となるエネルギーすなわち生きるエネルギーが必要であり、高等部3年間において生きるエネルギーを育み蓄えていくことが大切と考える。私たちはこれまでの実践から、この生きるエネルギーを生徒たちが「自らを育む力」すなわち「自己教育力」ととらえている。そして、このような『くらし』と授業のさらなる結びつきを模索し、授業づくりを行いたいと考え、くらしふくらむ授業づくりを試みることとした。また、『くらし』を授業づくりに生かしていくためには、『くらし』が、どのような時期を指し、どのような場でどのようなことを指すのか、そのとらえについて明らかにしておく必要があり、本研究において高等部で考える『くらし』とは、学校、余暇、家庭、仕事の場で高等部3年間と卒業後数年を見据え、周囲のものや人も含んだ環境の中でのいとなみととらえた。



② 「生活のニーズを考えた言語・数量の学習を視点として」とは！

本校の指導形態「言語」「数量」は、学習指導要領における教科学習ではなく、教科等を合わせた学習として教育課程に位置づけられている。そのため、高等部における「言語」の目標は、「言葉を通して環境に対し自らの思いや考えを発信したり、環境から必要な情報を把握したりする力を高め、生活の中で使いこなすことができるようになる」としている。また、「数量」では、「現在及び卒業後の生活に生きる「かず(数える、計算)」「実務(金銭、時間、比較・測定)」を処理する力を高める」と設定している。目標からも分かるように、高等部における「言語」「数量」の学習は、生活に根ざした学習と言える。ここで言う生活とは、自分の身の回り、学校、家庭、地域などの場を指している。

しかしながら、高等部における「言語」の学習では、生活という視点だけでなく、「言葉で自分の思いを伝えたい」という気持ちや「大人のように本や新聞、雑誌を読みたい」というあこがれ、文化的欲求や知的好奇心の高まりも大切にしたいと考えている。また、「数量」においても、自己を客観的にとらえることができはじめる高等部段階の生徒に対し、大小の系列、数概念の形成、時制や保存の概念の形成の内容等は「だんだん大きくなってきた自分」「これからも成長し続ける自分」等を知り自己を育むためにも欠かすことのできない学習ととらえている。

このような「言語」「数量」の学習は、生徒たちの生活や心情を豊かにし、環境とのかかわりを深め、スムーズに学ぶことができる学習であり、社会に巣立つ生徒たちが学び続けるための基盤となる学習ととらえることができる。

このように基盤となる「言語」「数量」の内容が他の指導形態の内容とどのように関連し生かされているのか、また、どのように内容を発展することができるのか等について整理することで授業の改善やさらなる授業づくりにつなげることができると考える。また、「言語」「数量」の学習において、これまで授業時数の確保という点等で課題が挙げられることがあった。学びの基盤となる学習であることや内容的にも繰り返し継続することで身に付く内容が多いこと等を考慮し、授業時数や時間割への位置づけの仕方等についても併せて検討する必要があると思われる。

本研究においては、以上で述べた「言語」「数量」の高等部における意義や必要性等を踏まえ、これらの学習の内容がどのように生徒の『くらし』とかかわり、どのような内容で『くらし』が『ふくらむ』のかを明らかにしたいと考える。そのためには、生活のニーズについても客観的なとらえや分析の必要性があると考える。そこで、「指導内容表 Ver. 1」の言語や数量に関する内容と生活の関連の洗い出しを行い、それを基に家庭や地域、職場での生活のニーズをとらえるために保護者や進路先へのアンケート調査を実施することとした。



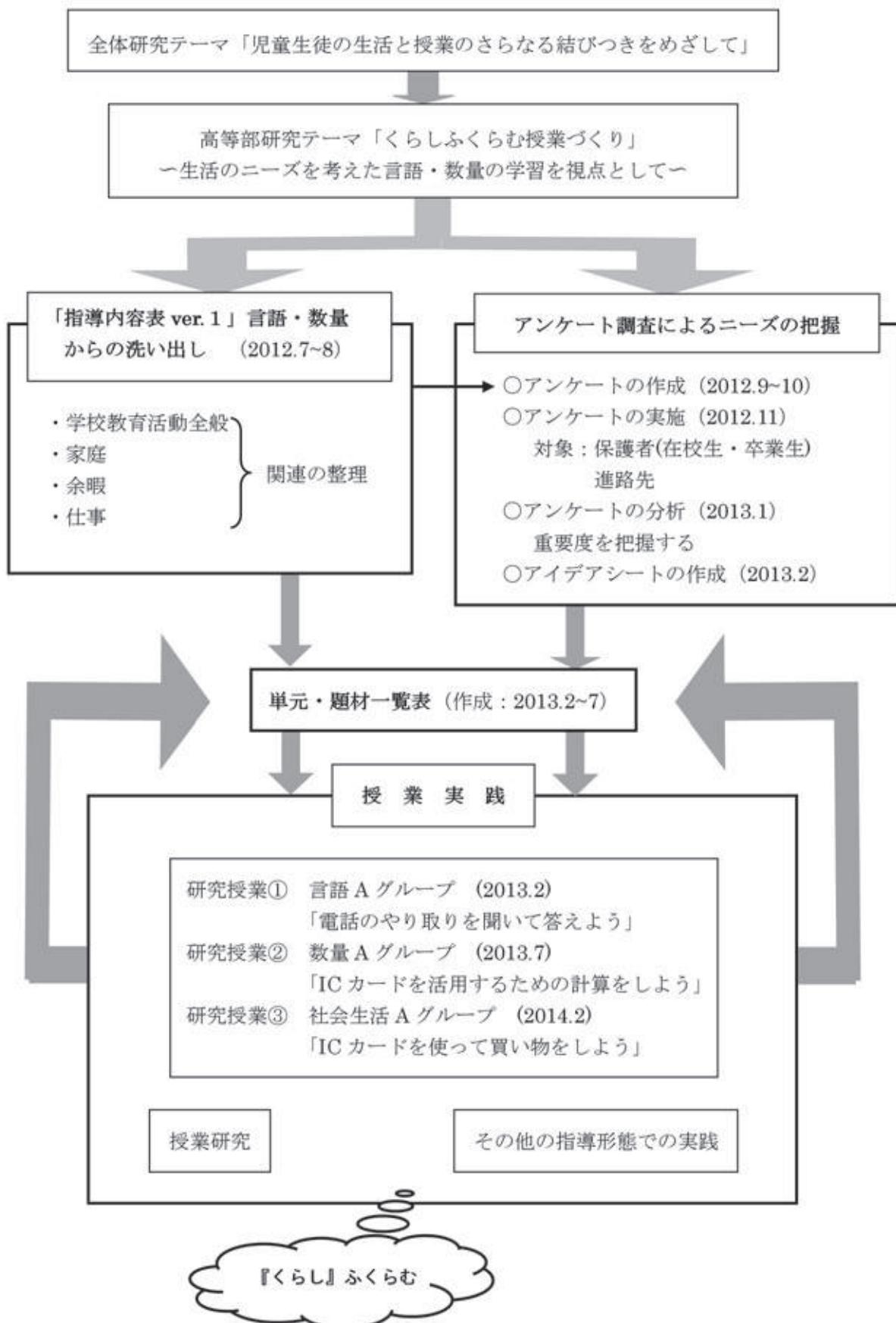
以上、「1 高等部研究テーマについて」において述べてきたことを踏まえ、「くらしふくらむ授業づくり」～生活のニーズを考えた言語・数量の学習を視点として～をテーマとして設定し以下のようなことを明らかにしたいと考える。

- 指導内容と『くらし』との関連について
- アンケート調査に基づく指導内容及び授業の改善について
- 単元・題材一覧表の作成について

2 研究の目的

これまで、実践をとおして培ってきた指導内容である「指導内容表 Ver. 1」の言語や数量に関する内容が、『くらし』の中でどのように生かされているのかを洗い出し、保護者や進路先等へのアンケートを踏まえ生活のニーズを検討した上で、「言語」「数量」の学習を視点として『くらし』ふくらむ授業づくりの授業実践を行い、生活と授業のさらなる結びつきを目指す。

3 研究の方法



4 研究の経過

(1) これまでの言語・数量での指導内容とくらしとの関連の洗い出し

まず始めに、アンケートの内容を検討する前段階として、学校教育活動全般で行っている言語・数量の指導内容と在校生や卒業生の生活がどのように結びついているかを具体的に明らかにする必要があると考えた。

そこで、現在の教育課程を編成するにあたり 15 次研究で作成した「指導内容表 Ver. 1」の項目（表 1）を基に、言語・数量の指導内容が学校教育活動のどのような場面で指導されているかや、在校生や卒業生たちの家庭や余暇活動、仕事場などのどのような場面で生かされているかを再確認するために表 2、表 3 のような様式を使って洗い出しを行った。

〈表 1：「指導内容表 Ver. 1」の項目一覧〉

| 大項目 | 中項目 | 小項目 | 大項目 | 中項目 | 小項目 |
|-----|-----|---------|------|------------------------------|---------|
| 言語 | 話す | 話し方 | 数量 | 数 | 書く |
| | | 内容の伝達 | | | 読む |
| | | 自己紹介 | | | 数える |
| | | 台詞 | | | 数え方 |
| | 読む | ひらがな | | 計算 | 合成・分解 |
| | | カタカナ | | | たし算 |
| | | 漢字 | | | ひき算 |
| | | 単語・文章 | | | 式をたてる |
| | | 文章の読み取り | | 時計・暦 | 時計の仕組み |
| | | 物語の読み取り | | | 時計の読み |
| | 書く | ひらがな | | | 時刻合わせ |
| | | カタカナ | | | カレンダー |
| | | 漢字 | | お金 | 金種 |
| | | 文章 | | | 等価関係 |
| | | 意味理解 | | | 組み合わせ |
| | 聞く | 聞き方 | 量と測定 | 長さの比較 | 長さの比較 |
| | | 指示理解 | | | 長さの測定 |
| | | 聞き取り | | | 重さの比較 |
| | | | | 重さの測定 | 重さの測定 |
| | | | | | 大小の比較 |
| | | | | | 多少の比較 |
| | | | 形 | ○を描く △□を描く 形の構成 辺と角 | ○を描く |
| | | | | | △□を描く |
| | | | | | 形の構成 |
| | | | | | 辺と角 |
| | | | 図表 | 図表の読み取り 位置 | 図表の読み取り |
| | | | | | 位置 |
| | | | 分類 | 色、形、大きさ 用途 | 色、形、大きさ |
| | | | | | 用途 |

〈表2：言語の指導内容と『くらし』との関連表〉

| 中項目 | 聞く | | |
|---|---|---|---|
| 小項目 | 聞き方 | 指示理解 | 聞き取り |
| 家庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族の話を聞く ・視線を合わせる ・最後まで話を聞く (都合の悪い時でも) ・電話で相手の話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ・手伝いをするときに指示を聞く ・ものを取る、押すなど操作をすると きに指示を聞く ・歯磨きや風呂など、日常生活面での 指示を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ・テレビのドラマやニュースのあら 筋が分かる |
| 余暇 | <ul style="list-style-type: none"> ・店員さんや見知らぬ人からの問 いかけを相手の顔を見て聞く ・友達との会話の中で、相手の話 を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ・公共の施設の利用やサークル活動に おいて、指示を出されてそれを聞い て行動する | <ul style="list-style-type: none"> ・映画のあら筋が分かる ・友達とのやり取りをする |
| 仕事 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て話をする | <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の仕方など仕事全般において、 指示を聞いて行動する | |
| 学 言 語 数 量 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て、話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な指示を聞いて行動をする | <ul style="list-style-type: none"> ・物語のあら筋が分かる |
| 校 他 の 指 導 形 態 な ど | <ul style="list-style-type: none"> ・電話で相手の話を聞く ・どんな時でも相手の顔を見て、 話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般において、指示された ことを聞いて行動する | |

〈表3：数量の指導内容と『くらし』との関連表〉

| 中項目 | お金 | | |
|-----|---|--|----------------------------------|
| 小項目 | 金種 | 等価関係 | お金の組み合わせ |
| 家庭 | ・貯金をする ・お年玉をもらう ・小遣いを使ったり、管理したりする | | ・小遣いを使ったり、管理したりする |
| 余暇 | ・貯金をする ・お年玉をもらう ・小遣いを使ったり、管理したりする | ・両替（バス、電車、ゲームセンターなど）をする | ・好きなものを買う |
| 仕事 | ・給料をもらう | | ・販売をする ・弁当の注文 ・弁当を買う |
| 学校 | 言語数量 | ・マッチングをする ・5円、50円、500円の等価関係が分かる | ・模擬の買い物をする ・ワークシートの問題に取り組む |
| | 他の指導形態など | ・買い物学習をする ・校外学習に行く ・銀行や郵便局で入金をする | ・買い物学習をする ・校外学習に行く ・バザーをする |

洗い出しをしていく中で、以下のようなことが分かった。

- ・大項目『言語』の中の小項目『ひらがな』『カタカナ』『漢字』の指導については、中項目『読む』『書く』共に指導形態「言語」の授業の中で、その内容だけを取り出して指導することはほとんどないが、生活の場面でよく目にするカタカナや漢字については、宿題で読みや書く練習を指導していることが多い。また、他の指導形態においても公共の施設名や進路先名、バス停などはあえて看板などに書かれたままの表記で板書するようにし、分からぬカタカナや1文字ずつでは読めない漢字が入っている言葉でも単語レベルで読むことができるよう指導している。
- ・大項目『言語』の中の中項目『聞く』についての指導は、指導形態「言語」の指導が中心となって行われているというよりは、学校生活全般において指導していることが多い。
- ・大項目『数量』の中の中項目『お金』の中の小項目にはないが、在校生の現在の生活や現代社会の潮流を考えると、お金の価値の比較やスマートカードなどのICカードの意味や活用方法についても、指導形態「数量」の授業の中で指導していく必要がある。
- ・中項目で挙げている内容はどれも指導形態「言語」・「数量」とともに指導している内容ではあるが、項目によって指導している内容の重さが違ったり、指導はしているものの中項目「量と測定」のように在校生や卒業生の生活の中では生かされる場面があまりないものがあることなどが分かった。しかし、この中項目「量と測定」の内容については、定規の使い方や量りの目盛の読み方などを知っておくことは大切なことであり、指導形態「数量」の中で指導する内容としてふさわしいものであると再確認した。

以上のようなことから、言語・数量に関する指導は指導形態「言語」「数量」の授業の中だけの指導にとどまらず、教育活動全般で必要に応じて隨時行っていることを再確認することができた。また、「指導内容表 Ver. 1」の項目で表されている内容が、在校生や卒業生の家庭・余暇・仕事において言

語・数量が生かされる場面をおおよそ網羅していることが予想できたことから、アンケートの内容は「指導内容表 Ver. 1」を基に作成することとした。

(2) 言語・数量に関する生活のニーズ把握のためのアンケート調査

① 目的

生活の中では、言語・数量のどのような内容がより重要になるのか、また、学習したことが、どのような場面で生かされているのかを把握することを目的とする。

② 内容

アンケート調査の前に洗い出した、高等部における言語・数量の指導内容と生活との関連をふまえて、どのような質問事項がよいかを検討し、大別して2つの形式のアンケートを実施することにした。1つめは、「指導内容表 Ver. 1」の言語・数量の項目を参考に、「読む」「書く」などのカテゴリーを設定し、そのカテゴリーごとに項目を挙げて、重要度が高いと思われる上位3項目に順番を記入するもの、2つめは、カテゴリーごとにどのような場面で学習が生かされているのか自由記述するものである。

1. お金について（買い物の場合）

| | | |
|---|-----------------------|----------------------------------|
| 1 | ちょうどの金額を出すことができる | 1 ジュースなど決まった金額ならちょうどの金額を出すことができる |
| 3 | 提示されたよりも多い金額を出すことができる | とりえず1000円札を出すことができる |
| | 貰われた金額を出すことができる | 100円必要な時に50円玉を2つ出すなど零換交換ができる |
| | その他 () | |

B) 次の項目を重要度の高いと思われるものから3つ選んで、順に1. 2. 3と番号を記入してください。

| 1 | 数の読み書き | 読み方 |
|---|--------|---------|
| 2 | 計算 | 時計の読み取り |
| 1 | お金 | 長さ |
| | 重さ | 図表 |

C) 学校で学習していることが、ご家庭での生活（買い物などの外出を含む）のどのような場面で生かされていると思いますか。計算、お金、図表など、それぞれの項目ごとに記入してください。

D) 図表・・・カレンダーを見て、いつ何があるかを理解してそれを楽しみにする。

2. 長さについて

| | | |
|---|----------------------|--------------------------|
| | 見た目でおおよその長さがわかる | 1 尺規を使ってものの長さを測ることができる |
| | 単位を読むことができる | 2 単位を聞いておおよその長さがわかる |
| 3 | 2つのものの長さを比較することができます | 複数のものを長い（短い）順に並べることができます |
| | その他 () | |

【結果】

| 項目 | 生かされている場面 |
|---------------------|------------------------------|
| 数の読み書き 読み方 | 人気投票における手帳等ができる |
| 計算 | 買い物の時、お菓子等を買う時、簡単な算数ができる |
| お金 | 金額を出すことができる |
| 長さ | 食べ物（ケーキ等）に大きさを比べて味をることができます |
| 図表 測量 カレンダーなど | あけられた時にバス停で来るバスの時間を見ることができます |

3. 重さについて

| | | |
|---|-------------------|-----------------------|
| 2 | 持った感じでおおよその重さがわかる | 1 秤を使ってものの重さを測ることができる |
| | 2つのものの軽量を言うことができる | 2 複数のものの軽量を言うことができる |
| | その他 () | |

4. 図表について

| | | |
|---|-------------------------|-------------------------|
| 1 | 図表または絵図の中で左右（上下）がわかる | 1 時間割（日課表）を読んで一日の流れがわかる |
| | カレンダーを見て日付や曜日がわかる | 2 時刻表を読むことができる |
| 3 | グラフを読み取ることができる（体重グラフなど） | 簡単な路線図などを読み取ることができる |
| | その他 () | |

<図1：アンケート用紙（抜粋）>

③ 対象

在校生保護者 24名

卒業生保護者（2002年度～2011年度卒業） 81名

卒業生の進路先（卒業生が在籍する長崎市内の福祉事業所⁴） 20ヶ所

④ 概要

本調査は、平成24年12月～平成25年1月の期間に実施した。上記③の対象者及び進路先にアンケートを実施、在校生保護者19名（79.2%）、卒業者保護者22名（27.2%）、卒業生の進路先13ヶ所（65%）から回答を得た。

⑤ 結果

1つめのアンケート調査では、順位を付けたものを、1位を3点、2位を2点、3位を1点で加算し、[聞く]や[話す]などのカテゴリーの中でそれぞれの項目が占めている割合を出すことで、重要度を対象別に比較できるようにした。

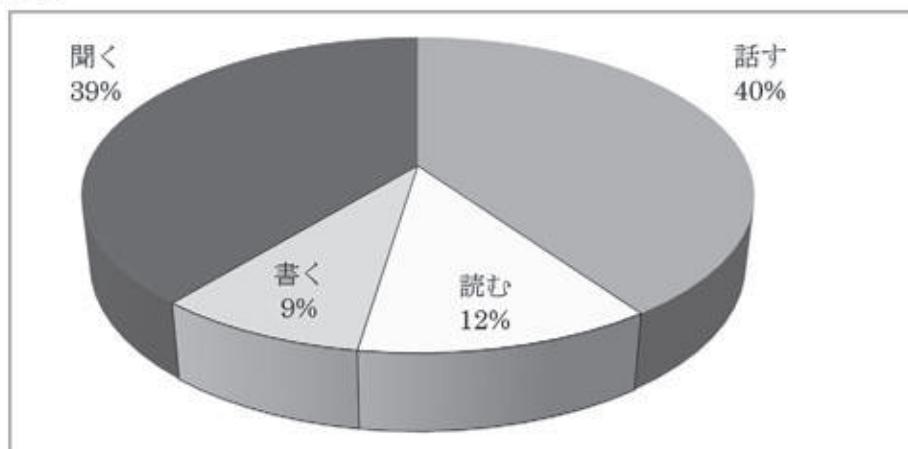
また、在校生・卒業生保護者アンケートでは、対象生徒が在学中に主に学習している（いた）習熟度グループ（A～D）ごとにも分析することで、習熟度グループごとの違いも見られるようにした。本校では毎年4月に指導形態「言語」「数量」でそれぞれ1時間ずつ実態把握テストを実施しグループ分けを行っている。本校の習熟度グループ（A～D）ごとのおおよそのMAは次のとおりである。⁵

〈表4：習熟度グループ別のMA〉

| グループ | MA |
|------|-------------|
| A | 7歳1ヶ月～ |
| B | 5歳7ヶ月～7歳0ヶ月 |
| C | 3歳7ヶ月～5歳6ヶ月 |
| D | ～3歳6ヶ月 |

ア) 言語

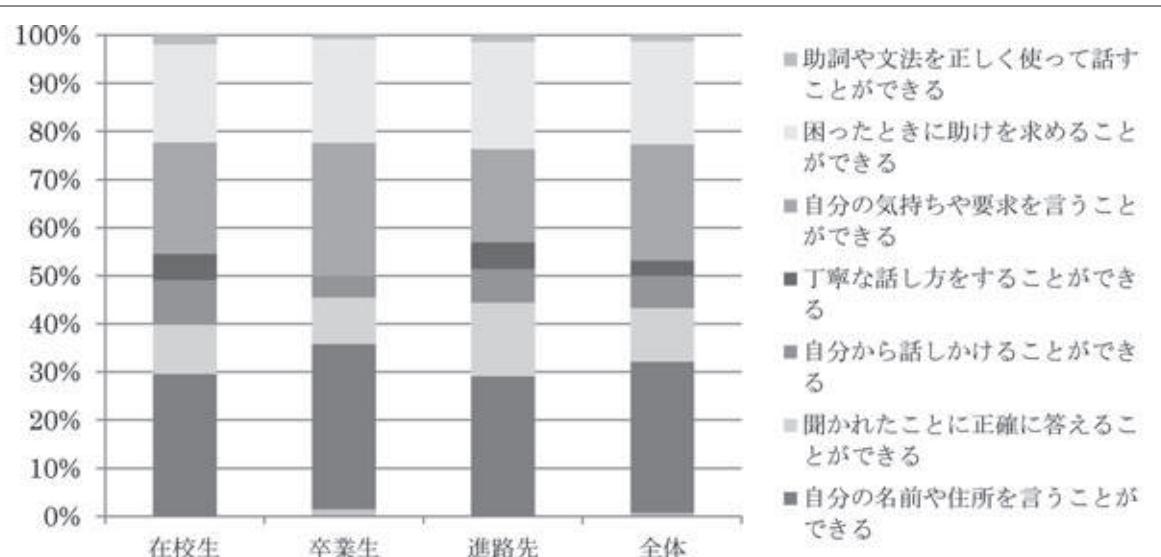
a 集計結果



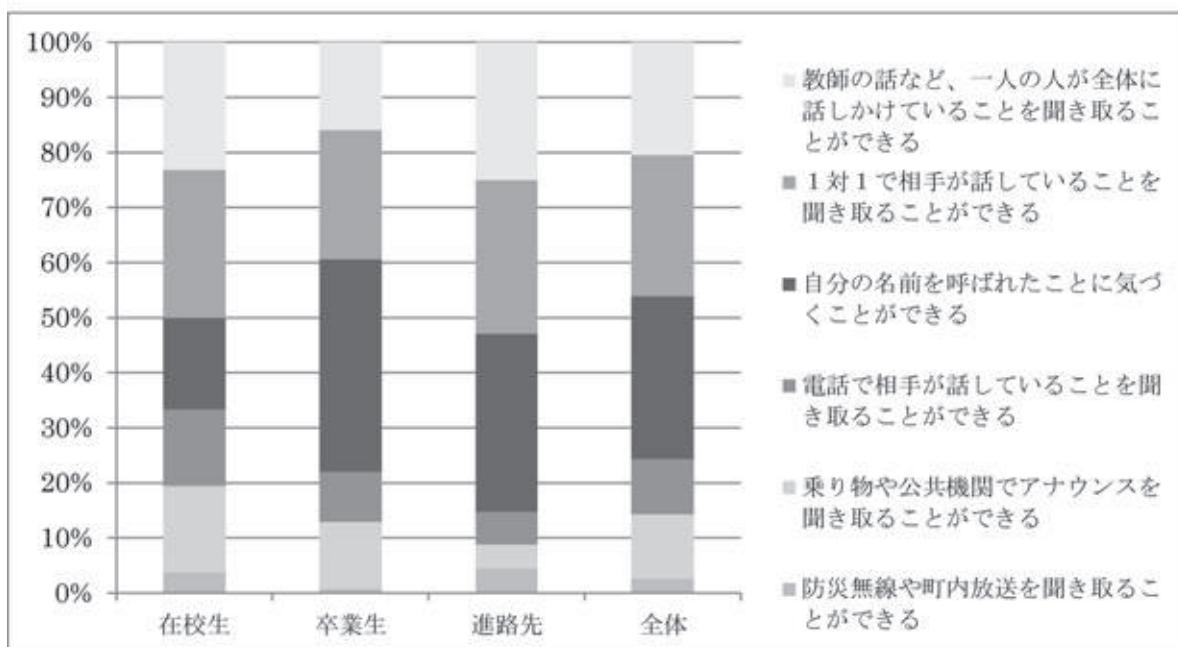
〈図2：カテゴリー別の重要度（全体）〉

⁴ 本校の卒業生の中には企業就労したものもあるが、今回は福祉事業所を対象としてアンケート調査を実施している

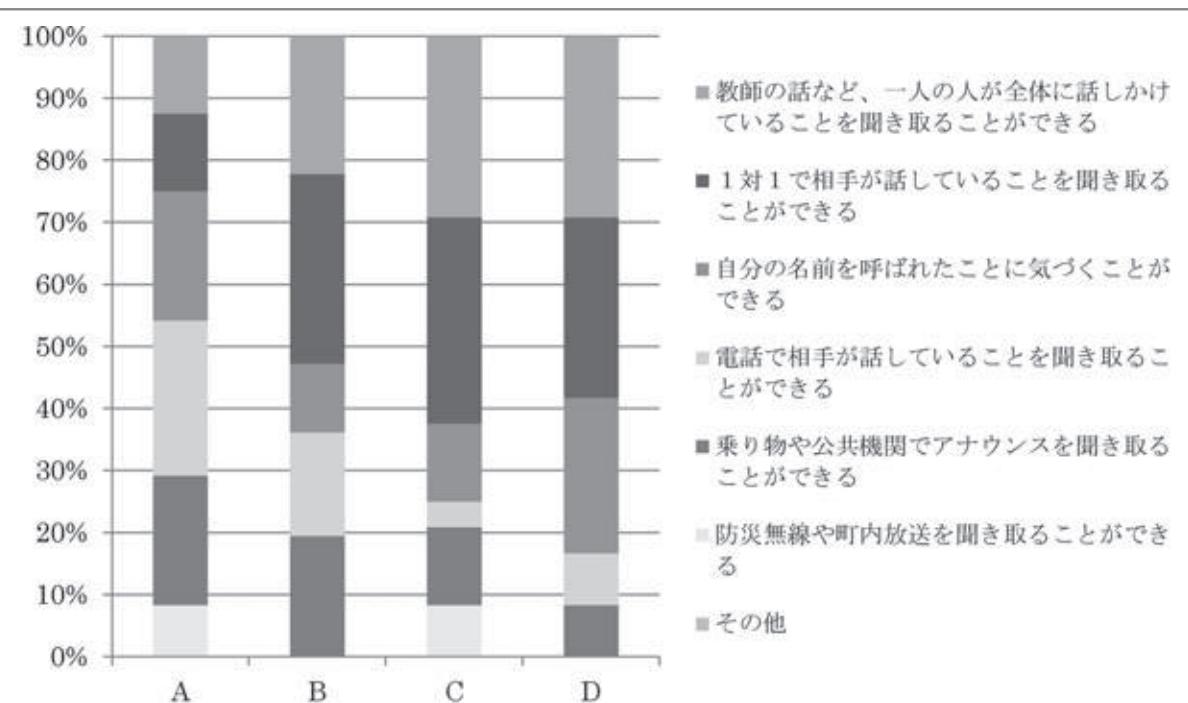
⁵ MAが生徒全体の中でそれほど高くななくても、計算や漢字が得意な生徒がいるなど、MAと習熟度は同じではないが、グループの実態の参考として表4を載せてある



〈図3：カテゴリー【話す】内での重要度（対象別）〉



〈図4：カテゴリー【聞く】内での重要度（対象別）〉



〈図5：カテゴリー【聞く】内の重要度（在校生 習熟度グループ別）〉

b 集計結果より

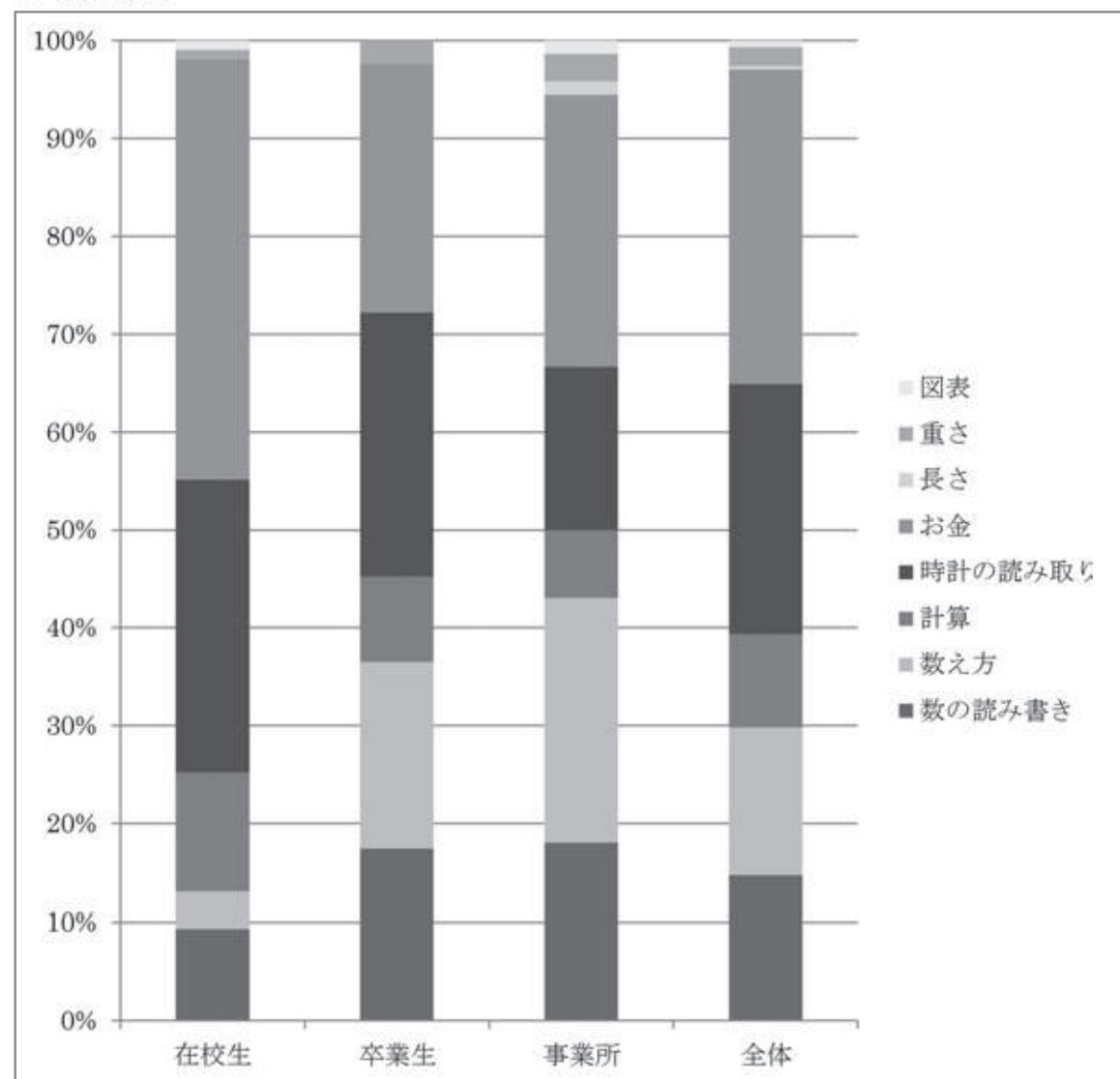
アンケートの結果より、在校生保護者・卒業生保護者・進路先全てで、「話す」、「聞く」ことが生活の上では重要度が高いととらえていることが分かった（図2）。

カテゴリー【話す】を対象別に見ると、全ての対象で「自分の名前や住所を言うことができる」が最も重要ととらえていた。在校生・卒業生保護者では、2番目に「自分の気持ちや要求を言うことができる」、3番目に「困った時に助けを求める能够性」が重要である、事業所では2番目に「困った時に助けを求める能够性」、3番目に「自分の気持ちや要求を言うことができる」が重要であるととらえていた（図3）。

次に、カテゴリー【聞く】を対象別に見ると、在校生保護者では電話や公共機関でのアナウンス、防災無線など、相手が見えない状況で聞き取ることの重要度が高く、卒業生保護者や進路先では「名前を呼ばれたことに気付く」ことの重要度が高かった。特に、在校生保護者の習熟度Aグループの結果では、「電話で相手が話していることを聞き取ることができる」の重要度が最も高く、公共機関でのアナウンスや防災無線などを含めて、相手が見えない状況で聞き取ることの重要度は5割を超えていた（図4・図5）。

イ) 数量

a 集計結果



〈図6：カテゴリー別の重要度（対象別）〉

<表5：本校で学習している（した）ことが、どのような場面で生かされているか。（カテゴリー【お金】）>

| | 在校生 | 卒業生 |
|-----|---|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ○金種を出す ○お金のやり取り、お金の種類が分かるようになった ○買い物の時にお金を正確に出す ○お休みの時など、ご飯を買いに時々行く | <ul style="list-style-type: none"> ○販売担当時、お金をもらったり、おつりを払ったりすることを楽しんでいる ○お茶を買う時は、ちょうどのお金を準備している ○仕事帰りは好きな本を買っている ○たまに夕食の買い物をして作ってくれる ○「〇〇円出して」と言うと間違わずに出す ○自動販売機で自分の好きなものを買い、おつりも忘れず帰ってくる ○いくら必要かお小遣い帳で管理している ○飲み会などで別途必要な場合、母親に自分の口座からお金を引き出してくれるよう頼む ○1000円内で買い物は自分でする（スマートカードの入金、雑誌の購入） ○簡単な買い物をする ○先の見通しを持ってお金を貯める ○大きな買い物もできるが、大金になるときちんと計算してお金の大切さ、必要さを理解する |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ○お小遣い帳に付いているお金と実際に持っているお金が合っているか確かめるようにしている ○小銭がたまってきたら、大きなお金と交換してくれるよう頼む ○100円均一やコンビニなどで自分の欲しいものを買うことを楽しみにしている ○レジでお金を払うとき、いくら出せば足りるか理解している ○買い物はとりあえず、お店の人に財布を見せるが、自動販売機などはぴったりの金額で投入口に入れる ○買い物の時に自分でお金を支払ったりする | <ul style="list-style-type: none"> ○お弁当代、行事で持って行くお金を理解する ○買い物物や散髪に行く時に、必要な額を用意する ○レジでちょうど支払う |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ○電卓を使って買いたい物の合計を出してからレジに並ぼうとする ○買うものの合計金額を考えるようになった ○繰り上がり、繰り下がりが完全ではなく、計算機をもちだして計算する ○お小遣いを数えて両替できるようになった | <ul style="list-style-type: none"> ○お金に対しての理解力はあまりないが、デパートなどでセルフレジでは自分で支払などの興味はある ○自動販売機でお金を使える、おつりも取る ○買い物時に大きいお金で支払いをしておつりを受け取る ○ちょうどの金額は出すことができないので、500円、100円単位で買い物をする ○一品なら100円持って買う |
| D | <ul style="list-style-type: none"> ○買い物をする時は必ずお金が必要だということを理解した ○金種はある程度わかるようになった ○大きいお金（1000円）などで言われた金額を出せるようになった | <ul style="list-style-type: none"> ○お札は難しいが、コインがお金なのはわかっている ○自動販売機にもらったお金を入れて好きなボタンを押すのが分かった |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○買い物に行った時に自分が買いたいものを買う ○手持ちのお金で何が買えるか判断する ○買い物の活動や昼食購入の活動をする ○日常的に必要なお金（1000円前後）について財布からの出し入れや管理をする（昼食代など言われた金額を出す） ○販売において、お客様とお金の受け渡しをする（売り上げやおつりの把握） ○お金が自分の生活や楽しみに使えることを知っている ○買い物や自分の工賃について理解をしている ○買い物の際、購入物の値段よりも多めのお金を出して支払う | |

b 集計結果より

アンケート結果より、アンケート対象者全体でみると、カテゴリー「お金」の重要度が最も高かつたが、対象者別で見ると、卒業生保護者では「お金」と同程度、「時計の読み取り」の重要度が高く、他の対象と比較して進路先では「考え方」への重要度が高いなど、対象者ごとの特徴も見られた（図6）。

また、本校で学習している（した）ことが、どのような場面で生かされているか、カテゴリー「お金」を見ると、それぞれの習熟度に応じて、生活の中で学校で学んだことが生かされていることが分かった。また、AグループやBグループでは、レジでのお金のやり取りだけでなく、主に指導形態「社会生活」で学習している、貯金や小遣い帳の管理などへの広がりも見られた（表5）。

（3）アンケート調査の分析に基づく指導内容の整理と単元・題材一覧表の作成

① アンケート調査の分析

アンケートの結果を受けて、指導形態「言語」「数量」の単元別指導計画を見直し、さらに授業に生かせることはないかを考えた。各授業担当者を中心としてグループごとにアイデアシート（表6）を作成し、重要度の高い項目を題材として新たに取り入れたり、授業の中で教師がさらに意識して生徒に働きかけたりして授業のさらなる充実を図った。

＜表6：アイデアシート（指導形態「言語」Aグループ）＞

| 単元名 | | | 話したり書いたりしよう | (A)グループ |
|--|-----|-----|--------------------|------------|
| 題材名 | 実施月 | 時間数 | | |
| | | | 自己紹介をしよう | 5月(1)時間 |
| | | | 運動会の思い出について、伝えよう | 5月(1)時間 |
| | | | 夏休みの思い出について、詳しく話そう | 9月(3)時間 |
| | | | 文化祭について、詳しく話そう | 10月(1)時間 |
| | | | 書中見舞いを書こう | 7月(2)時間 |
| 指導内容の中で改善できそうなアイディアおよび、それにかかる時数 | | | | |
| ＜アンケートからの分析＞ | | | | |
| ○項目の優先度 | | | | |
| 全体を通して、在校生と卒業生では、「大切と思う」内容に、大きな差はないが、項目の優先度については、「話す」「聞く」の項目が上位であった。在校生がどちらかと言えば「聞く」ことを優先と考えたのに対し、卒業生では圧倒的に「話す」ことが一番に選ばれていた。 | | | | |
| → 学校であったことを話してくれる（自由記述より）とあるように、「話すこと」については、これまでの取り組みが生きている様子も見られるが、毎回発表の時間を取るなど、さらに工夫ができるよい。 | | | | |
| → 「聞くこと」については、そのことを中心に授業を行うことは少なく、言語でもっと重要度をあげ取り上げたほうがよい。 | | | | |
| ○文字の読み書きについて | | | | |
| 重要度の高かったひらがなや漢字についてはこれまで取り組んできたが、卒業生で2番目に挙がっているのが、カタカナである。 | | | | |
| → 意識して取り入れてもよい。 | | | | |
| ○書くことについて | | | | |
| 圧倒的に多いのは、「名前や住所、身近な単語を書くことができる」という内容である。在校生は100%、卒業生は89%が1番に重要と考えていた。 | | | | |
| → 言語の場面ばかりではなく、宿題などで取り組むのもよいかもしれない。 | | | | |
| ○書くものについて | | | | |
| 日記やメモの優先度が高かった。 | | | | |
| → 毎日の学級での取り組みが活かされやすいと考える。 | | | | |
| ○話すことについて | | | | |
| 在校生では、「自分の名前や住所を言う」「聞かれたことに正確に答える」「自分の気持ちや要求を言う」が、同列であったが、卒業生では、「自分の名前や住所を言う」が1番で、次に「自分の気持ちや要求を言う」その次に「困った時に助けを求める」という内容の重要度が高かった。 | | | | |
| → 言語の授業で押さえることはこれまで同様行うとしても、日常的に意識して表現力を引き出すことが大切と考える。 | | | | |
| ○話す相手について | | | | |
| 在校生・卒業生ともに「家族」が圧倒的であった。 | | | | |
| → その日の出来事や気持ちなど、「本人に尋ねてみて下さい」と家族に働きかけるなど家庭との連携（連絡帳など）の中で、繰り返し体験できるようにするといい。 | | | | |

ア) 指導形態「言語」

a 分析に基づく指導内容の整理

言語に関するアンケートで重要度の高かった「話す」「聞く」については、従来から指導形態「言語」でも取り扱っており、他の指導形態でも意識して指導に当たっている。「話す」の中では「自分の名前や住所を言う」「自分の気持ちや要求を言う」の項目の重要度が卒業生・在校生ともに高かった。指導形態「言語」の指導内容は、これまで同様行うとしても他の指導形態や学級活動において、日常的に意識して生徒の表現力を引き出すことが必要だと考えた。また、卒業生で3番目に重要として挙がっている「困った時に助けを求める」という内容は、本校の「からだの学習」や避難訓練において繰り返し学習をしており、「言語」だけでなく他の指導形態とも関連しながら、指導に当たることができている。「学校のことを話してくれる」など「話すこと」に関しては、これまでの指導が生きているというアンケートの結果から、これまでの授業を行いながら個に応じた指導を教育活動全般で行っていく方が良いと考えた。

しかしながら、「聞く」という内容は、どの指導形態でも大切な学習活動ではあるものの友達の発表を聞く、先生の話を聞くなど授業の主たる目標ではなく、サブ的な要素で授業の中に取り入れていることが多かった。「聞く」の中でも「電話やアナウンスを聞く」「全体の指示を聞く」といった聞き取る力が生活に生かされるとアンケートの記述から読み取れる。『くらし』を中心としてとらえると、コミュニケーションの時や電話の時、館内放送やアナウンスが流れている時など「聞く」力が必要な場面が多く、特に相手が見えない状況では、言葉だけが頼りになるので生徒たちには難しい課題である。そこで「聞く」を目標とした題材を指導形態「言語」で新たに設定することで、聞き取る力を高め、伝言を正確に聞き取ったり、電話で予約や注文を取ることができたり、館内放送や全体指示を聞き取ることができたりするのではないかと考えた。これらのことことができたり、やってみたりすること自体が、生徒たちの『くらし』の幅を広げることにつながると考え、題材を一度見直すことにした。ただしC、Dグループは生徒の実態を考慮すると既存の授業の中で、教師が聞くことの重要性を意図した展開をする方が効果的な指導につながると考え、新たな題材の設定はA、Bグループのみとした。

b 題材の整理

単元は表出と理解の2単元で授業を展開している。アイデアシートを基に現代社会で生徒たちの『くらし』を豊かにするためにこれから何が必要かを考えていった。「聞く」内容は日常的に使用する電話に着目し、新たな題材を加えた。その他「読む」に関しては、指導形態「家庭生活」でも取り扱っているレシピを取り入れることや余暇にかかるインターネットを取り入れることで『くらし』とかかわりが深く生徒たちの興味や関心も高まると考えた。また、題材には挙がらなかつたが、同じ意味でも言い回しの違いなど語彙や表現を増やすことも重要であると共通理解を図りながら題材を整理した。

I 具体例（Aグループ）

| 平成23年度実施分 | | 平成25年度実施分 | |
|-----------------|--------------------|-----------------|-----------------------|
| 単元 | 題材 | 単元 | 題材 |
| 話したり書いたりしよう | 自己紹介をしよう | 話したり書いたりしよう | 自己紹介をしよう |
| | 自分の好きなことについて詳しく話そう | | 自分の好きなことについて伝えよう |
| | 文化祭について詳しく話そう | | 夏休みの思い出について詳しく話そう |
| | 暑中見舞いを書こう | | 原稿用紙の使い方を知ろう |
| 話を聞いたり本を読んだりしよう | 話の内容を聞き取ろう | 話を聞いたり本を読んだりしよう | はがきや申込書を書こう |
| | 本を読もう | | 新聞やインターネットのニュースを読もう |
| | うたを読もう | | 説明書やレシピを読もう |
| | | 本を読もう | 本を読もう |
| | | | 電話のやり取りやアナウンスを聞いて答えよう |
| | | | |

イ) 指導形態「数量」

a 分析に基づく指導内容の整理

数量に関するアンケートでは、『くらし』に強く結びついている「お金」と「時計」に関しては、保護者の重要度が高く、仕事に必要な「考え方」に関しては、進路先での重要度が高かった。指導形態「数量」では、これまでも日常生活と関連の深いものを題材として授業を行っており、保護者や進路先のニーズと指導形態「数量」の指導内容と一致している。また、「お金」に関しては、保護者だけでなく進路先でも高い重要度を示しており、特に買い物におけるレジの支払いに関することが生活の場面で重要と考えられている。指導形態「社会生活」の買い物学習において実際に経験を通して学習をしているが、周りの環境に左右されることもあるので、机上ではできることも実際の場面ではお金を受け取れないなど『くらし』に視点を当てると課題があることを再確認できた。「時計」や「考え方」に関しては作業学習やその他の指導形態で授業の中に取り入れることは多いが、5分前行動や時計自分で見て行動すること、2飛びなどを使って素早く数を数えることなど『くらし』の場面では十分に生かしきれていないところが多いことが分かった。今回アンケートの結果から重要度の高い項目として挙がらなかつたが、重さや長さ、考え方、図表などは、大小の系列の理解や数概念の形成、時制の理解、保存の概念の獲得には必要な指導内容である。単に生活に生かされるという観点だけでなく、「だんだん大きくなってきた自分」「これからも成長をし続ける自分」に気づくといった「自己の育ち」に大きくかかわる学習なので、『くらし』を充実したものにするためにも数量の力を高めることは必要不可欠だと考える。

しかしながら、学習の基礎となる指導形態「数量」では、内容はニーズに合っているが、それを定着するための時数が確保できていないことが課題として挙がり、授業時数を見直すことにした。指導形態「言語」も「数量」と同様に指導全ての教育活動の基盤となるものなので、週1時間だったものを週2時間とし、帯状で毎日継続して行えるように時間割を変更した（表7）。

〈表7：時間割の見直し〉

| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|------|-----------------------|------|---------------|---------------|-----------------|----|
| 1 | 集会 ／ からだの 学習 | 朝の運動 | | | | |
| | 2 言語 | 家庭生活 | 紙箱 ／ 陶芸 | 紙箱 ／ 陶芸 | 社会生活 ／ 進路 | 余暇 |
| 3 数量 | 4 朝の運動 | | | | 5 芸術 | |

| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------|-----------------------|---------------|---------------|-----------------|----|---|
| 1 | 集会 ／ からだの 学習 | 朝の運動 | | | | |
| | 2 言語 | 数量 | 言語 | 数量 | 言語 | |
| 3 学活 | 家庭生活 | 紙箱 ／ 陶芸 | 紙箱 ／ 陶芸 | 社会生活 ／ 進路 | 余暇 | |
| 4 朝の運動 | | | | 5 芸術 | | 6 |

b 題材の整理

授業時数の増加に伴い、再度題材を見直すことにした。単元は「かず」と「実務」の2単元で展開している。アンケートの保護者・進路先で重要度の高かった「お金」に関しては、実務の単元で扱っていたが、かずの計算の中でもお金を扱うことがあるので、お金に関する題材を「かず」の単元に含めて実施した方が、生徒がより『くらし』を意識した学習になると考えた。実際の買い物では、ちょうどのお金を出すだけでなく、代金より大きいお金や1000円札から買い物をする生徒が多く、足し算や引き算と合わせて計算の学習を進めることでお釣りを意識することや予算を意識した買い物につながる。また、ほとんどの生徒が通学時に活用している交通系ICカード「スマートカード」が、かざすだけで乗れる魔法のカードのように感じているのではないかという課題が挙がった。これから社会を考えるとICカードの活用は、本校の生徒たちも活用する場面が増えてくると考え、ICカードとお金の関係についても授業の中で取り扱うことにし、新たに題材を設定することにした。必ずしもICカードを利用することを前提とするわけではなく、必要に応じて活用できる生徒が使用するという観点や生徒の実態等を考慮して、今回はAグループのみ題材を設定した。

I 具体例（数量Aグループ）

| 平成23年度実施分 | | 平成25年度実施分 | |
|------------------------------|----------------|---------------------------|----------------|
| 単元 | 題材 | 単元 | 題材 |
| 大きな数を数えたり、計算したりしよう | 大きな数を数えよう | お金を使って大きな数を数えたたり、計算したりしよう | 大きな数を数えよう |
| | 足し算・引き算をしよう | | 足し算・引き算をしよう |
| 時刻表を読んだり、量を量ったり、お金の計算をしたりしよう | お金を使う練習をしよう | ICカードを活用するための計算をしよう | お金を使う練習をしよう |
| | 長さや重さをはかる | | 長さや重さをはかる |
| | バスや電車の時刻表を読みもう | | バスや電車の時刻表を読みもう |

② 単元・題材一覧表の作成

各グループの題材を整理することで、モデルカリキュラムにおける授業の目標も見直す必要があり、単元の目標も含めて一覧表を作成した。（単元・題材一覧表）単元・題材一覧表の作成にあたっては、グループの横のつながりや習熟度による段階も考慮し、系統的に指導できているか検討しながら作成を行った。また、指導形態「数量」で取り扱う I C カードに関しては、指導形態「社会生活」との結びつきが強く、これまで学年進行であった指導形態「社会生活」において、習熟度別の縦割りグループを新たに編成し、授業を実施することでより学習の定着を図り、生徒の『くらし』をひろげる一つの手助けになるとと考えた。指導形態「社会生活」は学年進行のものと並行して授業を行うため、縦割りグループで扱う単元は 1 単元のみとし、題材のみの一覧表を作成した。

ア) 指導形態「言語」の単元・題材一覧表（拡大したものは、参考資料に載せている）

| グループ | A | B | C | D |
|-------|--|---|--|---|
| 単元の目標 | （内）〇文書を読む目的によって正しい使って、思いふうを学ぶことを学ぶこと（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより必要な情報を得ることで自分の世界が広がることを知り、日常生活でもやってみようという気持ちを高める。 | （内）〇日常生活で必要な会話力と、他人にいたしたことや手を貸す力などをかる。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより必要な情報を得ることで自分の世界が広がることを知り、日常生活でもやってみようという気持ちを高める。 | （内）〇会話や文章の理解など、日常生活において必要な言語能力を身につける。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより必要な情報を得ることで自分の世界が広がることを知り、日常生活でも広げようとする気持ちを高める。 | （内）〇会話やカード等を使って、自分の力を見える力や相手の考え方について行動したり、結果を学んで想たりする力を高めたり、自分の中でわかることができる。（この）〇会話活動に興味・関心をもって積極的に自己超越の姿勢を育てる。 |
| 単元の目標 | 「話し合い、書いてたりしよう」 | 「話し合い、書いてたりしよう」 | 「話したり、書いてたりしよう」 | 「よく聞いて操作したり、読みたり、伝えたりしよう」 |
| 単元の目標 | （内）〇物語・劇場などを聞いて文章を聞いたり話したりすることを通して、正しい文の作り方を知り、解説文が分かってやすいようになります。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより必要な情報を得ることで自分の世界が広がることを知り、日常生活でもやってみようという気持ちを高める。 | （内）〇物語などの基本的な文型を使って、話したり話したりする。（この）〇物語などを聞いて、物語や解説文などを聞き取る力で読むことを通じて、話すことや文章を作り、それを話すことができる。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより必要な情報を得ることで自分の世界が広がることを知り、話したりする。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより必要な情報を得ることで自分の世界が広がることを知り、話すことに楽しむを極め、話をしたりする。 | （内）〇基本的な文型を理解し、正しくたり話したりする。（この）〇話す練習をすることで、話す練習をすることで、話す楽しさを感じる。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより楽しむなどを、他者に伝え、話すことを楽しむ。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより楽しむなどを、他者に伝え、話すことを楽しむ。 | （内）〇音楽やカードなどを見て選別したり、手先を使って操作したり、筆記文字を書いたら。（この）〇手紙や手帳などをもらって教えてもらったり、最近な人の名前を覚えて書いたらとして、読みたり考えたり。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより楽しむなどを、他者に伝えたり、書いてたりする。（この）〇音楽やカードなどを見て選別したり、音楽で歌したりして相手に思いを伝えることで、気持ちを高める。 |
| 単元の目標 | 「自己紹介しよう」 「自分の好きなどについて、伝えよう」 「自分の心の読みかたについて、話したりしよう」 「感動開拓の読み方を知ろう」 「はがきや手帳書き書きこう」 | 「自己紹介しよう」 「運動会の読みしよう」 「解説文や解説会の読み書きしよう」 「文化祭や体験旅行の作文を書きこう」 | 「自己紹介しよう」 「運動会の読みしよう」 「解説文の読み書きこう」 「文化祭や体験旅行の作文を書きこう」 | 「身近な物の名前を知ろう」 「授業や友達、先生の名前を覚えよう」 「自己紹介しよう」 「誰ひからがな書きこう？」 |
| 単元の目標 | 「聞いたり、読みたりしよう」 | 「聞いたり、読みたりしよう」 | 「聞いたり、読みたりしよう」 | 「よく聞いて作動したり、読みだり、書いてたりしよう」 |
| 単元の目標 | （内）〇他の人の話やアイデアなどを聞くことを通じて、その内容を正確に理解する力を育てる。（この）〇物語や物語物語を通じて、話題や文章の読み方の多样性はどうぞ、文法を理解する力を育てる。（この）〇他の人の話を聞くときに、その内容を正確に理解する力を育てる。そのため、自分の心を込めて、積極的に話を聞くようにする。（この）〇他の人の話を聞くときに、自分の心を込めて、積極的に話を聞くようにする。（この）〇文法や物語を読むことへの意欲を高め、その楽しさを味わう。 | （内）〇物語や簡単な説明文を読みて、あらすじや内容を理解できるようにする。（この）〇物語や物語物語を通じて、話題や文章の読み方の多样性はどうぞ、文法を理解する力を育てる。（この）〇他の人の話を聞くときに、その内容を正確に理解する力を育てる。そのため、自分の心を込めて、積極的に話を聞くようにする。（この）〇他の人の話を聞くときに、自分の心を込めて、積極的に話を聞くようにする。（この）〇文法や物語を読むことへの意欲を高め、その楽しさを味わう。 | （内）〇物語や解説文の内容を理解する力を育てて、物語や解説文の読み方を理解する力を育てる。（この）〇他の人の話を聞くときに、自分の心を込めて、積極的に話を聞くようにする。（この）〇他の人の話を聞くときに、自分の心を込めて、積極的に話を聞くようにする。（この）〇文法や物語を読むことへの意欲を高め、その後に必要な情報を主体的に得ようとする意欲を育てる。 | （内）〇音楽やカードなどを見て選別したり、手先を使って操作したり、筆記文字を書いたら。（この）〇手紙や手帳などを自分で選んで置いたり、手先を使って操作したり、筆記文字を書いたら。（この）〇手紙や手帳などを自分で選んで置いたり、最近な人の名前を覚えて書いたらとして、読みたり考えたり。（この）〇自分の経験や持もちが幅広に広げる遊びがたり、自分の経験があることをより楽しむなどを、他者に伝えたり、書いてたりする。（この）〇音楽やカードなどを見て選別したり、音楽で歌したりして相手に思いを伝えることで、気持ちを高める。（この）〇音楽やカードなどを見て選別したり、音楽を覚えて歌ったりして相手に思いを伝えることで、気持ちを高める。 |
| 単元の目標 | 「新聞やインターネットのニュースを読もう」 「説明書やレシピを読もう」 「手帳を読みましょう」 「電話のやりとりやアナウンスを聞いて覚えよう」 | 「物語を読もう」 「解説文を読もう」 「図解文を読もう」 「読み聞かせを聞き書きこう」 | 「図解を見て覚えよう」 「物語を読もう」 「読み聞かせを聞き書きこう」 | 「身近な物や人の名前を知ろう」 「読み聞かせて動こう」 「図本を読もう」 「誰ひからがな書きこう？」 |
| 単元の目標 | | | | |

イ) 指導形態「数量」の単元・題材一覧表

| グループ | A | B | C | D |
|-------|--|--|---|---|
| 単元の目標 | （内）〇物語や物を理解したり、計算したりする力をつけ、さらにそれを基盤として企画や特制、計算などの商売を理解する力を高める。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語までのお金や収益などを計算して、外に出でて買い物をしたり、共通機会を利用したりするなど、周囲の環境に対して自分から働きかけようとする意欲を高める。 | （内）〇物語や物を理解したり、計算したりする力をつけ、さらにそれを基盤として企画や特制、計算などの商売を理解する力を高める。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語までのお金や収益などを計算して、外に出でて買い物をしたり、共通機会を利用したりするなど、周囲の環境に対して自分から働きかけようとする意欲を高める。 | （内）〇物語や物を理解したり、計算したりする力を高めたり、物語や算盤で簡単な計算をすることが出来るにより、話も飛躍しながら手のまままでの大人になる力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。 | （内）〇物語や物を理解したり、計算したりする力を高めたり、物語や算盤で簡単な計算をすることが出来るにより、話も飛躍しながら手のまままでの大人になる力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。（この）〇物語や物を理解したりして、計算する力を育てる。 |
| 単元の目標 | 「お金を使って大きな物を買ったり、計算したりしよう」 | 「遊ぶ遊びたり、話し算や引き算をしたりしよう」 | 「1から5までの数で数えよう」 | 「10までの数を数えたり、大きさを比べたりしよう」 |
| 単元の目標 | （内）〇○自分で切り下げるのがあることや算盤で簡単な計算や算盤を使ってすることを通して、日常生活の中でお金の計算(合計計算、割引計算など)が分かる。（この）〇物語までのお金や収益などを計算して、外に出でて買い物をしたり、共通機会を利用したりするなど、周囲の環境に対して自分から働きかけようとする意欲を高める。 | （内）〇○自分で切り下げるのがあることや算盤で簡単な計算や算盤を使ってすることを通して、日常生活の中でお金の計算(合計計算、割引計算など)が分かる。（この）〇物語までのお金や収益などを計算して、外に出でて買い物をしたり、共通機会を利用したりするなど、周囲の環境に対して自分から働きかけようとする意欲を高める。 | （内）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇物語や物を理解したりして、正確な数の目録など、日常生活の中で活用できる計算量を理解する力や計算・技術などを身につける。（この）〇物語や物を理解したりして、正確な数の目録などを身につける。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。 | （内）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇物語や物を理解したりして、正確な数の目録などを身につける。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。（この）〇かのどのまでの物の員価やサイズなどを正確に数える。 |
| 単元の目標 | 「大きな数を読みよう」 「同じ算数を覚えてしよう」 「お金を使う練習しよう」 「10までの数で計算するためのお金算をしてしよう」 | 「10までの数を読みよう」 「10までのまとまりをつけて読み算をする」 「10までのまとまりをつけて算すよ！」 「10までの数で算すよ！」 | 「詳しく数えよう」 「10までの数を数えよう」 「10までの数を数えよう」 「10までの数を数えよう」 | 「詳しく数えよう」 「10までの数を数えたり、読みだりしよう」 「大きな数を覚えてしよう」 「大きな数を覚えよう」 |
| 単元の目標 | 「大きい数字を読みたり、大きな数を覚えてばかりしよう」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 |
| 単元の目標 | 「10までの数を読みよう」 「大きな数を覚えてしよう」 「お金を使う練習しよう」 「10までの数で計算するためのお金算をしてしよう」 | 「大きな数を読みよう」 「10までのまとまりをつけて読み算をする」 「10までのまとまりをつけて算すよ！」 「10までの数で算すよ！」 | 「詳しく数えよう」 「10までの数を数えよう」 「10までの数を数えよう」 「10までの数を数えよう」 | 「詳しく数えよう」 「10までの数を数えたり、読みだりしよう」 「大きな数を覚えてしよう」 「大きな数を覚えよう」 |
| 単元の目標 | 「10までの数を読みたり、大きな数を覚えてばかりしよう」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 |
| 単元の目標 | 「10までの数を読みよう」 「大きな数を覚えてしよう」 「お金を使う練習しよう」 「10までの数で計算するためのお金算をしてしよう」 | 「大きな数を読みよう」 「10までのまとまりをつけて読み算をする」 「10までのまとまりをつけて算すよ！」 「10までの数で算すよ！」 | 「詳しく数えよう」 「10までの数を数えよう」 「10までの数を数えよう」 「10までの数を数えよう」 | 「詳しく数えよう」 「10までの数を数えたり、読みだりしよう」 「大きな数を覚えてしよう」 「大きな数を覚えよう」 |
| 単元の目標 | 「10までの数を読みたり、大きな数を覚えてばかりしよう」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 | 「大きな数を読みたり、物の価値や計算の方法を身に付けて、身近にある数値に同心圆をもつて、生活の中で活かそうとする意欲を高める。」 |

ウ) 指導形態「社会生活」の題材一覧表

| グループ 単元名 題材名 | A | B | C |
|--------------------|---|---|---|
| 題材の目標 | 「ICカードを使って、買い物をしよう」 ○ICカードがお金の代替品であるなどの特徴や積み増しなどの活用方法を理解し、実際にICカードを使った買い物ができる ○レシートを使ってICカードノートを記入することで、残金の確認や積み増しの有無を考えることができる | 「ICカードを活用しよう」 ○ICカードの使い方を理解し、実際に買い物や公共交通機関の利用ができる ○安心・安全にカードを使うための活用方法を知る | 「ICカードなどを使ってみよう」 ○ICカードで買い物ができることを知る ○ICカードがお金と同様に大切な物であることを知り、保管の仕方を知る |
| 授業名 | 「ICカードの特徴や活用方法を知ろう」 「ICカードを使って購入しよう」 「ICカードノートをつけよう」 | 「ICカードの便利な使い方を知ろう」 「ICカードを使ってみよう」 「ICカードの安全な使い方を考えよう」 | 「ICカードの使い方を知ろう」 「ICカードで買い物をしてみよう」 「ICカードの使い方を確認しよう」 |

(4) 指導形態「言語」「数量」の授業実践

作成した単元・題材一覧表の中から新たに設定した題材を、ここでは指導形態「言語」・「数量」において授業実践を行った。

① 指導形態「言語」の授業実践

ア) 題材について

題材名 「電話のやり取りを聞いて答えよう」

対象生徒：高等部Aグループ7名

a 目標

○電話でのやり取りを聞くことを通してその内容を正しく聞き取ることができると共に、話し方に気をつけながら実際にやり取りをする。

b 指導計画（全3時間）

○電話のやり取りを聞き取って答えよう・・・・・・・・・・・・ 2時間（本時1／3）

○電話のやり取りをやってみよう・・・・・・・・・・・・ 1時間

c 授業に向けて

日常生活の中で、聞くことに限って情報を収集する機会は少ないかもしれないが、ラジオ、防災無線、公共交通機関や公共施設での放送、電話など日常生活において大切な情報源でもある。また、高等部在校生や卒業生の保護者、福祉事業所を対象に行った、言語・数量の学習についてのアンケートの結果、「聞く」「話す」「書く」「読む」の4つの中で重要度は、「聞く」がAグループの在校生では1位、卒業生では2位という結果で、日常生活の中では大切に考えられていることが明らかになった。中でも電話でのやり取りを重視している保護者や事業所は多かった。そこで聞き取る力の向上を図るために、指導形態「言語」の学習においても、生徒たちに自分で聞き取って答える学習を重視した内容を設定した。

本グループの生徒は、ほとんどの生徒が普段電話を積極的に使用しておらず、使用する相手は特定の家族などあらかじめ決まっている。高等部1年「家庭生活」において電話の使い方を学習するが、マナーや初步的な言葉のやり取りが主な学習である。

生徒の実態としては、教師の話には一対一だと集中して聞いても、全体指示になると注意を向けることが難しい生徒がいる。また、物語や説明文など、理解するために要点を事前に整理すると聞き取ることができる生徒、言葉だけでは情景や状況を思い描くことが難しく、内容を聞き取ることが難しい生徒がいる。後者に対しては、生徒に分かりやすい言葉を用いたり、イラストや写真など用いることで意味が伝わりやすい。こうした現状や生徒の実態から、本題材では生徒に理解しやすい言葉を選び、電話でのやり取りを聞いて質問に答える学習活動を設定してみた。

本題材では、「聞く」ことをメインに、音声のみの情報の聞き取りを指導していきたい。音声はIC

レコーダーを活用して、一般的な電話のやり取りをあらかじめ録音したものを利用する。また必要に応じて文字情報を併せて提示し、やり取りの内容を解説したり、ワークシートに聞いたことを記入させたりする場面を設定する。電話のやり取りについては、店舗の営業時間や店休日を尋ねるなど、短い内容で取り組ませた。

指導にあたっては、要点を絞って聞くことができるよう、聞くことが得意な生徒にはどのような内容であったかを発表させたり、苦手な生徒には選択肢を与えて答えやすくしたりするなど個々に応じた課題を設定した。また内容を理解できてから実際のやり取りに近い状況で校内電話を用い経験させ、見えない相手への話す雰囲気も体験できるようにした。

イ) 本時について

a 目標

○電話でのやり取りを聞いたことを基に、質問に対して的確に答える。

b 授業の工夫

○電話の内容をケーキの予約場面と設定し、店員と客の一連のやり取りを取り上げた。

○やり取りを聞く際、視覚的な手がかりは一切用いず、ICレコーダーに録音した音源を聞くだけにし、集中して聞く状況にした。

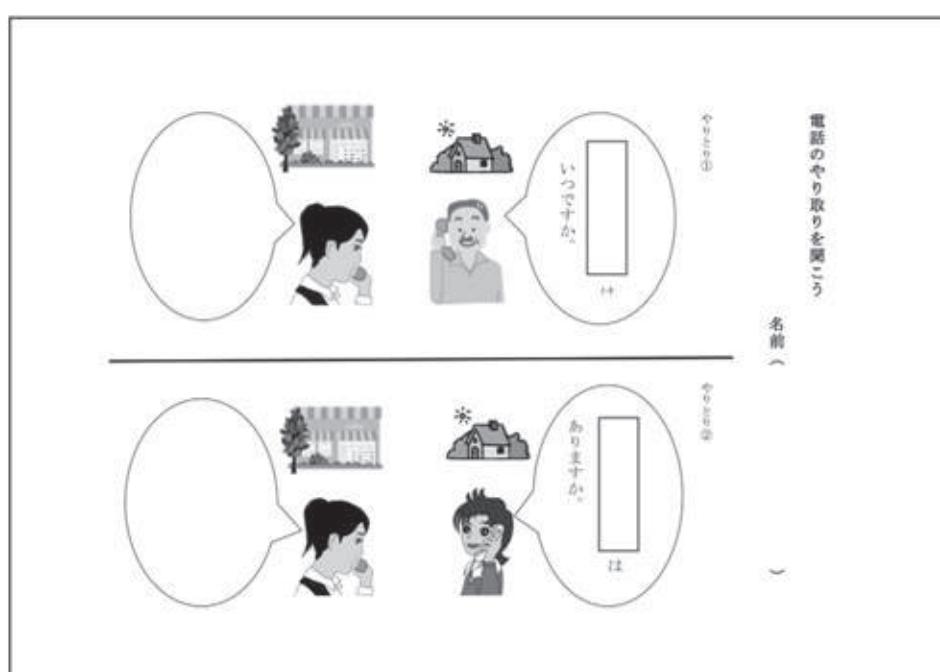
○「承りました」「～いただけますか」など生徒が普段使い慣れない言葉を取り入れ、生徒が様々な話し言葉を知る機会にした。

○生徒への働きかけ方として、聞き取れない生徒にはヒントを与えたり、繰り返し質問したりするなど個別に対応した支援を行う。

○共同学習の場面を設け、生徒同士とのかかわりを深め合い、学び合える場を作る。

○電話のやり取りでは、ICレコーダーに音源を録音した。店員や客は高等部の職員に協力を得た。音源はCDにも録音し、保存している。

○ワークシートは、聞き取りができる生徒用の空欄を埋める形式(図8)、聞き取りが難しい生徒用の選択肢をあげたもの(図9)の2つのパターンを作った。



〈図7：ワークシート①〉

電話のやり取りを聞いて答えよう

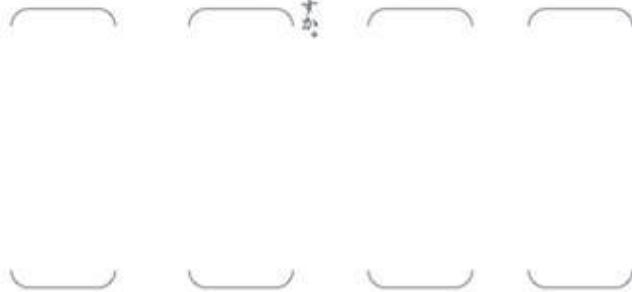
名前()

一、注文をしたケーキは何ですか。

二、ケーキをいくつ注文しましたか。

三、予約をした日にち、時間はいつですか。

四、注文した人の名前は何ですか。



<図8：ワークシート②-1>

電話のやり取りを聞いて答えよう

名前()

一、注文をしたケーキは何ですか。

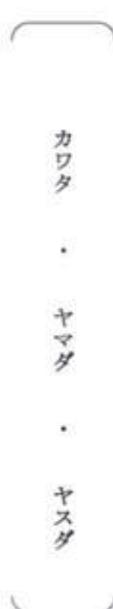
二、ケーキをいくつ注文しましたか。
ロールケーキ・ショートケーキ・ショーケリー

三、予約をした日にち、時間はいつですか。

月 日
午前 午後
時

四、注文した人の名前は何ですか。

カワタ
・
ヤマダ
・
ヤスダ



<図9：ワークシート②-2>

電話でのやり取りを聞いて答えよう

やりとり①

A..はい、もしもし。ケーキショップたてです。

B..そちらのお店の はいつですか？

A..午前九時から午後六時まで営業しています。

やりとり②

A..はい、もしもし。ケーキショップたてです。

C.. はありますか。

A..はい、毎週木曜日です。

やりとり③

A..はい、もしもし。ケーキショップたてです。

D..今度、そちらの店でロールケーキを買いたいのですが、予約はできますか。

A..はい、できます。お名前と予約したい日にちを教えてください。

D.. といいます。日にちは です。

A..おいくつ、注文なさいますか。

D.. です。

A..承りました。何時頃にご来店なさいますか。

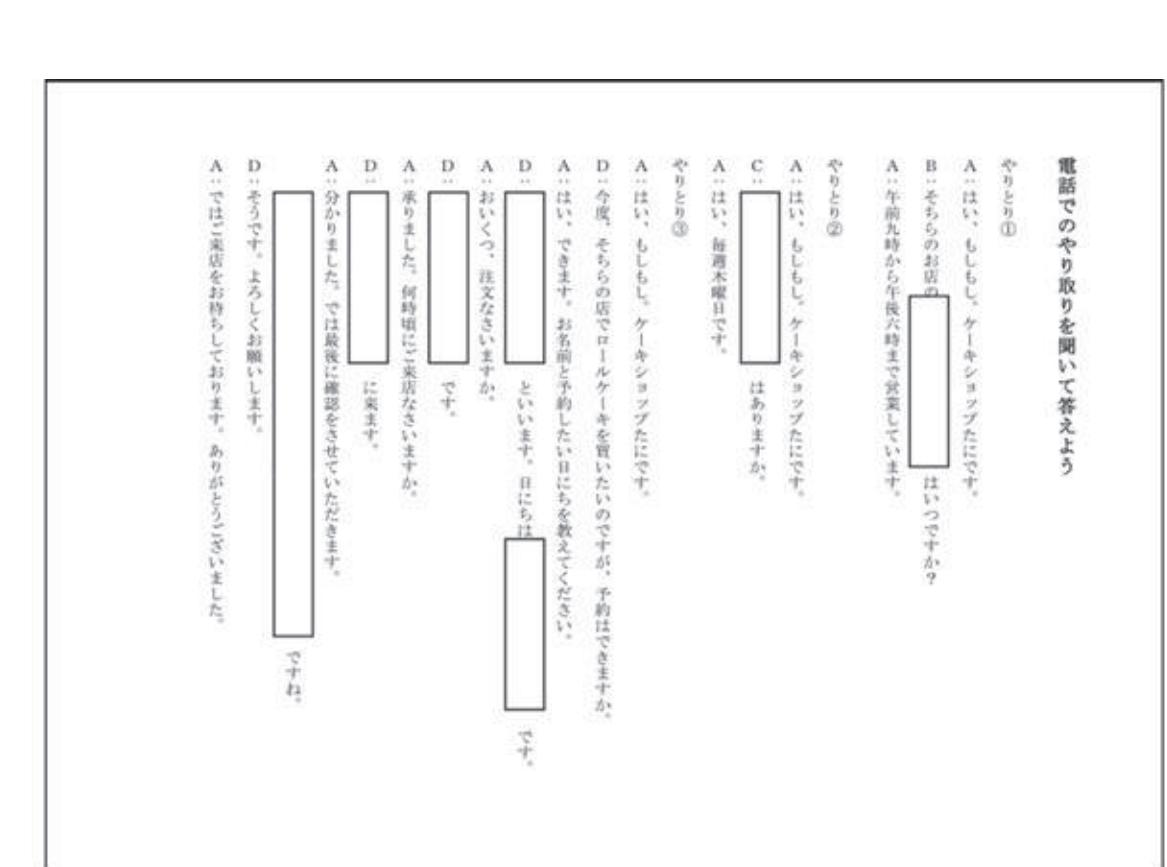
D.. に来ます。

A..分かりました。では最後に確認をさせていただきます。

D.. です。

A..ではご来店をお待ちしております。ありがとうございました。

D.. です。よろしくお願いします。



〈図10：会話のやり取り一覧表〉

c 過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 備考 |
|---------------------------------------|--|---------|
| 1 本時の学習活動を知る ○電話のやり取りを聞く学習を行うことを知る | ○電話の利用について思い起こさせ、電話は話すこと、聞くことによって情報を伝達し合うことを確認させる。同時に「聞く」ことの必要性を感じさせたい。 ○本時では、ICレコーダーに録音した会話のやり取りを聞き、質問に答える学習を行うことを伝え、学習への見通しをもたせたい。 ○聞き取りに苦手意識がある生徒に対して、選択肢などヒントを与えて、安心して学習に臨めるように配慮する。 | ICレコーダー |
| 2 やり取りを聞いて、質間に答える | ○やり取りはICレコーダーに事前に録音したものを使用する。まずは音声のみで必要な情報を得るように進めるが、必要に応じて文字も提示し、生徒が会話の意味を理解できるように工夫する。 ○架空のケーキ店を設定し、電話のやり取りを行うが学習前に状況について簡単な説明を行う。 ○全体指導として、まずは営業時間を尋ねるやり取りを再生し、聞いた内容を発表させながら情報を共有する。 | イラスト |

| | | | |
|---|---|--|----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ○「やり取り①」を聞き、キーワードを考え、適切な答えを選ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ○店員の返答を聞く前に、どのような応答の仕方が適切かを考えさせる。この際、「曜日」「時間」といったキーワードを挙げて生徒が考えやすくなるようにする。 |  | <p>ワークシート①</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ○「やり取り②」を聞き、キーワードを考え、適切な答えを選ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ○聞き取りやすいように店員の応答は3つのパターンを準備し、適切なものを選択させるようにする。 ○やり取りを聞いた後に、聞き取った会話を記入させて内容が理解できたか確認させる。 ○次に店休日を尋ねるやり取りを聞かせる。①と同様、生徒に聞き取った内容を発表させる。 | <p>ワークシート②-1、2</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○「やり取り③」を聞き、複数の質問に答える | <ul style="list-style-type: none"> ○①と同様、適切な応答の仕方を全体指導の中で考えさせ、応答の仕方について皆で考えさせる。 ○「曜日」「日にち」のキーワードを生徒に気づかせるために、①のヒントや「店休日」など言葉の意味を説明する。 ○店員の応答パターンは①同様、3つのパターン用意し、一通りやり取りを聞いた後、ワークシートへの記入も同様に行う。 ○③では、より長い会話の中から要点を絞って聞くことをねらい、ケーキを予約する場面を取り上げる。 ○客の注文の中身を聞き取る課題とするため、生徒は店員の役で会話を聞くように助言する。 ○音の情報だけでどの程度聞き取ることができたか自分自身で把握できるよう、③の内容を問題にしたワークシートに聞き取った内容について答えを考えるように言葉かけをする。 ○聞き取れない生徒には、メモをとつてよいことを伝える。 ○聞き取れた生徒は称賛しながらも、確認の言い回し方や言葉遣いにも注意して聞くように促す。 ○全体で再度③のやり取りを聞かせることで、それぞれの課題に応じて集中して聞くように助言する。 ○答えを確認する際は、やり取りを板書し、文字情報を提示しながら説明することで、生徒が分かりやすい環境作りを工夫したい。 | <p>会話のやり取り一覧表</p> | |
| <p>3　まとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ○授業を振り返らせ、注意深く聞き取ることの大切さに気付かせる。 ○次時は異なる設定でやり取りを聞き取ることを伝え、次時の学習意欲につなげたい。 | | |

ウ) 授業を終えて

授業における生徒たちの様子では、電話のやり取りでは、「聞く」視点の学習は生徒もあまり経験がなく、またＩＣレコーダーを用いたことで、好奇心をもって学習に臨む姿がみられた。電話のやり取りでは、身近な言葉を使ったやり取りを開くだけで概ね内容を把握でき、質問に正確に答えることができた生徒もいたが、聞き取りが難しい生徒には、選択肢から選ばせるなど手立てによって正しく答えることができた。また、電話のやり取りを一通り聞いた後、どの程度内容を聞き取ることができたかをワークシートの質問で確認することによって、大半の質問に答えることができていた。一方で日時を尋ねられている項目に対しては、すべての要素を書くことが難しく、再度聞き直しをする時に、書き漏れている内容を助言し、聞くポイントを絞らせることで答えることができた。

次時の授業では、本時の学習を実践するために校内電話を使って実際に電話のやり取りを経験させた。店員と客役の2つの別々の教室に分かれてやり取りを行ったが、慣れている生徒はスムーズに行うことができ、慣れていない生徒はたどたどしく、どのタイミングで返答をしてよいか戸惑う場面があった。そのため、校内とはいえ電話のやり取りの経験不足が感じられた。また、知らない人から電話がかかってきた時の対応についても触れたところ、どのような対応をするか分からぬ生徒が大半であった。

聞き取りの学習はこれまで設定したことがない指導内容であったが、より計画的に授業内容を設定することで学習も深まりが望めると思う。また指導形態「家庭生活」でも電話のやり取りは取り上げるため、授業内容が重複しないよう指導内容の確認をする必要がある。

言語に関するアンケートで重要度の高かった「聞く」「話す」については、教育活動全体の中で主に取り組んでおり、従来から指導形態「言語」においても生徒の発表を聞く、教師の指示を聞くといった限定した内容で取り扱っている。しかし、生活場面のニーズとして「聞く」ことに焦点を当てたときに、電話の対応やアナウンス、防災無線から必要な情報を得るために「聞く」力が必要となる場面は多い。特に相手が見えない状況で聞き取ることが苦手な生徒が多い。そこで生徒の実態に応じて、「聞く」ことを主たる目標とした題材を設定し、主に電話の内容を聞き取る指導内容を実施することにした。

電話は最も身近な「聞く」力を必要とする題材である。そこで正しく聞き取る力を高めることによって、他の生活場面においても、人の話を注意深く聞くことや、アナウンスを聞くなど、生活中でも「聞く」ことで情報を得る力につながるのではないかと考えた。「聞く」ことを指導形態「言語」における基礎的な学習として取り組み、そこから指導形態「社会生活」や指導形態「家庭生活」などの指導形態との連携を図りながら、『くらし』に近い状況にすることで生徒の『くらし』のふくらみにつなげていけるものと考える。

② 指導形態「数量」の授業実践

ア) 題材について

題材名「ＩＣカードを活用するための計算をしよう」

対象生徒：高等部Aグループ 8名

a 目標

○ＩＣカードの使い方やその仕組みを知り、それを使えるようになる。

b 指導計画（全2時間）

○スマートカードの計算をしよう・・・・・・・ 1時間

○ＩＣカードを活用するための計算をしよう・・・ 1時間（本時）

c 授業に向けて

私たちは、日々、お金を支払うことで、様々な物を購入したり、サービスを利用したりしながら生活をしている。私たちの周りは、様々な物やサービスで溢れおり、その中から自分で選択し、購入したり利用したりすることは、単に生きるための行動ではなく、楽しみも含んでいる。つまり、お金を使う力を身に付けることは、自分の楽しみを深めたり、広げたりすることにつながり、さらにそれが働く意欲にもつながっていくことを考えると、『くらし』がふくらんでいくために、とても重要なことである。今回実施したアンケート調査でも、在校生・卒業生保護者、進路先、どの対象においても、お金についての重要度が高いという結果が出た。また、クレジットカードだけでなく、おサイフケータイやICカードなどの電子マネーが普及している今日、私たちは、買う物・サービスだけでなく、支払い方法も自分で選択しながら生活を送っていることを考えると、お金についての指導において、紙幣や硬貨でのやり取りだけでなく、ICカードなどの電子マネーでのやり取りを内容に設定することは、生徒たちの支払いの選択肢を広げる上で重要であると考える。

本グループの生徒は、どの生徒も、筆算で2、3桁程度の加減であれば計算することができる。しかしながら、日常におけるお金のやり取りについての実態を見ると、毎月お小遣いをもらい、小遣い帳をつけながら買い物を楽しんでいる生徒から、欲しいものがある時には親に支払ってもらうことが多く、自分でお金を扱う機会が少ない生徒まで幅広くいる。そのため、計算問題であれば、同じように答えを出すことができる生徒たちの中に、経験不足から、支払う時にはどの紙幣や硬貨を出したらいか分からなかつたり、ちょうどのお金がない時にどうしたらよいか戸惑つたりするなど、『くらし』に生かせるまでに至っていない生徒もいる。生徒たちは通学や校外学習などで、長崎県内のバスや路面電車で使用できる交通系ICカード「長崎スマートカード」⁶を使用しているが、この乗車券の利用についても、残高が少なくなったら積み増しをする経験に差があり⁷、生徒によっては、カードとお金の等価関係を理解しておらず、かざすだけでどこまでも乗れるカードだと考えている者もいる。また、ICカードを利用した買い物の経験については、どの生徒もまだない。

本題材では、ICカードとお金は同じ価値があり、使うとお金を支払うことと同じようにカードの中のお金（残高）が減ること、財布にお金がなくなったら家族の人からお金をもらわないと買い物ができないのと同じように、積み増しをして残高を増やさないと使えないことを、計算することを通して指導していきたい。そのため、まずは生徒たちに馴染みのある「長崎スマートカード」を取り上げ、普段バスや路面電車を利用している時には運賃を支払うとお金が減ること、減るということは引き算であることを、文章問題を繰り返し解かせることで意識させるようにする。その後、買い物機能がついているICカード乗車券で買い物をした時の計算を繰り返しすることを通して、使ったら引き算をすること、足りなくなったら積み増しが必要であること、積み増しをするということは足し算であることを理解させたい。

イ) 本時について

a 目標

- ICカードを使って残金の計算や積み増しの計算をする。
- ICカードに興味をもち計算をしたり、お金の操作をしたりする。

b 授業の工夫

- 本時で使用する買い物機能のついたICカードは9月に実施する3年生の修学旅行で使用したり、指導形態「社会生活」で使用して買い物をしたりする予定の、JR九州のICカード乗車券「SUGOCA」

⁶ 「長崎スマートカード」には鉄道系のICカード乗車券にあるような買い物機能はついていない。

⁷ 数年前より、指導形態「社会生活」の指導の中で、積み増しをする学習を取り入れている

が、生徒にとっては今後馴染みがあるものになってくると考え、今回は「SUGOCA」を使って買い物をする設定にした。

- ICカードとお金が同じ価値であることを理解させるために、ICカードをA3サイズに拡大コピーし、ラミネート加工したものと同じサイズのホワイトボードに貼った「ICカードボード」を教材として作成し、全体思考の場で使用した。ホワイトボードに硬貨の模型を貼ることで、拡大したICカードをめくると、残高が視覚的に分かるようにした。
- A4サイズの「ICカードボード」をそれぞれに渡し、積み増しや残高の計算する度に「ICカードボード」を机上で操作させることで、計算したことがICカードの中でも行われていることを意識付けできるようにした。
- 積み増しは足し算であること、買い物をした時は引き算であることを意識させるために、ホワイトボードに「積み増しは+」、「買い物は-」と書いたカードを提示し、全体で考える時や答え合わせをする時などに全体で確認するようにした。
- 買う物は、生徒たちの興味のある本や文具、食べ物などにすることで、意欲的に進んで残高の計算ができるようにした。



〈図1.1：ワークシート〉



〈図1.2：スマートカードボード〉

c 過程

| 学習活動 | 指導上の意図・留意点 | 準備 |
|--|---|---|
| 1 前時の復習をする ○前時のワークシートを見る ○ I Cカードボード(大)を見る | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時で学習したスマートカードの残金の計算の仕方を思いださせ、本時では I Cカードを使い買い物をして残金を計算することにつなげたい。 ○ 前時に使用したワークシートを見ることでスマートカードの残金の計算の仕方を思い出すことができるようになる。 ○ 残金の計算が引き算であることを意識できるようにワークシートの「-」の記号に注目できるように指で示したり、言葉かけをしたりする。 ○ I Cカード(SUGOCAカード、nanacoカード)を提示し、本時の学習に使用する I Cカードもスマートカードと同じようにお金と同じ働きをするカードであることを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時で使用したワークシート ・ SUGOCAカード ・ nanacoカード ・ I Cカードボード |
| 2 残金の計算や積み増しの計算をする ○みんなで残金の計算をする ○ I Cカードボード(大)に残金をお金で貼る ○みんなで積み増しの計算をする ○ I Cカードボード(大)に積み増しのお金を貼る | <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ全体で学習することで、計算の仕方を確認したり、共同思考をしたりできるようにしたい。 ○ I Cカードを使って買い物をした時の残金の計算を拡大したワークシートやお金の模型を使って確認する。 ○ 計算した残金の金額をお金の模型を使って I Cカードボードに貼ることで、I Cカードとお金が等価であるや残金の計算に間違いがないか確認できるようにする。 ○ 残金で買い物ができないことに気づかせ、「積み増し」という言葉を引き出すように、生徒にどうしたらよいかを問いかけるようにする。 ○ I Cカードで積み増しをした時の計算の仕方を拡大したワークシートやお金の模型を使って行う。 ○ ワークシートで積み増しの計算をして出した金額を残金の時と同じように I Cカードボードで実際にお金を操作することで、I Cカードとお金が等価であることや残金の計算に間違いがないことをする、みんなで確認できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ I Cカードボード ・ 拡大ワークシート ・ 文字カード ・ 記号カード ・ 買い物用絵カード ・ 電卓 ・ 筆算用紙 ・ お金の模型 |
| 3 ワークシートをする ○残金の計算をする | <ul style="list-style-type: none"> ○ I Cカードで買い物をした残金や積み増しの計算をワークシートを使い、個別に取り組ませることで、個々のつまずきや取り組みの状況を把握する ○ 残金や積み増しの計算、お金の操作する活動を繰り返して行わせる。 ○ 個々のスピードに合わせ繰り返し問題に取り組ませることで計算の仕方を理解できるようにしたい。 ○ 引き算であることが分からぬ生徒には、 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別用のワークシート ・ 個別用 I Cカードボード ・ お金の模型 ・ 個人用 I Cカードボード ・ お金の模型 <p style="text-align: right;">残金の計算は引き算だ</p> |

| | | | |
|-----------|--|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ ICカードボード（小）に残金をお金で貼る ○ 積み増しの計算をする ○ ICカードボード（小）に積み増しのお金を貼る | <p>記号カードを使い、「+」「-」の記号を選ばせることで、分かるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個別用のICカードボードを準備し、個々にお金を操作することで、残金計算が間違っていないか自分で確認できるようにしたり、ICカードとお金の等価関係が分かるようにしたりする。 ○ ICカードとお金の等価関係が分かりにくい生徒には、ICカードボードのカードをめくり、カードの中にお金が入っていることを繰り返し実感させながら進めるようにする。 ○ 足し算であることが分からぬ生徒には、記号カードを使い、「+」「-」の記号を選ばせることで、分かるようにする。 ○ 自分でお金が足りなくなったことを判断し積み増しが必要であることが分かる生徒には、自分で積み増しをさせ個々に取り組みを進められるようにする。 ○ 個々にお金を操作することで、積み増しの計算が間違っていないか自分で確認できるようにしたり、ICカードとお金の等価関係が分かるようにしたりする。  | <p>SUGOCAはお金と同じなんだ</p> |
| 4. まとめをする | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の話を聞く | <p>○ 学習に使用したICカードボードや記号カード、文字カード等を見ることで、本時の学習内容を振り返らせるようにしたい。</p> <p>○ ICカードを使うことはお金を使うことと同じであることを伝え、ICカードを使うと乗り物に乗れたり、買い物ができたりと便利であることを話すようにする。また、自分たちの生活の中で、利用できるとよいことも伝える。</p> <p>○ 本物のSUGOCAカードやnanacoカードを手に取らせることでICカードを身近なものに感じさせるようにしたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • SUGOCAカード • nanacoカード |

ウ) 授業を終えて

この授業を通して、ほとんどの生徒が買い物をすると引き算であること、積み増しをすると足し算であることが理解することができた。中には、問題を繰り返し解くことで、残高と次に購入する物の値段を比較して、積み増しが必要であることに自ら気づいて計算することができた生徒もいた。ICカードとお金の等価関係について、ワークシート上で計算して答えを出すだけでなく、「ICカードボード」を利用しカードの中にいくら入っているのかお金の模型を見ることは、数式とお金とが結びつきにくい生徒にとっても理解しやすく効果的だった。

しかしながら、2時間の授業だけでは、カードとお金の等価関係、残高計算のやり方について、理解することはできたが十分に定着するまでには至らず、今後も継続した指導が必要であると考える。また、お金のやり取りを身に付けるためには、机上の計算だけでなく、やはり実際に経験することが重要であり、そのために、今回の学びを基に指導形態「社会生活」で経験をとおしての指導を実施しながら、生徒たちの『くらし』につなげていきたい。

今回、導入で「長崎スマートカード」や「SUGOCA」以外のICカードについてふれた際、コンビニ

エンスストアやスーパーなどで利用できるICカードへの関心が高い生徒がおり、自分が知っているカードの名前を挙げたり教師が挙げたカードの名前を知っていると答えたりする様子が見られた。興味はあるが、使う一歩を踏み出せない、そのような生徒にとって本研究で取り組んだICカードについての指導は、『くらし』の中でICカードを利用してみようと生徒の背中を押す力になったのではないだろうか。それ以外の生徒も含め、今後、指導形態「社会生活」で指導する内容と併せて、ICカードについての理解を深めていく中で、『くらし』につながる力にしていきたいと考える。

ICカードを利用した買い物は、支払手段の一つである。指導形態「社会生活」の指導を通して、使い方や利便性だけでなく、気をつけなければならないことも指導しながら、その上で自分の『くらし』で使うかどうか考えさせていきたい。この選択肢を増やすことで、生徒が、支払手段を考えたり、利便性を活用したりしながら『くらし』をふくらませていく力につなげていきたい。

5 研究成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 指導内容と『くらし』との関連の整理

「指導内容表 Ver.1」は、長年本校で培ってきた指導内容をもとに整理したものであるが、作成から10年以上経過しており、研究の過程において、時代の潮流にそぐわなくなってきた内容や新しく取り入れた方がよい内容などがあることが予想された。実際に、「指導内容表 Ver.1」における言語・数量の指導内容が、生活のどのような場面で活用されているのかを考えたり、現在行っている指導形態「言語」・「数量」や他の授業で具体的にどのように実施しているかを確認したりすることを通して、指導内容の妥当性を検証したり、他に実施すべき指導内容を見出したりすることができた。

例えば、校外学習や通学で生徒たちが使用する機会の多いスマートカードについて、利用することはできても、カードをかざせばどこまでも電車に乗れると考えていたり、残金が少なくなってきたら積み増しをしなければならないことが理解できなかつたりする生徒がいるなどの課題が挙げられた。一方、指導形態「社会生活」の授業では、利用の仕方についての指導は行うことができても、その意味や仕組みについての指導を行う時間は十分に確保できない。そこで、スマートカードや今後普及が広まると考えられるICカードについて、指導形態「数量」の授業の中で、それらがお金と同じ価値をもつことを指導する必要性が確認できた。

② アンケート調査に基づく指導内容及び授業の改善

在校生及び卒業生の保護者、卒業生の進路先を対象としたアンケート調査結果を分析し、それらを基に指導内容の改善を行うことができた。

言語のアンケート調査では、在校生の保護者の場合、電話やアナウンスを聞き取る力を、卒業生の保護者や進路先の職員の場合、自分の名前が呼ばれたことに気づくことや相手とのやり取りができるなどを、それぞれ重要と考えていることが分かった。これまでも「聞く」ことに関しては、言語の授業だけでなく、教育活動全般で意識して行なってきていたが、相手が見えない状況での聞き取りについては、指導形態「家庭生活（1年生）」の授業でしか行なっておらず、その際、聞き取る力よりも手順やマナーが中心となっており、聞き取る力を高める授業内容とはなっていなかった。そこで、「聞く」ことを目標に設定した授業を行い、生徒個々にどのような課題があり、どのような指導を行なえばよいかについて、検証することで、今後の指導の方向性を明確にすることができた。



〈写真1：指導形態「数量」の授業の様子〉

また、指導形態「数量」に関するアンケート調査では、保護者の場合、日常生活と関連の深い「お金」「時計の読み取り」を、進路先の場合、仕事の場面で必要となる「考え方」や「数の読み書き」を重要視する結果となった。従前より重要度が高いとされる項目についての指導を行ってきているが、指導内容の確実な定着のためには、授業時数が不足していることが課題として挙げられていた。このことから、これまで週に1回実施していた授業を週全体に渡って帯状に実施し、表8に示す通り、従来よりも約6割程度授業時数を増やすことで、指導内容の定着化が図れるようにした。

なお、本校では、ベースとなる時間割を基に、学校行事や教育実習等の関係から、変則的に月ごとの時間割を設定している。そのため、毎月の時間数は一定とならないこと、暦の都合により年度毎にも異なる。ちなみに、6月は3週間、11月は4週間の現場実習を実施するため、その期間は例年授業を実施していない。

〈表8：平成25年度11月までの授業時数（括弧内は平成23年度実績）〉

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 | 10 | 11 |
|----|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 時数 | 言語 (2) | 3 (3) | 2 (0) | 1 (2) | 3 (3) | 6 (1) | 0 (0) |
| | 数量 (2) | 3 (3) | 1 (0) | 2 (2) | 3 (3) | 5 (1) | 0 (0) |

③ 単元・題材一覧表の作成

研究の過程において、指導内容の追加・改善や授業時数の増加を実施したが、それら方策の効果をより確かなものにするためには、系統性の確保やグループ毎の住み分け、題材の統一、他の指導形態や授業との関連の整理などを行う必要があると考えた。そこで、今回の研究の対象となった指導形態「言語」・「数量」及び「縦割り社会生活」について、題材計画一覧表を作成し、共通理解を図ることで、今後の授業に今回の研究成果を生かせるようにした。

④ 成果の考察

これまでの本校における教育活動では、蓄積型・体験型の学習により、知識を溜め込んだり、体験によるスキルアップを目指したりすることのみを単なる目的とせず、自己の育ちをねらった授業を実践してきた。すなわち、18次研において、「知識を教え授ける」とする教育視座から「自己を自ら育む場面に立合う」という教育視座へとパラダイムシフトすべきであるとの考えのもと、その後の授業づくりに取り組んできた。このことは、今回の研究にも生かされている。

指導形態「言語」では、「聞く」ことに焦点を当てて、授業を行った。他者からの話や指示について、その要点をまとめたり、メモにとったり、重要なキーワードを拾ったりしながら、その内容を開き取る工夫や方法などを教えることにより、「聞く」ことへのスキルは高まるかもしれない。しかしながら、その環境が教室や職場など限られた場面のみを想定しているのであれば、実際の生活に結びつかないことも考えられる。今回、ICレコーダーを用いた音声教材を使用しながら、音声のみによる電話のやり取りを想定した授業を行ったが、これは、電話でのやり取りができるようになるばかりでなく、銀行での呼び出しや緊急時の放送、交通機関での行き先や路線アナウンスの聞き取りにもつながることをねらっている。授業で得た1つのスキルが、聞き取りが必要となる生活の様々な場面で生かされることで、生徒たちは「聞く」ことについて、「もっといろいろなことを聞いてみよう」という「聞く」ことへの興味・関心をより一層高めるとともに、その場面で聞き取れたという成功体験を積み重ねながら、より多岐に渡る「聞く」場面へと広がりを見せることになるだろう。

一方、指導形態「数量」では、日常的に使用するICカードの仕組みと加減算を関連させて、授業

を行った。その際、これまでの学習で、習得した計算する力をもとに、ICカードの仕組みを「ICカードボード」を用いて、具体的な操作によって理解できるようにしたが、そのことがICカードの仕組みの理解と残額や積み増し時の計算方法に終始せず、実際の生活場面で生かされるよう、指導形態「社会生活」で関連した指導内容を新たに設定することとした。このことにより、交通機関の利用に留まらず、買い物での利用へとICカードの使用場面を広げることができ、具体的な操作を通じて、ICカードの仕組みを理解する機会を増加させることにつながると期待される。

また、これまで学年単位で実施していた授業を、学年の枠を取り払い、習熟度別の学習グループを設けることで、より生徒の実態に応じた、すなわち生徒の生活に密着した指導が行えるようになったことも成果の一つと考えてよいだろう。

以上のこととは、まさしく、本研究のテーマとして設定した『くらし』がふくらむことであり、生徒の現在及び卒業後の生活をさらに充実したものへと進展させていくことになるだろう。これは、学校外や卒業後の生活の様々な場面で直面する新たな事柄について、教師をはじめとする周囲の人間から一つひとつ教授されずとも、生徒が置かれた環境の中で、生徒自身が自ら興味・関心をもって自らの力で学びとろうとする姿、すなわち18次研究のキーワードとして取り上げた「自己教育力」を高めることへつながることになると考える。

（2）今後の課題

今回の研究により、指導形態「言語」・「数量」及び「社会生活」の授業において、指導内容や授業改善、授業時数の増加などを行うことができたが、今後、これら研究の成果をより確かなものにするために、以下に示す課題に取り組む必要がある。

① 単元・題材一覧表に基づく系統的な授業実践と検証

今後は、今回の研究で作成した単元・題材計画一覧表の指導内容をモデルカリキュラムに反映し、授業実践を行っていくことになる。その際、指導の効果をより高めるために、個々の題材で指導する内容をより具体的にし、その時期や授業時数などを明確にしながら、系統的な授業実践を行なっていく必要がある。また、教材や補助具についても、シラバスに沿った形で作成・修正や整理を行い、それらを蓄積していくことで、継続的に同水準の指導が行えるようにしなければならない。その上で、生徒の理解度、学習習熟度や定着化だけでなく、日常生活との結びつきがどのような場面でどの程度向上したかについて、従前のデータと比較しながら、検証を行い、更なる授業改善へつなげていきたい。

② 生徒の学習習熟度に応じたグループ編成の検討

現在の指導形態「言語」・「数量」の授業におけるグループ編成は題材や指導内容によらず、全て年度初めに設定した同一のグループで学習を行っている。ところが、自閉症の生徒によく見られるように文字や文章を書いたり、読んだりすることは概ねできても、人の話を聞くことに関しては、著しく困難を要する場合や知的水準が低くても日常生活場面での豊富な経験をとおして時計の読み取りやお金のやり取りが上手にできる場合など、題材や指導内容によっては、当該グループの指導内容が必ずしも妥当と言えないことがある。この問題を解消するために、題材や指導内容に応じて、生徒の学習習熟度を踏まえながら、学習グループを適宜編成することが望ましい。しかしながら、現行は、それぞれの学習グループの題材や指導内容を学習する時期がグループ毎に異なるため、題材や指導内容に応じて、グループを編成し直すことができない状況にある。この課題を改善するために、生徒個々の学習習熟度を題材や指導内容毎に詳細に評価・把握しながら、同一内容の学習時期をグループ間で合わせる工夫をすることで、学習習熟度に応じたグループ編成ができるようにしたい。

また、指導形態「社会生活」の授業は、基本的に各クラスによる学習グループで実施をしているが、

今回の研究で実施したような学習習熟度に応じた縦割りの学習グループで実施できる内容が、他にもないかを検討し、必要に応じてモデルカリキュラムの中に取り入れていくことが期待される。

③ 他の指導形態や授業との関連についての整理

指導形態「言語」・「数量」で学習する内容は、日頃の生活を営む上での基盤であり、他の指導形態や授業での学習を支える根幹部分である。今回、指導形態「言語」・「数量」を切り口として、指導形態「社会生活」の授業改善を行ったが、他の指導形態や授業においても、相互の関連を深めることでより効果が期待できると考える。例えば、進路では、現場実習時の自己紹介や挨拶、作業学習では、作業手順の理解、目盛りや測りの計測などがあげられる。今後は、指導形態「社会生活」以外の授業においても、その関連を整理・検討しながら、教育活動全般において、指導形態「言語」・「数量」での学習が生かせるようにしたい。

④ 従前の研究の継承

先に述べたように、本研究では従前の研究成果を継承しながら、それをさらに発展できるような形で授業づくりを進めてきたが、その流れは今後も変わるものではない。例えば、ICカードの使用については、これまで使用したことがない新しい種類のICカードに出会ったときに、そのICカードに興味をもって、「今度はこの種類のICカードを自分で使えるようになりたい」と思う気持ちも大切であるし、逆に、そのことを学んだ上で、自分の性格や特性を踏まえて、「使いすぎないように自分は使わないようにしよう」と考える気持ちも大切なことである。これは、18次研究の「自己理解」や「自己選択」と深く関連しており、双方の気持ちとも「自己」から出たものであれば、尊重すべきことである。つまり、『くらし』がふくらむ生活を目指しながら、さらに指導形態や授業づくりについて、改善を図っていったとしても、従前からの研究の流れを逸脱しないようにすることは、言うまでもない。

《引用・参考文献》

- 菅野敦、宇野宏幸、橋本創一、小島道生(2006)：「特別支援教育における教育実践の方法」ナカニシ出版
- 田中道治、都筑学、別府哲、小島道生(2007)：「発達障害のある子どもの自己を育てる」ナカニシ出版
- 湯浅恭正(2006)：「障害児授業実践の教授学的研究」大学教育出版
- 湯浅恭正、新井英靖、小川英彦、広瀬信雄(2008)：「カリキュラム開発力を養おう」黎明書房
- 渡辺健介(2007)：「世界一やさしい問題解決の授業」ダイヤモンド社
- 長崎大学教育学部附属養護学校(2004)：「教育課程の再編成 その2-実践的課題研究と卒業生の実態調査をとおして、自立と社会参加をめざした教育課程再編成の手がかりを探る-」長崎大学教育学部附属養護学校研究紀要第16集
- 長崎大学教育学部附属養護学校(2007)：「教育課程の再編成 その3-自己の形成へつながる教育課程の創造-」長崎大学教育学部附属養護学校研究紀要第17集
- 長崎大学教育学部附属特別支援学校(2009)：「自己を育む授業実践-「こころチェックリスト」を取り入れた授業設計-」長崎大学教育学部附属養護学校研究紀要第18集

《参考資料①》

アンケート結果：本校で学習している（した）ことが、どのような場面で生かされているか。

【言語】 カテゴリー [話す]

| | 在校生 | 卒業生 |
|----------|--|---|
| 習熟度グループA | <ul style="list-style-type: none"> ○学校であったことなどを聞くと話す ○自分の要求を話す ○テレビを見て感じたことを話す | <ul style="list-style-type: none"> ○世話人に相談したり、職場の職員、友人と話したりする ○面会時に仕事のこと、友達のこと、クラブ活動について話す ○仕事帰りにお店に寄る時には必ず家に連絡をする ○職場であったことを話す ○利用者さんと話をする ○休みの日にどこへ行ったかを話す ○報告をする ○自分の要求を伝える ○困った時に聞く ○自分のわからないことを尋ねる ○電話で話をする |
| 習熟度グループB | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の感じたことや場面などに応じて話そうという意欲が見られる ○学校であったことを家族に話す ○家庭であったことを学校でも話す ○自分の思ったことを話す ○困った時に助けを求める ○近所の人や中学校の同級生に話しかけられて会話をする ○病院でDr.などに痛いところなどについて自分で言う ○あまり慣れていない人にわかりやすい質問をされて、「はい」「いいえ」などで答える ○自分のしたいことを話す | <ul style="list-style-type: none"> ○困った時に言う ○自分の要求を伝える ○嫌なことがあった時に帰ってきてから話す ○自己紹介をする ○挨拶をする ○質問すると簡単な単語をつなぎ合わせて答える |
| グループC | <ul style="list-style-type: none"> ○学校であったことを話す ○場面に応じた言葉や挨拶(家族以外にも)が少しずつできるようになった ○次の日の持ち物を伝える ○自分の要求を伝える | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の気持ちを伝える ○返事がしやすいような話しかけで会話をする ○職場であったことを話してくれる ○要求をする |
| グループD | <ul style="list-style-type: none"> ○学校であったことを家族に話す ○自分の気持ちや要求を伝える ○先生から聞いてきたことを話す ○印象に残っていることを伝える ○道を間違えると教える ○店員さんを「すみません」と呼ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ○簡単な言葉を使って要求をする ○写真や絵カードで要求を伝える |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○会話を楽しむことができる ○電話をかけることができる ○作業の報告をする ○自分の意思を伝える ○助けを求める ○自分の体調を訴える ○わからないことを尋ねる ○挨拶をする ○自分や家庭のことを話す ○自分の気持ちを伝える | |

※卒業生の習熟度グループは、対象生徒が在学中に主に学習していたグループである。本校の習熟度グループのおおよそのMAについてはp. 11に記述している。

【言語】 カテゴリー [読む]

| | 在校生 | 卒業生 |
|----------|--|--|
| 習熟度グループA | <ul style="list-style-type: none"> ○地図を読んで、行きたい場所を決める ○お出かけ情報を雑誌などから探す ○新聞(TV欄)やチラシを読む ○好きなアイドルの雑誌を読む ○本を読む ○学校の時間割を見る | <ul style="list-style-type: none"> ○バスの時刻表を見る ○CDの歌詞を読んで楽しむ ○雑誌を読む ○パソコンをする ○メールを見る ○絵本の読み聞かせを自分でする ○連絡ノートを読む ○本を読む ○パンフレットを見る ○新聞を読む ○手紙を読む ○テレビ欄を見る ○テレビの字幕を読む ○カレンダーの予定を読む ○カップラーメンの作り方の説明を読む ○食品の内容物を見て嫌いなものがないか確認する |
| 習熟度グループB | <ul style="list-style-type: none"> ○パソコンで情報(テレビ番組、本の発売日)を得る ○メールや手紙などを読む ○メモを見ながらおつかいに行く ○好きな漫画を絵や文章を手がかりにして楽しむ ○車のナンバープレートの地名を読み、その地名がどこにあるのか興味をもつ ○ゲームの攻略本を読む ○絵本を読む ○テレビのテロップを読む ○学校からのお知らせを読む ○プリントを読む | <ul style="list-style-type: none"> ○職場からの連絡帳を読む ○雑誌を読む ○時刻表を読む ○作業所などのスケジュールを見る ○新聞を読む ○テレビを見る ○職場からのお知らせを読む ○年賀状を読む ○新聞の広告を読む |
| 習熟度グループC | <ul style="list-style-type: none"> ○メモ帳を見ながら時間割や準備物を確認する ○絵本を読む ○本を読む ○バスの行き先を見る ○新聞を読む ○テレビ欄(新聞)を見る | <ul style="list-style-type: none"> ○興味のあるものは自分で読む ○デパートやスーパーの名前を読む ○商品やメーカーの名前を読む ○本を読む ○新聞を読む ○スケジュールを見る ○給食の献立表を見る ○カレンダーを見る |
| グループD | <ul style="list-style-type: none"> ○ひらがなや数字などを理解して遊びの中で生かしている ○電車やJRの行き先表示を見て、どこに行くかわかる ○学校からの連絡帳、プリントを読む ○新聞のテレビ欄から自分の知っている文字を見つける ○友達の名前を漢字でも読めるようになった | <ul style="list-style-type: none"> ○字は読めないが、自分の名前は分かるようで、上書きを間違えることはない ○状況を見て色々なことを察する |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○お知らせや日程表を読み取る ○バス等の行き先がわかる ○ポスターや掲示物などから情報を読み取る ○本人のロッカー、靴箱の氏名の理解 ○作業工程を文字を見せて説明した時に、理解する ○雑誌を読む ○当番表や献立を読む ○商品名や金額を把握する ○作業マニュアルを読む | |

【言語】 カテゴリー [書く]

| | 在校生 | 卒業生 |
|----------|--|---|
| 習熟度グループA | <ul style="list-style-type: none"> ○メールを作成する ○日記を書く ○メールで何があったかを書いて送る ○漢字の練習をする ○宿題をする ○住所(お店のポイントカードを作る時)を記入する | <ul style="list-style-type: none"> ○必要なことを書く ○指導員と交換日記をして楽しむ ○サークルやプール、ダンスの趣味をスケジュール表に書く ○年賀状や手紙を書く ○日記を書く ○お小遣い帳をつける ○事業所との手書きの書類に記入する ○カレンダーにスケジュールを書く ○選挙で投票する ○工賃の領収書に名前を書く ○持ち物に名前を書く |
| 習熟度グループB | <ul style="list-style-type: none"> ○手紙を書く ○日記を書く ○問題集を解く ○学校で次の日の授業や持ってくるものなどのメモを書く ○困ったときにメールで伝える ○買い物リストを書く | <ul style="list-style-type: none"> ○カレンダーや手帳に自分や家族の予定を書き込む ○年賀状や手紙を書く ○日記を書く ○事業所の契約書に名前や住所などを記入する ○選挙で投票する ○作文を書く ○メモをとる |
| 習熟度グループC | <ul style="list-style-type: none"> ○毎日の出来事を日記に書く ○宿題を一人でする ○絵や字など、好きなものを模写する ○空想したり想像したりしたことを書く ○カレンダーに親の勤務時間を書く | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の住所、名前を書く ○言葉で伝わりにくい時に文字で伝える ○日記を書く ○施設との契約書などに署名をする |
| 習熟度グループD | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前を書く ○“ありがとう”など、気持ちを伝えるカードを書くことがある ○日記を書く ○友達の名前や学校であったことを書く ○文字を見て書く | |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○メモをする ○実習ノートへ記入する ○自分の名前、住所、生年月日などを記入する[契約の時など] ○書いて意思伝達をする ○当番表や献立を書く ○お礼状や手紙を書く ○活動や作業に関しての記録をとる ○履歴書を書く ○カレンダー(数字、曜日)を作成する | |

【言語】 カテゴリー [聞く]

| | 在校生 | 卒業生 |
|----------|---|---|
| 習熟度グループA | <ul style="list-style-type: none"> ○注意されたことを理解する ○出発時間やバスの時間聞いて理解する ○音楽を聞く ○家族など人が話していることを聞く | <ul style="list-style-type: none"> ○呼ばれた時に返事をする ○仲間の生活歴を聞いたり、スタッフのことを聞いたりして楽しんでいる ○職場からの簡単な連絡事項はしっかり聞いてきている ○電話連絡ができるので助かる ○わからない時にはお店の人に尋ねる ○支援員さんの指示に従いながら作業ができているように思う ○職場で一日の予定や仕事内容の説明を聞いて理解する ○人の話を静かに聞く ○バス停などの案内のアナウンスを聞いて確認する ○電話で人の話を聞く ○テレビのニュースを聞く |
| 習熟度グループB | <ul style="list-style-type: none"> ○いろんな人の話を聞こうとする ○病院などで自分の名前が呼ばれたことが分かる ○テレビのドラマの中で話していることを聞く ○テレビからの音声を聞く ○相手が質問していることを聞きとてそれに答える ○電話で親戚の話を聞いて話す ○家族の言うことを聞いて動く ○外出先でトイレの場所などを聞く | <ul style="list-style-type: none"> ○注意されたことを聞いて気を付ける ○これからの予定を聞く ○仕事のやり方、順番などを聞く ○人が多く集まる会などで、人の話を聞く |
| グループC | <ul style="list-style-type: none"> ○尋ねられたことを理解し、答えるようになった ○好きな音楽をパソコンで探して聞く ○興味のあることはよく聞く ○頼まれたことを聞く ○家族の会話で自分の興味のあることや楽しみなことは会話に入ってくる | <ul style="list-style-type: none"> ○相手の話を聞く ○仕事でやり方などを聞く ○問い合わせを理解する |
| グループD | <ul style="list-style-type: none"> ○周りの人の話を聞く ○休日など周りの人の予定を聞いて、計画をたてる ○予定変更など、話を聞いて納得する ○タイムケアなどに一人で行くようになり、約束したことをしっかり聞けるようになった | <ul style="list-style-type: none"> ○静かに座って人の話を聞く ○自分がわかる言葉を聞いて意味を察する |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○会話を楽しむ ○テレビやラジオ、音楽、映画など余暇活動が広がる ○電話をとる ○作業工程を口答で説明した時に理解する ○相手の話を聞いて理解する ○全体に向けて話した予定や注意事項を聞き取る ○説明(朝礼、終礼)をきちんとした態度で聞く ○質問して聞く(気になる事)(献立)(日課)(休み)(行事) | |

【数量】 カテゴリー [数の読み書き・数え方]

| | 在校生 | 卒業生 |
|----------|--|--|
| 習熟度グループA | <ul style="list-style-type: none"> ○人数分のお皿の準備などをする ○食卓などで家族で割ると一人あたり何個食べればよいか、などの会話をする ○買い物の時など値段をきちんと読む ○3桁までなら正確に読み書きできるようになった | <ul style="list-style-type: none"> ○作業でコンテナの箱を数えて仕事をしている ○出す年賀状の枚数の確認、届いた年賀状の枚数チェックする ○時計を見て、仕事の始業時間を気にしている ○「〇〇個ください」「〇〇本とて」などの依頼を理解する ○お小遣いの残金を数える |
| 習熟度グループB | <ul style="list-style-type: none"> ○5のまとまりを数えることができるようになって、時計が上手に読めるようになった。(公文のプリントをする時、最初と最後に時間を記入するので毎回アナログ時計を読むようにしている) ○10、20、30と数えることができるようになってお金が上手に数えられるようになった ○お金を数える ○物を数える ○買い物などで同じものを2つ以上買ってきてほしいときに、言われた数を買う | <ul style="list-style-type: none"> ○仕事の餌作りで、作った数を数える ○スマートカードの残金を読む ○お菓子の在庫管理の仕事を任せられ、間違いも少しずつ減ってきている ○5までの数の物なら、確実に持ってくる ○人数分の食器や箸を用意する ○お菓子などを人数で割って同じ数ずつ分ける |
| 習熟度グループC | <ul style="list-style-type: none"> ○内服薬の残りが少なくなったら報告する ○腹筋、背筋などの回数を数える ○調理の際、「トマトを8等分して」というと、2、4、8、と数えながら切る ○「〇〇を〇個持ってきてなどの指示が分かる | <ul style="list-style-type: none"> ○時計はアナログ／デジタルを確実に読み理解できている ○時刻表などを見る ○1～10を数えて仕事(かまぼこ拭き)をしている ○気持ちを落ち着かせるのに数を数えている ○おやつをきっちりと分ける ○カレンダーなど順番に数を書く |
| グループD | <ul style="list-style-type: none"> ○家族の人数分が分かる ○ゲームで自分の順位が分かる ○ピアノ教室のあるマンションのエレベーターに一人で目的地に行って帰る | <ul style="list-style-type: none"> ○「1番の電車」「3番の電車」が何となく分かる |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○班の仲間の点呼をする ○作業の生産量を数えて報告する ○日にちが分かる ○住所、電話番号の読み書きをする ○資材の数の把握をする ○商品を数える(少数であっても正確に) ○時間を見て行動する ○個数などを記入し報告する ○数を通して見通しをもつ ○毎日の献立をノートに書く ○商品の在庫数を数える ○作業における物の数量を数える ○一日のリズムを時計を見て自分で行動する ○レクリエーションでの点数を数える ○作業の際、商品の数を数えたり、メモをとったりする | |

【数量】 カテゴリー [計算]

| | 在校生 | 卒業生 |
|----------|--|---|
| 習熟度グループA | <ul style="list-style-type: none"> ○買い物の時やお菓子などを買う時、簡単な足し算をする ○問題集を買って計算問題を解くことを楽しむ ○買い物に行く時など、自分が買いたいものがあると計算する | <ul style="list-style-type: none"> ○イチゴの収穫に対してパックを本日いくら取るために、残り何パックがんばらなければいけないとみんなに知らせる ○お菓子などを分ける時に、家族一人に何個ずつになるのか考えている ○「これとこれでいくら？」と聞くと暗算ですぐに計算する ○ゲームの合計点などもしばらく考えてから正しく答える ○少しでも安いものをさがしている ○欲しいものをピックアップしていくら必要なのか計算する ○旅行に行くのに旅費、チケット代、食事代などを調べて計算する |
| 習熟度グループB | <ul style="list-style-type: none"> ○毎週お小遣いをもらうようになって、小遣い帳をつけ始めた。お金の収支を筆算で計算している ○24時間で表示してある時間を午前、午後に言い直す ○計算が難しい時は電卓を使う | <ul style="list-style-type: none"> ○販売時は電卓を大分使えるようになってきている ○小遣い帳と電卓を使って計算する ○販売の仕事をする時、おつりを暗算や電卓で計算して渡す |
| 習熟度グループC | <ul style="list-style-type: none"> ○電卓を使って買いたい物の合計を出してからレジに並ぼうとする ○買うものの合計金額を考えるようになった ○繰り上がり、繰り下がりが完全ではなく、計算機を出して計算する ○お小遣いを数えて両替する | <ul style="list-style-type: none"> ○簡単な足し算ができるので、集まった人の人数を数える |
| 習熟度グループD | 記述なし | 記述なし |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○作業の生産量を計算する ○資材の数を把握する ○お金の計算をする ○買い物時、持っているお金の範囲で考える ○10~30単位などならお椀を並べる ○販売時、電卓を使用し10000円以内のお金の計算をする ○作業における物の数量を数える ○販売業務を行う ○作業の商品の加減を計算して準備する | |

【数量】 カテゴリー [重さ・長さ]

| | 在校生 | 卒業生 |
|----------|--|---|
| 習熟度グループA | <ul style="list-style-type: none"> ○食べ物(ケーキ等)の大きさを比べて取る ○体重を量り、何キロ増えたか話す ○ケーキなどを作る時に、はかりを使って砂糖や小麦粉、バターなどを量る ○長い、短いなど感覚が理解できるようになった ○単位を使ってはまだ少し難しいようだが、自分の身長、体重など単位をつけて言うようになった | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の体重を時々量る、増減を確認している ○料理をするとき、分量を量る ○仕事で糸の長さなど理解して取り組む ○メジャーで長さを測る |
| 習熟度グループB | <ul style="list-style-type: none"> ○体重計に乗って自分の体重が分かる ○大きさの大小区別がつく | <ul style="list-style-type: none"> ○仕事の餌作りで計量する ○週のはじめに、通勤時の荷物が多く、重たいということが分かる ○荷物をもつときに、重い方を持ってと頼むと、きちんと重いものを比較して持つ ○計量カップで分量を量る |
| 習熟度グループC | <ul style="list-style-type: none"> ○長時間の歩きでの外出時に「水筒より軽いから」とペットボトルのお茶を選ぶ ○おやつなどではぱっと見た感じ、長めのもの(量の多いやつ)を選ぶ ○食べ物などどちらの量が多いか分かる ○荷物を持たせると軽い方を持とうとする | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の体重測定を毎日行い、体重の増減を理解する ○道路の距離の理解があり、どの道が近いとか、どこを通ると遠くなるなど分かっている |
| 習熟度グループD | <ul style="list-style-type: none"> ○買い物に行った時、重いもの、軽いものが分かるようになった ○農耕で収穫したダイコンやジャガイモなど「大きかった」と言う ○買い物の荷物を持つときに重い、軽いを言う | 記述なし |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○体重の増減を理解する ○資材の裁断による長さを把握する ○例えば「100g」など、決められたグラムの表示を読み、正確に量る ○作業時に長さ、重さでの仕分け、確認をする ○はかりを使い、商品の計量をする(示した数字とはかりのデジタル表示をあわせる) ○材料や袋などの長さの違いが分かる ○材料、商品の計量をする ○定規やはかりを使って、指示された長さ、重さを量る | |

【数量】 カテゴリー [図表]

| | 在校生 | 卒業生 |
|----------|--|---|
| 習熟度グループA | <ul style="list-style-type: none"> ○出かけた時にバス停で乗るバスの時間を見る ○何月何日に何があるか楽しみにしている ○カレンダーで予定を把握している ○バスの時刻表、JR や飛行機などをパソコンなどを検索して調べている ○バスの時刻表を見て何時に乗るか確認する | <ul style="list-style-type: none"> ○時刻表を読む ○時刻表を見て乗り換え、時間の組み合わせができる楽しんでいる ○自分のメモ帳に行事を記入している ○カレンダーに予定を書き込み毎日確認する ○バスの乗り継ぎができるので、長崎市内ほとんどの所に一人ででかける ○カレンダーに書かれている予定を理解し、正確に覚えて行動する ○時刻表や路線図をしっかり覚えている ○スケジュール帳で月単位で予定が決められる ○デジタル時計を見て、バスの時間を確認している ○予定の日を楽しみにしている(日程表) ○時刻表を見て、出かける時間の予定が分かる ○カレンダーでスケジュールの管理、確認をして精神的に安定する |
| 習熟度グループB | <ul style="list-style-type: none"> ○カレンダーに家族の予定を記入して、いつ何があるのかが分かりそれを楽しみにしている。 ○24時間制で時計が読めるようになり、時刻表が読めるようになり、自分の乗る(乗った)列車や飛行機を調べ、それを楽しみにしている ○電車やバスの時間を見る ○カレンダーを見て今日がどこかを理解する ○カレンダーやスケジュールで安心する ○カレンダーに1ヶ月の学校の行事や自分の予定を書き、忘れないように注意している | <ul style="list-style-type: none"> ○作業所の1ヶ月のスケジュール表を見て休みの日、仕事、仕事内容を理解する ○カレンダーはしっかりと把握していて、自分の予定は時間もよく分かっている ○カレンダーを見て、スケジュールを確認する ○TV欄を見て、何時からどのチャンネルでどういう番組があるか確認する ○カレンダーに予定を書き込む |
| 習熟度グループC | <ul style="list-style-type: none"> ○カレンダーを見て、「あと〇〇日」など、待つことができるようになった ○データ放送のTV番組表で日時を切り替えるのがとても素早く、録画予約が重なっていてどちらかを選ぶ時に即座に再放送日時を選別する ○手帳などに学校の予定などを記入できるようになった ○カレンダーを見て何があるのか理解して楽しみにする ○バスの時刻表が24時間で書いてあって読めるようになった | <ul style="list-style-type: none"> ○インターネットを使い、バスや JR の時刻を探す ○作業所からもう1ヶ月のスケジュールを見て、理解し、スムーズに行動する ○カレンダーの土日は理解しており、土日の予定を言葉で伝えてくる ○カレンダーを見て、自分の家族の誕生日を知っている ○休みや旅行などの日を知らせるとカレンダーなどを見て確認する ○カレンダーを見て、一日一日計画が消化されると安心している。とても重要である |
| グループD | <ul style="list-style-type: none"> ○カレンダーの一週間の流れを理解してきた ○月間授業計画表を見ながら明日の準備をしたり確認したりする | <ul style="list-style-type: none"> ○天気図を見ている(学校で今日の天気を朝の会でしていたからだと思う) |
| 進路先 | <ul style="list-style-type: none"> ○行事予定表を見る ○カレンダーの読み取りをする(見通しを持ったり、楽しみにしたりする) ○自分の出勤日を見てノートに記入する ○今日がいつかカレンダーを見て把握する ○プリント類や掲示物を見てその日のスケジュールや大まかな週の予定をイメージする ○時間を見て行動する ○商品名、在庫数、金額など簡単な図表の理解をしたり、記入をしたりする ○行事等や送迎時間を理解する ○スケジュール表を見る ○作業予定表を見て、週間の作業内容を理解し、準備する | |

《参考資料②》指導形態「言語」の単元・題材一覧表

【Aグループ】

| | | |
|-------|---|--|
| 授業の目標 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文字や言葉を目的や場、相手に応じて正しく使って、思いや考えを相手と共有したり、自分にとって必要な情報を得たりする力を高める。 <p>〈こころ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の経験や気持ちが相手に伝わる喜びを味わったり、自分の興味のあることや必要な情報を得たりすることで自分の世界が広がることを知り、日常生活でもやってみようという気持ちを高める。 | |
| | <p>「話したり、書いたりしよう」</p> <p>「聞いたり、読んだりしよう」</p> | |
| 単元の目標 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 助詞・副詞などを用いて文章を書いたり話したりすることを通して、正しい文の作り方を知り、相手が分かりやすいように話をする。 ○ 書類やはがきの記入を通して、名前や住所など自分の情報を書くことに慣れる。 <p>〈こころ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の経験や気持ちが、相手に伝わる喜びを味わい、伝えようとする気持ちを高める。 ○ 手紙やはがきをやり取りする楽しさや、書類手続きができることで自分の生活が広がることを知り、日常生活でもやってみようという気持ちを高める。 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他の人の話やアナウンスなどを聞くことを通して、その内容を正しく聞き取る能力を高める。 ○ 説明文や物語などを読むことを通して、語彙力や漢字の読み方の力を伸ばしたり、文章を読解する力を高めたりする。 <p>〈こころ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他の人の話を聞いたり、ニュースを読んだりして内容を読み取ることで、その内容に関心をもち、積極的に話題を広げようとしたり情報を得ようしたりする。 ○ 文章や物語を読むことへの関心を高め、その楽しさを味わう。 |
| | <p>「自己紹介をしよう」</p> <p>「自分の好きなことについて、伝えよう」</p> <p>「夏休みの思い出について、詳しく話そう」</p> <p>「原稿用紙の使い方を知ろう」</p> <p>「はがきや申込書を書こう」</p> | <p>「新聞やインターネットのニュースを読もう」</p> <p>「説明書やレシピを読もう」</p> <p>「本を読もう」</p> <p>「電話のやり取りやアナウンスを聞いて答えよう」</p> |
| 題材名 | | |

【Bグループ】

| | | |
|-------|--|---|
| 授業の目標 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活で必要な会話力と、見たり聞いたりしたことや自分の思いを、短い文章に表現して、他者に話したり伝えたりできるようになる。 <p>〈こころ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の思いが他者に伝わることを経験したり、伝わる喜びを味わったりすることで、日常生活でも相手に伝えようとする気持ちを高める。 | |
| | <p>「話したり、書いたりしよう」</p> <p>「聞いたり、読んだりしよう」</p> | |
| 単元の目標 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 助詞などの基本的な文型を使って、話したり書いたらする。 ○ 経験したことを文型に従って短い文章を作り、それを話す。 <p>〈こころ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話すことの経験を通して、話すことに楽しみを感じ、話をしたいという意欲を高める。 ○ 自分の経験したことや思いなどを、他者に伝え、正しく伝わったときの喜びを味わう。 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物語や簡単な説明文を読んで、あらすじや内容を理解できるようになる。 ○ 他者からの用件を聞き取ったり、新聞などの時事問題等について読み取ったりすることができるようになる。 <p>〈こころ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物語や説明文の内容を理解する経験を通して、物語や新聞に興味をもち、自分から読もうとする意欲を高める。 ○ 人の話に 관심をもち、自分に必要な情報を得ようとする態度を育てる。 |
| | <p>「自己紹介をしよう」</p> <p>「運動会の話をしよう」</p> <p>「校外実習、現場実習の話をしよう」</p> <p>「夏休みの思い出を話そう」</p> <p>「文化祭や修学旅行の作文を書こう」</p> | <p>「物語を読もう」</p> <p>「新聞を読もう」</p> <p>「電話の用件を聞き取ろう」</p> |
| 題材名 | | |

【Cグループ】

| | | |
|-------|--|--|
| 授業の目標 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会話や文章の理解など、日常生活において必要となる言語能力の基礎的・基本的な力を身に付ける。 〈こころ〉 ○言語活動に興味・関心をもって積極的に取り組む姿勢を育てる。 | |
| 単元名 | 「話したり、書いたりしよう」 | 「聞いたり、読んだりしよう」 |
| 単元の目標 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な文型を理解し、正しく書いたり話したりする。 ○経験したことについて短文を作ったり、話したりする。 〈こころ〉 ○経験したことや身近な話題を友達に話すことで、話す楽しみを知るとともに話したいという意欲を高める。 ○自分の思いを表現する力を高め、周囲の人に自分の表現したいことを伝える喜びを味わう。 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物語や簡単な説明文を正しく読んだり、大まかな内容や要点を読み取ったりする。 ○物語や簡単な説明文、友達の話などを聞き、要点を聞き取る。 〈こころ〉 ○正しく読んだり、内容や要点を聞き取ったりする学習を通して、その楽しみを知ったり、自信をつけたりしながら、積極的に物事を理解しようとする意欲を高める。 ○文章や人の話に関心をもち、自分にとって必要な情報を主体的に得ようとする態度を育てる。 |
| 題材名 | <p>「自己紹介をしよう」</p> <p>「運動会の話をしよう」</p> <p>「1学期の思い出を書こう」</p> <p>「夏休みの話をしよう」</p> <p>「文化祭や修学旅行の作文を書こう」</p> | <p>「場面を見て考えよう」</p> <p>「物語を読もう」</p> <p>「説明文を読もう」</p> <p>「友達の話を聞こう」</p> |

【Dグループ】

| | | |
|-------|---|--|
| 授業の目標 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉やカード等を使って、自分の思いを伝える力や相手の言うことを聞いて行動したり、絵本等を読んで感じたりする力を高め、生活の中で生かすことができるようにする。 〈こころ〉 ○身近な言葉を知ったり、使ったり、書いたりすることに興味や関心をもつ。 ○自分の伝えたいことを言葉やカードなどで伝えることで情緒の安定を図る。 | |
| 単元名 | 「よく見て操作したり、応えたり、伝えたりしよう」 | 「よく聞いて行動したり、読んだり、書いたりしよう」 |
| 単元の目標 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やカードなどを見て選択したり、手先を使って操作したり、線や文字を書いたりする。 ○写真やカードなどを使って答えたり、身近な人や物の名前を言ったりすることで、話したり伝えたりする。 〈こころ〉 ○身近な人の名前や物の名前を知り、話したり、書いたりすることを楽しむ。 ○写真やカードを使ったり、言葉で話したりして相手に思いを伝えることで気持ちを落ち着ける。 | <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やカードなどを見て選択したり、指示を聞いて行動したり、手先を使って操作したりする。 ○絵本を見たり読んだりして、登場人物や場面について話したり伝えたりする。 ○線や文字をなぞったり書いたりする。 〈こころ〉 ○身近な人の名前や物の名前を言葉を知り、話したり、書いたりすることを楽しむ。 ○絵本を見たり読んだりする楽しさを味わう。 |
| 題材名 | <p>「身近な物の名前を知ろう」</p> <p>「授業や友達、先生の名前を覚えよう」</p> <p>「自己紹介をしよう」</p> <p>「線やひらがなを書こう①」</p> | <p>「身近な物や人の名前を知ろう」</p> <p>「話を聞いて動こう」</p> <p>「絵本を読もう」</p> <p>「線やひらがなを書こう②」</p> |

《参考資料③》指導形態「数量」の単元・題材一覧表

【A グループ】

| | | |
|-------|--|---|
| 授業の目標 | 〈内容〉 ○数や量を把握したり、計算したりする力をつけ、さらに、それを基盤として金銭や時刻、計測などの実務を処理する力を高める。 〈こころ〉 ○数の処理や金銭や時刻、計測などの知識を生かして、外出して買い物をしたり、公共機関を利用したりするなど、周囲の環境に対して自分から働きかけようとする意欲を高める。 | |
| | 「お金を使って大きな数を数えたり、計算したりしよう」 | 「時刻表を読んだり、長さや重さをはかったりしよう」 |
| 単元の目標 | 〈内容〉 ○繰り上がり・繰り下がりのある足し算や引き算を筆算や電卓を使ってすることを通して、日常生活の中でお金の計算（合計金額、お釣りなど）が分かる。 ○5桁程度までのお金を数えたり貨幣価値を比較したりしながら、だいたいの金額を計算し、足りるようにお金を支払う。 〈こころ〉 ○大きな数や量を把握するための知識や計算方法を身に付けることで、身近にある数量に関心をもつ。 | 〈内容〉 ○電車やバスなどの身近な乗り物の時刻表を読むことを通して、24時間制などの時刻の表し方やいろいろな時計の読み方を知る。 ○足し算や引き算をしながら、○分前、○分後、所要時間をふまえた到着時刻などを計算する。 ○いろいろな実測を通して、cm、m、g、kgなどの単位を知り、定規やはかりの使用に慣れる。 |
| | 「大きな数を数えよう」 「足し算・引き算をしよう」 「お金を使う練習をしよう」 「ICカードを活用するための計算をしよう」 | 「自分が身につけている数の把握や計算の力を活用しながら身の回りにある数量に関心をもち、生活の中で活用しようとする意欲を高める。」 |
| 題材名 | 「バスや電車の時刻表をよもう」 「長さや重さをはかってみよう」 | |

【B グループ】

| | | |
|-------|--|---|
| 授業の目標 | 〈内容〉 ○具体物などを正確に数えたり、電卓や筆算で簡単な計算をしたりすることにより、位を意識しながら千の位までの数える力を育てる。 ○日常生活で必要な長さ、時計、お金の単位を理解し、正確に読めたり、使用したりできるようになる。 〈こころ〉 ○数の処理や金銭や時刻、計測などの知識を生かして、日常生活でも活用しようという意欲を高める。 | |
| | 「速く正確に数えたり、足し算や引き算をしたりしよう」 | 「長さを測ったり、時計を読んだり、お金を数えたりしよう」 |
| 単元の目標 | 〈内容〉 ○具体物やワークシートを使いながら電卓や筆算で簡単な計算をしたりすることができるようになる。 ○位を意識して千の位までの数を数えたり計算したりする。 ○大きな数を、10ずつなどのまとめをつくり、合理的な数え方ができるようになる。 〈こころ〉 ○正しく計算できる経験を通して、数に対する興味や関心を高め、日常生活でも活用しようという意欲を高める。 | 〈内容〉 ○長さ、時計、お金の単位が分かり、日常生活に必要な読み方や使い方ができる。 ○10mmは1cmなど単位と数量の関係が分かり、長短が比較できる。 ○時計の読み方が分かり、現時刻の前後の時刻を読み取ることができる。 ○お金の単位が分かり、物の値段や指定した金額を出すことができる。 〈こころ〉 ○長短を比較したり、時刻を正しく読んだり、お金を出したりすることに対する理解を深め、日常生活の中で活かそうとする意欲を高める。 |
| | 「3桁までの数を読んだり、書いたりする」 「10までのまとめなどをつくり、数える」 「3桁までの繰り上がりのない足し算をしよう。」 「3桁までの繰り下がりのない引き算をしよう。」 | 「長さを測ろう」 「時計を読もう」 「お金を数えて出そう」 |

【Cグループ】

| | | |
|-------|---|---|
| 授業の目標 | <p>〈内容〉</p> <p>○計数や長短比較、時計の読み、金銭の勘定など、日常生活の中で活かすことのできる数量の基礎的・基本的な知識・技能を高め、必要な場面で主体的に活かそうとする態度を育てる。</p> <p>〈こころ〉</p> <p>○数や時計、金銭に関心をもち、日常生活でも活用しようという意欲を高める。</p> | |
| | <p>「1から50まで数えよう」</p> | <p>「長さを測ろう、時刻を読もう、お金を数えよう」</p> |
| 単元の目標 | <p>〈内容〉</p> <p>○1から50までの数の具体物やイラストを正確に数える。</p> <p>○数のまとまりを作る方法を知り、正確に数のまとまりを作る。</p> <p>○2とびで10までの具体物やイラストを速く正確に数える。</p> <p>〈こころ〉</p> <p>○数を正確に数えたり、まとまりをつくって速く正確に数えたりする活動を通して、数に対する知的好奇心を高め、正しく計数することの喜びを味わう。</p> | <p>〈内容〉</p> <p>○具体物やイラストなどを用いて比較し、その長短を正しく判断する。</p> <p>○正時や30分単位の時刻、日常生活に身近な時刻を正しく読む。</p> <p>○お金を数えたり、提示された金額と同等若しくは大きい額のお金に出したりする。</p> <p>〈こころ〉</p> <p>○身の回りの物の長短を比較したり、簡単な時刻を正しく読んだり、お金に出したりすることに対する理解を深め、日常生活の中で活かそうとする意欲を高める。</p> |
| | <p>「正しく数えよう」</p> <p>「50までの数を数えよう」</p> <p>「まとまりを作って数えよう」</p> <p>「2とびで数えよう」</p> <p>「10のまとまりを速く作ろう」</p> | <p>「長さを比べよう」</p> <p>「時計を読もう」</p> <p>「お金を数えよう」</p> <p>「お金を出そう」</p> |
| 題材名 | | |

【Dグループ】

| | | |
|-------|---|---|
| 授業の目標 | <p>〈内容〉</p> <p>○生活に生かすことができるよう形を見分けたり、具体物を数えたりする力や大小を比較したり、時計の数字を見たり、お金を数えたりする力を高める。</p> <p>〈こころ〉</p> <p>○身近な物の数を数えたり、比べたりすることに興味や関心をもつ。</p> <p>○時計の数字を見たり、お金を数えたりしようという気持ちをもつ。</p> | |
| | <p>「10までの数を数えたり、大きさを比べたりしよう」</p> | <p>「時計を見たり、お金を数えたりしよう」</p> |
| 単元の目標 | <p>〈内容〉</p> <p>○身近な物の形を見分けたり、ビーズ等を数えたりして手先を使って操作する。</p> <p>○身近な具体物や半具体物を数えたり、数字と合わせたり、大きさを比べたりする。</p> <p>〈こころ〉</p> <p>○身近な物の形や大きさに関心を示し、実際に触ったり、比べたりしようとする気持ちをもつ。</p> <p>○身近な物を数えたり、数字を読んだりすることに自ら取り組もうとする気持ちをもつ。</p> | <p>〈内容〉</p> <p>○形を見分けたり、ビーズ等を数えたりして手先を使って操作する。</p> <p>○生活に関する時刻について時計の数字を読んだり、針を合わせたりする。</p> <p>○生活の中で使うお金を金種に分けたり、数えたりする。</p> <p>〈こころ〉</p> <p>○時計に関心をもち、生活の中で、実際に時計を見たり数字を読んだりしようという気持ちをもつ。</p> <p>○お金に関心をもち、実際に金種を知ったり数えたりすることで、生活の中で使ってみたいという気持ちをもつ。</p> |
| | <p>「形を合わせたり、紐に通したりしよう」</p> <p>「12までの数を数えたり、読んだりしよう」</p> <p>「大きい小さいを比べよう」</p> <p>「線や数字を書こう①」</p> <p>「10のまとまりを速く作ろう」</p> | <p>「数えたり、分けたりしよう」</p> <p>「時計の数字を読もう」</p> <p>「お金を数えよう」</p> <p>「線や数字を書こう②」</p> |
| 題材名 | | |

《参考資料④》指導形態「社会生活」の単元・題材一覧表

単元名「ICカードを活用しよう」

【Aグループ】

| | |
|-------|--|
| 題材名 | 「ICカードを使って、買い物をしよう」 |
| 題材の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ICカードがお金の代替品であるなどの特徴や積み増しなどの活用方法を理解し、実際にICカードを使った買い物ができる。 ○レシートを使ってICカードノートを記入することで、残金の確認や積み増しの有無を考えることができる。 |
| 授業名 | <ul style="list-style-type: none"> 「ICカードの特徴や活用方法を知ろう」 「ICカードを使って購入しよう」 「ICカードノートをつけよう」 |

【Bグループ】

| | |
|-------|---|
| 題材名 | 「ICカードを使ってみよう」 |
| 題材の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ICカードの使い方を理解し、実際に買い物や公共交通機関の利用ができる。 ○安心・安全にカードを使うための活用方法を知る。 |
| 授業名 | <ul style="list-style-type: none"> 「ICカードの便利な使い方を知ろう」 「ICカードを使ってみよう」 「ICカードの安全な使い方を考えよう」 |

【Cグループ】

| | |
|-------|---|
| 題材名 | 「ICカードなどを使ってみよう」 |
| 題材の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ICカードで買い物ができるることを知る。 ○ICカードがお金と同様に大切な物であることを知り、保管の仕方を知る。 |
| 授業名 | <ul style="list-style-type: none"> 「ICカードの使い方を知ろう」 「ICカードで買い物をしてみよう」 「ICカードの使い方を確認しよう」 |

研究紀要バックナンバー一覧（第1集～第20集）

■ 特殊学級時代

1) 第1次研究〈表現力を豊かにする学習指導〉

精神薄弱児の表現力を伸ばすために、身体表現・絵・文字に視点をあて、文献の研究と授業研究で指導方法を追究した。

2) 第2次研究〈事象の認識過程〉

精神薄弱児の認識の過程を知るため実態調査をした。この結果をどう生かしていくかをまとめた。（「精神薄弱児の研究」金子書房、1970）

3) 第3次研究〈小中学部の一貫した教育課程の編成〉

以前の研究をふまえ、基礎資料となる計画案をもちより、討論と作業をくりかえして、要素表作成へ第一歩を踏み出した。

り、個人的サービスであるとした。テーマは、児童、生徒の障害・遅滞の把握とし、日常生活の観察、言語障害児選別テスト、狩野・オゼレツキー運動能力発達検査から、実態把握につとめた。課題として「障害・遅滞とは」を残した。

第2年次〈障害・遅滞に応じた指導の方法をさぐる〉

対象児選定の方法の確立と診断テスト、および指導のあり方を中心に実践した。

第3年次〈教育課程の中に養護・訓練を位置づけ、教科等と関連を明確にする〉

養護・訓練の目標や内容をあきらかにし、教育課程の位置づけを考える。

研究紀要 第2集（1974.10）

ひとりひとりの力を伸ばすには

養護・訓練をどのように計画し指導したらよいか（ii）

■ 養護学校時代

研究紀要 第1集（1972.2）

ひとりひとりの力を伸ばすには

養護・訓練をどのように計画し指導したらよいか（i）

I 研究のあゆみ

II 養護・訓練の研究と実践

1. 研究へのとりくみ

(1) 養護・訓練のうけとめ

(2) 内容へのとりくみ

(3) 障害・遅滞について

(4) 実態調査

2. 授業へのとりくみ

(1) 小学部

(2) 中学部

3. 仮説へのとりくみ

(1) 初期の実践から

(2) 現在のとりくみ

III 今後の課題

今次の研究を、精神薄弱教育の本質にせまる問題としてとらえ、3か年の研究計画とした。そして、そこから派生すると思われる精神薄弱教育の諸問題を基本的に解決しようと試みた。

第1年次〈養護・訓練の受けとめと児童・生徒の障害・遅滞の把握〉

養護・訓練とは、障害と遅滞を対象にした教育であ

I はじめに

1. 研究の経過

2. 障害と遅滞

II 養護・訓練と教育課程

1. 養護・訓練の位置

2. 養護・訓練の目標

3. 養護・訓練の内容

(1) 内容のとらえ方

(2) 他領域との関連

III 養護・訓練の指導

1. 対象児の選定と診断テスト

2. 指導形態と指導時間

3. 言語班での指導

4. 運動班での指導

IV おわりに

養護・訓練の実践面での問題点や課題を追究して、本校における養護・訓練についてまとめた。子どもたちが、ひとりひとりちがうことや「教育課程の二重構造性」についてまとめた。

研究紀要 第3集（1978.3）

「意欲的な学習」をめざした精神薄弱児の指導はどうあればよいか 一教育課程の改訂をめざして、欲求の発達をさぐるー

I はじめに
II 研究テーマについて
III 意欲・欲求・動機づけ
IV 研究計画と方法
V 実践

1. 授業の展開および記録
2. 各グループのとりくみ [生活科、家庭科、技術科、作業、体育科グループ]

VI 考察および今後の課題

学習意欲という視点から「意欲」「欲求」「動機づけ」をキーワードに教育課程を見直し、改訂していくとした。

研究紀要 第4集 (1979. 6)

生活力を伸ばすための合宿単元学習はどのように計画したらよいか ～生活単元学習のあり方を求めて～

I 研究主題と設定理由
II 合宿単元の実践
III 合宿単元における課題研究

【小学部】合宿の個人目標設定 [身辺処理能力に関すること、集団参加能力に関すること]

【中学部】合宿の個人目標設定 [基本的生活習慣、心身の鍛錬、集団適応能力]

【高等部】記録と個人評価 [働きかけを受けないで、促されて、指導を受けて] ～生活意識の評価 [積極性、分担の自覚、協力性、完達性、指導性、素直さ]

研究紀要 第5集 (1981. 6)

教育課程の編成 ～教育課程の手順をさぐる～

I 研究主題と設定の理由
II 研究の目的
III 研究の方法
IV 各学部の研究

1. 小学部
2. 中学部
3. 高等部

V 研究の結果と考察

生きていくために必要な能力や資質を整理する中で6つの領域が設定された。「身辺の自立」「社会性」「感覚・運動」「知的能力」「情操」「態度的能力」がそれである。特に「情操」や「態度的能力」は、次のような

下位項目で構成されている。

情操：情緒、欲求、興味、余暇の利用、表現、鑑賞、飼育、栽培

態度的能力：意欲、協調性、積極性、持続性、注意力、責任感、素直さ、自主性、明朗性、忍耐力、公共心、競争意識

意欲づくり(小学部)、基盤づくり(中学部)、適応づくり(高等部)の段階的な構造を構築。

特に高等部では、指導領域を「くらし」「しごと」「たのしみ」「からだ」4つにまとめられた。この頃、「目ざす人間像」が下記のように示された。

- 愛される人間
- けじめのある人間
- がん張る人間
- 自分でお金をかせげる人間
- 余暇利用
- 社会に役立つ人間

研究紀要 第6集 (1983. 6)

指導法の研究 ～よりよい授業の創造をめざして～

I 研究主題と設定の理由
II 研究の具体化
III 小学部の研究
IV 中学部の研究
V 高等部の研究
VI 考察および今後の課題
(付) 保健室における女子の生理指導

研究紀要 第7集 (1985. 10)

教育課程の見直しの方法をさぐる

～「数と計算」の学習を通して

I 研究主題と設定理由
II 研究の具体化
III 内容班の研究
IV 方法班の研究
V 調査班の研究
VI 小学部の研究
VII 中学部の研究
VIII 高等部の研究
IX 考察および今後の課題

研究紀要 第8集 (1987.6)

一人ひとりの子どもをみつめた実践と評価

- I 主題設定の理由
- II 研究方法
- III 各班の研究 [重い子班、運動班、養護・訓練班、国語班、作業班、職場実習班、性教育班]
- IV 結果と考察

自己選択・自己決定するための効果的な指導法をさぐる

- III 中学部の研究
生活に生き、生活を楽しむための教科別指導(国語)のあり方をさぐる
- IV 高等部の研究
卒業生の実態調査を通して、よりよい生活を願った高等部教育を考える

研究紀要 第9集 (1989.6)

社会生活を豊かにするコミュニケーションの指導

(その1) 一発達段階に応じたコミュニケーションの指導内容を探る

- I 主題設定について
 - 1. コミュニケーション研究の必要性
 - 2. コミュニケーションのとらえ
 - 3. 研究の焦点化
- II 研究構想
- III 研究の目的と方法
- IV 各学部の研究
- V 考察と課題

研究紀要 第12集 (1995.11)

自立を支える指導法の研究 一自ら考えて行動する子供を育てる授業のあり方を探る

- I 研究テーマについて
- II 研究の目標
- III 研究の方法
- IV 小学部の研究
子供が工夫して遊びを楽しむような課題あそびの仕組み方と働きかけの方法を探る
- V 中学部の研究
自ら思考し、解決する力を引き出すための授業計画や働きかけの方法を探る
- VI 高等部の研究
生活中心の授業を通して、将来も自らの意思と判断で生活を充実させようとする指導のあり方を探る
- VII 研究の結果と提言

研究紀要 第10集 (1991.6)

社会生活を豊かにするコミュニケーションの指導

(その2) 一コミュニケーション指導内容表、コミュニケーション基本指導プログラムの作成と実践事例を通して

- I 研究テーマの設定理由
- II 研究の目的
- III 研究の手続き
- IV 本校のコミュニケーションの様相
 - 1. コミュニケーションの考え方
 - 2. 本校の児童・生徒の実態とコミュニケーションの指導内容
 - 3. コミュニケーションの指導方法
 - 4. コミュニケーションの指導の評価
- V 小学部の研究
- VI 中学部の研究
- VII 高等部の研究
- VIII まとめと今後の課題

研究紀要 第13集 (1997.6)

子どもの内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善
—一人ひとりが主体的に取り組める授業をめざして—
(その1: 診断的評価から目標設定を考える)

- I 研究基調
- II 小学部の研究
のびのびと自分らしさを發揮する子どもを育てるための内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善
- III 中学部の研究
生き生きと個性を發揮し、自ら生活に取り組もうとする生徒を育てるための内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善
- IV 高等部の研究
生きることに自信をもち、向上心と思いやりのある生徒を育てるための内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善

研究紀要 第11集 (1993.6)

「自らが生活を充実させようとする」教育を求めて

- I テーマとその背景
- II 小学部の研究
課題に自ら取り組み、自ら解決する子供をめざして、

研究紀要 第14集 (1999. 6)

子どもの内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善
一人ひとりが主体的に取り組める授業をめざしてー^(その2: 形成的評価から授業改善の方法を考える)

I 研究基調

II 小学部の研究

のびのびと自分らしさを發揮する子どもを育てるための内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善

III 中学部の研究

生き生きと個性を発揮し、自ら生活に取り組もうとする生徒を育てるための内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善

IV 高等部の研究

生きることに自信をもち、向上心と思いやりのある生徒を育てるための内面に焦点を当てた評価のあり方と授業改善

研究紀要 第15集 (2002. 2)

教育課程の再編成 その1 ー アセスメント機能をもった内容表試案を作成し、指導形態等の改善の手がかりを探るー

I 研究基調

1. はじめに

2. 目的

3. 研究の基本姿勢と方法

4. 結果と考察

(1) 教育課程に関連した学校教育の動向

(2) 教育課程のとらえ

(3) 内容表試案の機能と構造など

(4) 今後の教育課程の研究の手がかり

5. 最後に

II 小学部の研究

Keyword: 教育課程、意欲づくり、発達的な視点、育てたい子ども像、不易の視点、教育内容、中核的内容、順序性、発達のステージ、領域別教育内容表、生きる力

III 中学部の研究

Keyword: 選択の視点、中核的内容、根源的な力、基盤づくり、問題解決的な学習、内容知、内面、方法知

IV 高等部の研究

Keyword: 教育課程、内容表試案、完全学校週5日制、個別移行支援計画、自己選択・自己決定、自己理解

研究紀要 第16集 (2004. 6)

教育課程の再編成 その2 ー 実践的課題研究と卒業生の実態調査をとおして、自立と社会参加をめざした教育課程の編成の手がかりを探るー

I 研究基調

1. 全体研究テーマについて

2. 全体研究目的

3. サブテーマについて

4. 研究方法

5. 研究成果と教育課程再編成への提言のまとめ

6. 研究その2のまとめと研究その3の展望

II 小学部の研究

一人一人の教育的ニーズに応じる教育課程への再編成の手がかりを探る ー 現教育課程で指導の難しさを感じる子どもの事例をとおしてー

Keyword: 生活のニーズ、発達のニーズ、教育的ニーズ、情緒の育ちと安定、一人一人に応じる、集団学習のよさ、発達的な視点、柔軟な構造をもつ教育課程

III 中学部の研究

思春期を迎える中学生の発達と「からだの学習」の検討をとおして、教育課程再編成の手がかりを探る ー アイデンティティの形成につながる自己意識・自己概念の発達に焦点をあてた発達課題の検討に基づいてー

Keyword: 思春期(青年期前期)、発達課題、からだの学習(性教育)、自己意識・自己概念、アイデンティティ

IV 高等部の研究

自ら進路を切り拓く生徒を育てる「進路学習」の在り方の検討をとおして、教育課程再編成の手がかりを探る ー 卒業生の実態調査と高等部段階における個々の発達をふまえてー

Keyword: 進路を切り拓く、進路指導、進路学習、自己選択、自己決定、発達段階に応じた進路学習、「大人の自分」づくり、自己理解、前向きな姿勢

V 卒業生の調査研究

「卒業生保護者への本校教育課程についてのアンケート調査」と「卒業生の生活についてのアンケート調査」をとおして、教育課程再編成の手がかりを探る

Keyword: アンケート調査、卒業生、卒業後の生活実態、労働実態

研究紀要 第17集 (2007. 2)
教育課程の再編成 その3
～自己の形成へつながる教育課程の創造～

I 研究基調

II グループ研究

1. 区分「くらし」
2. 区分「いきがい」
3. 区分「まなび」
4. 区分「からだ」
5. 4区分を支える「こころ」

III 小学部の研究

小学部における自己の姿：「自己活動の充実期」
～身近なものとかかわるなかで自分に気づき、発見していく自己～

IV 中学部の研究

中学部における自己の姿：「自己の拡大・肯定期」
～自分の成長を実感し、他社と協調しながら新たな自分をみつめる自己～

V 高等部の研究

高等部における自己の姿：「客観的な自己の形成期」
～客観的な自己評価や生き方のイメージをもち、自立的な社会生活の場への積極的な参加を志向する自己～

VI 今後の課題

Keyword :自己決定、自己理解、自己選択、自己評価、他者評価
V 研究の成果と展望

研究紀要 第19集 (2012. 2)
自己の育ちを支える小・中・高一貫した進路学習の授業の在り方を考える
～「進路学習のステップ」の作成と指導形態「進路」の実践～

I 研究基調

II 小学部の研究

「なりたい～なれるかなあ？」～わくわくドキドキ夢ふくらむ「しんろ」の授業づくり～

III 中学部の研究

支えあっていいる生活に気づき、これから自分に期待する授業づくり

IV 高等部の研究

大人になっていく自分を見つめ、将来へのビジョンを描く授業づくり

研究紀要 第20集 (2014. 2)
児童生徒の生活と授業のさらなる結びつきを目指して

■ 特別支援学校時代

研究紀要 第18集 (2009. 6)
自己を育む授業実践
～「こころチェックリスト」を取り入れた授業設計～

I 研究基調

- 1 研究の概要
- 2 全体研究テーマについて
- 3 研究の目的
- 4 研究の方法
- 5 研究の経過

II 小学部の研究

自己活動に視点をおいた授業づくり

Keyword :自己活動の発現期、行為主体の自己、要求主体の自己、自己調整の芽生え、こころチェックリスト、授業分析表、重要な他者

III 中学部の研究

自己調整に視点をおいた授業づくり

Keyword :自己調整、個別目標チェック表、授業分析表、仲間関係

IV 高等部の研究

自己決定に視点をおいた授業づくり

研究同人

【校長】穴山 司

【教頭】山田 勝大

《小学部》

堀 克彦（主事）
濱田 裕子○
吉次ゆりえ
坂田 信吾
山中 祐造
田中真季子
谷 美緒子
井上香菜美
渡邊 尚子（養護教諭）
中村 詩織（養護教諭）

《中学部》

今里 順一（主事）
岡元 和正
長友 瞳子
末次 明子
久田 有里
荒木 素子
伊藤 公裕○
稻垣 和宏○
平山 梨香
松本 明子

《高等部》

田口 真弓（主事）
井手 純郎
上田 尚子
野口 誠
野坂 知布
長門 和治
田渕 康代
古峨 美鈴○
山口 真司

（○は研究部）

《小学部共同研究者》

綿巻 徹
(長崎大学教育学部教授)
吉田 ゆり
(長崎大学教育学部准教授)

《中学部共同研究者》

鈴木 保巳
(長崎大学教育学部教授)

《高等部共同研究者》

平田 勝政
(長崎大学教育学部教授)

《平成 24 年度研究同人》

池田 英俊（校長）
森川 元（主事）
開 珠美※
隈部 有希
長野 裕子

（※は平成 24 年度研究部）

研究紀要 第 20 集

平成 26 年 2 月発行

編集者
発行代表者
発行所

長崎大学教育学部附属特別支援学校
穴山 司
長崎市柳谷町 42 番 1 号
長崎大学教育学部附属特別支援学校
TEL (095)845-5646
FAX (095)845-0521

